

はじめに

このたびは本書をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

本書は、SkyLink の初歩から応用まで、具体例を挙げてわかりやすく解説したものです。

本書には以下のような特徴があります。

➤ **具体例を中心に解説している**

SkyLink のユーザーズマニュアルでは具体例にはあまり言及してありませんでしたが、本書は SkyLink の操作の具体例をたくさん挙げ、初心者の方にもわかりやすいように構成しています。

➤ **画面による操作方法の解説**

操作方法の解説にあたっては、文字よりも画面と引き出し線による説明を重視しています。そのため、操作方法を直感的に理解することができ、初心者でも容易に理解することができます。

➤ **豊富なヒント**

SkyLink を使いこなす上での豊富なヒントを掲載しています。したがって初心者ばかりでなく、中上級者にとっても役立つ内容となっています。

本書では SQL Server データベース環境を中心に解説しておりますが、SkyLink ではすべての環境で、統一したユーザーインターフェースが採られていますので、他の環境をお使いの方も安心してお読みください。相違点に関しては（特にデータベースへの接続方法など）、SkyLink ユーザーズマニュアルと併せてお読みください。

本書が SkyLink への理解を深めるのに役立てば、私達もとてもうれしく思います。



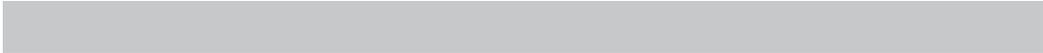
目次

はじめに.....	iii
目次.....	iv
例.....	ix
ヒントと注意.....	xii
1. SkyLink を使う前に.....	15
1.1 データベースとは.....	16
1.2 リレーショナルデータベースの例.....	17
1.3 データベースを共用する.....	19
1.4 SkyLink で何ができるか.....	20
1.4.1 クライアントコンピュータからのデータベース操作.....	20
1.4.2 データベース操作の種類.....	21
1.5 SkyLink と SQL 文.....	22
1.6 SkyLink の種類.....	23
1.6.1 対応データベースによる分類.....	23
1.6.2 検索用と検索/更新用.....	24
2. SkyLink を起動しよう.....	25
2.1 SkyLink の起動.....	26
2.1.1 起動メニューの選択.....	26
2.1.2 SkyLink の起動.....	27
2.2 SkyLink の画面の見方.....	28
2.3 SkyLink の終了.....	29
3. データベースに接続する.....	31
3.1 データベースへ接続する.....	32
3.2 ウィンドウの各部の名称と機能.....	37
3.3 表ウィンドウの操作方法.....	39
標準モードの場合.....	40
クラシックモードの場合.....	42
3.4 画面表示を見やすくする.....	46

4. データベースを検索する.....	49
4.1 検索の手順.....	50
4.1.1 操作の手順.....	50
4.1.2 [設定] ダイアログの操作.....	50
4.1.3 [条件] ダイアログの操作.....	52
4.1.4 表結合（外部結合）.....	53
標準モードの場合.....	53
クラシックモードの場合.....	55
4.1.5 出力先の指定.....	56
4.1.6 検索データのエクスポート.....	58
4.1.7 列の固定.....	59
4.2 全データの取得.....	61
4.3 件数検索.....	66
4.4 条件を付けて検索（数値）.....	68
4.5 条件を付けて検索（文字）.....	74
検索条件フォームを使用する.....	76
4.6 条件を付けて検索（部分一致）.....	82
4.7 空白値.....	84
4.8 複数条件の指定.....	86
4.9 項目間の条件の指定.....	92
4.10 IN を使った検索.....	96
4.11 出力結果のソート.....	99
4.12 演算.....	101
4.13 演算と集計（グループ化）.....	103
4.14 件数（グループ化）.....	109
4.15 最大・最小・平均（グループ化）.....	113
4.16 集計結果に条件を付ける.....	116
4.17 副問合せ.....	119
4.18 DB 関数の利用.....	123
4.19 月毎の集計.....	127
4.20 ユーザー SQL.....	130
4.21 FROM 句でのインラインビュー.....	134
4.22 コマンドの登録と再利用.....	137
5. データベースにレコードを挿入する.....	141

5.1 挿入の手順.....	142
5.2 表にレコードを挿入する.....	143
5.2.1 キー入力で挿入.....	143
5.2.2 フォームを使用して挿入.....	149
5.2.3 デフォルト値と入力データの制限.....	153
5.3 レコードをインポートする.....	157
6. データベースからレコードを削除する.....	163
6.1 削除の手順.....	164
6.2 キー項目の値によってレコードを削除する.....	166
6.3 条件を満たすレコードを削除する.....	172
7. データベースのレコードを更新する.....	177
7.1 更新の手順.....	178
7.2 検索したレコードを一括更新する.....	180
7.3 キー項目を指定してレコードを更新する.....	185
8. フォームを編集する.....	193
8.1 編集の手順.....	194
8.2 標準フォームを利用する.....	196
8.3 基本的なレイアウト操作.....	201
8.4 挿入、更新用のフォームを作成する.....	217
8.5 検索条件フォームを利用する.....	222
8.6 検索条件フォーム（チェックボックス）.....	229
8.7 検索条件フォーム（SQL 編集）.....	236
9. Excel フォームを編集する.....	239
9.1 編集の手順.....	240
9.2 Excel フォームを編集する（レイアウト）.....	242
9.3 Excel フォームを編集する（集計）.....	250
9.4 Excel マクロを呼び出す.....	255
10. マクロ機能を使用する.....	265
10.1 マクロを作成する.....	266
10.2 更新用のマクロを作成する.....	272
10.3 スケジューラにマクロを登録する.....	280

11. SkyLink Player.....	287
11.1 検索を行う	288
11.2 表示方法を変更する.....	292
11.3 独自アプリケーションの作成方法.....	295
12. SkyLink ユーザーマネージャ	299
12.1 データソースの作成.....	300
12.1.1 組織単位で作成.....	302
12.1.2 ユーザー単位で作成	310
12.1.3 ユーザーのインポート.....	312
12.2 エイリアスの作成.....	315
12.2.1 エイリアスを作成する.....	315
12.2.2 データソースに適用する.....	318
12.3 SkyLink に適用する	320
12.3.1 サーバーからの適用	320
12.3.2 複数のユーザー定義ファイルの適用.....	321
12.3.3 Web サービスでの適用	322
12.3.4 接続先固定を有効にする.....	322
12.4 ログの出力	325
13. SkyWeb を使用する.....	329
13.1 検索を行う	330
13.2 テーマ・書式の設定を行う	341
13.3 レコードの挿入を行う	347
13.4 レコードの更新を行う.....	352
14. SkyLink Online.....	365
14.1 ファイルの配置.....	366
14.1.1 ファイルサーバーに配置.....	366
14.1.2 Web サーバーに配置.....	366
14.2 カスタマイズ	368
14.2.1 デフォルトの出力先の指定.....	368
14.2.2 SkyLink ユーザーマネージャで定義した接続 ID を使用する.....	369
14.2.3 その他の設定.....	370
15. すぐ使える SkyLink を使用する	371
15.1 検索を行う	372
15.2 コマンドを使用した検索	378



15.3 カタログを使用.....	380
16. Excel アドインを使用する	383
16.1 Excel アドインを使用する.....	384



例

検索例

検索例 1	商品テーブルのすべてのデータを検索する.....	61
検索例 2	商品テーブルのすべてのレコード件数を検索する.....	66
検索例 3	単価が「1000 円以下」の商品名を検索する.....	68
検索例 4	区分名が「飲料」の商品名を検索する.....	74
検索例 5	得意先名に「レストラン」が含まれる得意先名を検索する.....	82
検索例 6	単価が設定されていない商品を検索する.....	84
検索例 7	区分名が「飲料」または「肉類」で、単価が「1000 円以上」「5000 円以下」の商品名と単価を検索する.....	86
検索例 8	単価が「200 円以下」または在庫が「10 個以上」の [商品名]、[単価]、[在庫] を検索する.....	92
検索例 9	仕入先コードが「005、012、057」の商品名を検索する.....	96
検索例 10	表 [社員] の全一覧をフリガナ順で検索する.....	99
検索例 11	受注した商品の売上を計算する.....	101
検索例 12	受注毎の売上を計算する.....	103
検索例 13	前月分の受注毎の売上を計算する.....	106
検索例 14	商品の区分名毎の商品の個数を区分名順にソートして検索する.....	109
検索例 15	商品の区分名毎の単価の最大・最小・平均を検索する.....	113
検索例 16	受注明細の売上が「100000 円以上」の商品の商品名と売上を売上額の多い順に検索する.....	116
検索例 17	1 度の受注の売上が「50000 円以上」の得意先を検索する.....	119
検索例 18	得意先名と住所を検索する。ただし、住所は先頭の 3 文字だけを表示する.....	123

検索例 19 得意先の [得意先名] に「様」を付けて、昇順に表示する.....	125
検索例 20 月毎の売上の合計を検索し、売上額が多い順に表示する.....	127
検索例 21 受注毎の売上合計を、多い順に先頭から n 件出力する	130
検索例 22 得意先別の受注金額合計と全売上に対する比率を出力する.....	134

挿入例

挿入例 1 表 [受注明細] にレコードを挿入する.....	143
挿入例 2 表 [仕入先] に CSV ファイルを使ってレコードを挿入する.....	157

削除例

削除例 1 表 [得意先] から [得意先コード] が「010」と「020」のレコードを削除する.....	166
削除例 2 表 [商品] から [区分コード] が「00003」のレコードを削除する	172

更新例

更新例 1 [仕入先コード] が「043」の商品の単価を「100 円」上げる.....	180
更新例 2 [受注コード] が「0000001003」、[受注明細コード] が「03」と「04」の数量を変更する.....	185

フォーム編集例

編集例 1 フォームの背景色を目にやさしい色にする.....	196
--------------------------------	-----

Excel フォーム編集例

編集例 1 [得意先] 表を効果的なレイアウトで印刷する Excel フォームを作成する.....	242
編集例 2 [受注コード] 毎に売上を集計し、担当者毎の合計と全体の合計を表示するフォームを作成する.....	250
編集例 3 社員別の売上を検索し、Excel 上でグラフに表示する	255



編集例 4 商品別、社員別、受注日別、得意先別の受注金額を、
Excel のピボットテーブルを使用して表示する 259



ヒントと注意

ヒント：ODBC とは.....	23
ヒント：コマンドファイルを使った起動.....	27
ヒント：SkyLink のショートカットを作成する.....	29
ヒント：コマンドファイルのショートカットを作る.....	29
ヒント：表を素早く表ウィンドウに追加するには.....	35
ヒント：前回と同じ接続をする.....	35
ヒント：起動時に [SkyLink スタート] ダイアログを表示する.....	35
ヒント：接続先を固定する.....	36
ヒント：接続先を変更する.....	36
ヒント：表名・列名に表説明・列説明を使用する.....	38
ヒント：Excel 先頭に列名を出力する.....	57
ヒント：Excel 文字形式で出力する.....	57
ヒント：Excel フォームを使用する.....	57
ヒント：複数の列を選択するには.....	64
ヒント：シート画面の列幅の調整.....	65
ヒント：検索を途中で中止する.....	65
ヒント：可変条件の初期値.....	72
ヒント：8 個以上の条件設定方法.....	73
ヒント：条件フォームのデータを実行時に取得する.....	81
ヒント：部分一致検索の指定方法.....	83
ヒント：空白値の検索.....	85
ヒント：再検索と絞り込み検索.....	91
ヒント：IN と副問合せ.....	98
ヒント：数値項目の桁区切りについて.....	102
ヒント：システム日付について.....	108
ヒント：集計関数の「件数 (*)」「件数 (D)」の違いについて.....	112
ヒント：平均値を四捨五入する.....	115
注意：データを入力するときの注意点.....	147

ヒント：データの型などを確認する	148
ヒント：文字型データを素早く入力する方法	148
ヒント：Excel でコピーして SkyLink のシート画面に貼り付ける	148
ヒント：いくつかのレコードを挿入処理対象から外す	148
ヒント：操作を誤ってしてしまったとき編集メニューで復活	148
ヒント：シート画面で文字列の一部を修正する	148
ヒント：入力規則タブ	156
注意：SkyWeb での入力規則	156
ヒント：挿入をキャンセルする	160
注意：キー削除モードでの削除キーの指定について	171
ヒント：間違いを少なくするには	171
ヒント：削除モード	174
ヒント：削除をキャンセルする	175
ヒント：更新モード	183
ヒント：一括更新の種類	183
ヒント：複数の項目を一括更新する	184
注意：キー更新モードでの更新キーの指定について	188
ヒント：フォーム画面で更新キーを指定する	189
ヒント：シート画面でのデータ文字列の部分的な修正	189
ヒント：「新規コマンド n」でフォームを作ってしまったとき	199
ヒント：日本語項目の日本語入力を制御する	200
ヒント：データが変わったら改ページ	249
ヒント：集計項目ダイアログの表示	252
ヒント：スケージュラのアカウント	285
ヒント：コマンド表示のリンクをボタンに変更する	298
ヒント：SPD ファイルを共有する	298
ヒント：ユーザーにドメインを指定する	302
ヒント：サーバーからインポートされたユーザー管理	314
ヒント：テーマのデフォルトを変更する	346





1. SkyLink を使う前に

データベースについて説明します。

1.1

データベースとは

データベースとは、データの組織的な集合体のことです。たとえば、人事のデータ、顧客のデータ、売り上げのデータなど、ある目的に添って集められたデータの集合をデータベースといいます。

データベースは、データの管理方法によって、次の3つのモデルに分類されることがあります。

階層型データベース

ネットワーク型データベース

リレーショナル型データベース

この中で、現在主流となっているのはリレーショナル型のデータベースです。リレーショナルモデルではデータの関係が平坦な2次元の表で示されます。注意してほしいことは、階層型やネットワーク型はデータの物理的な構造を表しているのですが、リレーショナル型では物理的な構造は利用者には隠され、論理構造のみが平坦な表の形で示されていることです。利用者は実際の物理構造は意識せずに、表のみを操作すればよいのです。

リレーショナルモデルでは、表の横の並びをレコードまたは行と呼び、縦の並びを項目または列と呼びます。表は、属性間の関係を表しているので、表のことを関係と呼ぶこともあります。

名前	年齢	性別	出身
山田	50	女	東京
井上	25	男	山形
木村	36	女	群馬
佐藤	30	男	千葉

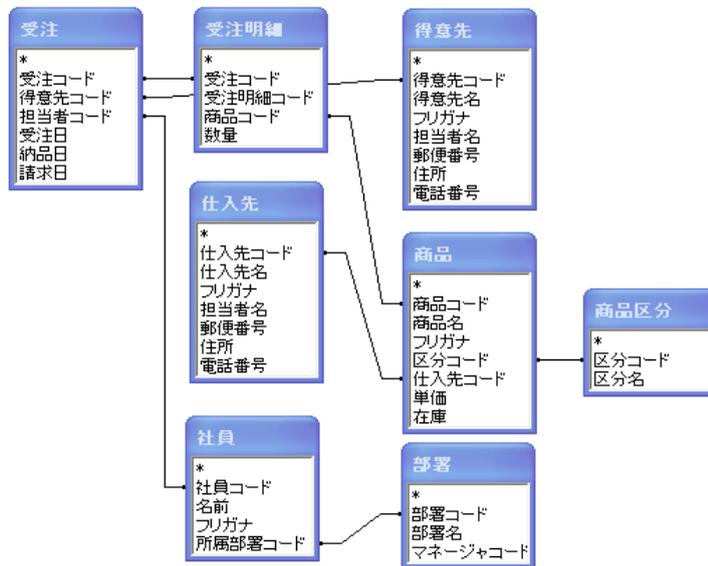
表の構造と名称

1.2

リレーショナルデータベースの例

リレーショナルデータベースは、表がいくつも組み合わせて構成されます。たとえば、ある商社のデータベースを例に取ってみましょう。このデータベースは、[仕入先]、[社員]、[部署]、[得意先]、[受注]、[受注明細]、[商品区分]、[商品] という8つの表から構成され、これらの表は項目名によって互いに関連し合っています。なお、このデータベースは3章以降の例で使用しますので、随時ご参照ください。

これらの表は次のように関連し合っています。



受注テーブル

受注単位のデータを持ちます。1つの受注内の複数の商品は、受注明細テーブルに持ちます。

受注コード、得意先コード、担当者コード、受注日、納品日、請求日からなります。

受注明細テーブル

受注データを商品単位に持ちます。
受注コード、受注明細コード、商品コード、数量からなります。

部署テーブル

部署情報のマスタテーブルです。
部署コード、部署名、マネージャコードからなります。

社員テーブル

社員情報のマスタテーブルです。
社員コード、名前、フリガナ、所属部署コードからなります。

商品区分テーブル

商品の区分を表すマスタテーブルです。
区分コード、区分名からなります。

商品テーブル

商品情報のマスタテーブルです。
商品コード、商品名、フリガナ、区分コード、仕入先コード、単価、在庫からなります。

仕入先テーブル

商品の仕入先を管理するマスタテーブルです。
仕入先コード、仕入先名、フリガナ、担当者名、郵便番号、住所、電話番号からなります。

得意先テーブル

得意先を管理するマスタテーブルです。
得意先コード、得意先名、フリガナ、担当者名、郵便番号、住所、電話番号からなります。

1.3

データベースを共用する

データベースを個人で独占的に使用する場合は別ですが、データベースを業務で利用する場合には、同じデータベースを同時に複数のユーザーで利用する必要があると考えられます。このため、ほとんどのデータベース・ソフトは LAN（社内ネットワーク）に対応しており、データベースを共有ディスクに置くことで、複数ユーザーが同時に利用できるようになっています。このようなデータベースシステムは、クライアント・サーバー型のデータベース・システムと呼ばれます。

クライアント・サーバー型のデータベース・システムでは、データベースを検索したり管理したりするのは、サーバー上で動作するデータベース・サーバー・ソフト（またはデータベース・エンジン）の役割です。LAN 上のクライアント・パソコンではデータベース・クライアント・ソフトを動作させ、画面表示やデータの印刷などを担当します。たとえば、データベースを検索する場合は、クライアント・コンピュータで検索条件などを指定し、LAN を経由してデータベース・サーバーに送り、実際の検索はデータベース・サーバーが行い、結果を LAN 経由でクライアントに送り返す仕組みになっています。

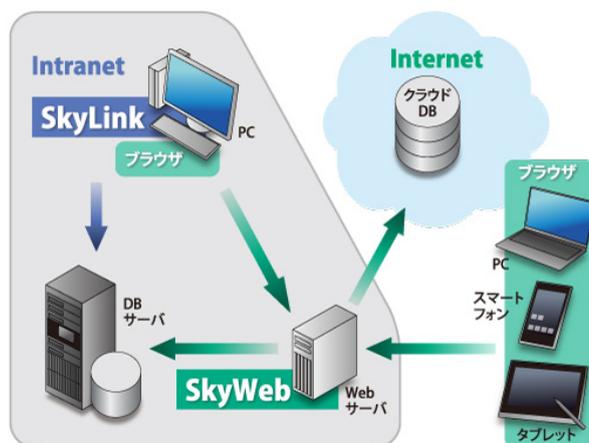
SkyWeb を利用してデータベースに接続した場合は、Web サーバー上でデータベースとのやり取りを行い、結果を各クライアントの Web ブラウザに表示するという形態になります。それによって、クライアント・コンピュータ上にはデータベース接続のミドルウェアが必要なくなり、Web ブラウザさえあればデータベースのデータを取得することが可能となります。また、クライアントはパソコンだけではなく、スマートフォンやタブレットなど、インターネットに接続できる環境さえあればどこからでもデータベースの検索が可能となります。

1.4

SkyLink で何ができるか

1.4.1 クライアントコンピュータからのデータベース操作

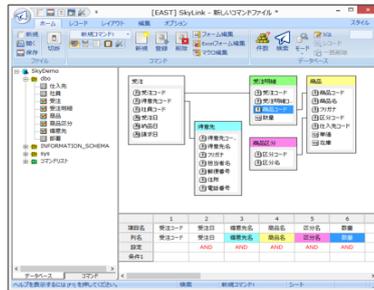
SkyLink は、クライアント・コンピュータからサーバー・コンピュータにあるリレーショナル・データベースに接続して、データベースの検索や更新を行うクライアントソフトです。また、Web サーバー経由で Web ブラウザからデータベースの検索を行うことも可能です。



SkyLink の動作概要

通常、リレーショナル・データベースを操作するには SQL 文の知識が必要ですが、SkyLink を使えば、SQL 文の知識がなくてもウィンドウに表示される表をマウスで操作することにより、誰でも簡単に、データベースの検索や更新を行うことができます。

SkyLink を使うと、次のような操作が可能です。



SkyLinkを使った場合はGUIでアクセスできる

```
SELECT WOW01."受注コード",
WOW01."受注日",
WOW02."得意先名",
WOW03."商品名",
WOW04."区分名",
WOW05."数量"
FROM "dbo"."受注" WOW01,
"dbo"."得意先" WOW02,
"dbo"."商品" WOW03,
"dbo"."商品区分" WOW04,
"dbo"."受注明細" WOW05
WHERE WOW01."得意先コード" = WOW02."得意先コード"
AND WOW01."受注コード" = WOW05."受注コード"
AND WOW04."区分コード" = WOW03."区分コード"
AND WOW05."商品コード" = WOW03."商品コード"
```

通常の場合は、文字ベースでアクセスする

SkyLink は GUI ベースでアクセスできる

1.4.2 データベース操作の種類

検索

データベースから指定した条件を満たすレコードを検索することです。検索したレコードは、一覧表示するほかに、Microsoft Excel などのアプリケーションや、HTML ファイル、CSV ファイル、XML ファイルに出力することが可能です。

挿入

データベースにレコードを追加することです。定義直後のデータベースにレコードを投入したり、後からレコードを追加する場合に利用します。データは、キー入力以外に、CSV ファイルを読み込むことも可能です。

削除

データベースから不要なレコードを削除することです。条件を満たすレコードを削除する方法と削除キーを指定して個別に削除する方法があります。

更新

データベースのレコードの値を更新することです。検索したレコードの項目を同一値に変更する方法と、更新キーを指定して個別に更新する方法があります。

1.5

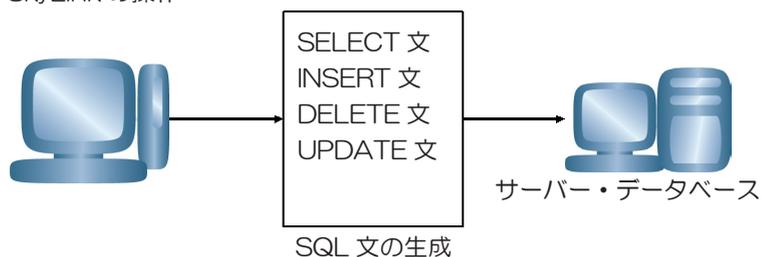
SkyLink と SQL 文

リレーショナル・データベースを操作するための標準的な言語は SQL です。SkyLink もユーザーの設定を SQL 文に翻訳してサーバーに送っています。SkyLink は SQL の知識がなくても使えますが、SQL の知識があれば、SkyLink の機能をより深く知ることができます。

SkyLink の機能は、データベースの検索、レコードの挿入、レコードの削除、項目値の更新に大きく分けられますが、それぞれ次のような SQL 文を生成することにより、実現しています。

データベースのレコードの検索	SELECT 文
データベースへのレコードの挿入	INSERT 文
データベースからレコードの削除	DELETE 文
データベースのレコードの更新	UPDATE 文

SkyLink の操作



SkyLink は SQL 文を生成する

1.6

SkyLink の種類

1.6.1 対応データベースによる分類

すべてのデータベースへ、シームレスかつネイティブに接続します。
対応するサーバー・データベースの種類によって、SkyLink の接続先を変更してください。

ORACLE 環境	Oracle12c 各 Edition Oracle11g 各 Edition Oracle10g 各 Edition に接続
NEC RDB サーバ環境	NEC RDB サーバ対応データベースに接続
富士通 Symfoware 環境	富士通 Symfoware 対応データベースに接続
IBM DB2 環境	IBM DB2、 DB2 ユニバーサル・データベースに接続
ODBC 環境	Microsoft SQL Server、 IBM DB2、 RedBrick、 Infomix、 Oracle、 NEC RDB サーバ、 富士通 ODOS 日立 HiRDB PostgreSQL

対応データベースの種類



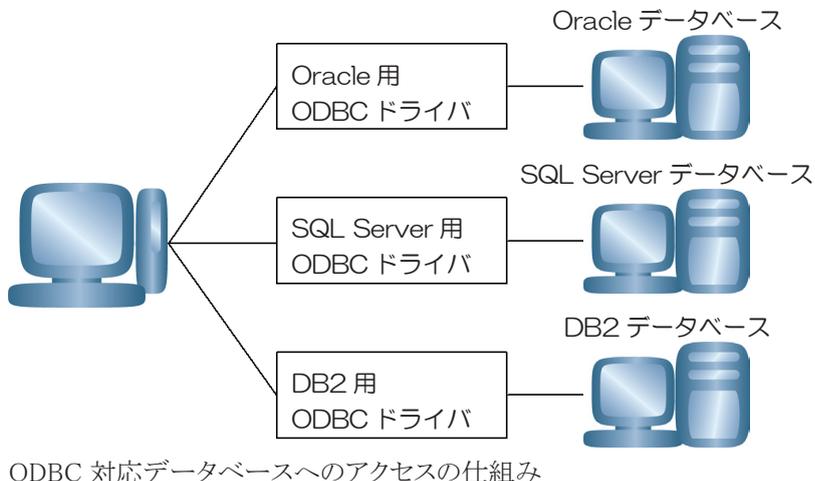
SkyLink の対応するデータベース

◎ ヒント：ODBC とは

ODBC は Open DataBase Connectivity の略で、米マイクロソフト社が提唱したデータベースへの標準的な接続規格のことです。デー

1 SkyLink を使う前に

データベースへのアクセスの仕組みは、ODBC ドライバと呼ばれるドライバ形式のソフトとして提供されます。各データベース用の ODBC ドライバを入手すれば、アプリケーション本体に変更を加えることなく、いろいろなデータベースにアクセスできるようになります。



1.6.2 検索用と検索／更新用

SkyLink には検索用と検索／更新用の 2 種類があります。検索用はデータベースのレコード検索しか行えませんが、検索／更新用はこれに加えて、データベースのレコードの挿入・削除・更新が可能です。検索しか必要ない、または更新されたくないという場合には検索用 SkyLink をご利用ください。

	検索	挿入	削除	更新
検索用 SkyLink	○	×	×	×
検索／更新用 SkyLink	○	○	○	○

SkyLink の機能一覧

また、SkyLink ユーザーマネージャを使用することで、ユーザー毎に、挿入・削除・更新の各モード遷移の可否を指定することもできます。



2. SkyLink を起動しよう

SkyLink の起動と終了の方法を説明します。

2.1

SkyLink の起動

最初に、SkyLink を起動しましょう。なお、SkyLink のインストール方法については、「SkyLink ユーザーズマニュアル 2 SkyLink のインストール」を参照してください。

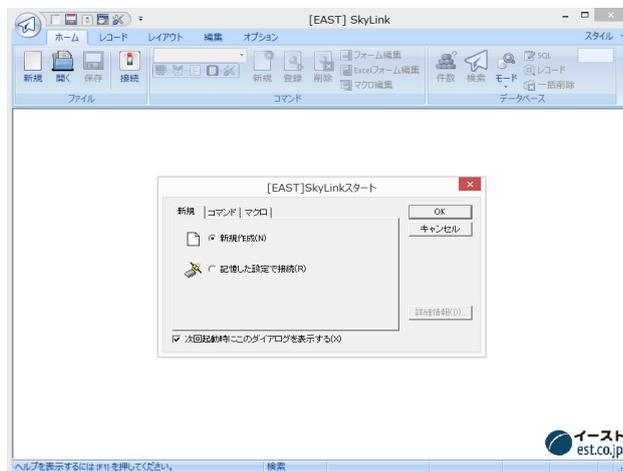
2.1.1 起動メニューの選択

Windows8.1 のアプリ画面の [SkyLink Ver.11] タイルアイコンをクリックします。アプリ画面が表示されていない場合は、スタート画面の左下の (↓) アイコンをクリックすると表示することができます。(Windows8.1 での例)



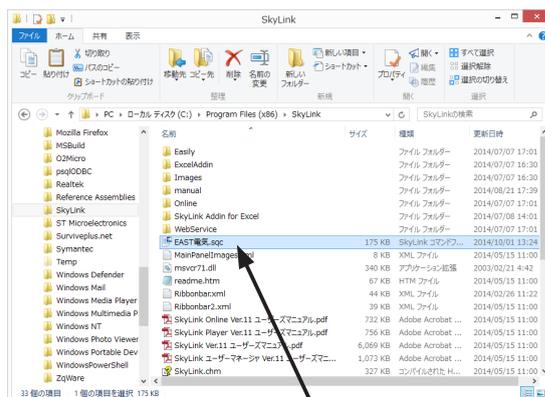
2.1.2 SkyLink の起動

SkyLink が起動し、[SkyLink スタート] ダイアログが表示されます。処理を選択して [OK] ボタンをクリックします。



◎ ヒント：コマンドファイルを使った起動

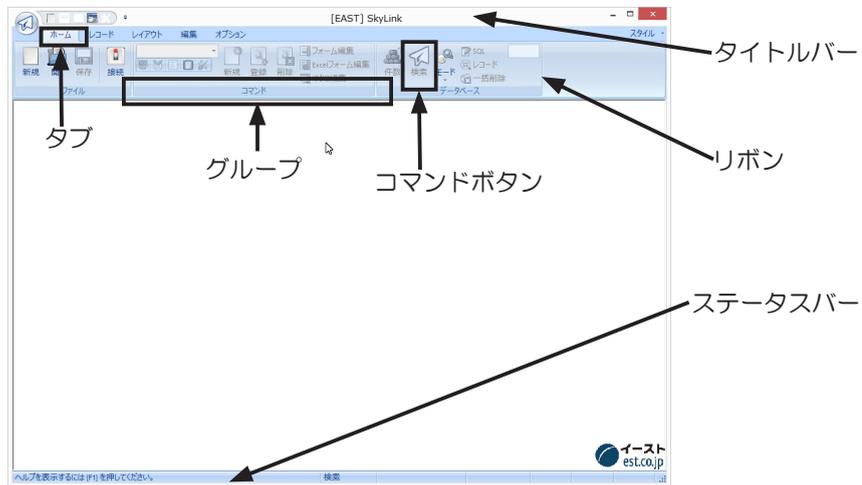
SkyLink では、SkyLink の設定状態（検索の対象となる表や検索条件など）をコマンドとして登録し、コマンドファイルに保存しておくことができます。このコマンドファイルの拡張子 SQC は SkyLink と関連付けられているので、エクスプローラなどでコマンドファイルをダブルクリックすると、直ちに SkyLink が起動します。同時にコマンドファイルに登録されているコマンドが読み込まれ、記憶されている設定状態になります。この方法で起動すると、設定まで行ってくれるので、定型的な処理を行うには、非常に便利です。



エクスプローラでコマンドファイルをダブルクリックする

2.2

SkyLink の画面の見方



タイトルバー

SkyLink のタイトルが表示されます。
アプリケーション名 「[EAST] SkyLink」 が表示されます。

リボン

SkyLink の機能を実行したり設定を行うためのボタンが表示されます。複数の [タブ]-[グループ]-[コマンドボタン] から構成されており、ボタンの上にマウスポインタを移動すると簡単な解説（ツールヒント）が表示されます。

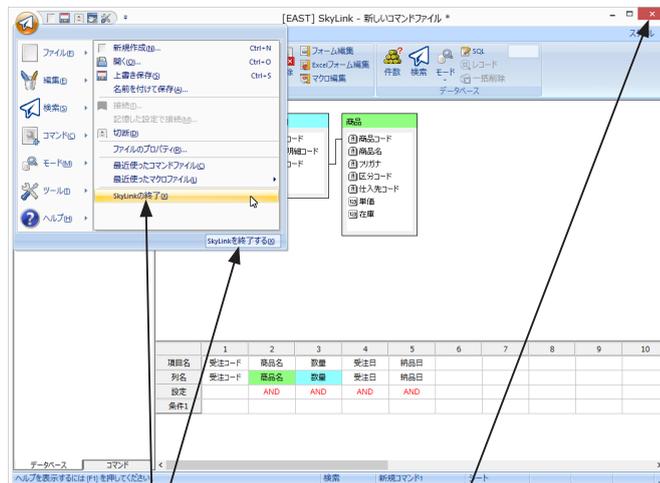
ステータスバー

メニュー項目やツールバーのボタンの上にマウスカーソルを移動したときに、ステータスバーにその機能の説明が表示されます。

2.3

SkyLink の終了

SkyLink のメニューから [ファイル (F)] - [SkyLink の終了 (X)] を選択するか、[終了] ボタンをクリックすると、SkyLink は終了します。



[SkyLink の終了 (X)] を選択、または [終了] ボタンをクリック

☺ ヒント：SkyLink のショートカットを作成する

SkyLink のショートカットをデスクトップに作成しておくと、SkyLink を素早く実行することができます。ショートカットの作り方は、Windows8.1 の [スタート] 画面から [↓] をクリックして [アプリ] 画面を表示します。ショートカットを作成したいアプリケーションのアイコンを選択して右クリックして表示されるメニューから「ファイルの場所を開く」を選択します。フォルダーが開きますので該当するショートカットを選択して右クリックし、表示されるメニューから「送る」→「デスクトップ (ショートカットを作成)」の順に選択します。

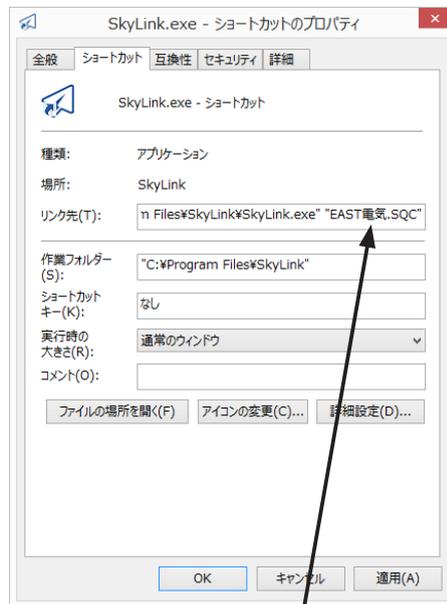
こうすると、デスクトップに SkyLink のショートカットが作成されます。後は、このショートカットをダブルクリックすれば SkyLink を起動することができます。

☺ ヒント：コマンドファイルのショートカットを作る

2 SkyLink を起動しよう

通常、SkyLink のショートカットをダブルクリックすると、SkyLink が起動するだけですが、起動と同時にコマンドファイルを実行するようになることもできます。

このためには、前述のように SkyLink のショートカットをデスクトップに作成した後に、そのショートカットを右クリックし、メニューから [プロパティ (R)] を選択して、プロパティを起動した後、[ショートカット] タブの [リンク先 (T)] に半角スペースで区切って、コマンドファイル名をキー入力してください。なお、コマンドファイルが標準のフォルダ (¥SkyLink) 以外にあるときには、コマンドファイルをパス名で修飾してください。



ここにコマンドファイル名をキー入力する

また、SkyLink のショートカットを作るときと同様に、エクスプローラなどでコマンドファイルをデスクトップにドラッグして、コマンドファイルのショートカットを作ることができます。

3. データベースに接続する

SkyLink の基本的な操作方法を説明します。

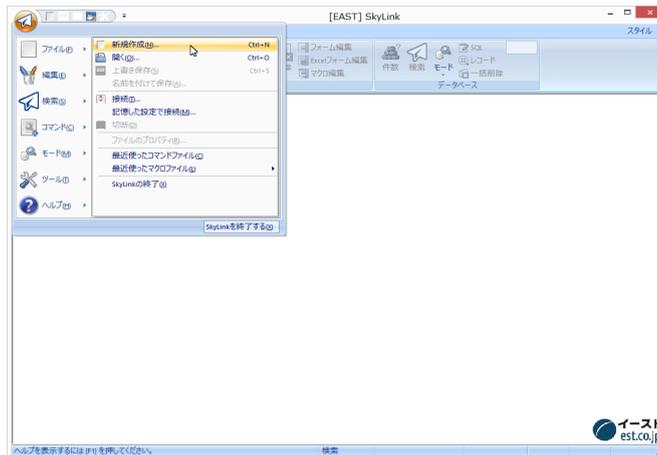
3.1

データベースへ接続する

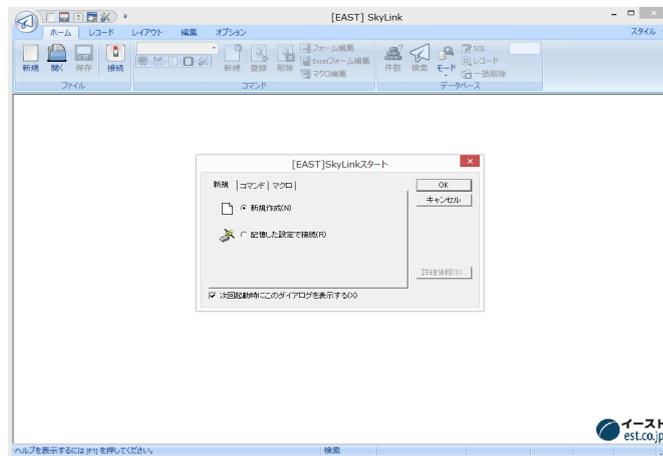
それでは、データベースに接続しましょう。なお、ここでは Oracle 接続を例にとります。表示されるダイアログボックスなどは SkyLink の接続先データベースによって異なります。詳しくは「SkyLink ユーザーズマニュアル 3.4 データベース接続」を参照してください。

1. [ファイル] グループの [接続] の選択

SkyLink の [ホーム] タブ [ファイル] グループから [新規] ボタンまたは [接続] ボタンを選択します。



SkyLink 起動時には、設定により [SkyLink スタート] ダイアログが表示されますので、[新規作成 (N)] を選択します。後述の「ヒント: 起動時に [SkyLink スタート] ダイアログを表示する」を参照してください。



2. 接続データベースの選択

接続のダイアログボックスが表示されます。接続するデータベースを指定して、[OK] ボタンをクリックします。



データベース名

Oracle のホスト文字列または Oracle へあらかじめ登録してあるデータベース別名を指定します。

ユーザー名

あらかじめ登録されているユーザー名を入力します。

パスワード

あらかじめ登録されているパスワードを入力します。パスワード欄には入力した文字列の代わりにアスタリスク (*) が表示されます。

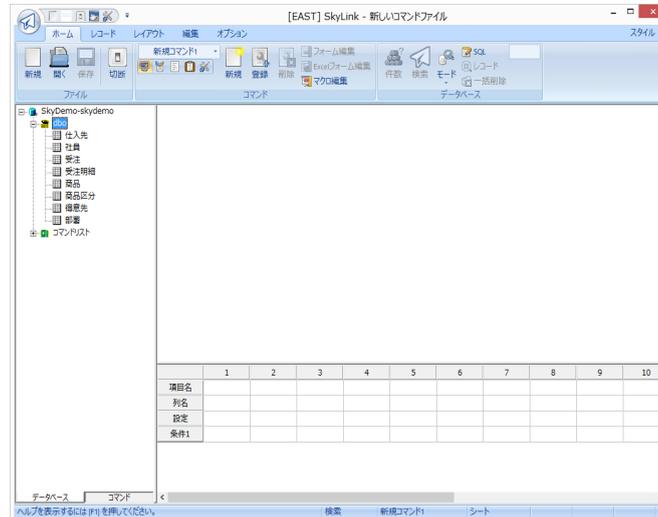
今回の設定を記憶する

今回接続するデータベース名、ユーザー名、オーナー、表を記憶します。

3 データベースに接続する

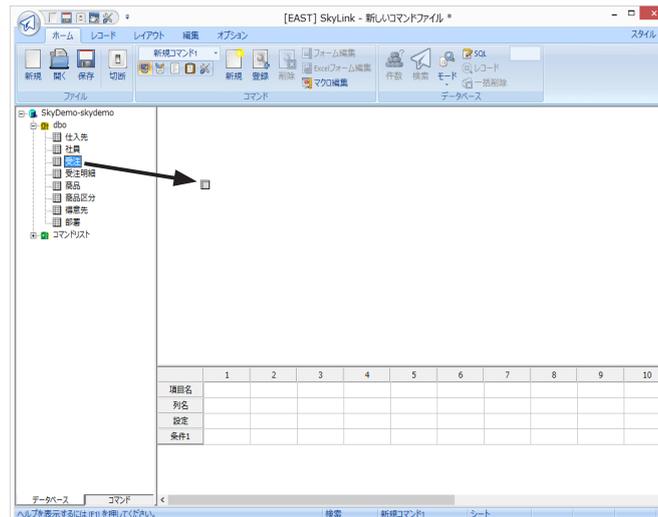
3. オーナーの選択

データベースに接続すると、データベースツリーにオーナー名のリストが表示されます。目的の表があるオーナーを開くために、オーナー名の左端にある+記号をクリック、または、オーナー名をダブルクリックします。

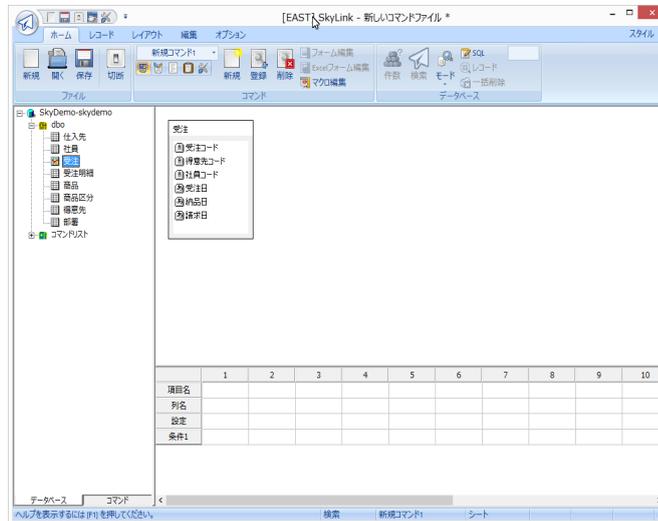


4. 表の選択

次に表名をドラッグして表ウィンドウでドロップします。



表が表示される



☺ ヒント：表を素早く表ウィンドウに追加するには

オーナー名をドラッグ・アンド・ドロップすると、そのオーナーのすべての表を表ウィンドウに表示することができます。また、[Ctrl] キーを押しながらクリックすると、個々の表を選択することができます。[Shift] キーを押しながら「開始の表」と「終了の表」をクリックすると、その範囲の連続した表を選択することができます。選択後、ドラッグ・アンド・ドロップすると、それらの表をまとめて表ウィンドウに表示することができます。

☺ ヒント：前回と同じ接続をする

接続のダイアログボックスで [今回の設定を記憶する (M)] チェックボックスをチェックしておくと、次回接続するときに [ファイル (F)] - [記憶した設定で接続 (M)] を選択すれば、記憶されている設定で接続しますので、オーナー名や表の選択を省略することができます。ただし、パスワードの入力は省略できません。

☺ ヒント：起動時に [SkyLink スタート] ダイアログを表示する

[オプション] タブ [オプション] グループの [オプション] ボタンで表示されるダイアログの [全般] タブの [起動時にスタートアップダイアログを表示する (C)] チェックボックスにチェックしていると、SkyLink 起動時に [SkyLink スタート] ダイアログが表示され、「新規作成 (N)」「記憶した設定で接続 (R)」「コマンドファイルを開く」「マクロファイルを開く」の接続方法を選択することができます。起動後、あらかじめメニューから選ぶ必要がないので簡単です。前述の「1 [ファイル] グループの [接続] の選択」の図もご覧ください。

3 データベースに接続する

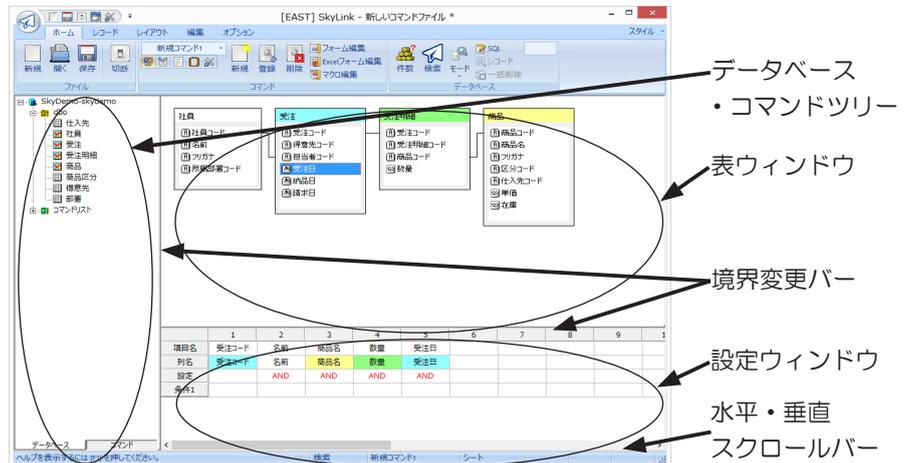
◎ ヒント：接続先を固定する

SkyLink ユーザーマネージャで [接続先固定を有効にする (X)] が設定されている場合に、データベース接続後、[オプション] – [全般] タブの [接続先を固定する (F)] チェックボックスをチェックすると、次回からの接続方法でも接続ダイアログが表示されず、記憶されたデータベース名、ユーザー名、オーナー、表に接続されるようになります。この状態を解除するには、[接続先を固定する (F)] チェックボックスのチェックを外してください。

◎ ヒント：接続先を変更する

[オプション] – [接続] タブで、接続先データベースの初期値を変更することができます。なお、非接続時のみ変更が可能です。

3.2 ウィンドウの各部の名称と機能



データベースツリー / コマンドツリー

データベースにある表名、または表ウィンドウに登録されている表の列一覧やフォーム一覧を見ることができるツリーです。

表ウィンドウ

選択した表が表示されるウィンドウです。

設定ウィンドウ

検索する項目や条件を設定するためのウィンドウです。

境界変更バー

ここをドラッグすると、表ウィンドウと設定ウィンドウの境界が移動します。

水平スクロールバー

表ウィンドウと設定ウィンドウを左右にスクロールします。

垂直スクロールバー

表ウィンドウと設定ウィンドウを上下にスクロールします。

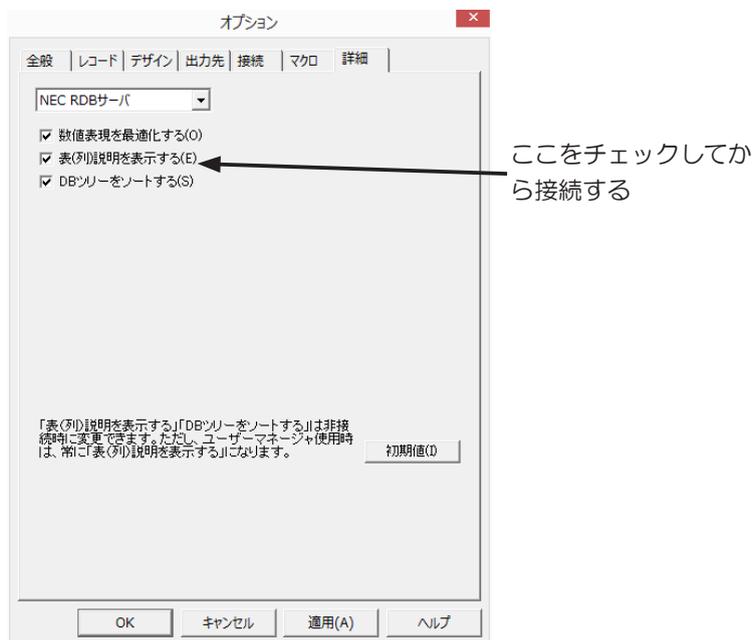
3 データベースに接続する

◎ ヒント：表名・列名に表説明・列説明を使用する

「NEC RDB サーバ対応 DB」接続でデータベースが A-VX、RIQS II V1 の場合、接続する前に、[オプション] タブ [オプション] グループの [オプション] ボタンで表示されるダイアログの [詳細] タブの「NEC RDB サーバ」 [表 (列) 説明を表示する (E)] チェックボックスをチェックすると、表名・列名の代わりに表説明・列説明を使用して表示します。

チェックしないと表名・列名で表示されます。

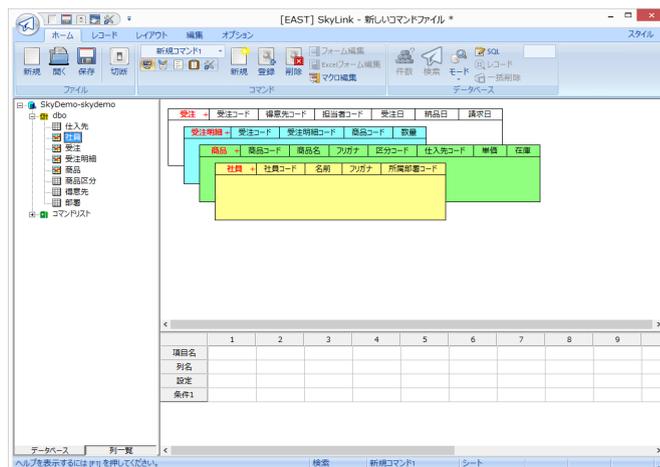
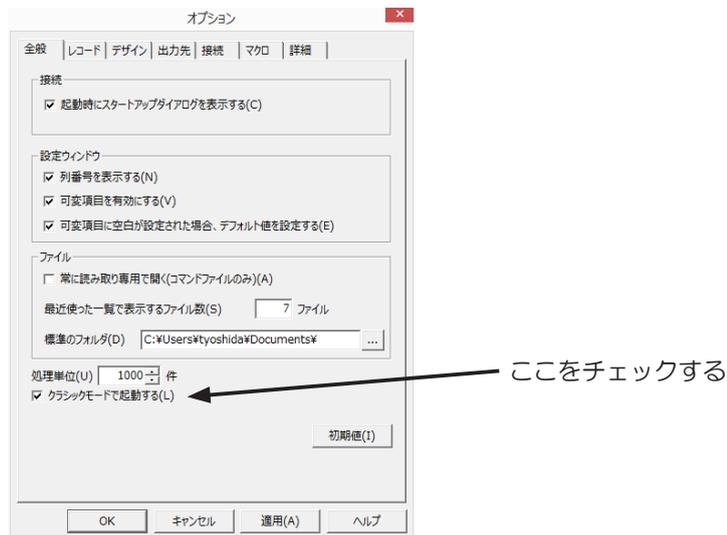
ただし、SkyLink ユーザーマネージャを利用している場合は、常に表説明・列説明が使用されます。



3.3

表ウィンドウの操作方法

表を自由にレイアウトしたり、列の結合をグラフィカルに表示できます。また、Ver.8.0 以前で採用していたデザインはクラシックモードとして残っていますので旧版の表示で操作することも可能です。接続前に[オプション]タブ[オプション]グループの[オプション]ボタンで表示されるダイアログの[全般]タブの[クラシックモードで起動する(L)] チェックボックスをチェックすると、SkyLink のメイン画面のインターフェイスを Ver.8.0 までの表示に設定することができます。

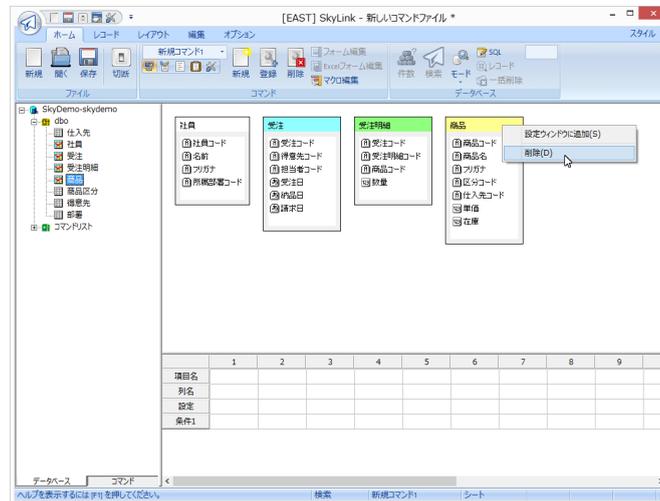


3 データベースに接続する

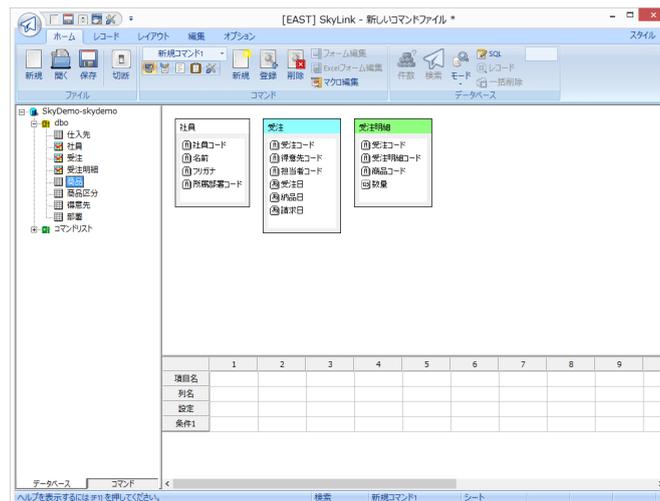
標準モードの場合

表の削除

表ウィンドウの表名を右クリックしてポップアップメニューから [削除 (D)] を選択することで、表ウィンドウから表を削除できます。



表名を右クリックして [削除 (D)] を選択する



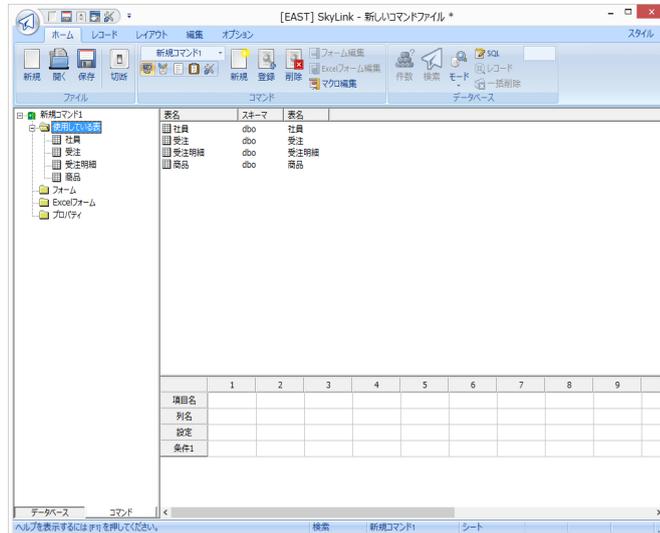
表ウィンドウから表が削除される

表の定義を見る

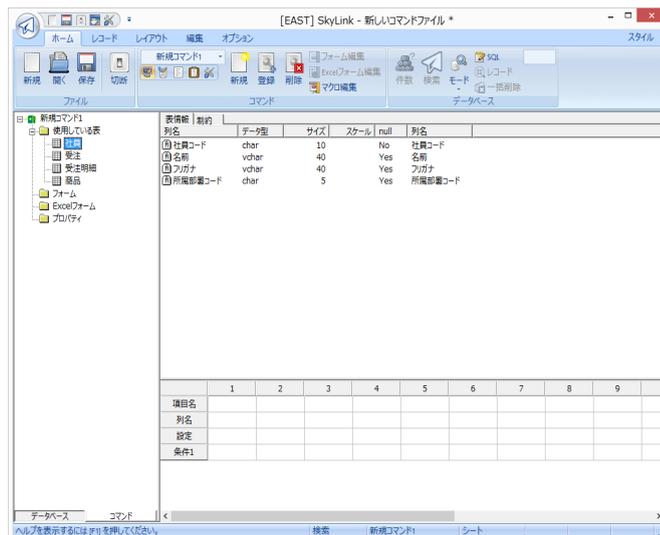
コマンドツリーで「使用している表」以下の表名を選択し、表ウィンドウで

3.3 表ウィンドウの操作方法

[表情報] タブを選択することで、表の定義情報を見ることができます。コマンドツリーの一番上「コマンド名」を選択すると、表示は元に戻ります。なお、定義情報の詳細は「SkyLink ユーザーズマニュアル 3.5.4 表ウィンドウ」の「表の定義を確認する」を参照してください。



コマンドツリーで表名を選択して表ウィンドウの [表情報] タブを選択する



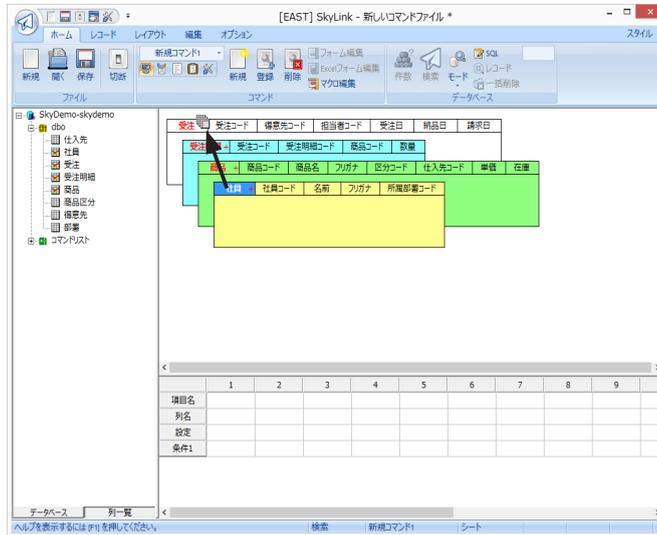
表の定義が表示される

3 データベースに接続する

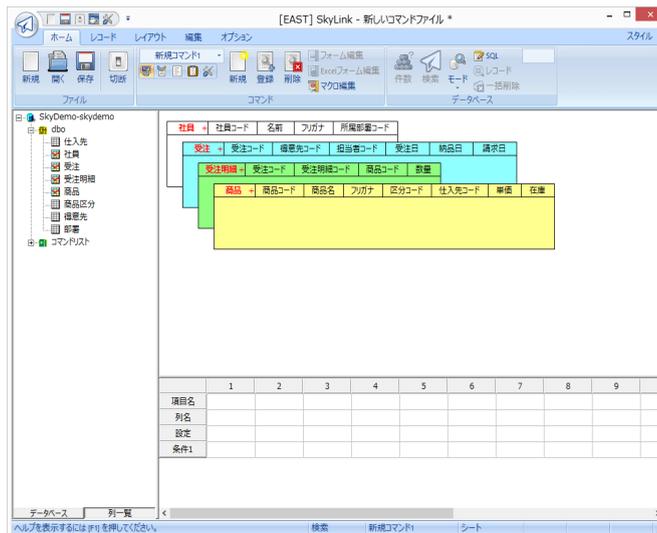
クラシックモードの場合

表の順番の変更

表名をドラッグしてして目的の位置でドロップすると、その表がドロップした位置に移動します。



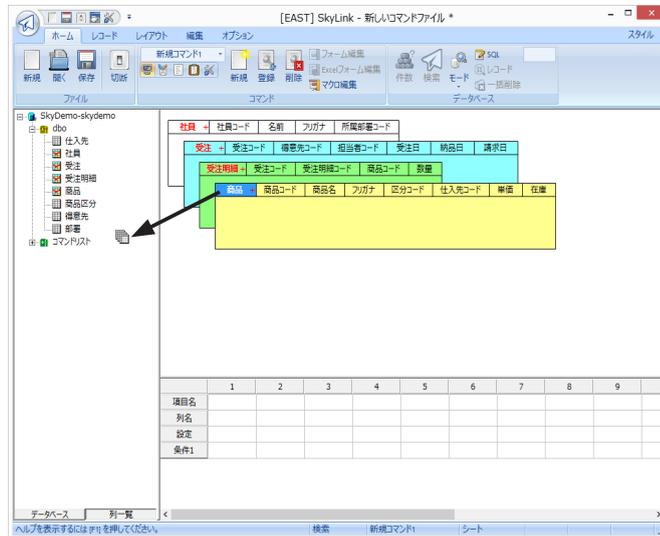
[社員] 表をドラッグして、[受注] 表の上でドロップする



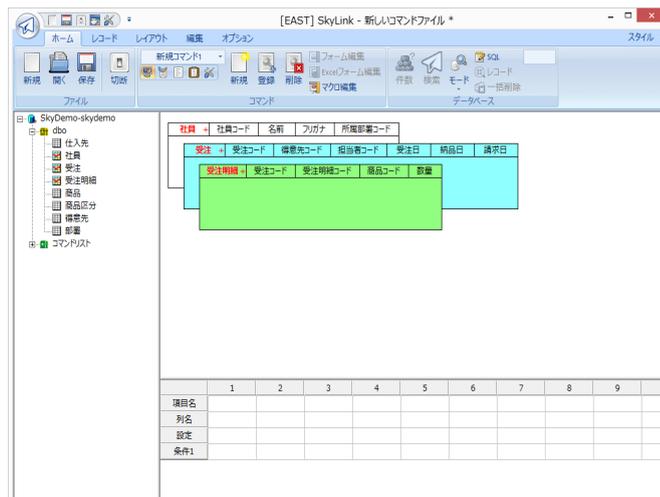
[社員] 表が先頭に表示される

表の削除

表ウィンドウの表名をドラッグしてデータベースツリーヘドロップすると、表ウィンドウから表を削除できます。



表名をドラッグして、データベースツリーの上でドロップする

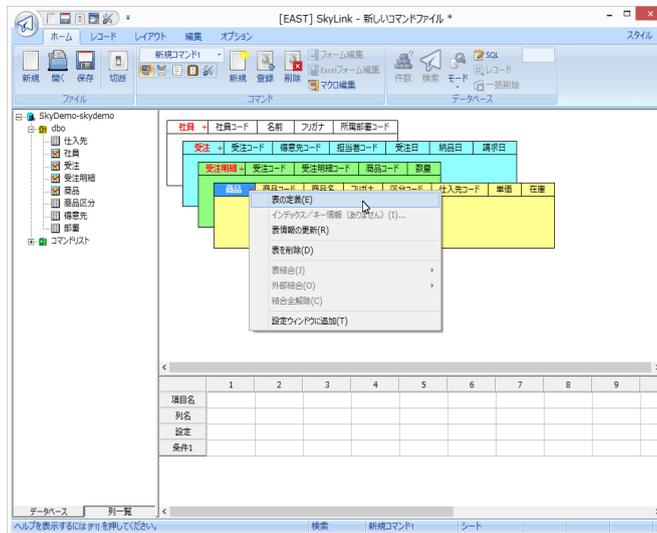


表ウィンドウから表が削除される

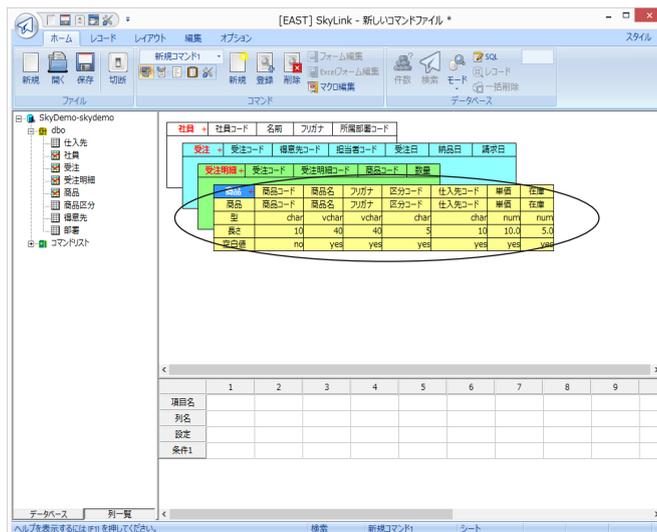
3 データベースに接続する

表の定義を見る

表名を右クリックしてポップアップメニューから「表の定義(E)」を選択するか、表名部分の「+」をクリックすることで、表の定義情報を見ることができます。右クリックしてもう一度「表の定義(E)」を選択すると、表示は元に戻ります。なお、定義情報の詳細は「SkyLink ユーザーズマニュアル 3.5.4 表ウィンドウ」の「表の定義を確認する」を参照してください。



表名を右クリックして「表の定義(E)」を選択する



表の定義が表示される

「NEC RDB 対応 DB」接続の A-VX または RIQS II V1 の場合、接続前の [オプション] ダイアログの [詳細] タブ内の 「NEC RDB サーバ」 [表 (列) 説明を表示する (E)] チェックボックスのチェックの状態によって表示には違いがあります。

チェックした場合の表示

運送表	運送便コード	運送便名	送り状荷送人CD
型	CHAR	CHAR	CHAR
長さ	5	64	5
列名	UNCDUN	UNNMUN	UNCDOK
表名	運送表		

チェックしない場合の表示

GCBTUNM	UNCDUN	UNNMUN	UNCDOK
型	CHAR	CHAR	CHAR
長さ	5	64	5
列説明	運送便コード	運送便名	送り状荷送人CD
表説明	運送表		

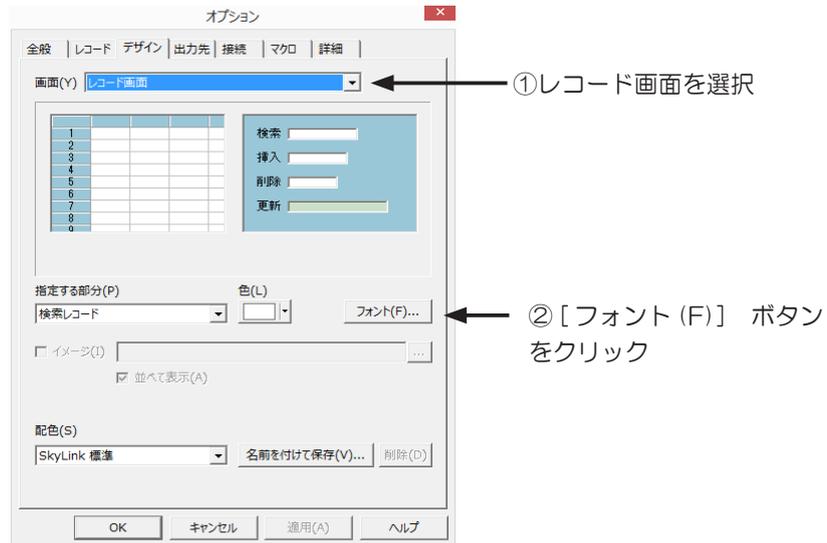
3.4

画面表示を見やすくする

SkyLink で表示する文字の大きさと、表やウィンドウの色をお好みに合わせて設定することができます。

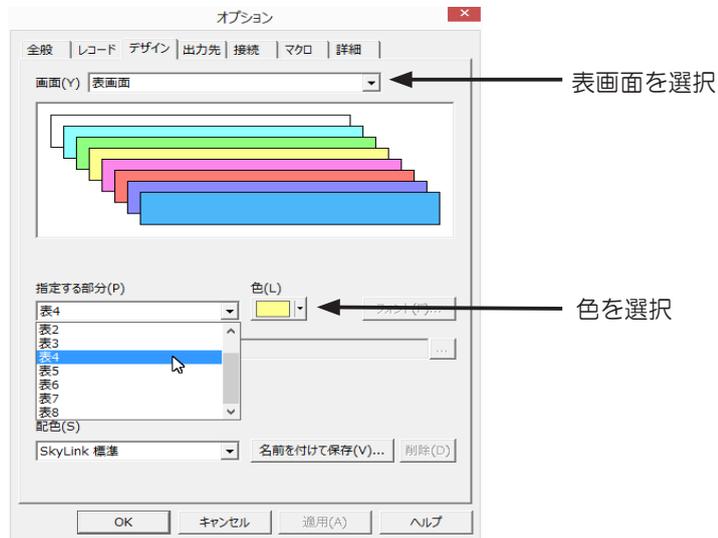
文字の大きさを変更する

[オプション] タブ [オプション] グループの [オプション] ボタンで表示されるダイアログの [デザイン] タブの [画面 (Y)] コンボボックスで「レコード画面」を選択してから [フォント (F)] ボタンをクリックして [フォント設定] ダイアログを表示します。



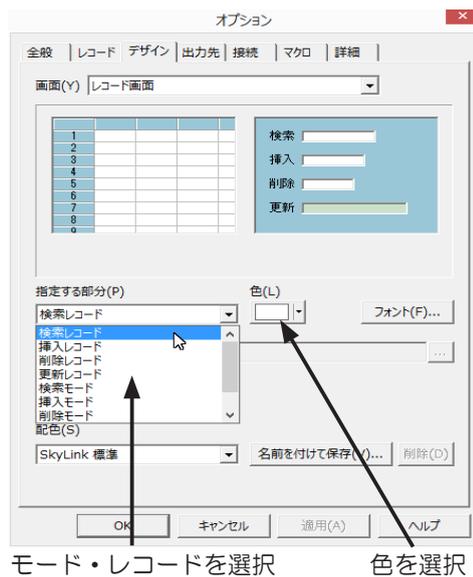
表ウィンドウの色を変更する

[デザイン]タブの[画面(Y)]コンボボックスで「表画面」を選択してから行います。



レコード画面の色を変更する

[デザイン]タブの[画面(Y)]で「レコード画面」を選択してから行います。



4. データベースを検索する

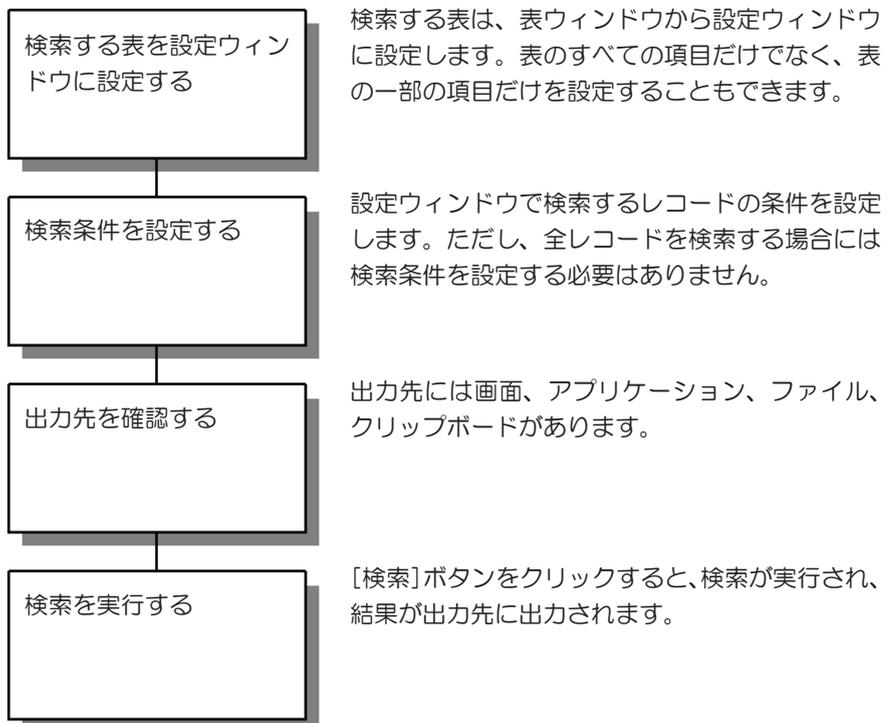
いろいろな検索方法を説明します。

4.1

検索の手順

4.1.1 操作の手順

表から指定した条件を満たすレコードを出力することを「検索」といいます。通常、表のレコードを検索する場合には、次のような順序を踏みます。



4.1.2 [設定] ダイアログの操作

検索するデータに、ソート指定や演算指定、グループ指定を行う場合に使用します。指定の方法は、設定したい列の「設定」行でマウスの左ボタンをクリックすることにより行います。

	1	2	3	4	5	6	7
項目名	仕入先コード	仕入先名	フリガナ	担当者名	郵便番号	住所	電話番号
列名	仕入先コード	仕入先名	フリガナ	担当者名	郵便番号	住所	電話番号
設定		AND	AND	AND	AND	AND	AND
条件1							

[設定] ダイアログ

他の項目の条件に対して

前の列の条件とAND条件にするかOR条件にするかを指定します。設定ウィンドウの左端の列を選択した場合、指定することはできません。

ソート

現在の項目のソート方法を指定します。なし、昇順、降順の中から指定します。

条件全体のカッコ

この列の条件全体の左カッコと右カッコの数を指定します。項目間でカッコを指定して条件を作成する場合に使用します。

[演算 (P)] コンボボックス

この項目に対して演算を指定したい場合に使用します。また、データベース関数を使用する場合は、「=」を指定して右側のコンボボックスに関数を記述します。その際には、[列参照として扱う (E)] チェックボックスにチェックを付けてください。

[集計 (F)] コンボボックス

グループ化する場合など、現在の項目データを集計したい場合に指定します。

[重複なし (I)] チェックボックス

同じデータは抽出しないように指定します。先頭の項目の場合のみ指定可能です。

[データの抽出は行わない (X)] チェックボックス

条件としては使用したいが、検索結果としてのデータとしては必要ない場合にチェックを付けます。検索結果には、該当の列データは出力されません。設定ウィンドウの項目名をマウスで右クリックしても同

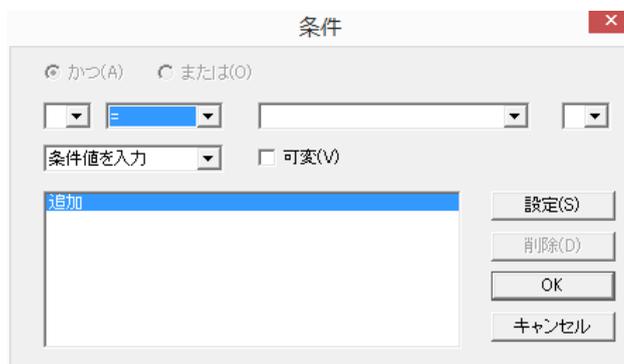
4 データベースを検索する

様の操作となります。

4.1.3 [条件] ダイアログの操作

列に検索条件を設定する場合に使用します。指定の方法は、検索条件を付与したい列の「条件n」行でマウスの左ボタンをクリックすることにより行います。

[条件] ダイアログ



[かつ (A)]、[または (O)] ラジオボタン

2 個目以降の検索条件の場合に指定することができます。1つ上の条件と AND で指定するか OR で指定するかどちらかを選びます。

[開カッコ ()] コンボボックス

現在の条件の左に付けるカッコの数を指定します。

[演算子] コンボボックス

大小比較など指定したい比較演算子を選びます。列のデータ型によって表示される演算子が異なります。

[条件の値] コンボボックス

検索する条件の値を入力します。条件種別コンボボックスで副問合せを指定した場合は、コマンドの一覧が表示されます。列参照を指定した場合は、列の一覧が表示されます。

[閉カッコ ()] コンボボックス

現在の条件の右に付けるカッコの数を指定します。

[条件の種類] コンボボックス

条件種別（条件値を入力、列参照、副問合せ）を選びます。

[可変 (V)] チェックボックス

検索するたびに条件を変更したい場合に、チェックを付けます。その際、[条件の値] コンボボックスに値が入力されている場合は、検索条件の初期値となります。初期値を付与した可変値条件の場合、検索時に条件を削除しても初期値が使用された検索を行います。

[All]、[Some(Any)] ラジオボタン

副問合せを指定した場合に、表示されます。演算子が「=」だった場合に、副問い合わせの結果がすべて「=」の場合に真とする場合は All を選択します。1 レコードでも合致した場合に真とする場合は、Some を選択します。

4.1.4 表結合（外部結合）

複数の表から列を抽出する場合に、表と表を結合させて結果を取得します。SkyLink で表結合を行う方法は、以下の 2 種類があります。

標準モードの場合

[表結合] ボタンをクリックして、[結合] ダイアログで結合

結合 ✕

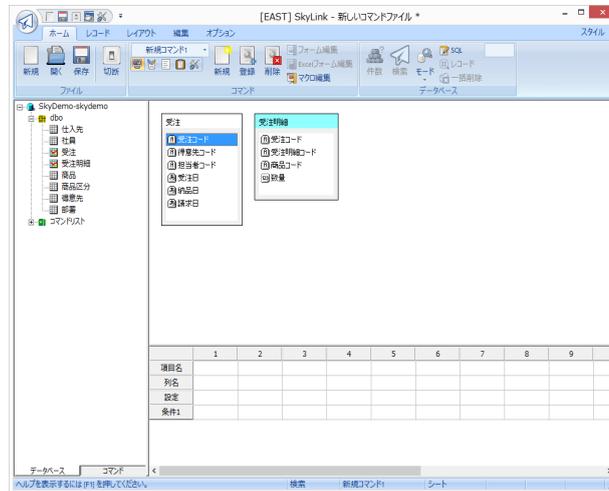
テーブル(1) 受注	テーブル(2) 受注明細	OK キャンセル
列(1) 受注コード	列(2) 受注コード	

両方のテーブルの結合フィールドが同じ行だけを含める
 「受注」の全レコードと「受注明細」の同じ結合フィールドのレコードだけを含める
 「受注明細」の全レコードと「受注」の同じ結合フィールドのレコードだけを含める

[結合] ダイアログで結合する表とその項目を [テーブル (1)] コンボボックス、[列 (1)] コンボボックスと [テーブル (2)] コンボボックス、[列 (2)] コンボボックスで選択し [OK] ボタンをクリックすると結合されます。

4 データベースを検索する

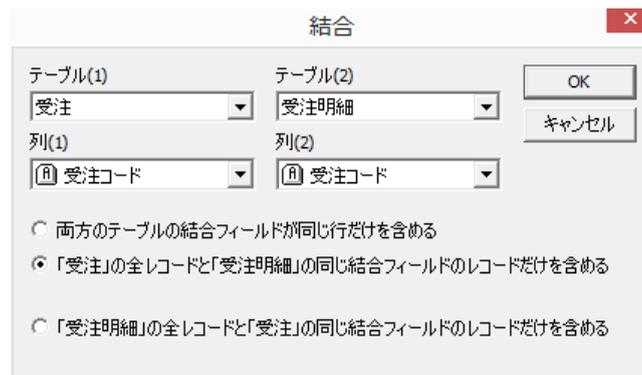
表ウィンドウで列をドラッグ・アンド・ドロップして結合



結合したい列をマウスでドラッグして、もう一方の列にドロップします。データ型が異なる場合は  表示となって、ドロップすることはできません。

外部結合

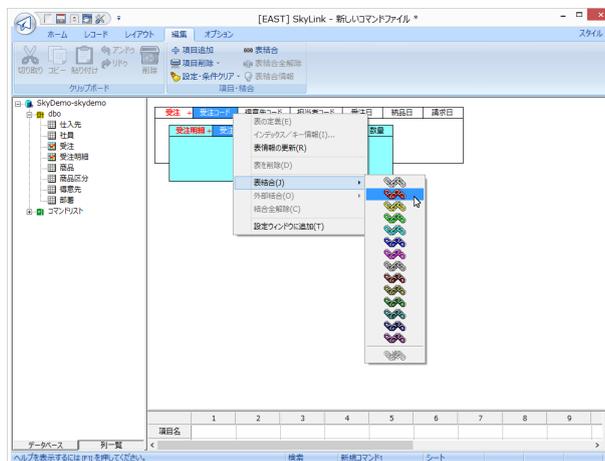
普通の結合を行うとその条件を満たす行のみが出力の対象となりますが、片方の表の結合条件を満たしていない行も出力対象としたい場合に外部結合を使用します。SkyLink では、外部結合に対応したデータベースに接続した場合に使用することができます。



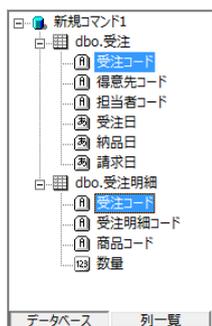
[結合] ダイアログで結合する表とその項目を選択し、外部結合の種類を選択します。この例の場合ですと、受注明細がない受注データも検索されます。

クラシックモードの場合

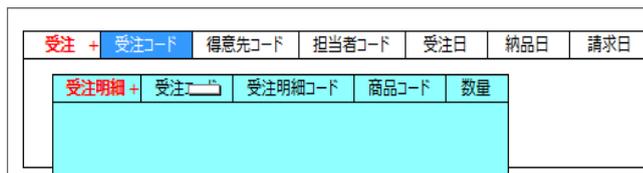
表ウィンドウで列を選択して、表結合メニューを選択



表結合したい列を [Ctrl] キーを押しながらか選択して (1つでも可)、右クリックをして表示される結合メニューの中から結合の種類を選択します。同じ色で結合されたものは、同じ結合となります。左側の列一覧ツリーで列を選択した場合も同様です。



表ウィンドウで列をドラッグ・アンド・ドロップして結合



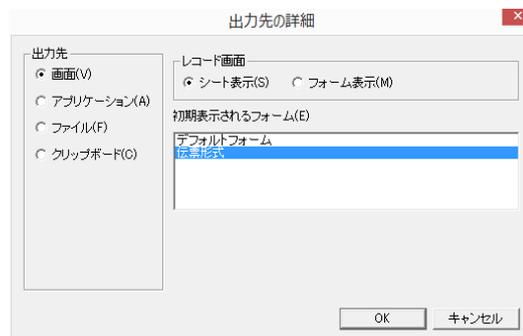
結合したい列をマウスでドラッグして、もう一方の列にドロップします。データ型が異なる場合は  表示となって、ドロップすることはできません。

4 データベースを検索する

4.1.5 出力先の指定

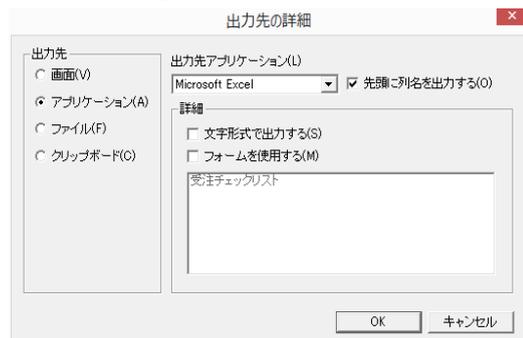
SkyLink では、多彩な検索結果の出力先をサポートしています。画面ではシート形式とフォーム形式、アプリケーションでは Microsoft Excel、Web ブラウザ、風神レポート、ユーザー定義アプリケーション及び、ファイルとクリップボードでは CSV 形式、HTML 形式、テキスト形式及び、XML 形式で出力することが可能です。

画面



上記の画面の例では、検索結果は最初にシート形式で表示され、画面切り替えを行うと、ユーザー作成フォーム「伝票形式」で検索結果が表示されます。最初にフォーム画面で表示させる場合は、[フォーム表示 (M)] ラジオボタンを選択します。

アプリケーション



Microsoft Excel に検索結果を出力します。

 ◎ ヒント：Excel 先頭に列名を出力する

[先頭に列名を出力する(O)] チェックボックスにチェックを付けると、SkyLink で設定されている「項目名」が先頭行に付加されて出力されます。

◎ ヒント：Excel 文字形式で出力する

[文字形式で出力する(S)] チェックボックスは、例えば「001234」という列データがあった場合に、そのままでは「1234」という数値データになって出力されてしまいますが、このチェックを付けることによって正しく「001234」と出力されるようになります。

◎ ヒント：Excel フォームを使用する

[フォームを使用する(M)] チェックボックスは、Excel フォーム編集で定義したフォーム形式で出力する場合にチェックを付けて、該当のフォーム名を選択します。

ユーザー定義アプリケーション

上記は、ユーザー定義アプリケーションとして「メモ帳」を登録した場合の例です。SkyLink で CSV ファイルを作成し、そのファイル名をパラメータとしてメモ帳を起動します。

ファイル

4 データベースを検索する

検索結果をファイルに出力します。上記の例では、「C:¥CSV¥受注リスト.csv ファイル」の最後に列名を付けてカンマ区切りで出力します。

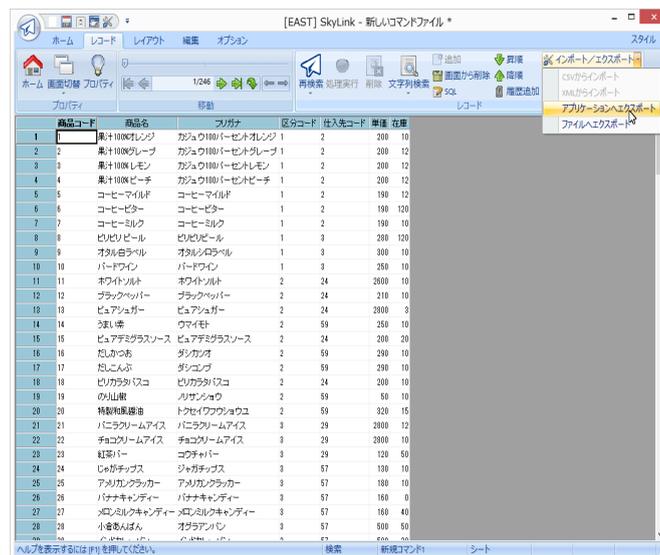
XML

検索結果を XML ファイルとして出力します。[アトリビュートとして設定する (A)] チェックボックスにチェックを付けると、各列のデータがアトリビュートとして出力されます。

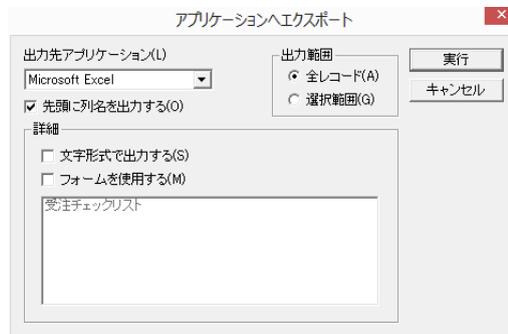
タグ名は項目名が使用されます。また、[ファイル (F)] - [ファイルのプロパティ (R)] で指定されたコメントが、コメントとして出力されます。

4.1.6 検索データのエクスポート

検索結果を画面に出力後、結果のすべて、または一部分をファイルやアプリケーションへエクスポートすることができます。ただし、選択範囲を指定した場合は、選択範囲は連続してはなりません。



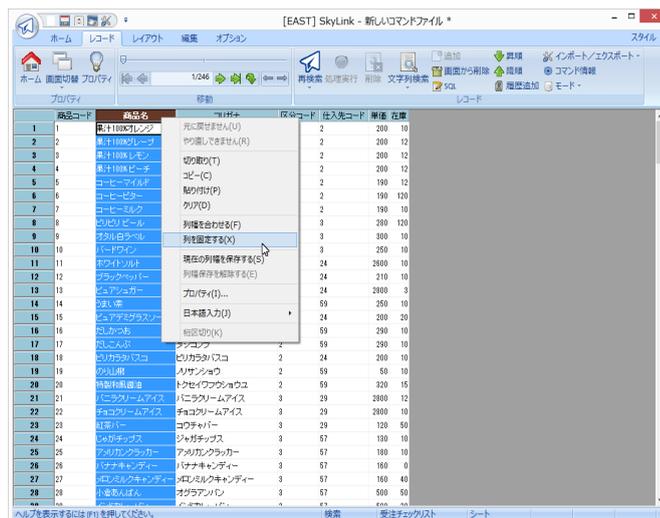
エクスポートしたいレコードを選択後、[レコード (R)] - [エクスポート (S)] - [アプリケーション (A)] を選択します。



[アプリケーションへエクスポート] ダイアログが表示されますので、[出力範囲] を [選択範囲(G)] ラジオボタンにして実行を行います。その他の指定は、「4.1.5 出力先の指定」をご覧ください

4.1.7 列の固定

シート画面で表示されているレコードの列を固定することができます。列名を右クリックして表示されるポップアップメニューから [列を固定する(X)] を選択するとその列から左側の列は横にスクロールしても固定されます。



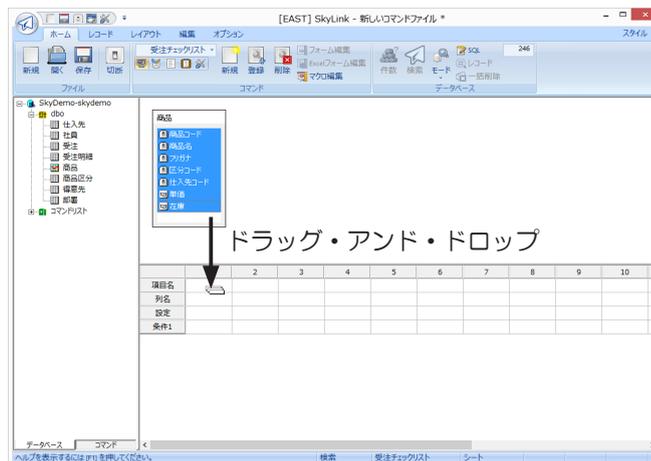
4.2

全データの取得

検索例 1

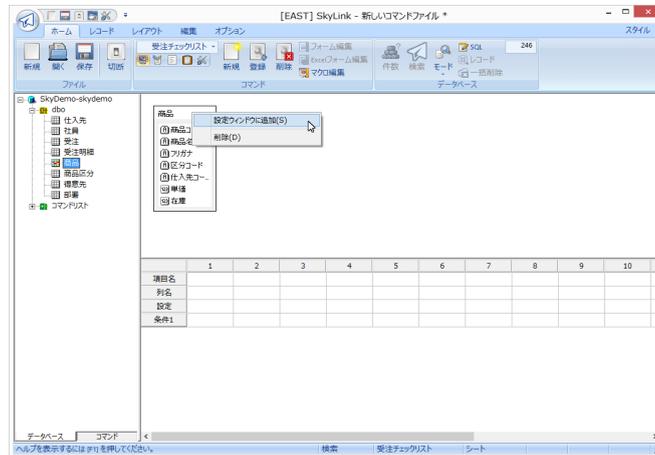
商品テーブルのすべてのデータを検索する

1. 表 [商品] を設定ウィンドウに追加する
表ウィンドウから検索したい表 [商品] の列を全部選択し、ドラッグ・アンド・ドロップで設定ウィンドウにドロップします。

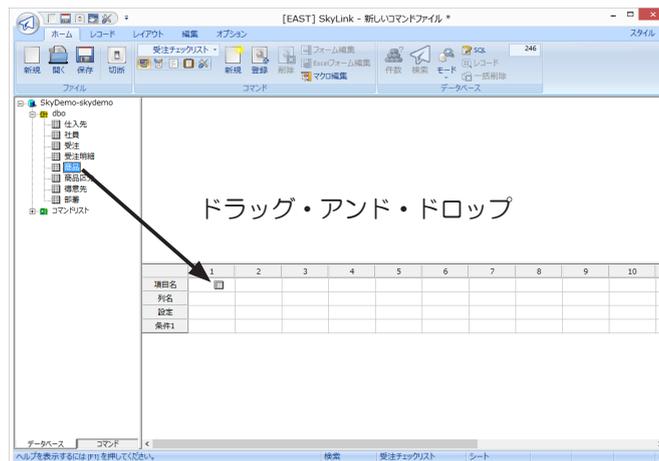


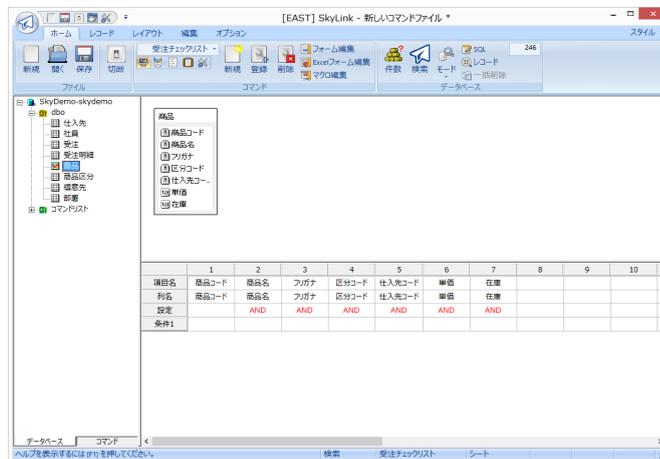
4 データベースを検索する

表名部分を右クリックして表示されるメニューから「設定ウィンドウに追加(S)」でも同様の処理を行うことができます。



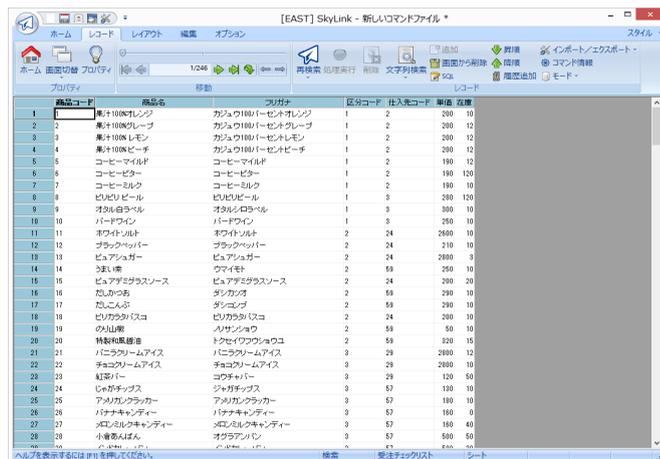
また、左側のデータベースツリーからもドラッグ・アンド・ドロップ、メニューの指定を行うことができます。





表「商品」のすべての列が設定ウィンドウに追加されました

このまま画面に検索結果を出力する場合は、「検索」ボタン  をクリックして検索を実行します。出力先を変更する場合は、「4.1.5 出力先の指定」を参照してください。

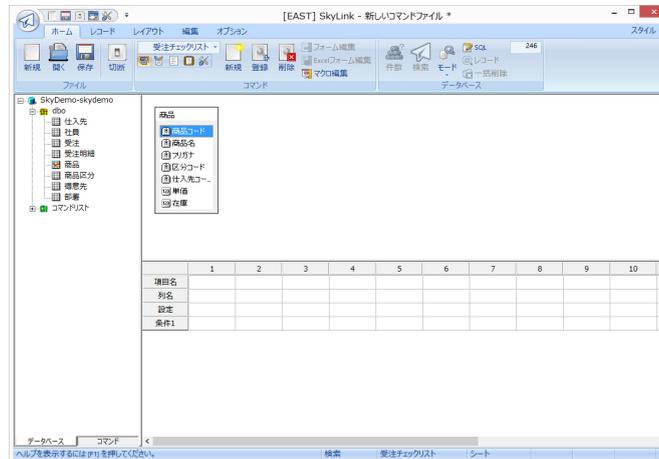


表「商品」の全データが検索されました

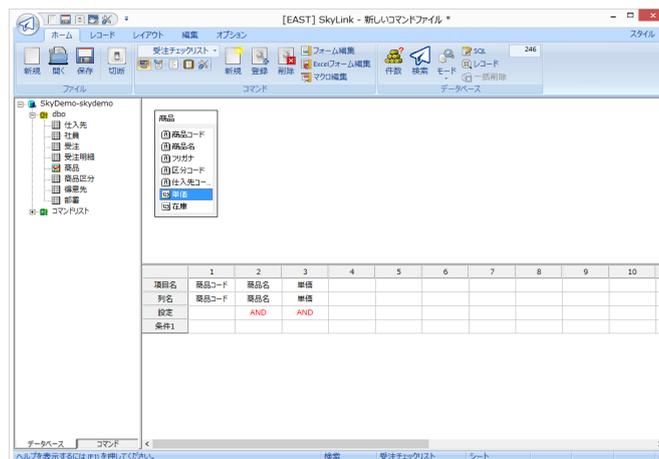
上の例では表「商品」のすべての列を検索しましたが、必要な列のみを出力する場合は次のように操作を行います。

4 データベースを検索する

2. [商品コード]、[商品名]、[単価] のみを出力する場合



表ウインドウ、またはデータベースツリーから [商品コード]、[商品名]、[単価] をそれぞれ順番にダブルクリックします。



[商品コード]、[商品名]、[単価] の各列が設定ウインドウに追加されました。このまま [検索実行] ボタン  をクリックすれば、3つの列の検索結果が出力されます。

その他の操作方法として、[Ctrl] キーを押しながら複数の列を選択してドラッグ・アンド・ドロップを行うか、複数列選択後、マウスの右クリックで表示されるメニューで [設定ウインドウに追加 (S)] を選んでも同様の操作となります。

☺ ヒント：複数の列を選択するには

1つの列を選択後、[Shift] キーを押しながら同じ表の別の列をクリックすると、その間の列すべてが選択されます。

◎ ヒント：シート画面の列幅の調整

検索結果画面の列幅を変更するには、[オプション] タブ [オプション] グループの [オプション] ボタンを押し、[レコード] タブで、[シート画面] の [列幅] を [定義でのデータ長に合わせる (D)] ラジオボタン、[実際のデータ長に合わせる (R)] ラジオボタンで設定します。一部分の列幅の調整を行う場合は、列見出しで列の境界線をドラッグして列幅を変更します。また、ダブルクリックすることにより実際のデータの幅にあわせることもできます。

◎ ヒント：検索を途中で中止する

検索を始めた後、検索が終了する前に検索を中止したい場合には、もう一度ツールバーの [検索] ボタン  をクリックします。

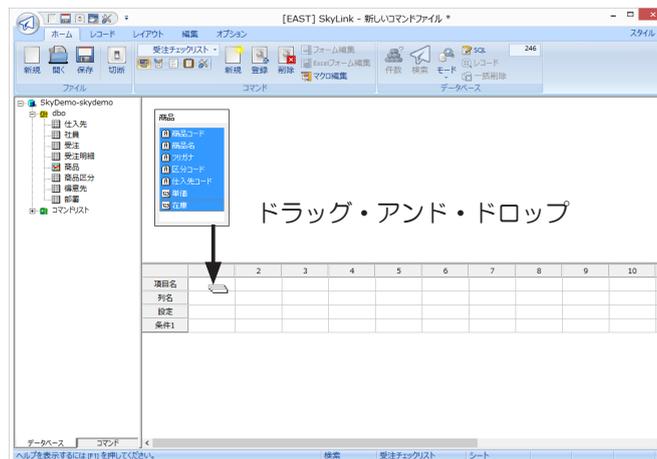
4.3

件数検索

検索例 2

商品テーブルのすべてのレコード件数を検索する

1. 表 [商品] を設定ウィンドウに追加する
表ウィンドウから検索したい表 [商品] の列を全部選択し、ドラッグ・アンド・ドロップで設定ウィンドウにドロップします。



すべてのレコードの件数だけを求める場合は、すべての列ではなく、どれか一つの列だけを追加しても同様の結果となります。

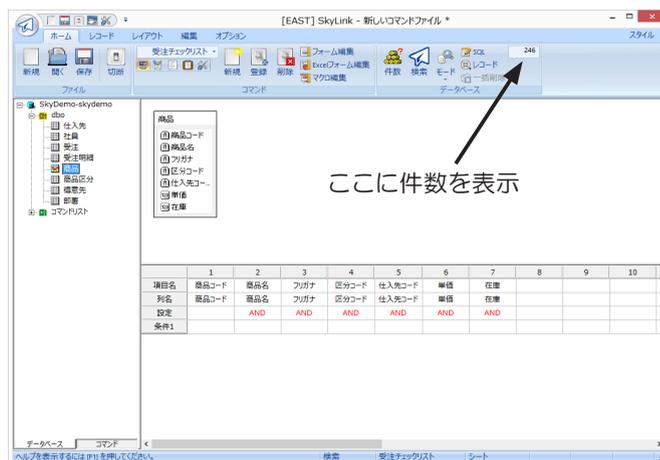
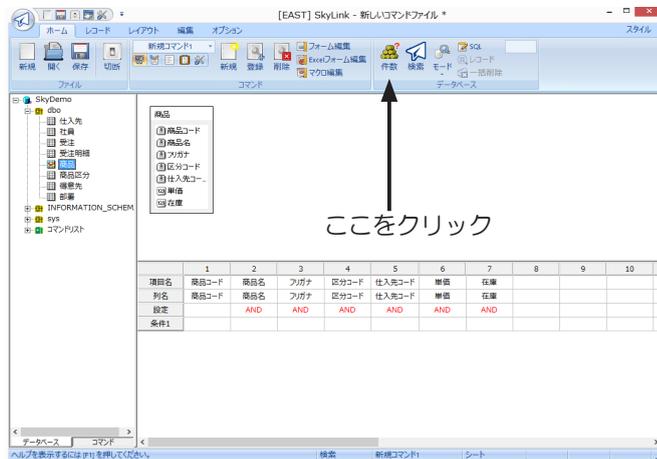
2. [件数] ボタン  をクリックする

表 [商品] のすべてのレコード数が検索されました。

この場合は、商品テーブルすべてのレコード数を検索しましたが、列に条件を付加することによって、該当条件を満たすレコード数を簡単に検索することができます。また、実際にレコードのデータを検索する前に件数を取得することによって、絞り込む検索条件を変更するためにも利用できます。

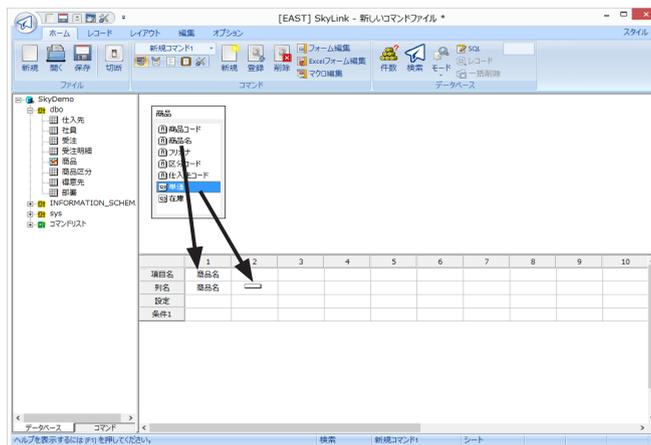
4.4

条件を付けて検索（数値）

検索例 3

単価が「1000 円以下」の商品名を検索する

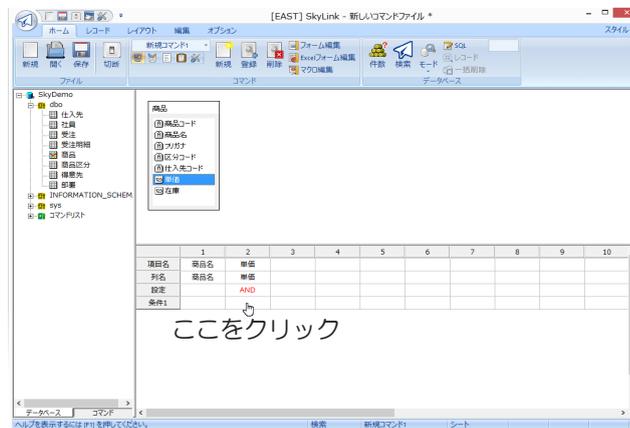
1. 表 [商品] から [商品名] と [単価] を設定ウィンドウに追加する
表ウィンドウから表 [商品] の [商品名] と [単価] を順にドラッグ・アンド・ドロップで設定ウィンドウにドロップします。



2. [単価] の条件を指定する

設定ウィンドウの [単価] 列の「条件1」行をクリックして [条件] ダイアログを表示します。

4.4 条件を付けて検索（数値）



[条件] ダイアログが表示されます。



[演算子] に「<=」を選択し、[条件] 欄に「1000」と入力して [OK] ボタンを押します。

3. [単価] のデータを非表示にする

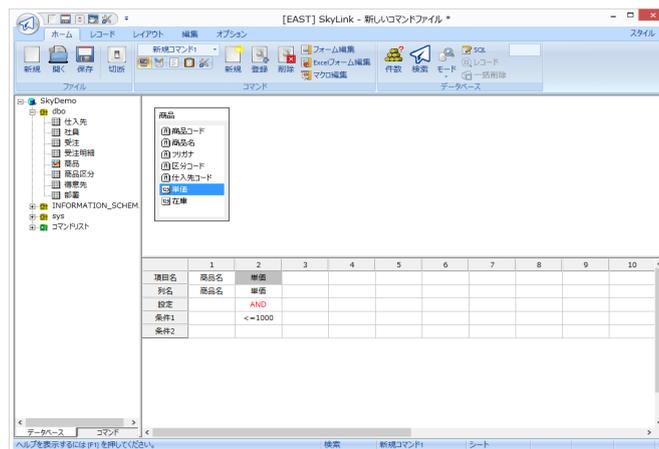
例題では [商品名] を表示するとなっていますので、[単価] のデータを表示しないようにします。

列 [単価] の設定行をクリックして、[設定] ダイアログを表示します。

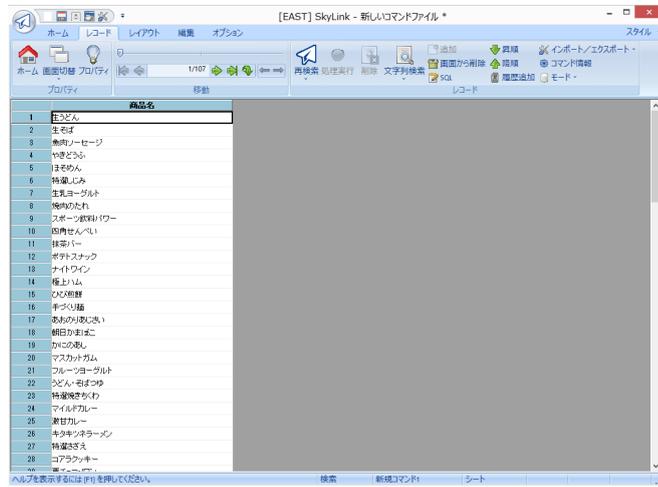
4 データベースを検索する



[データの抽出は行わない(X)] チェックボックスにチェックを付けて [OK] ボタンを押します。

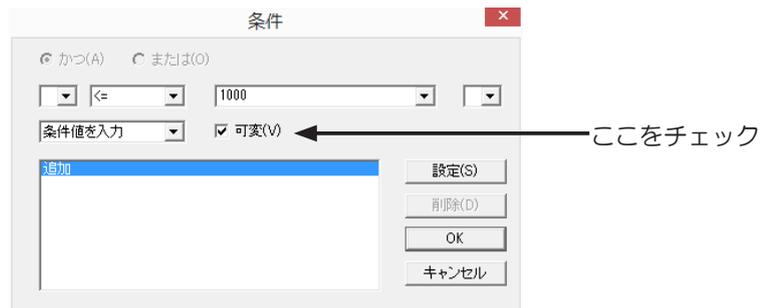


このような画面になります。

4. [検索実行] ボタン  をクリックする

単価が「1000 円以下」の商品名が検索されました。

ここで、[単価] の条件にする値を毎回入力したい場合は、[条件] ダイアログで以下のように指定します。



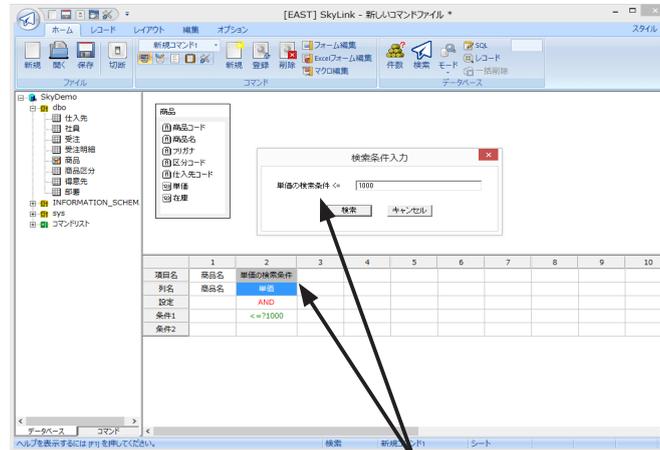
[条件] ダイアログで [可変 (V)] チェックボックスにチェックを付けることで、[検索実行] ボタンを押すたびに条件を入力するダイアログが表示され、そこで異なった条件を指定できるようになります。



これは、デフォルト検索条件フォームですが、フォーム編集でフォームを

4 データベースを検索する

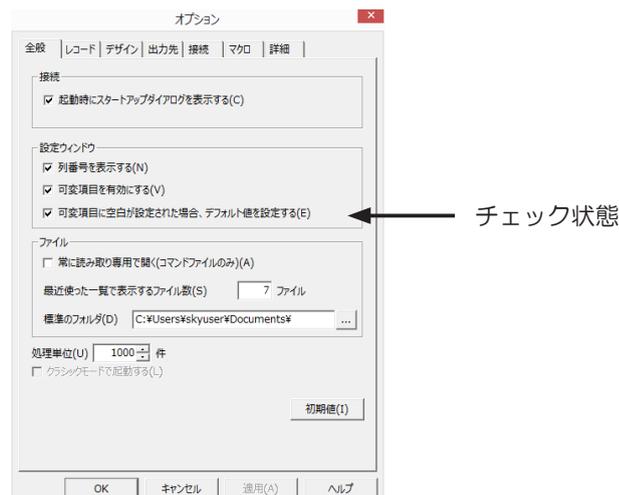
定義することによって、独自の検索条件入力フォームを表示することもできます。また、非表示項目にする前に項目の名前を「単価の検索条件」などに変更することによって、デフォルト検索条件フォームに表示される名前を変更することも可能です。



同じになる

◎ ヒント：可変条件の初期値

[オプション] タブ [オプション] グループの [オプション] ボタンで表示されるダイアログから [全般] タブで、[可変項目に空白が設定された場合、デフォルト値を設定する (E)] チェックボックスにチェックを付けた場合、検索条件に空白が設定されても初期値「1000」を使用して検索処理を行います。逆に、チェックを付せず、検索条件に空白を設定した場合は全件の検索処理を行います。



	デフォルト値あり	デフォルト値なし
チェック状態あり	空白の場合、デフォルト値が使用される	入力された値がそのまま使用される
チェック状態なし	入力された値がそのまま使用される	入力された値がそのまま使用される

◎ ヒント：8 個以上の条件設定方法

SkyLink では1つの列に対して、最大8個までの条件を指定することができます。もし、それ以上の条件を付加したい場合は、該当の列を設定ウィンドウに複数個追加して条件を指定します。

4.5

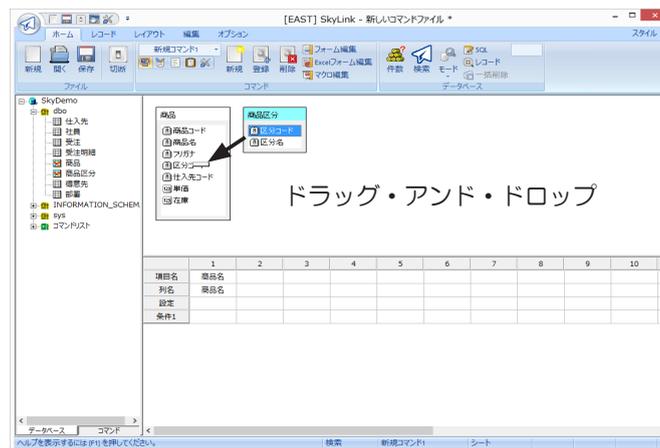
条件を付けて検索（文字）

検索例 4

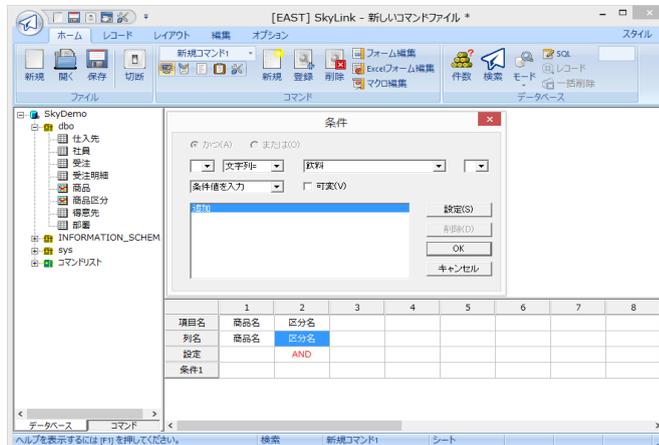
区分名が「飲料」の商品名を検索する

1. 表 [商品] と [商品区分] を表ウィンドウに追加して、列 [区分コード] で表結合する

データベースツリーから [商品] と [商品区分] 表を表ウィンドウに追加し、[商品] 表の列 [区分コード] を [商品区分] 表の [区分コード] 列にドラッグ・アンド・ドロップして表結合を設定します。表結合するためのその他の方法は、「4.1.4 表結合」を参照してください。



2. [商品] 表の [商品名] 列と [商品区分] 表の [区分名] 列を設定ウィンドウに追加して、[区分名] の条件を「飲料」と指定する

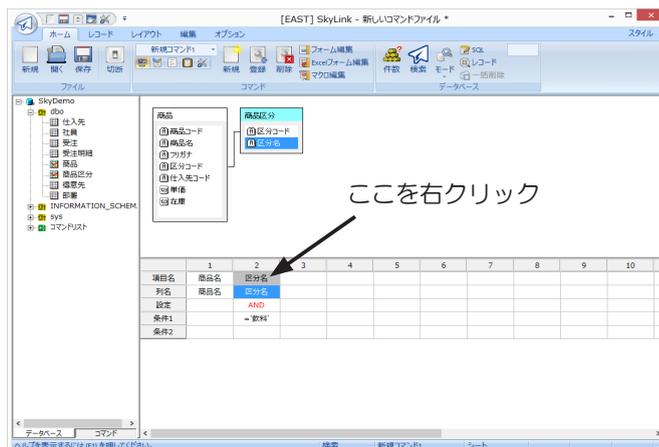


[演算子] に「=」を選択し、[条件] 欄に「飲料」と入力して [OK] ボタンを押します。

3. [区分名] のデータを非表示にする

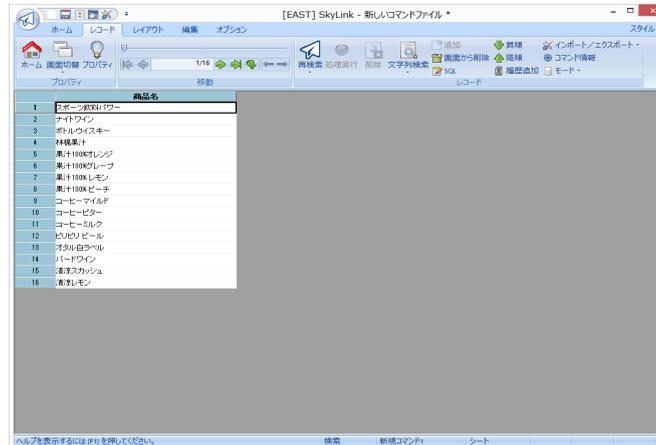
例題では [商品名] を表示するとなっていますので、[区分名] のデータを表示しないようにします。

列 [区分名] の項目名行をマウスで右クリックすると、[設定] ダイアログで [データの抽出は行わない(X)] チェックボックスにチェックした場合と同様の操作となります。



4 データベースを検索する

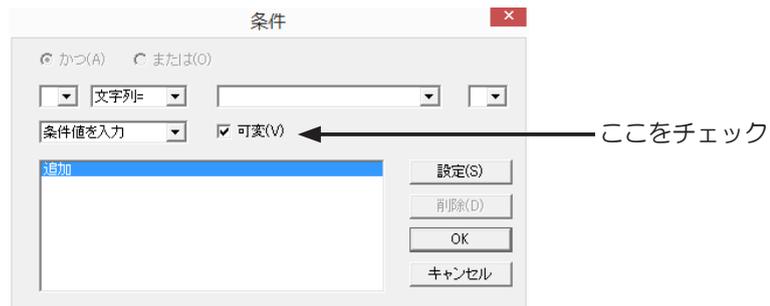
4. [検索実行] ボタン をクリックする



商品区分が「飲料」の商品名が検索されました。

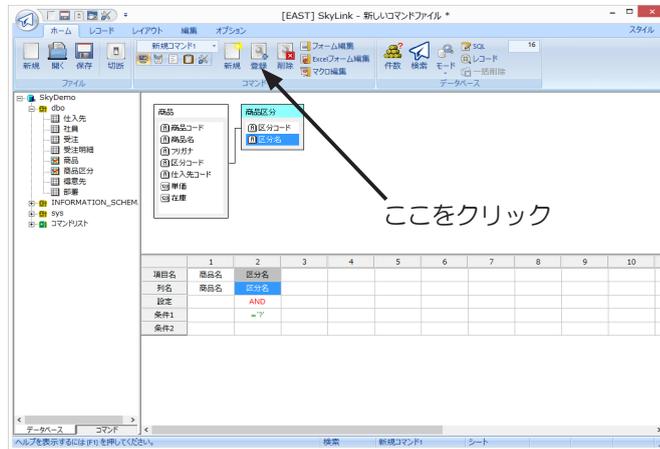
検索条件フォームを使用する

区分名の条件を可変にして、検索するたびに区分名を指定できるようにしてみましょう。

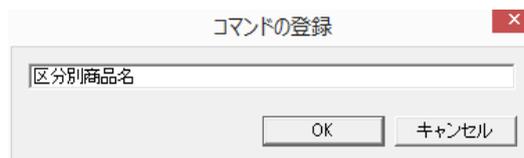


このままでは、毎回区分名を入力しなければなりませんが、検索条件フォームを作成して、リストから選べるようにします。

1. 現在のコマンドを登録する

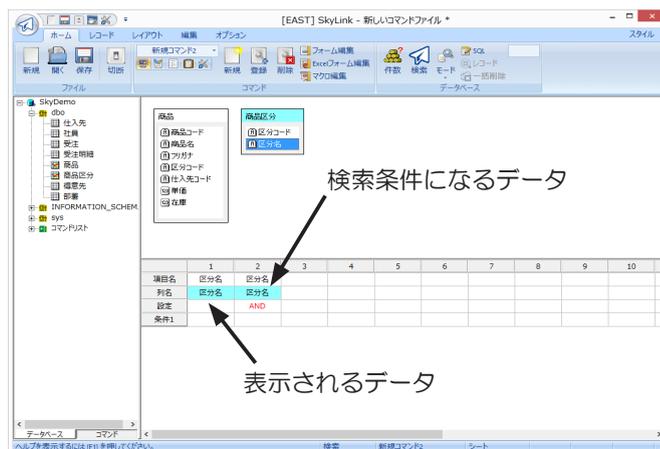


コマンド [登録] ボタンをクリックして、現在のコマンドを登録します。名前には、「区分別商品名」とします。



2. 新しいコマンドを作成する

コマンド [新規] ボタン  をクリックして、新しいコマンドを作成します。[商品区分] 表から [区分名] を2個設定ウィンドウに追加します（通常はこの様な設定は行いませんが、サンプルの便宜上ご了承ください）。

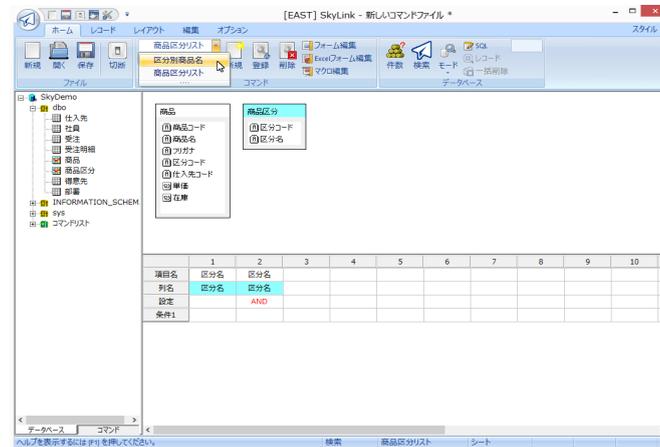


コマンド [登録] ボタン押して、作成したコマンドを登録します。コマンド

4 データベースを検索する

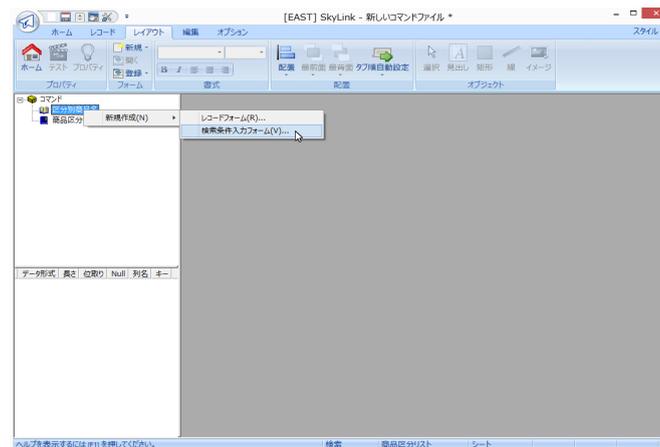
名は「商品区分リスト」とします。

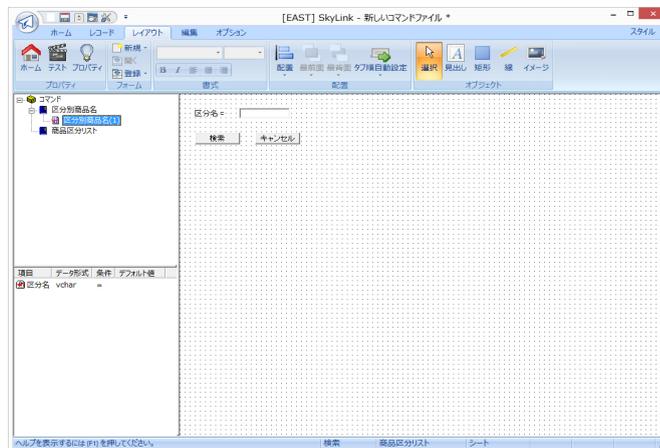
現在のコマンドを、「区分別商品名」に変更します。



3. 検索条件入力フォーム編集を行う

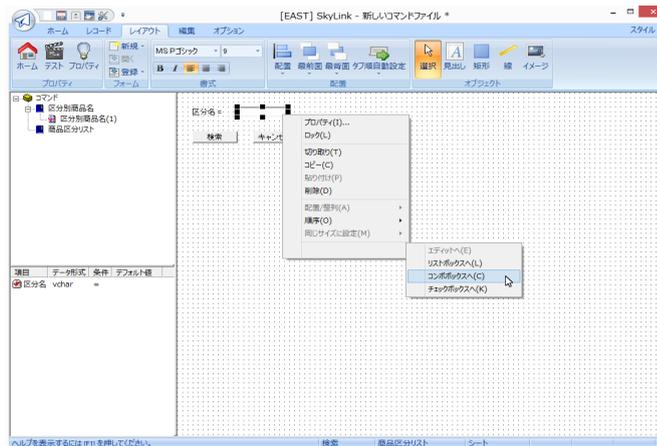
[ホーム]タブ[コマンド]グループの[フォーム編集]ボタンを選んで、フォーム編集画面に遷移します。「区分別商品名」をマウスで右クリックして[新規作成(N)] - [検索条件入力フォーム(V)]を選択します。





4. 区分名のオブジェクトをコンボボックスに変更する

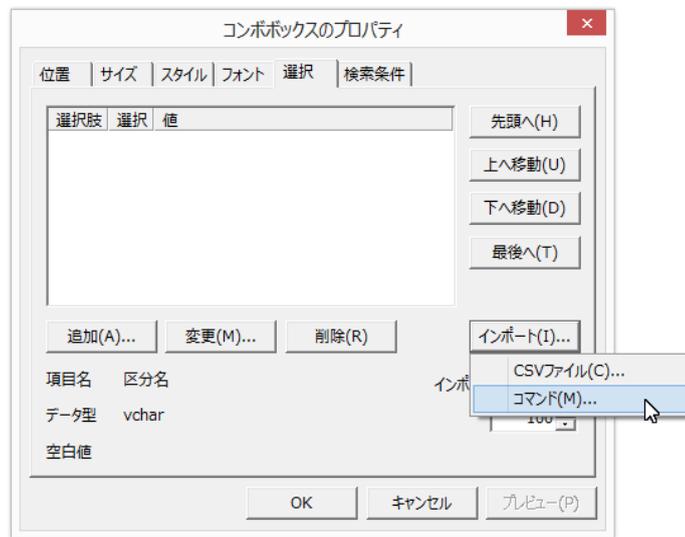
区分名の入力フィールドをマウスで右クリックして表示されるメニューで、[オブジェクト切り替え(X)] - [コンボボックスへ(C)]を選択してコンボボックスへ変更します。



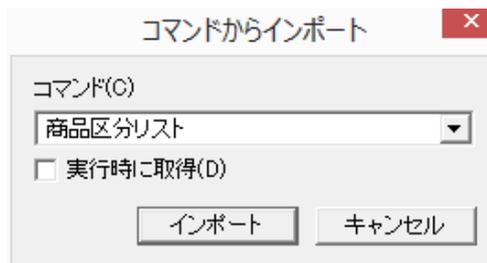
5. コンボボックスに「区分名」の一覧を設定する

コンボボックスをマウスで右クリックしてメニューを開き、[プロパティ(I)]を選んで[コンボボックスのプロパティ]ダイアログを表示します。その後、[選択]タブをクリックして、[インポート(I)]ボタン[コマンド(M)]メニューを選択します。

4 データベースを検索する



[コマンドからインポート]ダイアログが表示されますので、[商品区分リスト]を選択して[インポート]ボタンを押します。

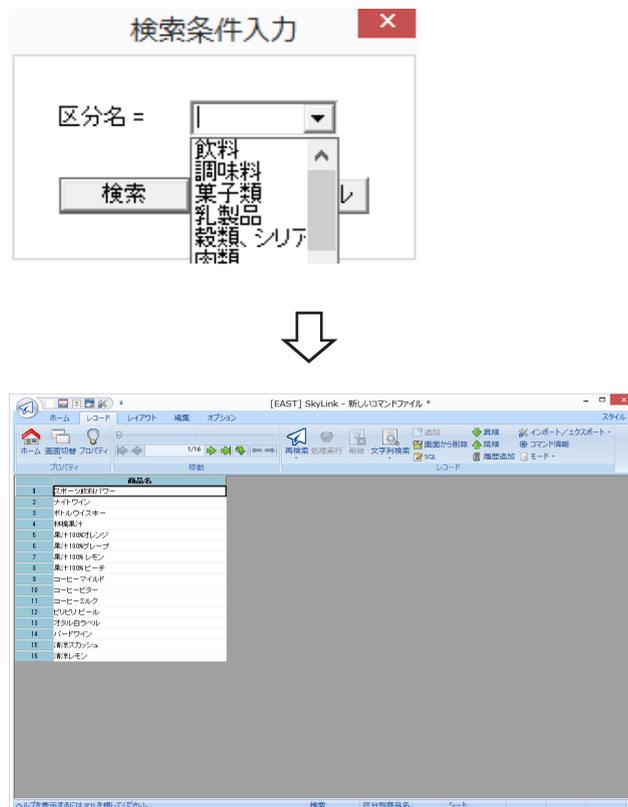


区分名の一覧がインポートされました。[OK]ボタンを押します。

[ホーム] ボタン  を押して、メイン画面に戻ります。その際に、「編集中のフォームを登録しますか？」と聞かれますので、[はい(Y)] を選択してください。

6. [検索] ボタン を押して検索を行う

先ほど作成した検索条件フォームが表示されますので、コンボボックスから区分名を選んで [検索] ボタンで検索を行います。



このように、コンボボックスで区分名を選択することによって、簡単に目的の検索結果を得ることができます。

☺ ヒント：条件フォームのデータを実行時に取得する

[コマンドからインポート] ダイアログの [実行時に取得 (D)] チェックボックスにチェックを付けたら、検索実行時に値を取得（動的ルックアップ）し、選択リストに現在データベースにある最新のデータを表示することができます。

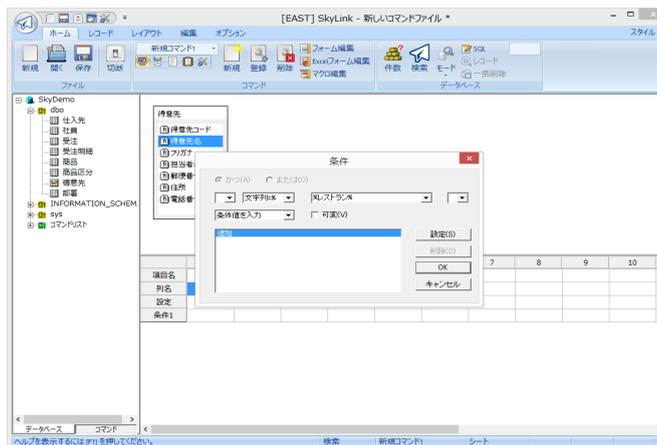
4.6 条件を付けて検索（部分一致）

検索例 5

得意先名に「レストラン」が含まれる得意先名を検索する

1. 表 [得意先] の [得意先名] を設定ウィンドウに追加して、条件を指定する

データベースツリーから [得意先] 表を表ウィンドウに追加し、列 [得意先名] を設定ウィンドウに追加します。「条件1」行をマウスでクリックして、[条件] ダイアログを表示します。



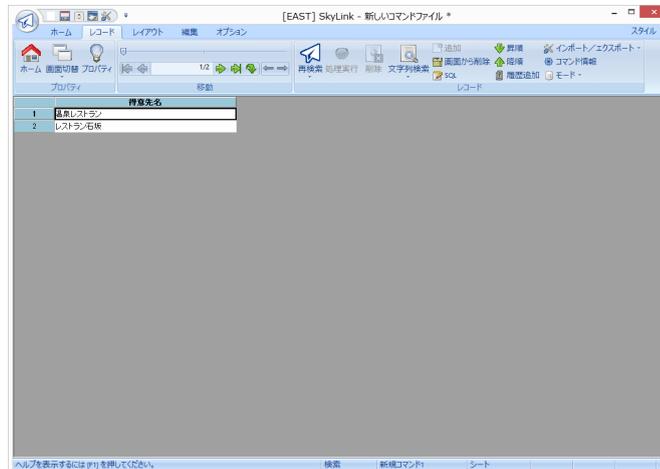
2. 条件を指定する

[演算子]に「文字列=%」を選択し、[条件]欄に「%レストラン%」と入力して[OK]ボタンを押します。

設定画面に以下のように表示されます。

	1	2
項目名	得意先名	
列名	得意先名	
設定		
条件1	=%%レストラン%	
条件2		

3. 検索を実行する



「温泉レストラン」と「レストラン石坂」が検索されました。

ここで、「レストラン石坂」だけを検索したい場合には、前方一致検索を行います。[演算子]は「=%」のまま、[条件]欄に「レストラン%」と入力して検索を行います。後方一致の場合は、「%レストラン」と条件を指定します。このように「%」の位置を変えることによって、前方一致、後方一致などの部分一致検索を行うことができます。

「%」は0文字以上の任意の文字列を対象にしますが、「_」（アンダースコア）は、1文字の任意の文字を対象にします。

◎ ヒント：部分一致検索の指定方法

「レストラン %」	レストランで始まる文字列
「% レストラン %」	レストランを含む文字列
「% レストラン」	レストランで終わる文字列

4.7

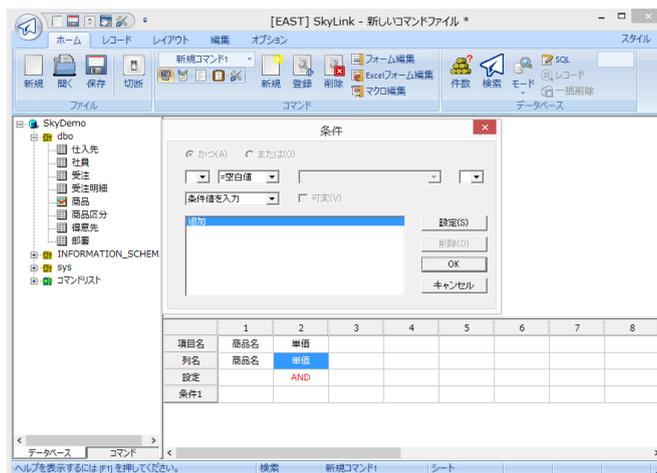
空白値

検索例 6

単価が設定されていない商品を検索する

1. 表 [商品] の [商品名] と [単価] を設定ウィンドウに追加して、条件を指定する

データベースツリーから [商品] 表を表ウィンドウに追加し、列 [商品名] と [単価] を設定ウィンドウに追加します。このとき、列 [単価] の項目名をマウスで右クリックして抽出対象から外します。それから、[単価] の「条件1」行をマウスでクリックして、[条件] ダイアログを表示します。

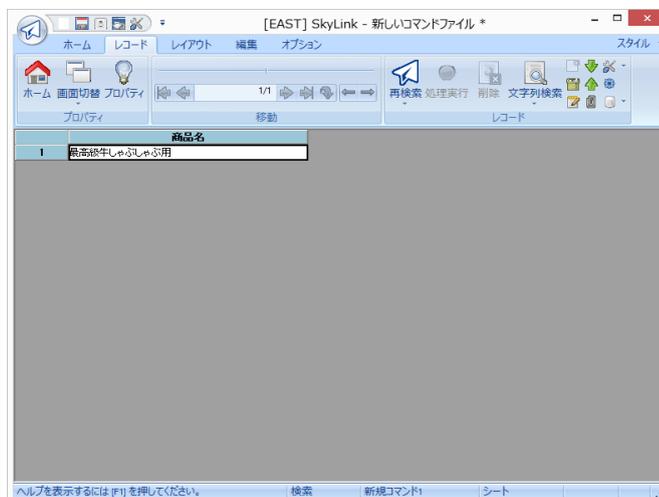


2. 条件を指定する

[演算子] に「= 空白値」を選択して [OK] ボタンを押します。設定画面に以下のように表示されます。

	1	2
項目名	商品名	単価
列名	商品名	単価
設定		AND
条件1		=空白値
条件2		

3. 検索を実行する



「最高級牛しゃぶしゃぶ用」が検索されました。

空白値以外のもの（ここでは、「最高級牛しゃぶしゃぶ用」以外）を検索する場合には、[演算子]に「<> 空白値」を指定します。

☺ ヒント：空白値の検索

空白値データを検索するには、「= 空白値」または「=<> 空白値」しか使用できません。その他の演算子を指定しても、空白値データは無視されます。

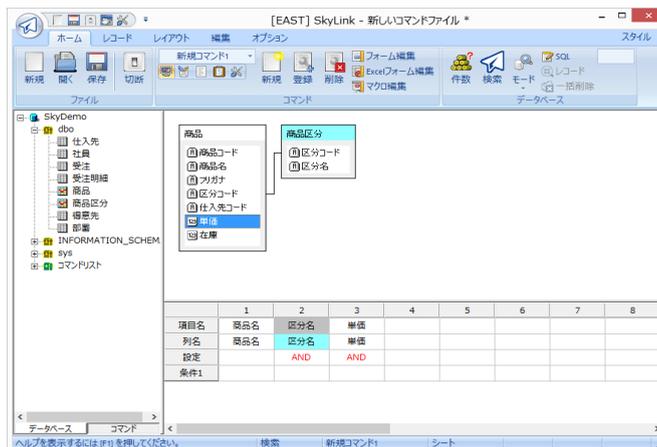
4.8

複数条件の指定

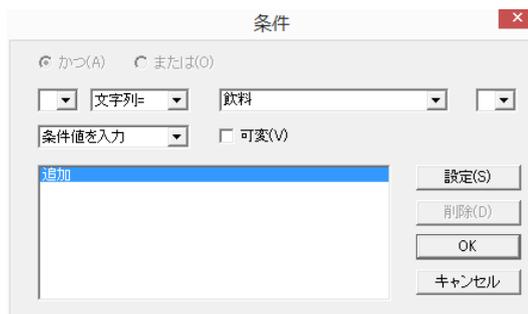
検索例 7

区分名が「飲料」または「肉類」で、単価が「1000円以上」「5000円以下」の商品名と単価を検索する

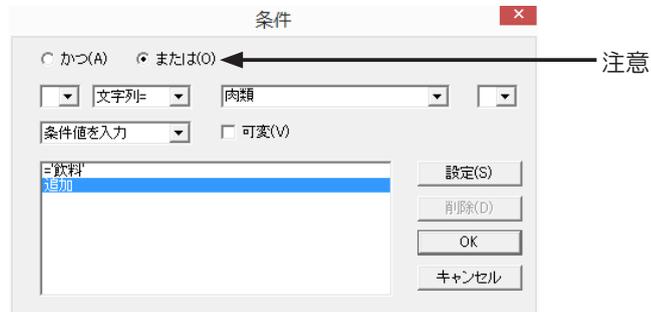
1. 設定ウィンドウに [商品名]、[区分名]、[単価] を設定する
データベースツリーから [商品]、[商品区分] 表を表ウィンドウに追加し、列 [区分コード] で表結合をする。設定ウィンドウに、[商品名] と [区分名]、[単価] を追加し、[区分名] を抽出対象から外します。



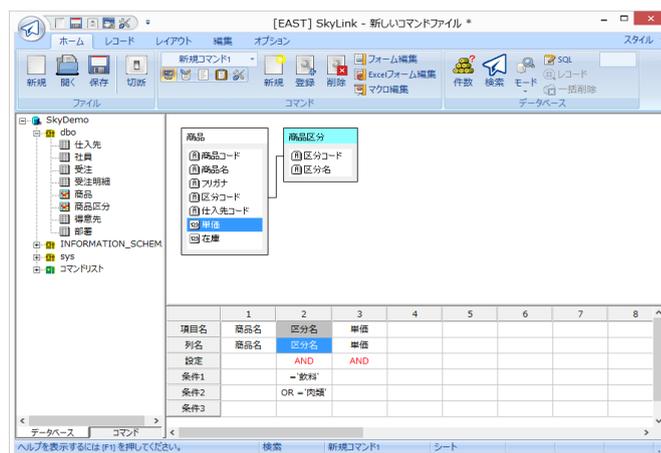
2. [区分名] の条件を指定する
列 [区分名] の [条件] ダイアログを表示して、「飲料」または「肉類」を指定します。



「飲料」を指定して[設定]ボタンを押します。



次に[または(O)]ラジオボタンを選択後、条件に「肉類」を指定して[OK]ボタンを押します。



このように、条件が設定されます。

3. [単価]の条件を指定する

列[単価]の[条件]ダイアログを表示して、「1000円以上」かつ「5000円」以下を指定します。

4 データベースを検索する

条件

かつ(A) または(O)

>= 1000

条件値を入力 可変(V)

追加

設定(S)

削除(D)

OK

キャンセル

[演算子]に「>=」を、条件に「1000」を指定して[設定(S)]ボタンを押します。



条件

かつ(A) または(O)

<= 5000

条件値を入力 可変(V)

>=1000

追加

設定(S)

削除(D)

OK

キャンセル

次に[演算子]を「<=」、条件に「5000」を指定して[OK]ボタンを押します。ここでは[かつ(A)]ラジオボタンのままで結構です。



[EAST] SkyLink - 新しいコマンドファイル *

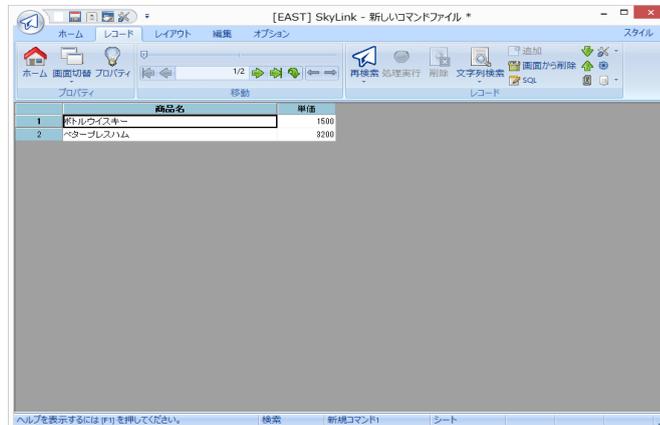
商品

項目名	1	2	3	4	5	6	7	8
商品名	商品名	区分名	単価					
列名	商品名	区分名	単価					
設定		AND	AND					
条件1	= 飲料		>=1000					
条件2	OR = 肉類		AND <=5000					
条件3								

データベース

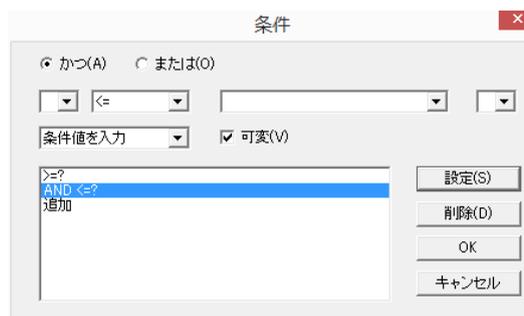
このように、条件が設定されます。

4. 検索を実行する



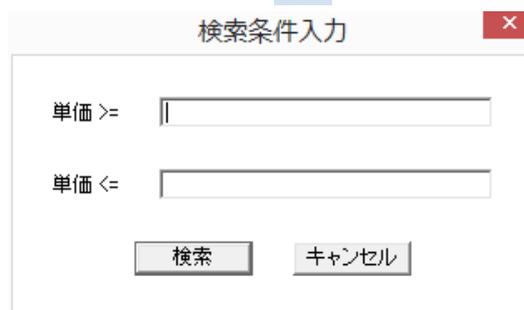
2レコードが検索されました。

[ホーム]ボタンで前の画面に戻り、単価の条件を両方も[可変(V)]チェックボックスに設定します。その際に、「1000」と「5000」は[条件]欄を空白にします。



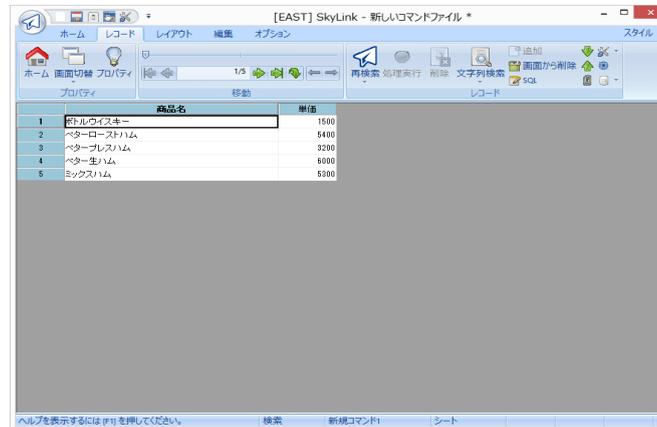
[設定(S)]ボタンを押してから、リストボックスの[AND <=5000]を選択して、条件の「5000」を消してから[可変(V)]チェックボックスにチェックを付けて[OK]ボタンを押します。

その後、[検索]ボタンを押して検索を実行すると、



4 データベースを検索する

検索条件入力フォームが表示されますので、条件を入力して[検索]ボタンを押します。

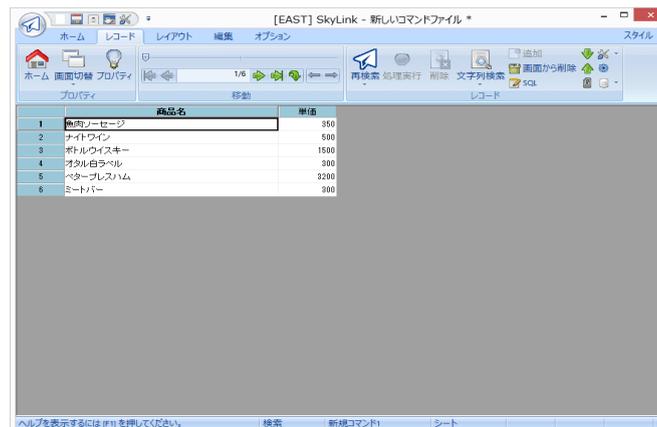


指定された条件のレコードが検索されました。

ここで、もう一度 [検索] ボタン  を押して検索を実行すると、再度検索

を行うことができますが、[Alt] キーを押しながら [検索] ボタン  を押して検索を実行すると、絞り込み検索となり、現在指定された条件+新しい検索条件で検索を行います。

この前の例では、「1000 円以上 5000 円以下」を指定しましたので、ここで [Alt] キーを押しながら [検索] ボタン  を押して条件に「300 円以上」を指定して検索を実行すると、



このように、「300 円以上 5000 円以下」のものが検索されます。

◎ ヒント：再検索と絞り込み検索

レコード画面を表示中に、再度 [検索] ボタンを押すと「再検索」となりますが、[Alt] キーを押しながら [検索] ボタンを押すことによって、絞り込み検索が行われます。絞り込み検索とは、現在表示されているレコードの検索条件と新たに設定する検索条件を合わせた検索を行います。

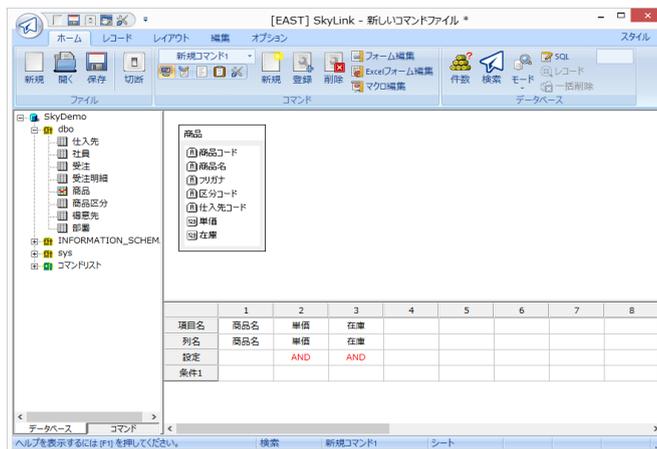
4.9

項目間の条件の指定

検索例 8

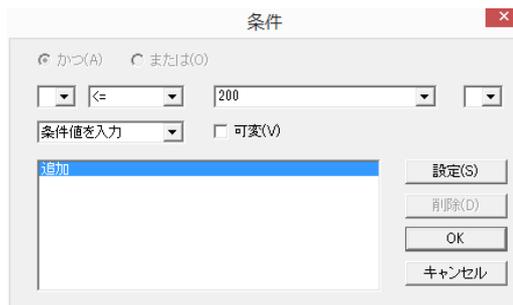
単価が「200 円以下」または在庫が「10 個以上」の [商品名]、
[単価]、[在庫] を検索する

1. 設定ウィンドウに [商品名]、[単価]、[在庫] を設定する
データベースツリーから [商品] 表を表ウィンドウに追加し、設定ウィンドウに、[商品名] と [単価]、[在庫] を追加します。



2. [単価] の条件を指定する

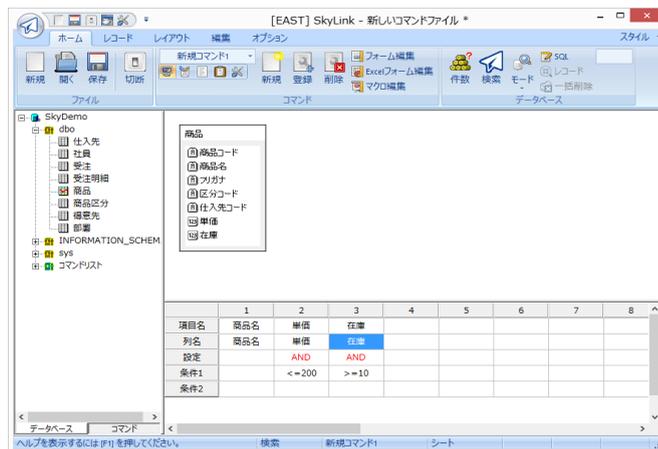
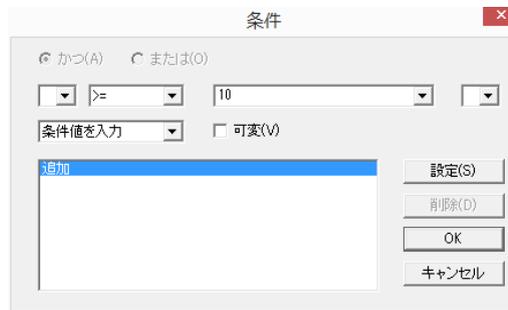
列 [単価] の [条件] ダイアログを表示して、「200 円以下」を指定します。



[演算子] に「<=」、条件値に「200」を指定して [OK] ボタンを押します。

3. [在庫] の条件を指定する

列 [在庫] の [条件] ダイアログを表示して、[演算子] に「>=」、[条件値] に「10」を指定して、[OK] ボタンを押します。



このように、条件が設定されます。

4. [在庫] の条件を「OR」にする

[在庫] 列の設定行をマウスでクリックして、[設定] ダイアログを表示します。

4 データベースを検索する

設定

全体 | グループ |

他の項目の条件に対して

かつ(A) または(O) ← [または (O)] を選択

ソート

なし(N) 昇順(S) 降順(D)

条件全体のカッコ

左(L) 右(R)

演算(P)

集計(F) 列参照として扱う(E)

重複なし(I)

データの抽出は行わない(X)

OK キャンセル

他の項目の条件に対してで、[または (O)] ラジオボタンを選択して [OK] ボタンを押します。

	1	2	3
項目名	商品名	単価	在庫
列名	商品名	単価	在庫
設定		AND	OR ← OR となる
条件1		<= 200	>= 10
条件2			

設定ウィンドウには上記のように表示されます。

5. 検索を実行する

[検索] ボタン  を押して、検索を行います。

商品名	単価	在庫
1 生うどん	120	50
2 生そば	120	50
3 焼肉ソーセージ	350	100
4 やきどら	120	100
5 はちみつ	390	100
6 特選しじみ	420	10
7 生乳ヨーグルト	280	10
8 焼酎のたれ	280	100
9 スポーツ飲料パウダー	180	50
10 田舎せんべい	180	100
11 抹茶バー	220	100
12 ポテトスタック	140	100
13 ナイトワイン	500	200
14 福上りム	250	50
15 ポトルويسキー	1500	30
16 びん酒類	250	100
17 手づくり麺	280	100
18 あまのりあじしい	280	100
19 朝日かまぼこ	180	200
20 かこひめ	230	100
21 マスカットがム	100	50
22 フルーツヨーグルト	210	30
23 スムージー	300	100

指定された条件のレコードが検索されました。

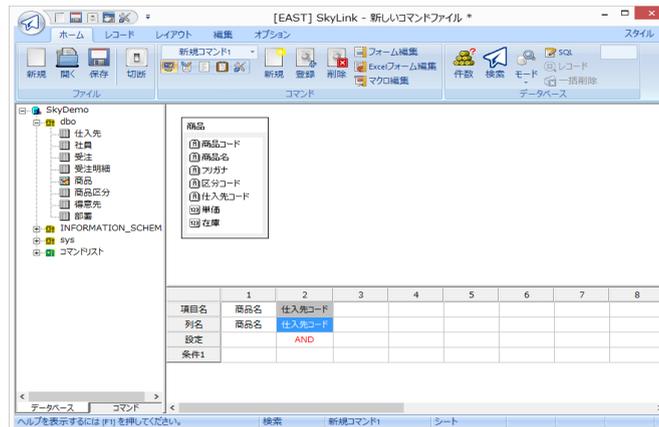
単価が「200 円以上」でも、在庫が「10 個以上」のものは検索されています。

4.10 IN を使った検索

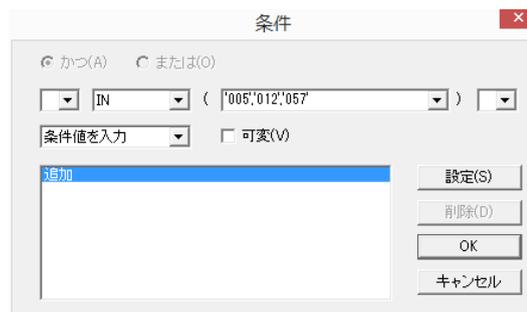
検索例 9

仕入先コードが「005、012、057」の商品名を検索する

1. 設定ウィンドウに [商品名]、[仕入先コード] を設定する
データベースツリーから [商品] 表を表ウィンドウに追加し、設定ウィンドウに、[商品名]と[仕入先コード]を追加します。[仕入先コード]は、[データの抽出は行わない]設定にしておきます。



2. [仕入先コード] の条件を指定する
列 [仕入先コード] の [条件] ダイアログを表示して、「'005','012','057'」を指定します。

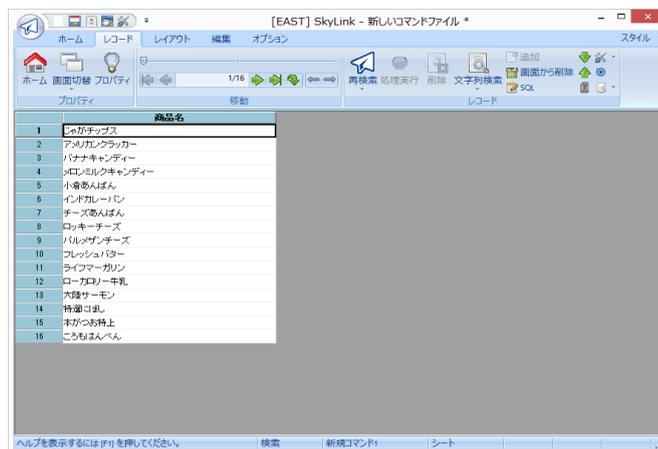


[演算子]に「IN」、条件値に「'005','012','057'」を指定して[OK]ボタ

ンを押します。この時、それぞれの数値はシングルクォート「'」で囲みます。これは対象となる[仕入先コード]は文字列で登録されているためです。設定ウィンドウは、以下のように表示されます。

	1	2
項目名	商品名	仕入先コード
列名	商品名	仕入先コード
設定		AND
条件1		IN('005','012','057')
条件2		

3. 検索を実行する



列[仕入先コード]が「005,012,057」のレコードが検索されました。

この場合のINは、[仕入先コード]に3つの条件を指定した場合と同じこととなります。すなわち、

仕入先コード='005'
OR 仕入先コード='012'
OR 仕入先コード='057'

と同意です。

NOT IN

2の検索条件で[演算子]を「<>IN」に指定すると、上記以外のレコードが抽出されます。すなわち、

仕入先コード<>'005'
AND 仕入先コード<>'012'
AND 仕入先コード<>'057'

と同意です。

◎ ヒント：IN と副問合せ

このような使い方以外にも、IN には副問合せを行う場合に、重要な役割を持ちます。

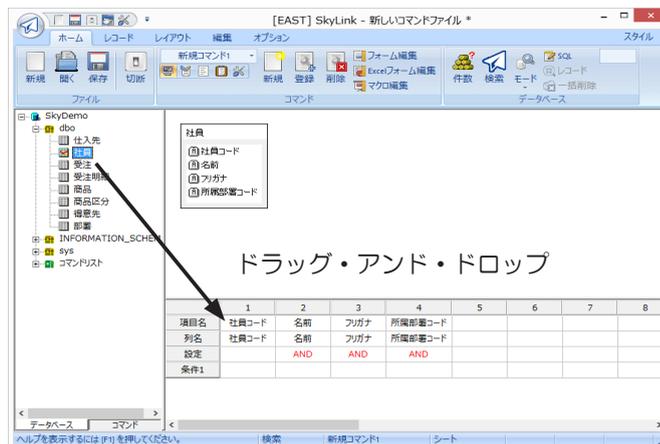
副問合せとは、別のコマンドで検索された結果を用いる方法です。

4.11 出力結果のソート

検索例 10

表 [社員] の全一覧をフリガナ順で検索する

1. 設定ウィンドウに [社員] 表のすべての列を設定する
データベースツリーから [社員] 表を設定ウィンドウに追加します。



2. [フリガナ] のソートを [昇順] に指定する
列 [フリガナ] の [設定] ダイアログを表示して、ソートを [昇順 (S)] ラジオボタンを指定します。

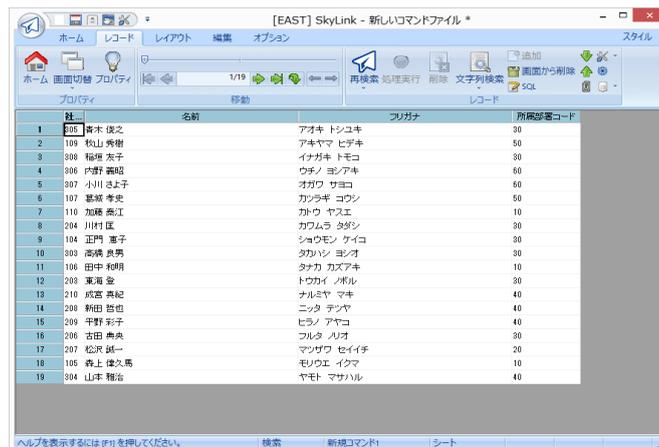
4 データベースを検索する



設定ウィンドウには下のように「昇」の文字が表示されます。

	1	2	3	4
項目名	社員コード	名前	フリガナ	所属部署コード
列名	社員コード	名前	フリガナ	所属部署コード
設定		AND	昇	AND
条件1				

3. 検索を実行する



フリガナのデータが昇順に検索されました。

昇順、降順は複数指定可能です。ただし SkyLink では、設定ウィンドウの左側からの順番でソート順が指定されます（左側が優先順位が高い）。

4.12 演算

検索例 11

受注した商品の売上を計算する

1. 設定ウィンドウに [受注コード]、[商品名]、[単価]、[数量] の列を設定する

データベースツリーから [受注]、[受注明細]、[商品] の各表を表ウィンドウに設定し、それぞれ [受注コード]、[商品コード] で結合します。その後、設定ウィンドウに、列 [受注コード]、[商品名]、[単価]、[数量]、[数量] を追加します。

	1	2	3	4	5	6	7	8
項目名	受注コード	商品名	単価	数量	数量			
列名	受注コード	商品名	単価	数量	数量			
設定		AND	AND	AND	AND			
条件1								

2. [数量] に演算を指定する

列 [数量] の [設定] ダイアログを表示して、「売上」を求めするため [単価] を掛け算します。

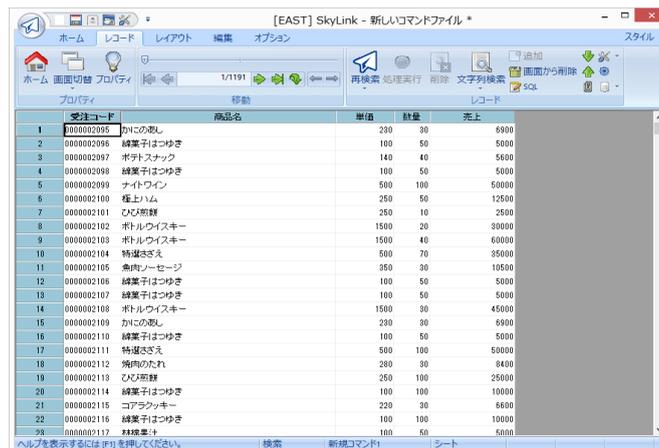
4 データベースを検索する



ここで [OK] ボタンを押しますと、設定ウィンドウに演算が設定されます。
[数量] の項目名をマウスで左クリックして、「数量」を「売上」に変更します。

項目名	1	2	3	4	5
列名	受注コード	商品名	単価	数量	売上
設定		AND	AND	AND	*dbo.商品.単価
条件1					

3. 検索を実行する



受注商品の売上の一覧が検索されます。

☺ 数値項目の桁区切りについて

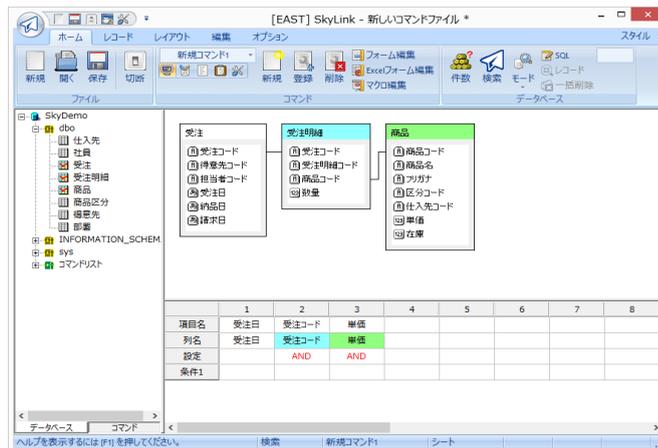
売上項目のような数値項目の場合、表示された結果リストの項目名を選択して右クリックして表示されるメニューから「桁区切り (K)」を選択することで、3桁区切りとして表示することができます。

4.13 演算と集計（グループ化）

検索例 12

受注毎の売上を計算する

1. 設定ウィンドウに [受注日]、[受注コード]、[単価] の列を設定する
データベースツリーから [受注]、[受注明細]、[商品] の各表を表ウィンドウに設定し、それぞれ [受注コード]、[商品コード] で結合します。その後、設定ウィンドウに、列 [受注日]、[受注コード]、[単価] を追加します。



2. [単価] に演算を指定する
列 [単価] の [設定] ダイアログを表示して、「売上」を求めするため [数量] を掛け算します。

4 データベースを検索する



3. [単価] に集計を指定する
「集計(F)」を「合計」に指定します。



ここで [OK] ボタンを押しますと、設定ウィンドウに演算と集計が設定されます。

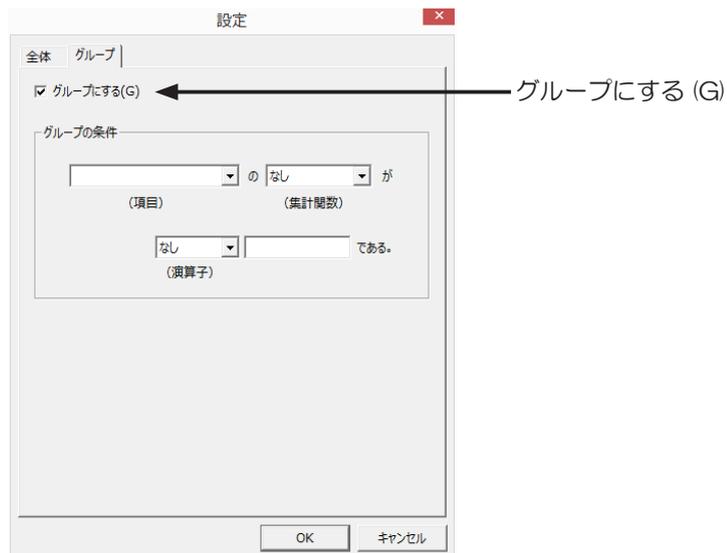
[単価] の項目名をマウスで左クリックして、「単価」を「売上」に変更します。

	1	2	3
項目名	受注日	受注コード	単価
列名	受注日	受注コード	単価
設定		AND	合計(*dbo.受注明細.数量)
条件1			

4. 列 [受注日] に「グループ化」と「ソート」の指定を行う
 [受注日] の設定ダイアログを表示して、以下の設定を行います。
 まず [全体] タブで [昇順 (S)] ラジオボタンを選択し、



次に [グループ] タブで [グループにする (G)] チェックボックスを指定します。



[OK] ボタンを選択しますと、「集計指定されていない他の項目に、グループ指定を行いますか？」のメッセージが表示されますので、「はい (Y)」を選択してください。

4 データベースを検索する

設定ウィンドウには下ののように「グ昇」の文字が表示されます。

	1	2	3
項目名	受注日	受注コード	単価
列名	受注日	受注コード	単価
設定	グ昇	グ	合計(*dbo.受注明細.数量)
条件1			

5. 検索を実行する

	受注日	受注コード	単価
1	2013-01-09	000002001	36000
2	2013-01-11	000002002	35000
3	2013-01-15	000002003	19500
4	2013-01-19	000002004	181200
5	2013-01-21	000002005	46200
6	2013-01-24	000002006	39500
7	2013-01-24	000002009	47000
8	2013-01-25	000002007	390000
9	2013-01-27	000002008	47000
10	2013-01-29	000002010	184000
11	2013-01-31	000002011	20100
12	2013-01-31	000002012	143500
13	2013-02-04	000002013	253000
14	2013-02-05	000002014	85000
15	2013-02-15	000002015	36000
16	2013-02-16	000002016	34400
17	2013-02-19	000002017	25900
18	2013-02-20	000002018	76000
19	2013-02-24	000002019	44400
20	2013-02-26	000002020	84200
21	2013-02-28	000002021	30000
22	2013-03-01	000002022	51600
23	2013-03-04	000002023	47000

受注コード毎の売上の一覧が検索されます。

集計の種類には、列のデータ型が文字の場合、「件数(*)」、「件数(D)」、「最大」及び、「最小」の4種類、数値型の場合には、それに加えて「平均」、「合計」があります。

検索例 13 前月分の受注毎の売上を計算する

検索例 12 の 4 まで同じ設定を行います。

1. [受注日]に条件を指定する

[受注日]の[条件]ダイアログを表示して、[演算子]に「文字列 >=」を選択し、[条件]欄のリストから「YYYY/MM/DD」を選択します。
(データベースに設定されている日付書式によって異なります。)

[条件] 欄に設定された値を「[!%Y/%-1m/01]」と変更し、[設定(S)] ボタンをクリックします。

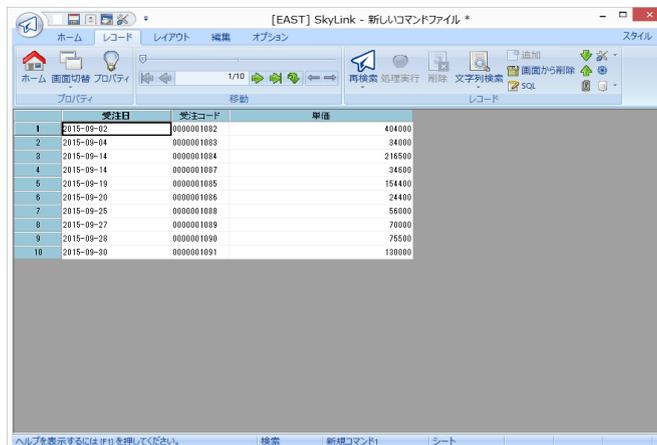
続いて、[演算子] に「文字列<」を選択し、[条件] 欄のリストから「YYYY/MM/DD」を選択し、[条件] 欄に設定された値を「[!%Y/%m/01]」と変更します。

ここで [OK] ボタンを押しますと、設定ウィンドウに条件が設定されます。

	1	2	3
項目名	受注日	受注コード	単価
列名	受注日	受注コード	単価
設定	ク算	ク	合計(*dbo.受注明細.数量)
条件1	>=[!%Y/%-1m/01]		
条件2	AND <[!%Y/%m/01]		
条件3			

4 データベースを検索する

2. 検索を実行する



The screenshot shows the EAST SkyLink software interface. The main window displays a table with search results. The table has four columns: '受注日' (Order Date), '受注コード' (Order Code), '単価' (Unit Price), and '売上' (Sales). The data is as follows:

	受注日	受注コード	単価	売上
1	2015-09-02	0000001082		404000
2	2015-09-04	0000001083		34000
3	2015-09-14	0000001084		218500
4	2015-09-14	0000001087		24500
5	2015-09-19	0000001085		154400
6	2015-09-20	0000001086		24400
7	2015-09-25	0000001088		56000
8	2015-09-27	0000001089		70000
9	2015-09-28	0000001090		75500
10	2015-09-30	0000001091		108000

前月分の受注コード毎の売上の一覧が検索されます。

☺ ヒント：システム日付について

[YYYY/MM/DD] の日付は、検索実行するクライアント・コンピュータの日付を元にします。

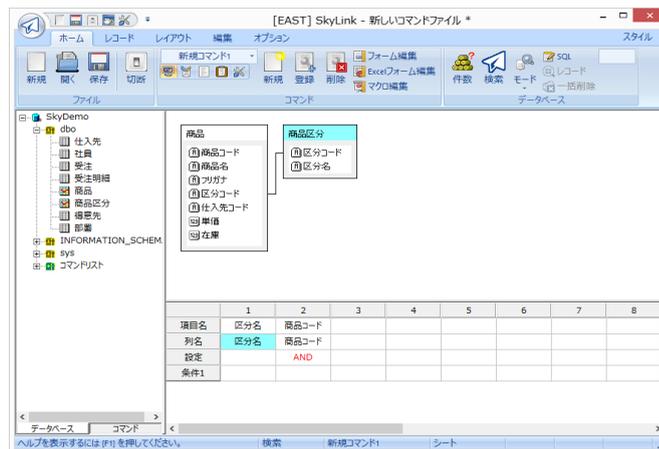
検索実行するクライアント・コンピュータの日付が正しくない場合は、正確な検索結果が出ない場合もありますのでご注意ください。

4.14 件数（グループ化）

検索例 14

商品の区分名毎の商品の個数を区分名順にソートして検索する

1. 設定ウィンドウに [区分名] と [商品コード] の列を設定する
データベースツリーから [商品] と [商品区分] 表を表ウィンドウに設定し、[区分コード] で結合します。その後、設定ウィンドウに、列 [区分名] と [商品コード] を追加します。



2. [商品コード] に集計を指定する
列 [商品コード] の [設定] ダイアログを表示して、[集計 (F)] を「件数 (*)」に指定します。

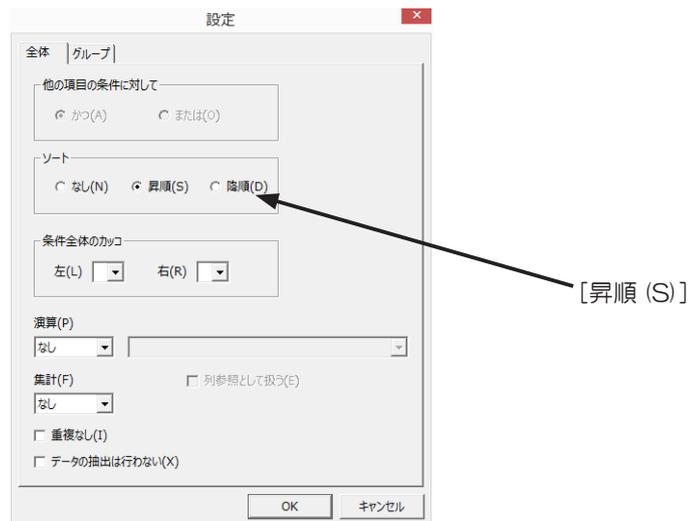
4 データベースを検索する



ここで [OK] ボタンを押しますと、設定ウィンドウに「件数(*)」と表示されます。

	1	2
項目名	区分名	商品コード
列名	区分名	商品コード
設定		件数(*)
条件1		

- 列 [区分名] に「グループ化」と「ソート」の指定を行う
[区分名] の設定ダイアログを表示して、以下の設定を行います。
まず [全体] タブで [昇順 (S)] ラジオボタンを選択し、



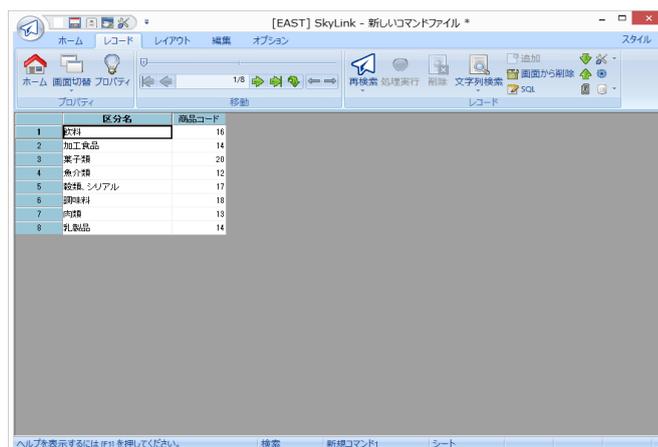
次に[グループ]タブで[グループにする(G)]チェックボックスにチェックを付けます。



[OK] ボタンを選択しますと、「集計指定されていない他の項目に、グループ指定を行いますか？」のメッセージが表示されますので、「はい(Y)」を選択してください（この場合はどちらを選択しても検索結果は同じです）。設定ウィンドウには下のように「グ昇」の文字が表示されます。

	1	2
項目名	区分名	商品コード
列名	区分名	商品コード
設定	グ昇	件数(*)
条件1		

4. 検索を実行する



区分名毎の商品の個数が、区分名を昇順にソートして検索されました。

◎ ヒント：集計関数の「件数(*)」「件数(D)」の違いについて

「件数(*)」は、項目または式の値に関係なく、各グループのレコード件数を求める集計関数です。

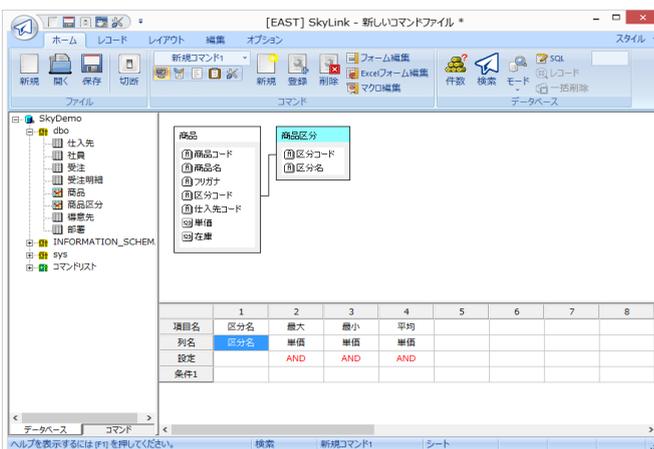
「件数(D)」は、項目または式の値が重複する(同じ)複数のレコードがある場合は1件と数え、各グループのレコード件数を求める集計関数です。

4.15 最大・最小・平均（グループ化）

検索例 15

商品の区分名毎の単価の最大・最小・平均を検索する

1. 設定ウィンドウに [区分名] と [単価] の列を設定する
データベースツリーから [商品] と [商品区分] 表を表ウィンドウに設定し、[区分コード] で結合します。その後、設定ウィンドウに、列 [区分名] 1個と [単価] を 3 個追加します。項目名を編集して、それぞれ「最大」「最小」「平均」とします。



2. [単価] に集計を指定する
列 [単価] の [設定] ダイアログを表示して、[集計 (F)] コンボボックスを「最大」に指定します。

4 データベースを検索する



その他2つの [単価] にも、[最小]、[平均] を指定します。

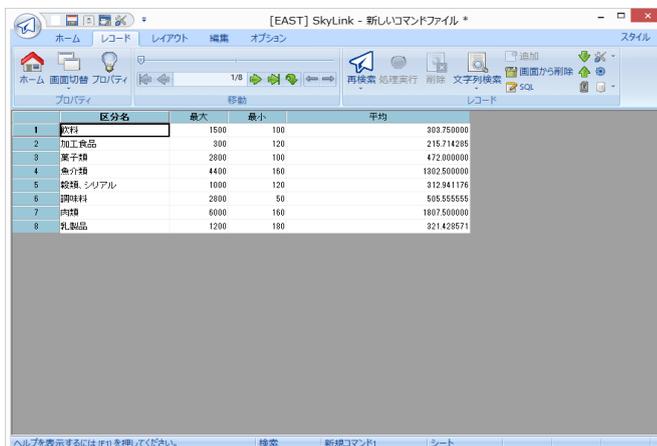
	1	2	3	4
項目名	区分名	最大	最小	平均
列名	区分名	単価	単価	単価
設定		最大	最小	平均
条件1				

3. 列 [区分名] に「グループ化」の指定を行う
 [グループ] タブで [グループにする (G)] チェックボックスにチェックを付けます。



[OK] ボタンを選択しますと、「集計指定されていない他の項目に、グループ指定を行いますか？」のメッセージが表示されますので、「はい(Y)」を選択してください（この場合はどちらでも同じです）。

4. 検索を実行する



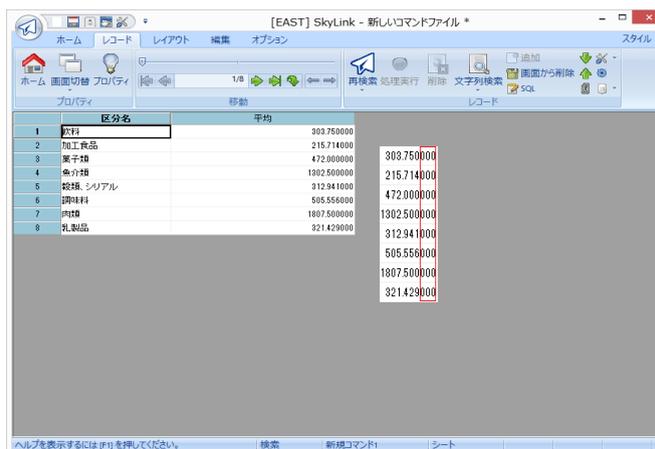
区分名	最大	最小	平均
飲料	1500	100	303.750000
加工食品	300	120	215.714285
菓子類	2800	100	472.000000
魚介類	4400	160	1302.500000
穀類・シリアル	1000	120	312.941176
調味料	2000	50	505.555555
肉類	6000	160	1807.500000
乳製品	1200	180	321.428571

区分名毎の商品の単価の「最大」「最小」「平均」が検索されました。

◎ ヒント：平均値を四捨五入する

列 [単価] の [設定] ダイアログを表示して、[演算 (P)] に「=」、値に「ROUND(AVG(dbo. 商品, 単価), 3)」と入力します。この場合、[集計 (F)] は「なし」を選択します。

ROUND 関数内の値「3」は、四捨五入して小数点第3位まで求めるという値です。



区分名	平均
飲料	303.750000
加工食品	215.714000
菓子類	472.000000
魚介類	1302.500000
穀類・シリアル	312.941000
調味料	505.556000
肉類	1807.500000
乳製品	321.429000

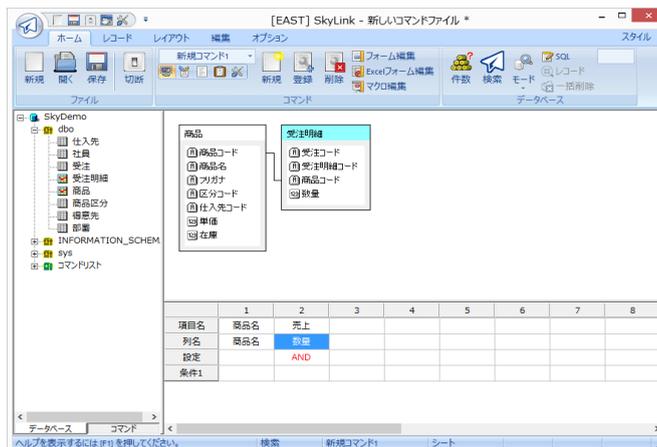
4.16

集計結果に条件を付ける

検索例 16

受注明細の売上が「100000 円以上」の商品の商品名と売上を売上額の多い順に検索する

1. 設定ウィンドウに [商品名] と [数量] の列を設定する
データベースツリーから [商品] と [受注明細] 表を表ウィンドウに設定し、[商品コード] で結合します。その後、設定ウィンドウに、列 [商品名] と [数量] を追加します。項目名を編集して、「数量」を「売上」にします。



2. [数量] に集計を指定する
列 [数量] の [設定] ダイアログを表示して、[集計 (F)] コンボボックスを「合計」に指定します。また、商品の単価との掛け算を行います。

設定

全体 | グループ |

他の項目の条件に対して

かつ(A) または(O)

ソート

なし(N) 昇順(S) 降順(D) ← 降順

条件全体のカッコ

左(L) [] 右(R) []

演算(P)

* [] dbo.商品.単価 ← 単価と掛け算

集計(F) 列参照として扱う(E)

[合計] ← 合計

重複なし(I)

データの抽出は行わない(X)

OK キャンセル

3. 列 [商品名] に「グループ化」の指定を行う

[グループ] タブで [グループにする (G)] チェックボックスにチェックを付け、グループの条件として、「数量 * 単価」の合計が「100000 以上」を設定します。

設定

全体 | グループ |

グループにする(G)

グループの条件

[] の なし [] が
(集計関数)

である。

dbo.商品.商品コード
dbo.商品.商品名
dbo.商品.フリガナ
dbo.商品.区分コード
dbo.商品.仕入先コード
dbo.商品.単価
dbo.商品.在庫
dbo.受注明細.受注コード
dbo.受注明細.受注明細コード
dbo.受注明細.商品コード
dbo.受注明細.数量
dbo.受注明細.数量 * dbo.商品.単価

OK キャンセル



4 データベースを検索する

設定

全体 グループ

グループにする(G)

グループの条件

dbo.受注明細.数量*dbo.商 (項目) の合計 (集計関数) が

>= (演算子) 100000 である。

OK キャンセル

[OK] ボタンを選択しますと、設定ウィンドウに以下のように設定されます。

	1	2
項目名	商品名	売上
列名	商品名	数量
設定	売(合計(dbo.受注明細.数量*dbo.商品.単価))>=100000	売合計(*dbo.商品.単価)
条件1		

4. 検索を実行する

[EAST] SkyLink - 新しいコマンドファイル *

商品名	売上
1 ボトルウイスキー	3315000
2 北海道産布	1672000
3 チョココリームアイス	1568000
4 大粒サーモン	1551200
5 特選味噌	1170000
6 特選ささぎ	1110000
7 練乳まろやか	1093900
8 練乳めん	898000
9 ふりかけ特選風味	819000
10 ナイトワイン	735000
11 コアラクッキー	710600
12 芋もちん	699200
13 本がっお持上	675000
14 ミックス火腿	477000
15 手づくり麺	467600
16 練乳果汁	419500
17 かこの恋し	372600
18 うどん・そばつゆ	369000
19 特選ごま	369000
20 ひび煎餅	327500
21 特選しめ	292000
22 スポーツ飲料パワー	293400
23 コナックダブル	267000

ヘルプを表示するには(F1)を押してください。 検索 新規コマンド1 シート

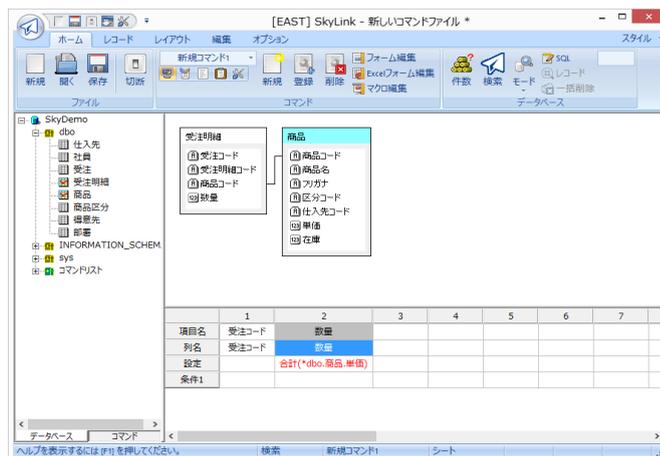
売上が「100000 円以上」の商品が、売上の多い順に検索されました。集計結果に条件を付ける場合は、このように指定します。

4.17 副問合せ

検索例 17

1 度の受注の売上が「50000 円以上」の得意先を検索する

1. 設定ウィンドウに [受注コード] と [数量] の列を設定する
データベースツリーから [受注明細] と [商品] 表を表ウィンドウに設定し、[商品コード] で結合します。その後、設定ウィンドウに、列 [受注コード] と [数量] を追加します。列 [数量] に [商品] 表の [単価] を掛けた合計を指定し、[データの抽出は行わない (X)] チェックボックスにチェックを付けます。「4.16 集計結果に条件を付ける」を参照してください。



2. [受注コード] にグループ化と集計の条件を指定する
列 [受注コード] の [設定] ダイアログを表示して、[グループ化にする (G)] チェックボックスにチェックを付け、グループの条件に売上が「50000 以上」を指定します。

4 データベースを検索する

設定

全体 | グループ

グループにする(G)

グループの条件

dbo.受注明細.数量*dbo.商 (項目) の 合計 (集計関数) が

>= (演算子) 50000 である。

OK キャンセル



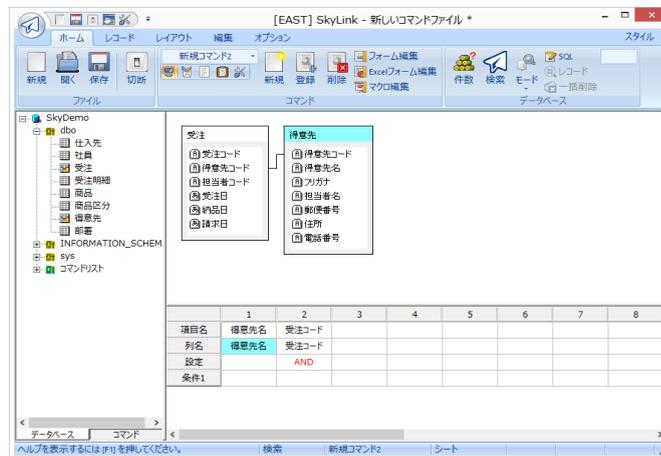
	1	2
項目名	受注コード	数量
列名	受注コード	数量
設定	が(合計(dbo.受注明細.数量*dbo.商品.単価)>=50000)	合計(*dbo.商品.単価)
条件1		

3. コマンドの登録を行う

コマンド名に「50000 以上の受注」として、コマンドを登録します。

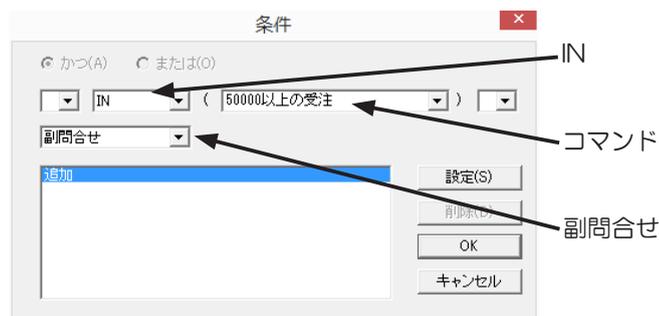
4. コマンドの新規追加を行う

コマンド [新規] ボタン  を押して、新しいコマンドを作成します。表ウィンドウに [受注] 表と [得意先] 表を追加し、[得意先コード] で結合します。設定ウィンドウに、[得意先名] と [受注コード] を追加します。



5. [受注コード] の条件を指定する

[受注コード] の [条件] ダイアログを開いて、[演算子] に「IN」を、[条件種別] に「副問合せ」を指定すると、[条件値] コンボボックスに「コマンド」の一覧が表示されますので、先程作成した「50000 以上の受注」を選んで [OK] ボタンを押します。

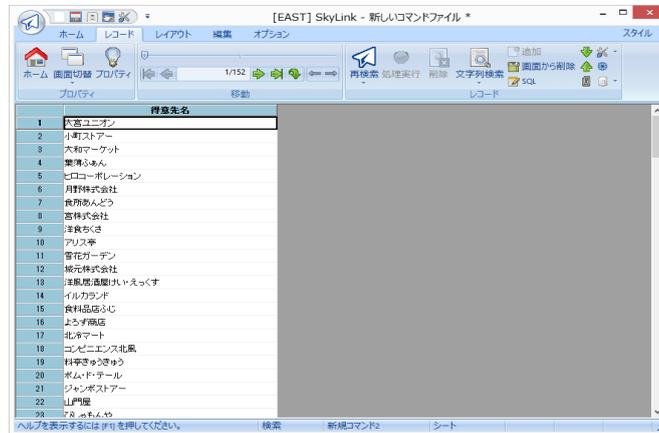


[受注コード] の項目名をマウスで右クリックして、抽出対象から外します。

	1	2
項目名	得意先名	受注コード
列名	得意先名	受注コード
設定		AND
条件1		IN([50000以上の受注])
条件2		

4 データベースを検索する

6. 検索を実行する



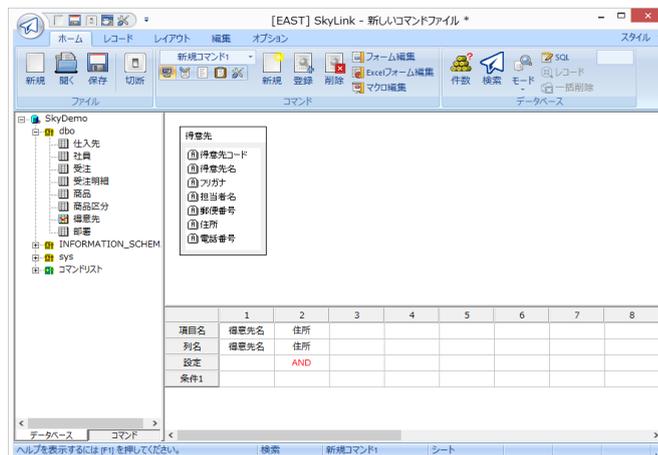
1度の売上が「50000円以上」の受注がある得意先が検索されました。この例では、副問合せを使用しなくても検索できますが、「IN」と「副問合せ」を利用することで、さまざまな検索を行うことができます。

4.18 DB 関数の利用

検索例 18

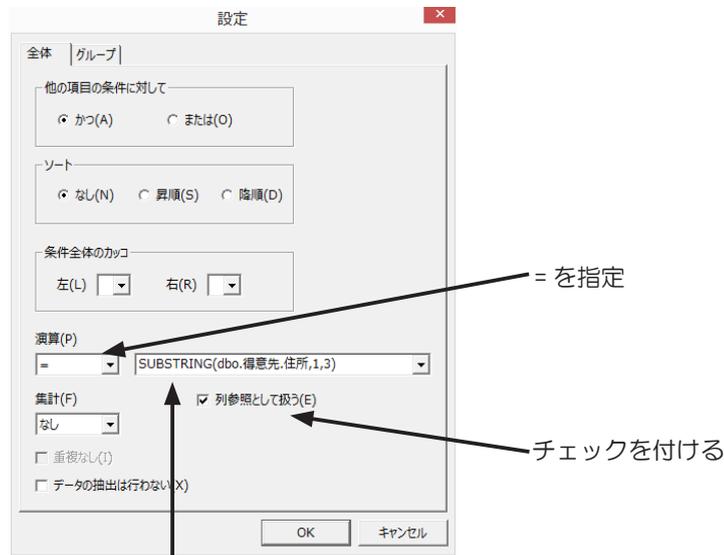
得意先名と住所を検索する。ただし、住所は先頭の3文字だけを表示する

1. 設定ウィンドウに [得意先名] と [住所] の列を設定する
データベースツリーから [得意先] 表を表ウィンドウに設定し、[得意先名] と [住所] 列を設定ウィンドウに追加します。



2. [住所] に SUBSTRING 関数を設定する
列 [住所] の [設定] ダイアログを表示して、SQL Server の文字列抽出関数「SUBSTRING」を指定します。

4 データベースを検索する



= を指定

チェックを付ける

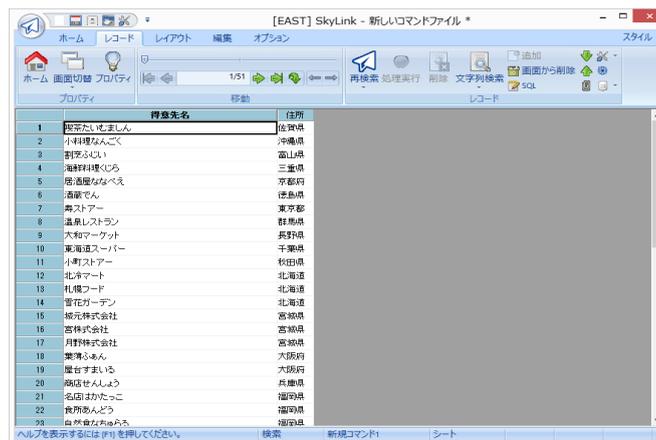
SUBSTRING(dbo. 得意先 . 住所 ,1,3)

住所の 1 文字目から 3 文字分を抽出する (dbo はスキーマ名)



	1	2
項目名	得意先名	住所
列名	得意先名	住所
設定		SUBSTRING(dbo.得意先.住所,1,3)
条件1		

3. 検索を実行する



得意先名と住所の先頭 3 文字が検索されました。

参考

ここで使用した SUBSTRING 関数は、SQL Server で使用する関数です。データベースによって使用できる関数は異なります。例えば Oracle で使用する場合は、代わりに SUBSTR 関数を使用します。データベースによっては関数に対応していない場合もありますので、それぞれのマニュアルなどを参照してください。

参考

SkyWeb を利用して、スマートフォン用の検索結果を表示する場合など、このように文字を詰めて検索することによって、せまい画面でも一覧を見やすくすることができます。

検索例 19

得意先の [得意先名] に「様」を付けて、昇順に表示する

1. 設定ウィンドウに [得意先名] と [フリガナ] を追加する

データベースツリーから [得意先] 表を表ウィンドウに設定し、[得意先名] と [フリガナ] を設定ウィンドウに追加します。[フリガナ] の [設定] ダイアログを表示して、[昇順(S)] ラジオボタンを選択し、[データの抽出は行わない(X)] チェックボックスにチェックを付けます。

	1	2
項目名	得意先名	フリガナ
列名	得意先名	フリガナ
設定		昇
条件1		

2. 列 [得意先名] に文字列連結の設定を行う

[設定] ダイアログで

public. 得意先 . 得意先名 + '様'

または、

CONCAT(public. 得意先 . 得意先名 , '様')

と入力します。

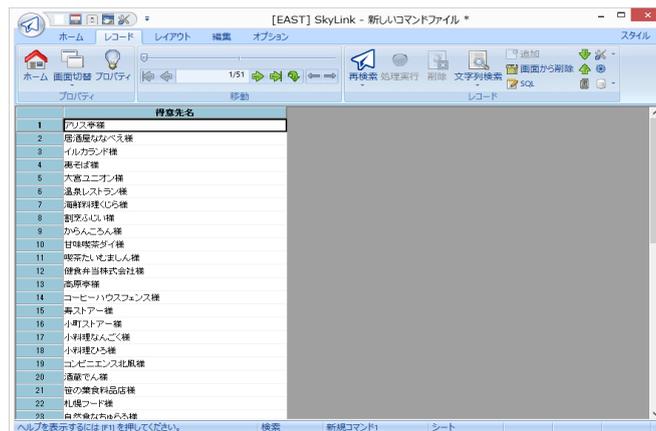
4 データベースを検索する



ここで [OK] ボタンを選択しますと、設定ウィンドウに以下のように設定されます。

	1	2
項目名	得意先名	フリガナ
列名	得意先名	フリガナ
設定	dbo.得意先.得意先名+'様'	昇
条件1		

3. 検索を実行する



[得意先名] に「様」を付けた、[フリガナ] でソートされた一覧が検索されます。

4.19 月毎の集計

検索例 20

月毎の売上の合計を検索し、売上額が多い順に表示する

1. 設定ウィンドウに [受注日] と [数量] の列を設定する
データベースツリーから [受注]、[受注明細]、[商品] 表を表ウィンドウに設定し、列 [受注コード]、[商品コード] でそれぞれ結合します。列 [数量] に [商品] 表の [単価] を掛けた合計を設定し、降順でソートされるように指定します。

項目名	1	2	3	4	5	6	7
列名	受注日	数量					
設定	受注日	数量					
条件1		*dbo.商品.単価					

4 データベースを検索する

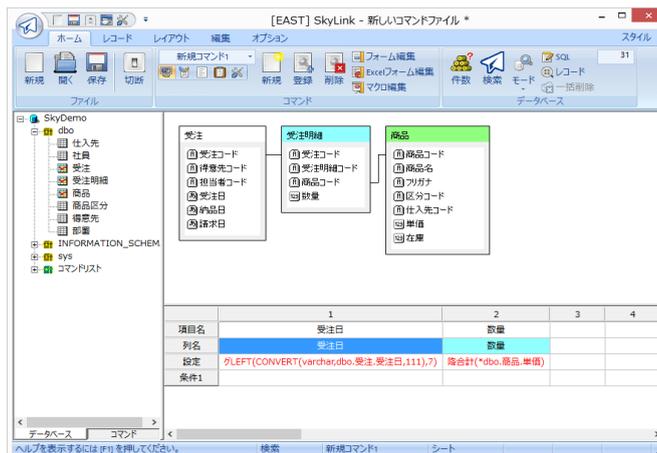
2. [受注日] を月単位に変換する

[受注日] の [設定] ダイアログを表示して、[演算(P)] に「=」を、値に「TO_CHAR(SYSDATE, 'YYYY/MM）」を指定し、[グループ] タブで「グループ化」に指定します。



LEFT(CONVERT(varchar,dbo.受注.受注日,111),7)

[受注日] の月単位「YYYY/MM」のみを抽出する (dbo はスキーマ名)



3. 検索を実行する

	受注日	数量
1	2014/06	1776700
2	2014/03	1249100
3	2015/09	1190400
4	2013/09	1164400
5	2013/01	1129100
6	2015/12	978620
7	2015/02	869100
8	2013/03	849100
9	2015/08	829400
10	2015/10	826400
11	2013/11	805100
12	2013/10	744000
13	2015/03	743200
14	2013/07	737800
15	2013/08	736000
16	2015/11	725700
17	2013/02	669900
18	2015/04	632900
19	2015/06	629000
20	2014/05	613000
21	2013/05	608000
22	2015/05	585800
23	2015/07	581700

受注月でグループ化した月毎の売上額が降順に検索されました。

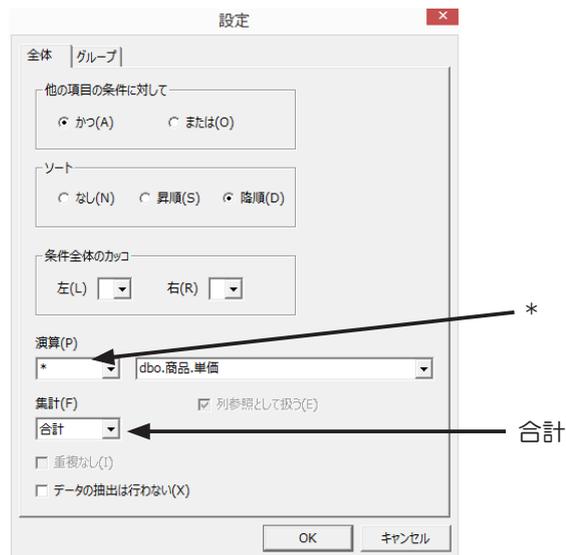
4.20 ユーザー SQL

検索例 21

受注毎の売上合計を、多い順に先頭からn件出力する

1. 全売上を求める

データベースツリーから [受注明細]、[商品] 表を表ウィンドウに設定し、[商品コード] で結合します。列 [受注コード] と [数量] を設定ウィンドウに追加し、[数量] 列を [設定] ダイアログで、[商品] 表の [単価] 列と掛け算を行い、[集計 (F)] コンボボックスを「合計」にします。また、ソートを [降順 (D)] ラジオボタンにします。



次に、[受注コード] をグループ化しますと、設定ウィンドウには以下のよう設定されます。

	1	2
項目名	受注コード	数量
列名	受注コード	数量
設定	グ	降合計(*dbo.商品.単価)
条件1		

2. SQL 編集を行う

[SQL] ボタン  をクリックして、[SQL 編集] ウィンドウを表示します。

最初は以下のようになっていますので、

```
SELECT WOW01."受注コード", SUM(WOW01."数量"*WOW02."単価") AS "数量"
FROM "dbo"."受注明細" WOW01, "dbo"."商品" WOW02
WHERE WOW01."商品コード" = WOW02."商品コード"
GROUP BY WOW01."受注コード"
ORDER BY SUM(WOW01."数量"*WOW02."単価") DESC
```

次のように修正します。



```
SELECT TOP [#先頭からn件] WOW01."受注コード", SUM(WOW01."数量"*WOW02."単価") AS "売上"
FROM "dbo"."受注明細" WOW01, "dbo"."商品" WOW02
WHERE WOW01."商品コード" = WOW02."商品コード"
GROUP BY WOW01."受注コード"
ORDER BY SUM(WOW01."数量"*WOW02."単価") DESC
```

← 変更

追加

ここでは、1行目の SELECT と WOW01."受注コード" の間に「TOP [#先頭からn件]」を追加、AS の後ろの "数量" を "売上" に変更しています。

3. 検索を実行する

[SQL 編集] ウィンドウを開いたまま、[検索] ボタン  をクリックして検索を行います。

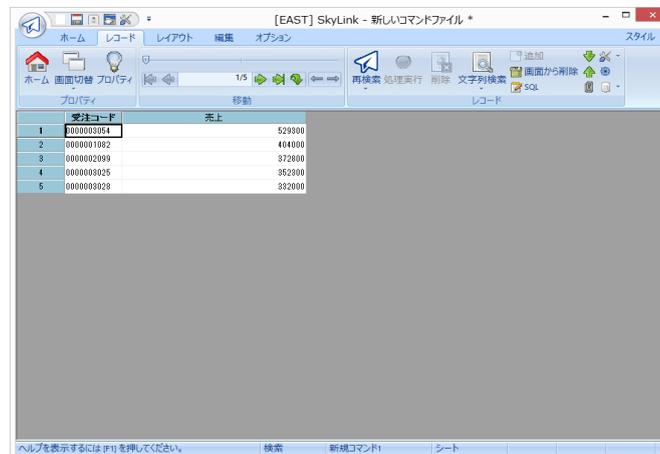
以下のような検索条件フォームが表示されますので、例えば先頭から5件の場合は、「5」を入力して[検索] ボタンを押します。

検索条件入力 ×

先頭からn件



4 データベースを検索する



	受注コード	売上
1	000000051	529000
2	0000001082	404000
3	0000002999	372000
4	0000003025	352000
5	0000003028	332000

受注金額が多い順に先頭の5件が検索されました。

このように自分で SQL を記述した場合にも、検索条件の可変指定を行うことができます。指定の方法は、[#ここにフォームに表示される文字]のように[#と]で囲んだ部分が可変条件指定になります。なお、文字列を条件とした場合等は、「'」を前後に記述しないとエラーとなってしまいますのでお気をつけください。また、SQL 編集を行った場合には、可変条件の条件に初期値が無い場合、条件を未入力にすることはできません。

4. 可変条件に初期値を設定する

ユーザー SQL に可変条件を指定した場合に、条件の初期値を設定することができます。

[#ここにフォームに表示される文字 [!ここに初期値]]

のように、[#と]で囲まれた間に[!]を記述します。先ほどの例ですと、

[#先頭からn件 [!5]]

と記述することにより、デフォルトで条件欄に「5」が表示されます。

また、初期値には以下の予約語があります。

%a	曜日の省略名
%A	曜日の正式名
%b	月の省略名
%B	月の正式名
%c	ロケールに応じた日付と時間の表現
%d	10 進数で表す月の日付 (01 ~ 31)
%H	24 時間表記の時間 (00 ~ 23)
%I	12 時間表記の時間 (01 ~ 12)
%j	10 進数で表す年頭からの日数 (001 ~ 366)
%m	10 進数で表す月 (01 ~ 12)

%M	10 進数で表す分 (00 ~ 59)
%p	現在のロケールの AM/PM
%S	10 進数で表す秒 (00 ~ 59)
%U	10 進数で表す週の通し番号。 日曜日を週の最初の日とする (00 ~ 53)。
%w	10 進数で表す曜日。日曜日を 0 とする (0 ~ 6)。
%W	10 進数で表す週の通し番号。 月曜日を週の最初の日とする (00 ~ 53)。
%x	現在のロケールの日付表示
%X	現在のロケールの時刻表示
%y	10 進数で表す西暦の下 2 桁 (00 ~ 99)
%Y	10 進数で表す 4 桁の西暦
%%	パーセント記号

例えば

[# 条件の項目 [!%Y-%m-%d]]

と記述すると、条件の初期値として、クライアント・コンピュータの現在の日付が表示されます。検索列が文字形式や日付形式の場合、' [#]' のように前後をシングルクォーテーションで囲みます。



4.21 FROM 句でのインラインビュー

検索例 22

得意先別の受注金額合計と全売上に対する比率を出力する

1. 全売上を求める

データベースツリーから [受注明細]、[商品] 表を表ウィンドウに設定し、[商品コード] で結合します。列 [数量] を設定ウィンドウに追加し、[数量] 列を [設定] ダイアログで、[商品] 表の [単価] 列と掛け算を行い、[集計 (F)] を「合計」にします。数量列の項目名を「総売上」とします。

設定

全体 | グループ |

他の項目の条件に対して
 カつ(A) または(O)

ソート
 なし(N) 昇順(S) 降順(D)

条件全体のカッコ
 左(L) [▼] 右(R) [▼]

演算 (P)
 * [▼] dbo.商品.単価 [▼]

集計 (F) 列参照として扱う(E)
 合計 [▼]

重複なし(I)
 テータの抽出は行わない(X)

OK キャンセル

設定ウィンドウには以下のように設定されます。

	1
項目名	総売上
列名	数量
設定	合計(*dbo.商品.単価)
条件1	

このコマンドを「総売上」として登録します。

2. 得意先別の売上を取得する

データベースツリーから[受注]、[受注明細]、[商品]表を表ウインドウに設定し、[受注コード]、[商品コード]で結合します。列[得意先コード]、[数量]を設定ウインドウに追加し、[数量]列を[設定]ダイアログで、[商品]の[単価]と掛け算を行い、[集計(D)]コンボボックスを「合計」にします。

得意先コードの設定ダイアログを表示し、グループ化します。また、[数量]列の項目名を「得意先別受注金額」とします。

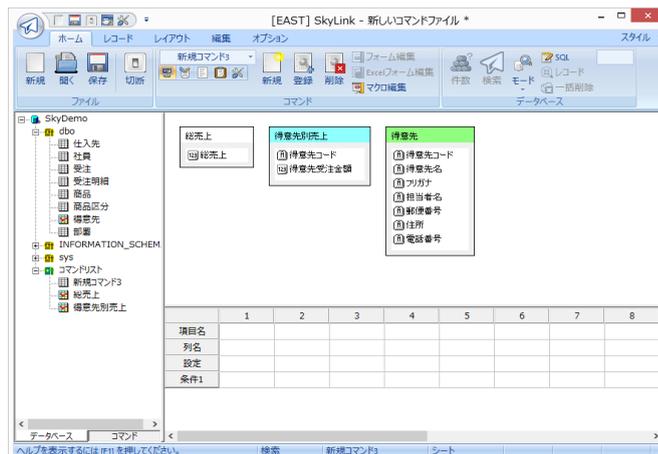
設定ウインドウには、以下のように設定されます。

	1	2
項目名	得意先コード	得意先受注金額
列名	得意先コード	数量
設定	ダ	合計(*dbo.商品.単価)
条件1		

このコマンドを「得意先別売上」として登録します。

3. 得意先別受注金額と全売上に対する割合を取得する

データベースツリーの「コマンドリスト」から、1, 2で作成した「総売上」と「得意先別売上」コマンドと[得意先]表を表ウインドウに設定します。



列[得意先コード]で結合し、[得意先名]、[得意先別受注金額]、[総売上]を設定ウインドウに追加します。[総売上]を追加する際に、「結合されていない表の列がありますが、設定ウインドウに設定してもよろしいですか？」というメッセージが表示されますが、ここでは「はい(Y)」を選択します。

列[総売上]の設定ウインドウを表示し、[演算]を[=]、値の部分に「ROUND(コマンドリスト.得意先別売上.得意先別受注金額 / コマンドリ

4 データベースを検索する

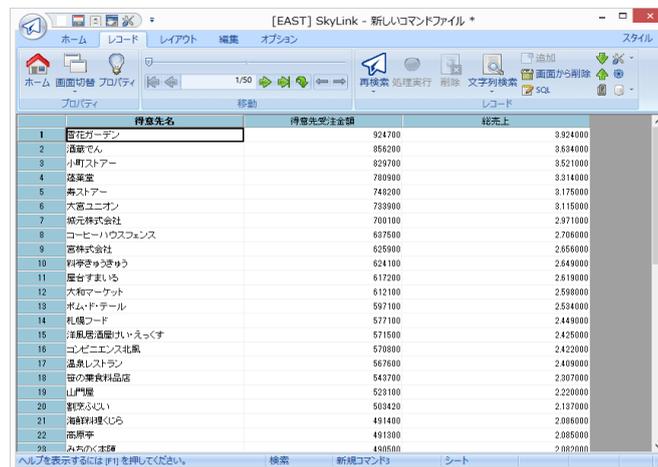
スト・総売上・総売上*100,3)」と入力します。得意先別の受注金額を総売上上で割り算し、「100」を掛けています。「3」は値を四捨五入して小数点第3位まで求めます。また、ソートを降順にしておきます。

[総売上]の項目名を「総売上に対する比率」としますと、設定ウィンドウには以下のように設定されます。

	1	2	3
項目名	得意先名	得意先受注金額	総売上
列名	得意先名	得意先受注金額	総売上
設定		AND	降ROUND(コマンドリスト.得意先別売上.得意先受注金額/コマンドリスト.総売上.総売上*100,3)
条件1			

このコマンドを「得意先別売上比率」として登録します。

4. 検索を実行する



	得意先名	得意先受注金額	総売上
1	百花ガーデン	924700	9324000
2	酒家でん	856200	854000
3	小町ストア	829700	8521000
4	広葉堂	789800	8314000
5	寿ストア	748200	8179000
6	大富ユニオン	739900	8115000
7	城元株式会社	700100	2971000
8	コーヒーハウスファンズ	687500	2706000
9	西株式会社	625900	2656000
10	利孝きょうきゅう	624100	2549000
11	屋台すまいる	617200	2619000
12	大和デザート	612100	2538000
13	ボムド・テール	597100	2534000
14	札幌コード	577100	2449000
15	洋風居酒屋いっすくす	571500	2425000
16	コンビニエンス北風	570800	2422000
17	温泉レストラン	567600	2498000
18	笹の葉食料品店	549700	2307000
19	山門屋	529100	2220000
20	新次ふし	504200	2157000
21	海鮮料理くじら	491400	2086000
22	赤井亭	491300	2085000
23	みちく本舗	485800	2082000

得意先毎に受注金額の合計と全売上に対する比率が降順に検索されました。

このように、作成したコマンドを表として扱うことによって、いろいろな検索を行うことが可能となります。

◆ 注意

FROM 句での SELECT は、ご利用のデータベースによってはご利用になれませんのでご注意ください。

4.22 コマンドの登録と再利用

SkyLink では、これまでの検索例で示したような表ウィンドウ、設定ウィンドウで登録した各手順をコマンドとして登録しておくことができます。「可変値」条件設定を行っておけば、登録したコマンドを呼び出し後、[検索] ボタンを押すだけで、指定した条件に合致するレコードの検索を行えます。さらに、コマンドには出力先も保存されるため、毎回 Excel に出力したり、CSV ファイルに出力したりすることが簡単に行えます。さらに進んだ使い方として、「マクロ」機能がありますので、業務に適した検索を行うことが可能です。

なお、コマンドファイルには、最大100個までのコマンドを登録することが可能ですので、殆どの検索をコマンドとして処理可能です。非定型業務が主な検索の場合は、表ウィンドウによく使用する表を追加し、そのままコマンド登録しておくことによって、毎回の処理が容易になります。

1. コマンドの登録

コマンドを登録するには、[ホーム]タブの[コマンド]グループ [登録] ボタン  を選択します。

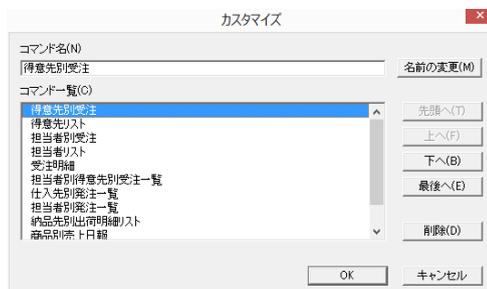


2. コマンドの削除

コマンドの削除を行う場合は、[ホーム]タブの[コマンド]グループ[削除] ボタン  を選択します。

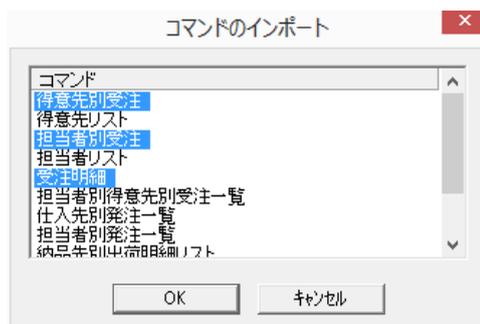
もう一つの操作方法としては、[オプション]タブの[コマンド]グループの[カスタマイズ] ボタンを選択して表示される[カスタマイズ]ダイアログでも行うことができます。

4 データベースを検索する



3. コマンドのインポート

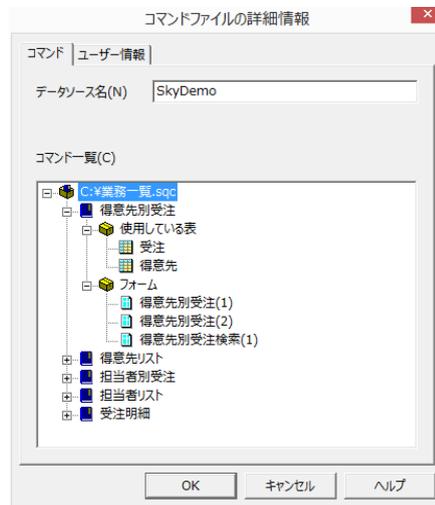
他のコマンドファイルやマクロファイルから、コマンドのインポートを行うことができます。[オプション]タブの[コマンド]グループ[インポート]ボタンを選択すると、コマンドファイルを選択するファイルダイアログが表示されますので、ここでファイルを指定します。指定されると[コマンドのインポート]ダイアログが表示されますので、インポートしたいコマンドを選択して[OK]ボタンを押すと、現在のコマンドファイルに指定したコマンドがインポートされます。



4. コマンドファイルの詳細情報

コマンドファイルを実際に開かなくても、コマンドファイルの内容の一覧を表示することができます。

[ホーム]タブの[ファイル]グループ[開く]ボタンを選択すると表示される[開く]ダイアログで該当のファイルを選択後、[詳細情報(D)]ボタンをクリックすると、選択されたコマンドファイルの情報を表示することができます。



コマンドファイルの名前、使用している表、フォームの名前などが一覧表示されます。また、[データソース名(N)]の名前を変更することによって、別の名前を使用している他のクライアント・コンピュータでも、確認メッセージを表示することなく開くことが可能となります。

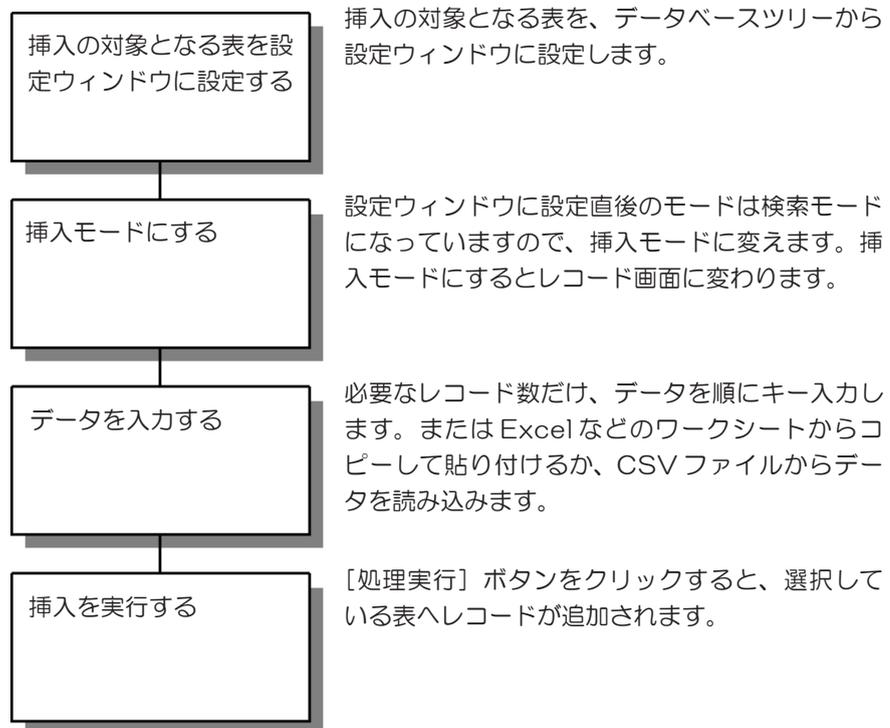
5. データベースに レコードを挿入する

レコード挿入の方法を説明します。

5.1 挿入の手順

検索／更新用の SkyLink をお使いの場合には、挿入モードで、データベースにレコードを挿入することができます。

レコードのデータはキー入力することはもちろんですが、Excel などのワークシートからコピーして貼り付けたり、CSV ファイルからデータを読み込むことも可能です。



以下では、具体例で表へのレコードの挿入方法を解説します。

5.2 表にレコードを挿入する

5.2.1 キー入力での挿入

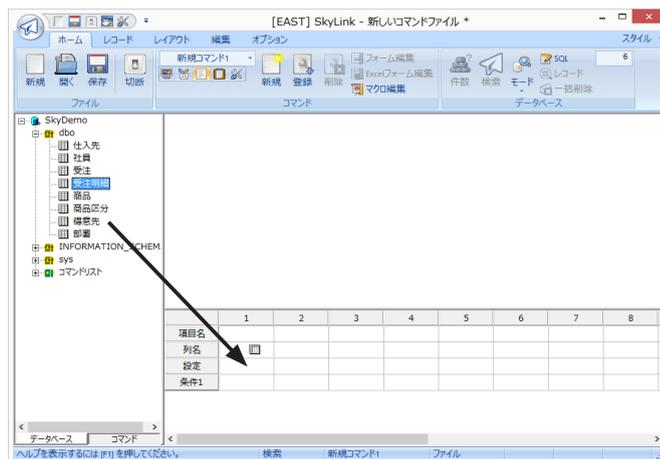
最初に、キー入力によって表にレコードを挿入する方法を解説します。

挿入例 1

表 [受注明細] にレコードを挿入する

ここでは、表 [受注明細] の最後に 2 レコードを追加します。

1. 表 [受注明細] を設定ウィンドウに設定する
表 [受注明細] を設定ウィンドウに設定します。



データベースツリーに表示されている表 [受注明細] を設定ウィンドウにドラッグ・アンド・ドロップする



5 データベースにレコードを挿入する

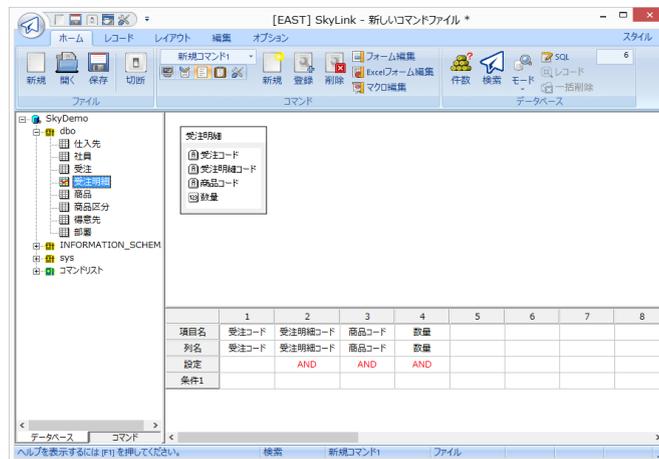
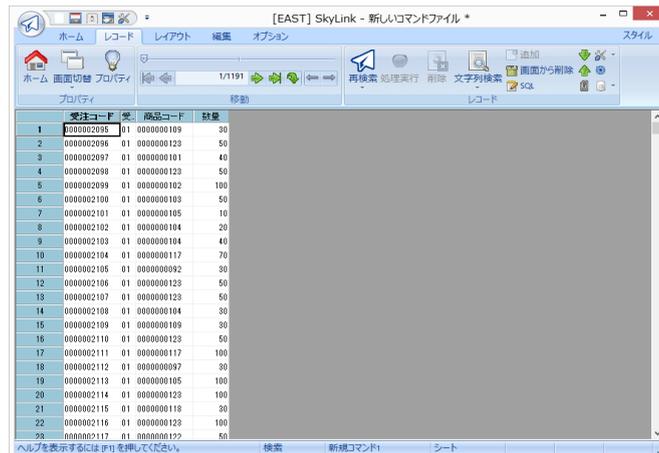


表 [受注明細] が設定ウィンドウに設定され、表ウィンドウにも表示される

2. 現在の表 [受注明細] の内容を見る

[検索] ボタン  をクリックして、現在の表 [受注明細] を確認しておきます。



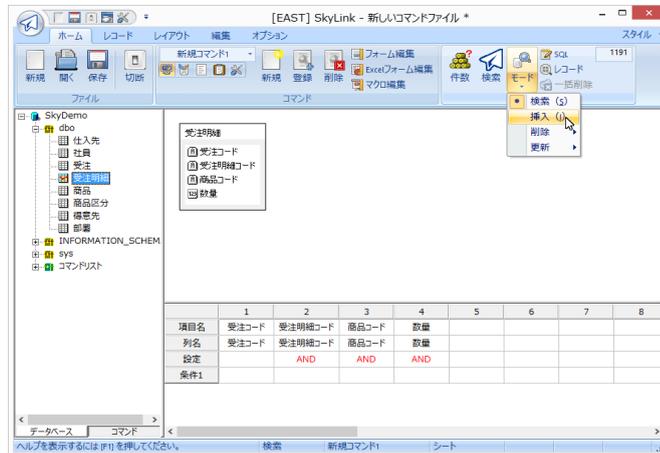
確認後、[ホーム] ボタンで戻ります。

3. 挿入モードにする

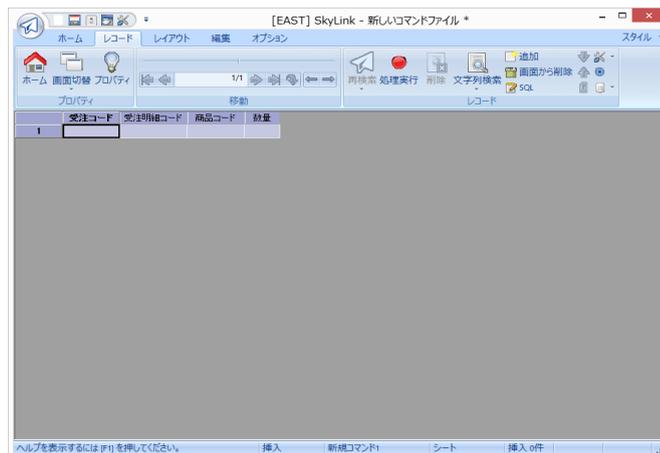
初期モードは検索モードになっていますので、挿入モードに変えます。

5.2 表にレコードを挿入する

[ホーム]タブ[データベース]グループの[モード] – [挿入(I)] を選択する

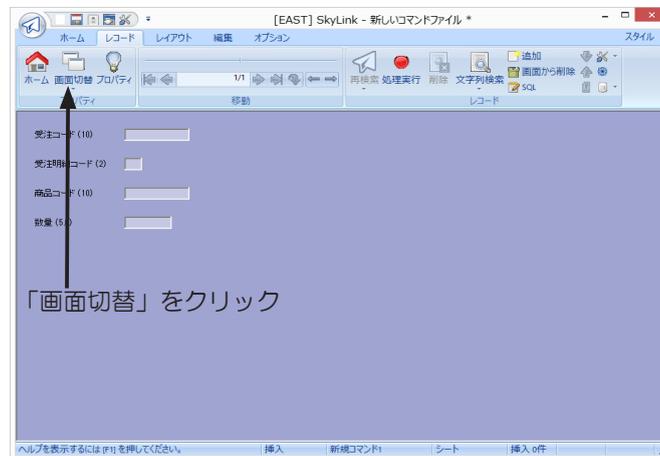


レコード挿入画面が表示される



必要であれば、[画面切替]ボタンを押して、フォーム画面に変更します。最初にフォーム画面を表示する場合は、出力先の指定で[フォーム]を指定しておきます。

5 データベースにレコードを挿入する



4. 最初の挿入レコードのデータを入力する

データをキー入力します。1項目のデータをキー入力したら、[Tab] キーを押してください。カーソルは次の項目に移動します。

5. 2番目の挿入レコードのデータを入力する

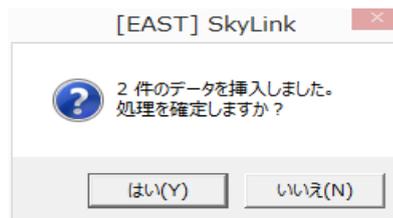
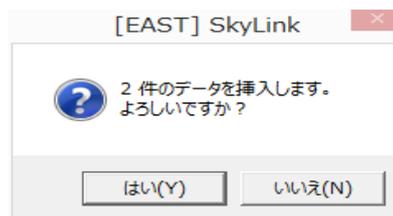
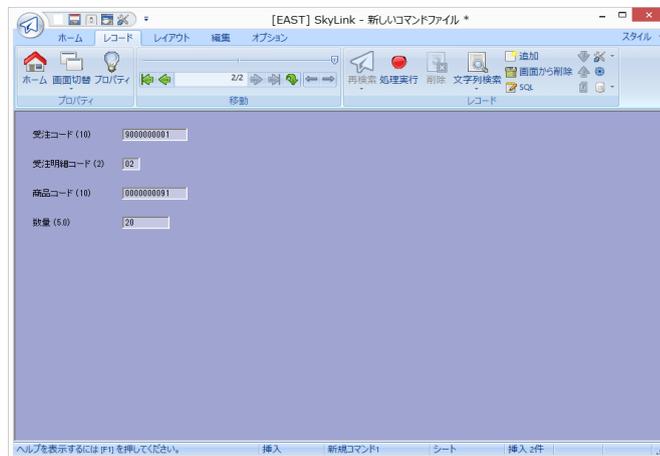
最後の項目のデータを入力し、[Tab] キーを押すと、画面は自動的に2レコード目の挿入画面に移り、続けてデータを入力することが可能となります。続けてデータをキー入力します。

6. シート画面で確認する

[画面切替] ボタン  をクリックすると、シート画面で挿入レコードを確認することができます。

7. 挿入を実行する

[処理実行] ボタン  をクリックすると、挿入が実行されます。



8. 挿入の確認

挿入が終了すると、メイン画面に戻り、検索モードになります。ここで、実際にレコードが挿入されたことを、[検索] ボタン  をクリックして確認してみましょう。

☛ 注意 : データを入力するときの注意点

データを入力するときには、データの型に注意してください。たとえば、数値項目に文字を入力することはできません。また、空白値

5 データベースにレコードを挿入する

(NULL)=no と定義されている項目に対しては、データの入力を省略することはできません。データの型などを確認するには次のヒントを参照してください。

◎ ヒント：データの型などを確認する

フォーム画面またはシート画面の項目名を右クリックしてメニューから「プロパティ (I)」を選択します。その [項目のプロパティ] ダイアログが表示され、データの型、サイズ、省略可/不可などを確認することができます。

◎ ヒント：文字型データを素早く入力する方法

デフォルトの設定では、文字項目にカーソルが移動したときに、自動的に「ひらがな」入力モードとなります。その他の入力モードにするには、項目名を右クリックして「日本語入力 (J)」サブメニューから選択できます。また [項目のプロパティ] ダイアログの「日本語入力 (J)」リストからも選択できます。入力モードはコマンドに記憶されますのでコマンドを登録してコマンドファイルとして保存しておけば、いつでも再利用できます。

◎ ヒント：Excel でコピーして SkyLink のシート画面に貼り付ける

Excel でコピーしたセルブロックをシート画面に貼り付けるには、貼り付けたい開始セルを右クリックしてポップアップメニューから「貼り付け (P)」を選択します。しかし、貼り付け先にコピーしたセルブロックを貼り付ける十分なスペースが無いときは、不足部分には貼り付けできません。そのために前もって、右端の項目で [Enter] キーを押すか、ポップアップメニューから [レコード挿入 (I)] を選択して、空のレコードを表示させておく必要があります。

◎ ヒント：いくつかのレコードを挿入処理対象から外す

シート画面で挿入処理対象から外したいレコードを右クリックしてポップアップメニューから「レコードを画面から削除 (E)」を選択してください。CSV ファイルからインポート（後述）したり、ほかの Excel などのアプリケーションからまとめてコピーして貼り付けたときに、挿入する必要のないレコードを除外できます。

◎ ヒント：操作を誤ってしてしまったとき編集メニューで復活

レコードを誤って画面から削除したとき、メニューの「レコードの削除を元に戻す (U)」で復活することができます。また、間違っただけのレコードのセルを修正していることに気がついたときは「入力を元に戻す (U)」で復活することができます。逆に「レコードの削除をやり直す (R)」ことや「入力をやり直す (R)」こともできます。編集操作を始める直前の状態まで戻せます。逆に編集操作をした最終状態までやり直せます。

◎ ヒント：シート画面で文字列の一部を修正する

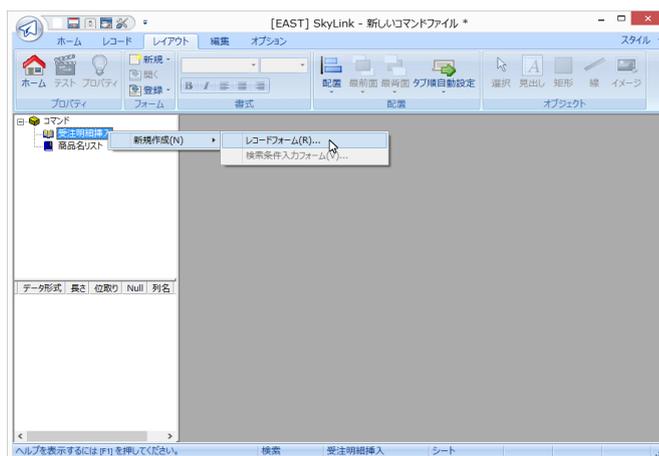
シート画面では始め文字カーソルは表示されていません。セルをダブルクリックするか、セルを選択してから [F2] キーを押して反転表示

させて矢印キーを押すなどで、文字カーソルを表示させて目的の部分
を修正することができます。入力後は[Enter]キーまたは[Tab]キー
を押して入力を確定するのはフォーム画面と同じです。

5.2.2 フォームを使用して挿入

前の例では、[商品コード]を手で入力しましたが、商品名しかわからない場
合などは困ってしまいます。そこで、商品の一覧を選択して入力するフォーム
を作成します。

1. 前の例で作成したコマンドを、「受注明細挿入」という名前を付けて
コマンド登録を行う
2. [コマンド]グループの[新規]ボタンで、新しいコマンドを作成す
る
新規コマンドを作成して、表ウィンドウに[商品]表を追加し、設定ウィ
ンドウに[商品名]と[商品コード]を追加する。
「商品リスト」という名前を付けてコマンドを登録する。
3. [ホーム]タブ[コマンド]グループの[フォーム編集]ボタンでフォー
ム編集モードにする



「受注明細挿入」をマウスで右クリックして、[新規作成(N)] - [レコー
ドフォーム(R)]を選択します。

フォーム作成ウィザードが表示されますので、名前を「受注明細挿入フォー
ム」として、それ以外はデフォルトのまま[次へ]で遷移し、[項目の
スタイル]画面まで移ります。

5 データベースにレコードを挿入する

フォーム作成ウィザード - フォーム名とレイアウトの設定

フォーム名(A)
受注明細挿入フォーム

標準的なレイアウト(S) 横に並べるレイアウト(U)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル



フォーム作成ウィザード - 項目のスタイル

データソースリスト(L)
① 受注コード
② 受注明細コード
③ 商品コード
④ 数量

プレビュー
商品コード

説明
入力フィールド: エディットコントロール
日本語入力: ひらがな

変更(M)...

< 戻る(B) 完了 キャンセル

商品コードを選択して、[変更 (M)] ボタンを押します。



項目のスタイル

項目のスタイルを設定してください

エディット(E) 見出し(H) 商品コード

リストボックス(L)

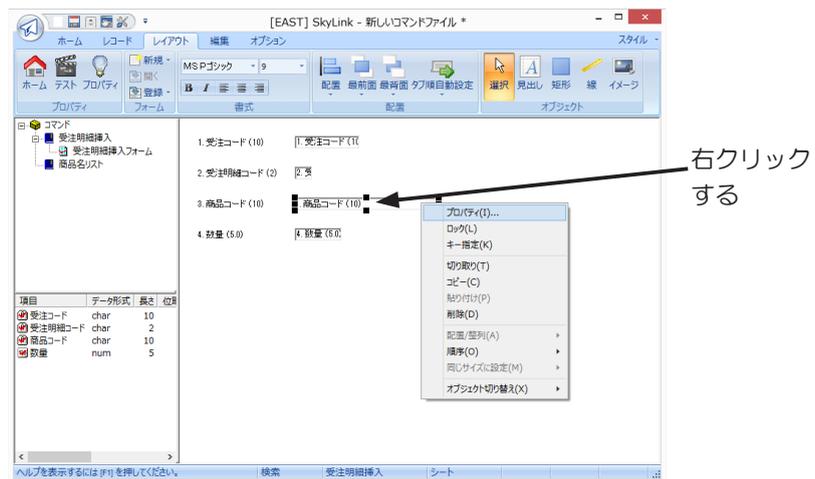
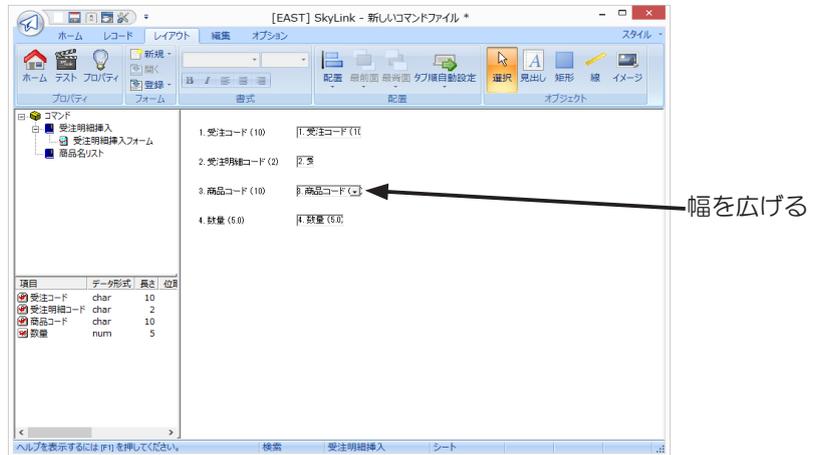
コンボボックス(C) 日本語入力(J) ひらがな

チェックボックス(K) ※コンボボックスの場合ドロップダウンのみ有効

選択該の設定(V) OK キャンセル

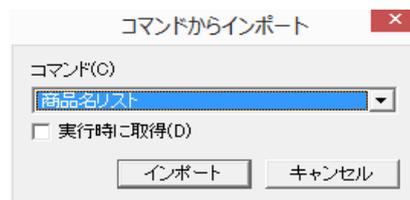
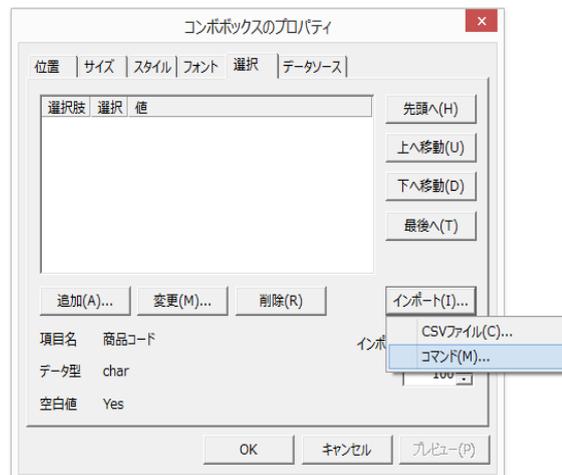
スタイルをコンボボックスにして、[OK] ボタンを押し、元の画面で [完了] ボタンを押します。

4. [商品コード] コンボボックスの幅を広げて、[コンボボックスのプロパティ] ダイアログを開く



[商品コード] コンボボックスを右クリックしてメニューから [プロパティ(I)] を選択し、[選択] タブ - [インポート(I)] - [コマンド(M)] を選択

5 データベースにレコードを挿入する



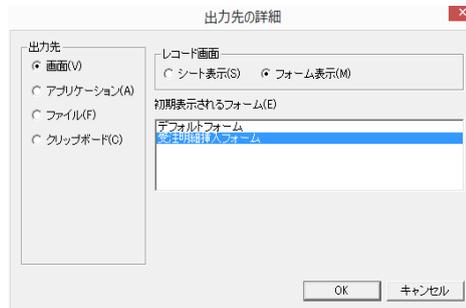
「商品リスト」を選んで [インポート] ボタン



[OK] ボタンを押してフォーム編集画面に戻り、[ホーム] ボタンで、SkyLink メイン画面に戻ります。その際に、フォームを登録するか確認メッセージが表示されますので、[はい(Y)] で登録してください。

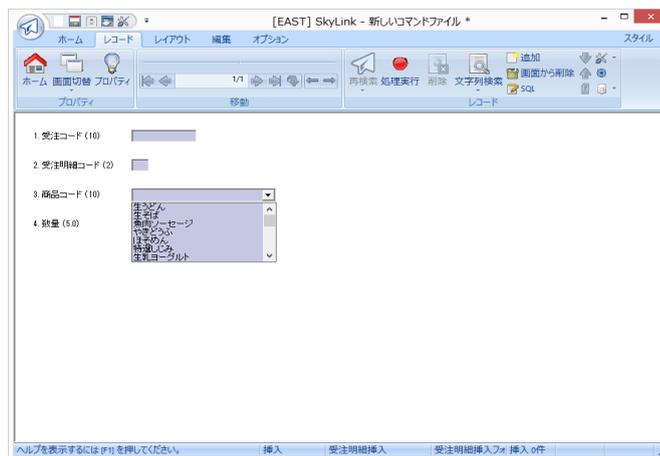
5. [出力先詳細] ボタンを押して、出力先を先程作成したフォームに変更する

現在のコマンドを「受注明細挿入」にしてから、[出力先詳細] ボタンを押します。



[フォーム表示 (M)] と「受注明細挿入フォーム」を選択

6. [モード] - [挿入 (I)] を選択する



商品コードを商品名で選択してレコード挿入を行えるようになりました。

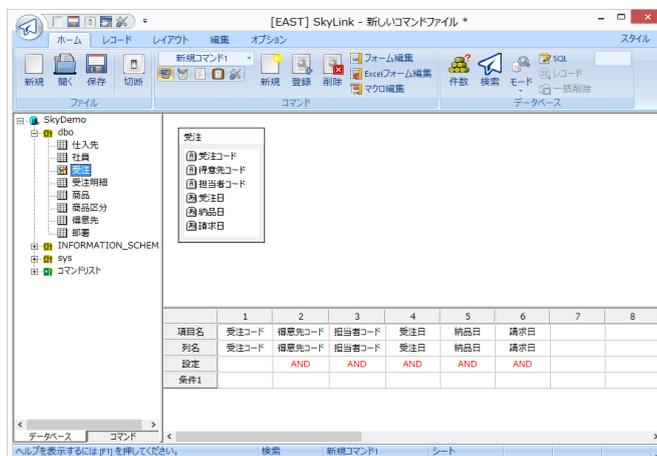
5.2.3 デフォルト値と入力データの制限

データのデフォルト値の設定や、入力データの制限を行う方法を説明します。

1. [受注] 表の [担当者コード] を自分の社員番号がデフォルトで設定されるようにする

表 [受注] を設定ウィンドウに追加し、[モード] を「更新」または「削除」のどちらかのモードにします。

5 データベースにレコードを挿入する

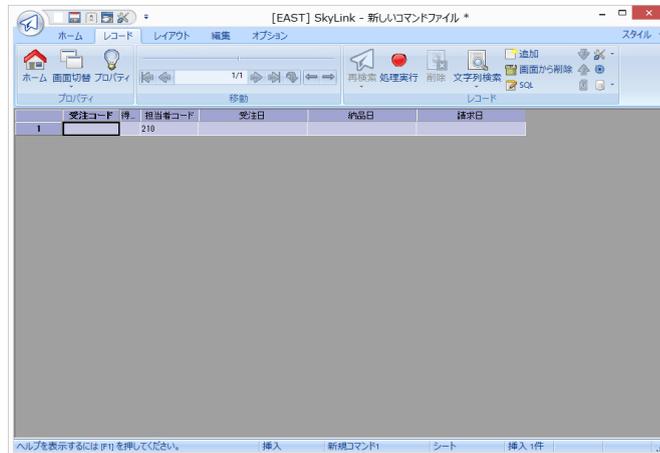


2. [担当者コード]の[設定]ダイアログを表示して、[入力規則]タブを選択する



[デフォルト(V)]に「210」（成宮 真紀）を入力します。

3. 挿入モードに変更する



初期値として「210」がすでに入力されています。

初期値以外にも入力条件として「入力値の種類」、「条件データ種別」、「最小・最大値」を設定することができます。

入力値の種類



5 データベースにレコードを挿入する

条件データ種別



◎ ヒント：入力規則タブ

[設定] ダイアログに [入力規則] タブが表示されるのは、モードが「更新」または「削除」の場合のみとなります。ここで指定した値は、コマンドファイルに保存されますので、1度登録しておけば、挿入モードの場合でもご利用になることができます。

● 注意：SkyWeb での入力規則

コマンドファイルを指定して SkyWeb ジェネレータで Web ページを作成した場合、ここで指定した入力規則は反映されませんのでご注意ください。

5.3

レコードをインポートする

挿入データはキー入力する代わりに、CSV/XML ファイルから読み込むこともできます。多数のレコードを挿入する場合には、便利な方法です。

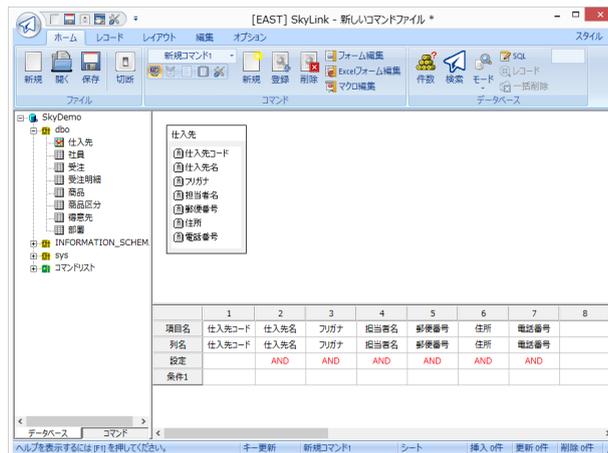
挿入例 2

表 [仕入先] に CSV ファイルを使ってレコードを挿入する

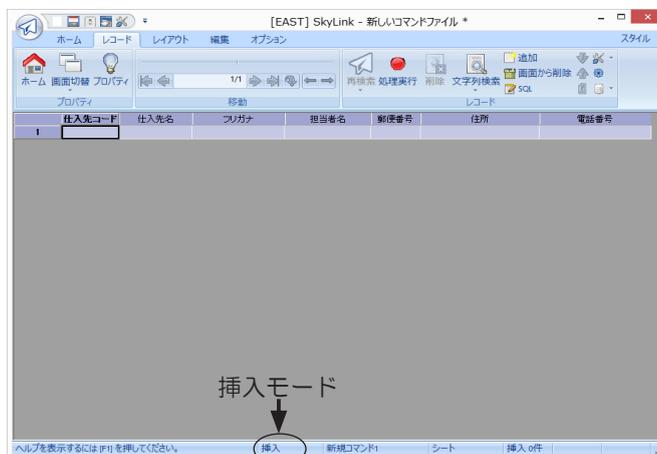
ここでは、「仕入先 ADD.CSV」という CSV ファイルからレコードデータを読み、レコードを挿入します。

1. 挿入モードにする

初期値は検索モードになっていますので、挿入モードに切り替えます。



5 データベースにレコードを挿入する

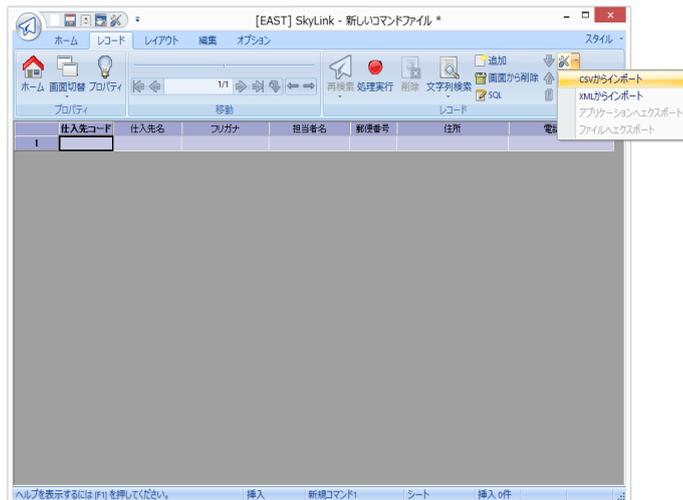


レコードの挿入画面に変わる

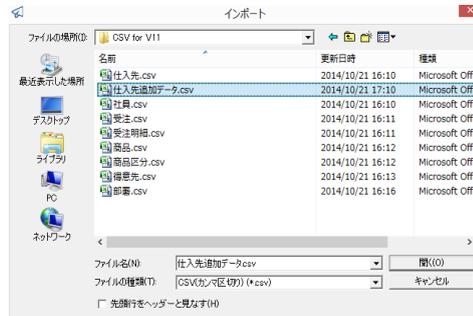
2. CSV ファイルの読み込み

[レコード] グループの [インポート] を使って CSV ファイルを読み込みます。

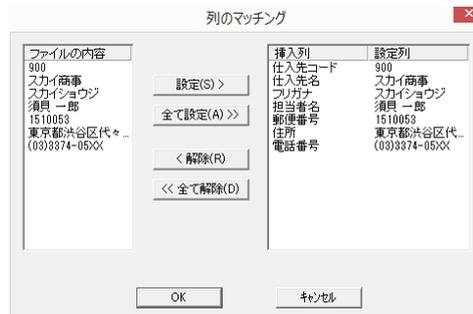
[レコード] タブ [レコード] グループの [インポート] - [CSV からインポート] を選択する



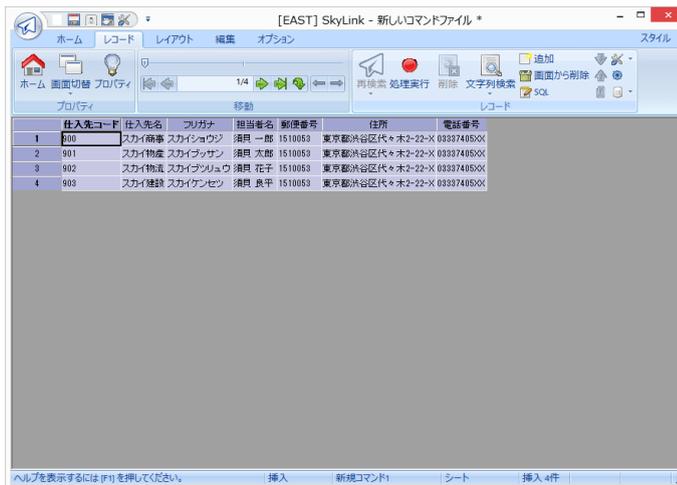
ファイルを選択する



列とデータの対応付けを行う



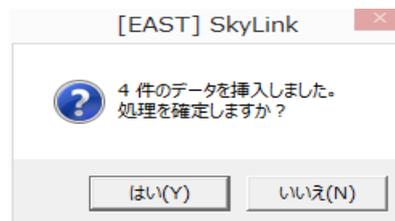
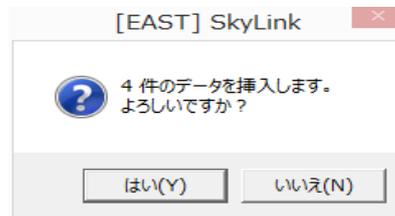
CSV ファイルが読み込まれレコードが表示される



5 データベースにレコードを挿入する

3. 挿入を実行する

[処理実行] ボタンをクリックすると、データベースにレコードが挿入されます。

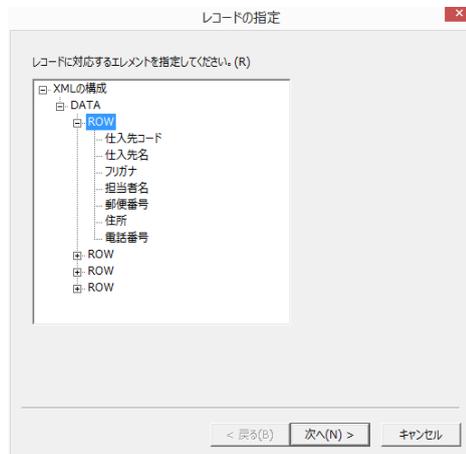


◎ ヒント：挿入をキャンセルする

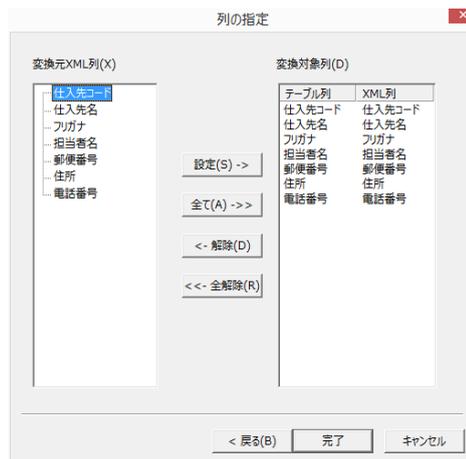
挿入データを入力した後、[処理実行] ボタン  の代わりに [ホーム] ボタン をクリックし、問い合わせダイアログに対して [はい (Y)] ボタンをクリックしてください。レコードの挿入をキャンセルすることができます。

XML ファイルのインポート

XMLファイルの場合もCSVとほぼ同様に処理を行います。[インポート]-[XML からインポート] を選択するとファイル選択ダイアログが表示されますので、該当 XML ファイルを選択します。そうしますと [レコードの指定] ダイアログが表示されます。



この画面でレコードの単位となるタグ名を指定します。ここでは、「z:row」を指定します。



列の対応付けを行い[完了]ボタンを押すと、レコードがインポートされます。それ以降の処理は、CSVと同様です。

6. データベースから レコードを削除する

レコード削除の方法を説明します。

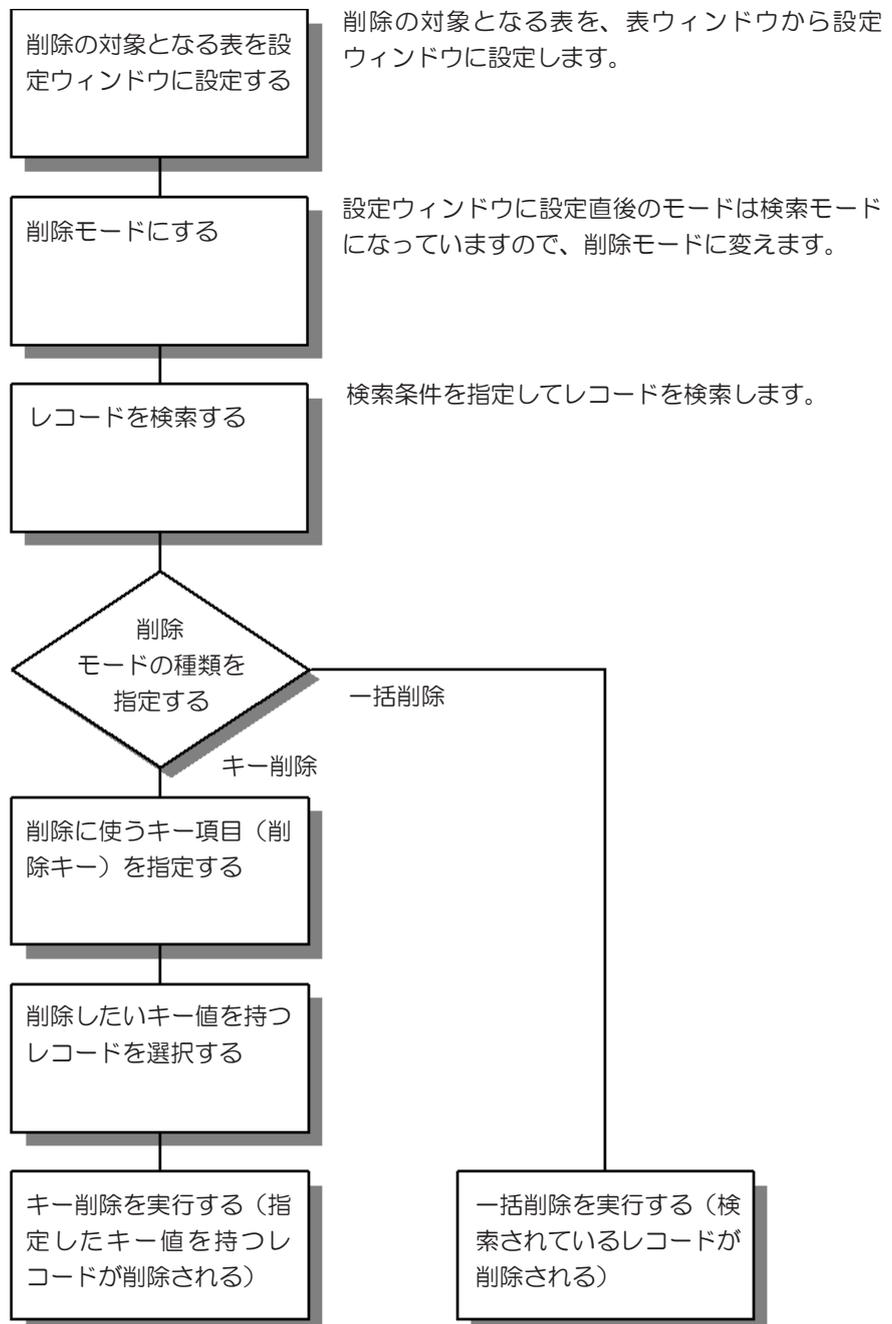
6.1

削除の手順

検索／更新用の SkyLink をお使いの場合には、削除モードで、データベースからレコードを削除することができます。

削除方法には、検索したレコードを一括して削除する方法（一括削除）と、削除キーが指定した値であるレコードを削除する方法（キー削除）があります。

レコードの削除の手順は次のようになります。



6.2 キー項目の値によってレコードを削除する

最初にキー項目を指定し、その値によってレコードを削除する例を挙げましょう。

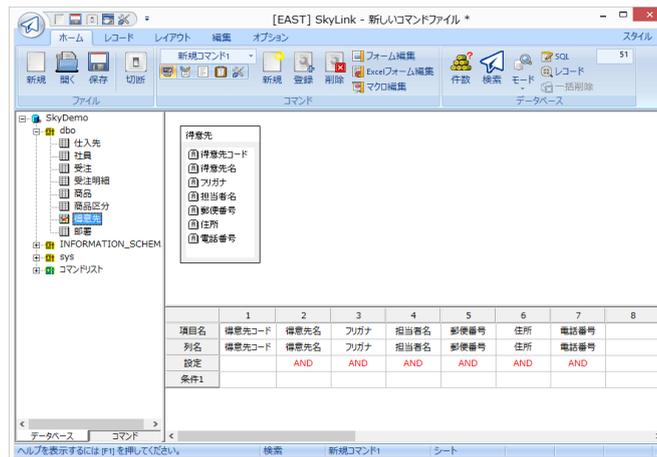
削除例 1

表 [得意先] から [得意先コード] が「010」と「020」のレコードを削除する

[得意先コード] を削除キーとして、[得意先コード] が「010」と「020」のレコードを削除します。

1. 表 [得意先] を設定ウィンドウに設定する

最初に、削除の対象となる表 [得意先] を表ウィンドウから設定ウィンドウに設定します。



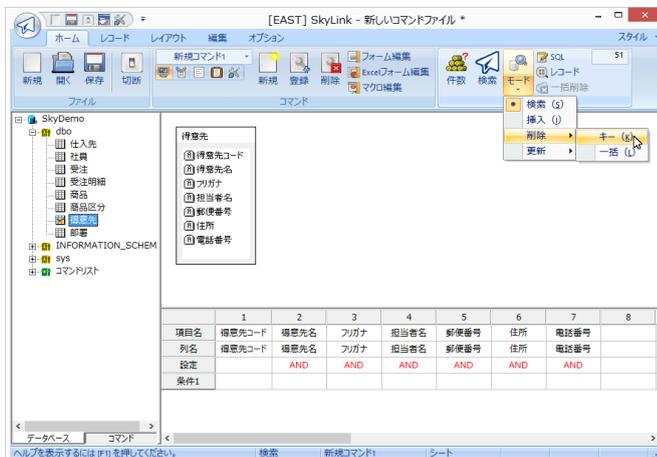
表ウィンドウに表示されている表 [得意先] の列を全部選択して設定ウィンドウにドラッグすると、設定ウィンドウに設定される

2. キー削除モードにする

初期値は検索モードになっているので、キー削除モードに変更します。

6.2 キー項目の値によってレコードを削除する

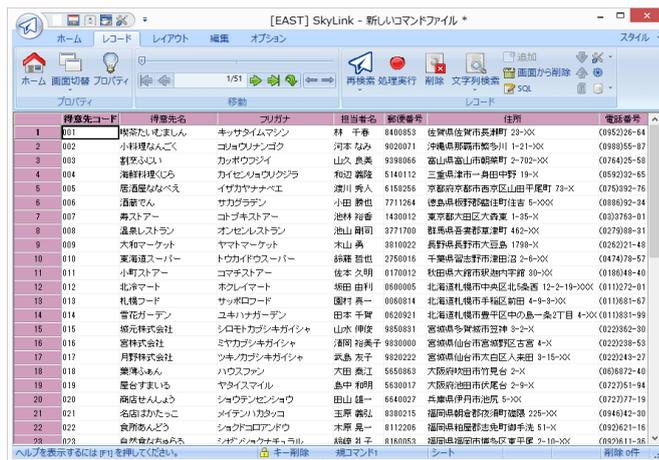
[ホーム]タブ[データベース]グループの[モード]ボタン-[削除]-[キー(K)]を選択する



3. 検索をする

[検索]ボタンをクリックして、全レコードを検索します(必要なら検索条件を指定して、検索レコードを絞り込むこともできます)。

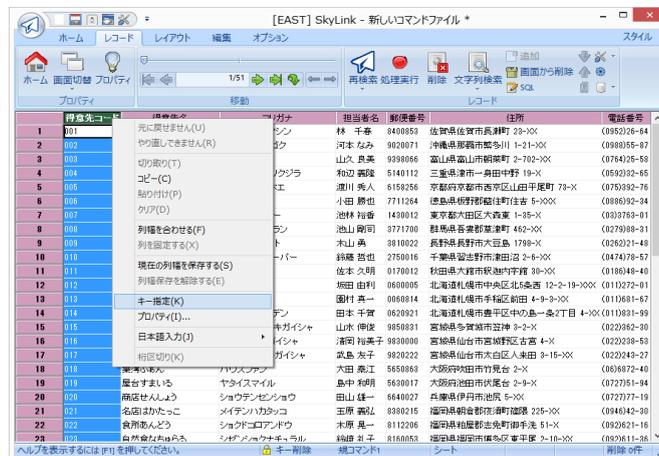
全レコードが検索される



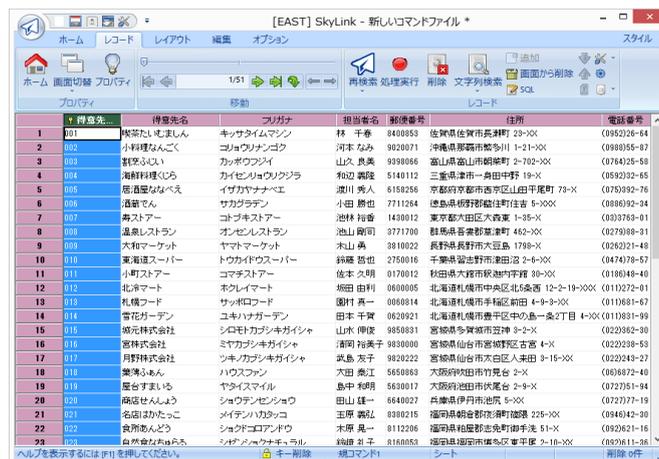
4. 削除キー項目を設定する

削除キー項目 [得意先コード] にキー指定を行います。キー指定されている項目名には、カギのマークが表示されます。

6 データベースからレコードを削除する



項目名をマウスで右クリックして表示されるメニューで、[キー指定(K)]を選びます。



5. 削除するレコードの選択

左端の番号のクリックやドラッグ、[Shift] キーと [Ctrl] キーの押下を組み合わせて削除したいレコードを選択します。

ここでは「得意先コード」が「010」のレコードをクリックしてから、[Ctrl] キーを押しながら「020」のレコードをクリックして選択します。

6.2 キー項目の値によってレコードを削除する

レコード番号	得意先名	フリガナ	担当者名	郵便番号	住所	電話番号
1	喫茶たいましまん	キッサタムママン	林 千春	8400855	佐賀県佐賀市長井町 23-XX	095226-14
2	小料理なごんこ	コリョウリナゴコ	河本 なみ	9020071	沖縄県那覇市美里1-21-10X	098085-07
3	割烹ふくい	カッポウフクイ	山久 良美	9390066	富山県富山市朝陽町 2-702-XX	076425-58
4	海鮮料理心ら	カイセンリョウシンラ	和田 義隆	5140112	三重県津市一舟田中野 19-X	059202-65
5	居酒屋ななべ	イザカヤナナベ	瀧川 秀人	6150256	京都府京都市西京区山田平尾町 73-X	075392-76
6	酒蔵でん	サカクラデン	小田 勝也	7711264	徳島県那賀郡佐田町住吉 5-XX	088692-34
7	寿ストア	コトキストア	池林 裕香	1430012	東京都大田区大森東 1-85-X	033783-01
8	温泉レストラン	オンセレストラン	池山 南司	3771700	群馬県吾妻郡草津町 465-XX	027908-31
9	大和マーケット	ヤマトマーケット	木山 勇	3810022	長野県長野市大田島 1798-X	026221-40
10	家電量販店	トウカイのスーパー	松本 智也	0270010	栃木県足利市湯田2-28-2X	047476-57
11	小町ストア	コマチストア	佐本 久明	0170012	秋田県大館市釈迦内字野 30-XX	018640-40
12	北沢マート	ノレイマート	坂田 由利	0600005	北海道札幌市中央区北5条西 12-2-19-XX	011272-01
13	札幌マート	サッポロマート	園村 真一	0600814	北海道札幌市手稲区新田 4-9-3-XX	011361-67
14	雪花がーデン	ユキハナガーデン	田本 千賀	0620921	北海道札幌市豊平区中の島一桑2丁目 4-XX	011381-99
15	宮林株式会社	シロネトカブシキガイシャ	山本 伸俊	9850831	宮城県多賀城市芝神 3-2-X	0229362-30
16	宮林株式会社	ミヤカブシキガイシャ	瀧岡 裕美子	9830000	宮城県仙台市宮城野区古吉 4-X	022928-50
17	月野株式会社	ツキノカブシキガイシャ	武島 友子	9820222	宮城県仙台市太白区人來田 3-15-XX	022949-27
18	樂海ももん	ハウスマイル	大田 義江	5850865	大分県中津市竹見台 2-X	0963672-40
19	藍谷すまいる	イダタスマイル	島中 和明	5630017	大分県津久井町尾花 2-9-X	0972951-94
20	阪谷せんじょう	ヒョウケンセンショウ	山山 健一	0440027	千葉県伊予市池尻 5-XX	0472772-10
21	名園たかっこ	メイデンタカッコ	玉塚 義弘	0380216	福岡県朝倉郡津井町津路 225-XX	094642-30
22	食路あんどう	ショクダコリアンドウ	木原 晃一	8112206	福岡県粕屋郡志免町御手洗 51-X	092621-16
23	自然豊かなみみ	シバノカブシキガイシャ	稲塚 弘子	8160053	福岡県福岡市南区車平 2-10-XX	0937611-26

6. 削除レコード指定を選択する

レコード番号	得意先名	フリガナ	担当者名	郵便番号	住所	電話番号
1	喫茶たいましまん	キッサタムママン	林 千春	8400855	佐賀県佐賀市長井町 23-XX	095226-14
2	小料理なごんこ	コリョウリナゴコ	河本 なみ	9020071	沖縄県那覇市美里1-21-10X	098085-07
3	割烹ふくい	カッポウフクイ	山久 良美	9390066	富山県富山市朝陽町 2-702-XX	076425-58
4	海鮮料理心ら	カイセンリョウシンラ	和田 義隆	5140112	三重県津市一舟田中野 19-X	059202-65
5	居酒屋ななべ	イザカヤナナベ	瀧川 秀人	6150256	京都府京都市西京区山田平尾町 73-X	075392-76
6	酒蔵でん	サカクラデン	小田 勝也	7711264	徳島県那賀郡佐田町住吉 5-XX	088692-34
7	寿ストア	コトキストア	池林 裕香	1430012	東京都大田区大森東 1-85-X	033783-01
8	温泉レストラン	オンセレストラン	池山 南司	3771700	群馬県吾妻郡草津町 465-XX	027908-31
9	大和マーケット	ヤマトマーケット	木山 勇	3810022	長野県長野市大田島 1798-X	026221-40
10	家電量販店	トウカイのスーパー	松本 智也	0270010	栃木県足利市湯田2-28-2X	047476-57
11	小町ストア	コマチストア	佐本 久明	0170012	秋田県大館市釈迦内字野 30-XX	018640-40
12	北沢マート	ノレイマート	坂田 由利	0600005	北海道札幌市中央区北5条西 12-2-19-XX	011272-01
13	札幌マート	サッポロマート	園村 真一	0600814	北海道札幌市手稲区新田 4-9-3-XX	011361-67
14	雪花がーデン	ユキハナガーデン	田本 千賀	0620921	北海道札幌市豊平区中の島一桑2丁目 4-XX	011381-99
15	宮林株式会社	シロネトカブシキガイシャ	山本 伸俊	9850831	宮城県多賀城市芝神 3-2-X	0229362-30
16	宮林株式会社	ミヤカブシキガイシャ	瀧岡 裕美子	9830000	宮城県仙台市宮城野区古吉 4-X	022928-50
17	月野株式会社	ツキノカブシキガイシャ	武島 友子	9820222	宮城県仙台市太白区人來田 3-15-XX	022949-27
18	樂海ももん	ハウスマイル	大田 義江	5850865	大分県中津市竹見台 2-X	0963672-40
19	藍谷すまいる	イダタスマイル	島中 和明	5630017	大分県津久井町尾花 2-9-X	0972951-94
20	阪谷せんじょう	ヒョウケンセンショウ	山山 健一	0440027	千葉県伊予市池尻 5-XX	0472772-10
21	名園たかっこ	メイデンタカッコ	玉塚 義弘	0380216	福岡県朝倉郡津井町津路 225-XX	094642-30
22	食路あんどう	ショクダコリアンドウ	木原 晃一	8112206	福岡県粕屋郡志免町御手洗 51-X	092621-16
23	自然豊かなみみ	シバノカブシキガイシャ	稲塚 弘子	8160053	福岡県福岡市南区車平 2-10-XX	0937611-26

[削除] ボタンをクリックすると

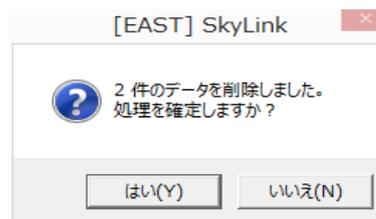
6 データベースからレコードを削除する

取得番号	得意先名	フリガナ	担当省名	郵便番号	住所	電話番号	
1	001	楽楽たいてましん	キッサタイムマシン	橋 千春	8400853	佐賀県佐賀市長井町 29-XX	(0952)26-64
2	002	小羽祥なんごく	コホウリナンゴク	河本 なみ	9020071	沖縄県那覇市船場川 1-21-XX	(098)8155-87
3	003	割烹ふんい	カッポウフンイ	山久 良美	9398066	富山県富山市朝幸町 2-702-XX	(0764)25-58
4	004	海崎祥輝くら	カイセイシヨウクワラ	和辺 義隆	5140112	三重県津市一員田中野 19-X	(059)232-65
5	005	唐澤聖ななべえ	イザカヤナナベエ	渡川 秀人	6158256	京都府京都市西京区山田平尾町 79-X	(075)392-76
6	006	通成でん	サカガラデン	小田 勝世	7711264	徳島県板野郡脇注町注吉 5-00X	(0886)92-94
7	007	海ストアー	コブキストアー	池林 裕香	1430012	東京都大田区大森南 1-35-X	(03)3783-01
8	008	通成システム	オビセルシステム	池山 剛司	5771700	群馬県吾妻郡新井町 462-XX	(02)7809-91
9	009	大野アーケード	ヤマノアーケード	木山 勇	9910022	長野県長野市大石島 1709-X	(026)331-49
10	010	北海道スーパー	トウカイドスーパー	結城 哲也	2750016	千葉県習志野市津田 2-6-XX	(0474)78-57
11	011	小町ストアー	コマチストアー	佐本 文明	0170012	秋田県大館市沢田町字権 80-XX	(0186)48-40
12	012	北洋マート	ホクレイマート	塚田 由利	0600005	北海道札幌市中央区北5条西 12-2-19-00X	(011)272-01
13	013	札幌フード	サッポロフード	塚村 真一	0606814	北海道札幌市手稲区新田 4-9-9-XX	(011)681-67
14	014	雪花ガーデン	ユキハナガーデン	田本 千賀	0620921	北海道札幌市豊平区中の島一桑2丁目 4-0-0X	(011)831-99
15	015	桜花株式会社	シロモカサキホフイン	山水 伸徳	9850831	宮城県多賀城市笠神 9-2-X	(022)392-20
16	016	西村株式会社	ニシムラホフイン	濱岡 裕美子	9830000	宮城県仙台市宮城野区吉野 4-X	(022)239-58
17	017	月野株式会社	ツキノホフイン	武島 英子	9820222	宮城県仙台市太白区人妻田 9-15-00X	(022)243-27
18	018	東海ふんい	ハウスマン	大田 尚江	5650863	大阪府池田市竹尾台 2-X	(06)6812-40
19	019	慶谷すまいる	ヤタスイマール	島中 利明	5630017	大阪府池田市竹尾台 2-9-X	(072)751-94
20	020	商店せんしゅう	ショウテンセンショウ	田山 健一	6640027	兵庫県伊丹市池尻 5-0-0X	(072)777-19
21	021	名店ほかっこ	メイテンホカッコ	玉原 義弘	6880215	福岡県朝倉郡津井町藤塚 225-00X	(0946)42-30
22	022	食所あんどう	ショウドコリアンドウ	木原 晃一	8112206	福岡県粕屋郡志免町御手洗 51-X	(092)821-16
23	023	自然豊かなおみん	シメジノオクナミナリ	綿津 弘子	8160053	福岡県福岡市博多区草平 3-10-00X	(092)611-36

レコードの色が変わって、削除レコードに設定されたことが分かる

7. 削除の実行

[処理実行] ボタン  を押すと、実際の削除処理が行われます。



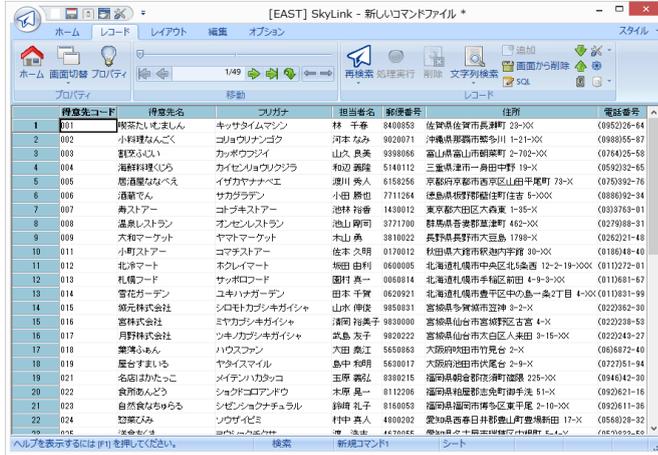
ここで [はい (Y)] を選択すると、処理が確定してレコードが削除されます。ご利用のデータベースによっては、この画面が出ず、そのまま削除される場合もありますので、ご注意ください。

8. レコードが削除されたことの確認

削除が終了すると、メイン画面に戻り検索モードに戻ります。ここで、[検

6.2 キー項目の値によってレコードを削除する

検索] ボタン  をクリックすると次のように表示され、レコードが削除されたことが分かります。



得意先コード	得意先名	コリダナ	担当省名	郵便番号	住所	電話番号
1 001	喫茶たてましん	キッサタムマシン	秋 千春	8400853	佐賀県佐賀市長井町 28-XX	(0952)26-64
2 002	小料理なんごく	コリョウナンゴク	河本 なみ	9820071	沖縄県那覇市繁念川 1-21-XX	(0988)05-87
3 003	製菓ふんい	カッポウフジイ	山次 良美	9380066	富山県富山市朝葉町 2-702-XX	(0764)25-58
4 004	海鮮料理ひろ	カイセンリョウリクジラ	和辺 義隆	5140112	三重県津市一舟田中野 19-X	(0592)32-65
5 005	居酒屋ななべ	イザガヤナナベ	渡川 秀人	6158256	京都府京都市西京区山田平野町 78-X	(075)392-76
6 006	酒肴でん	サカガラン	小田 勝也	7711284	徳島県板野郡板野町住吉 5-XX	(0886)92-34
7 007	舟ストア	フナストア	船井 裕香	1430012	東京都中央区大森東 1-18-X	(03)3763-01
8 008	温泉レストラン	オンセンレストラン	池山 南司	3771700	群馬県吾妻郡基津町 462-XX	(0279)08-91
9 009	大和マーケット	ヤマトマーケット	中山 勇	3810022	長野県長野市大石島 1788-X	(0262)21-48
10 011	小町ストア	コマチストア	佐本 久明	0170012	秋田県六ヶ野市秋通字津 30-XX	(0186)40-40
11 012	北洋マート	ホレイマート	坂田 由利	0600005	北海道札幌市中央区北5条南 12-2-19-XX	(011)272-01
12 013	札幌コード	サッポロコード	園村 真一	0660814	北海道札幌市手稲区新田 4-9-3-XX	(011)681-67
13 014	雪花ガーデン	ユキハナガーデン	田本 千賀	0620921	北海道札幌市豊平区中の島一島2丁目 4-XX	(011)981-99
14 015	福元株式会社	シロネトカシキガイシャ	山内 伸俊	9850031	宮城県青森市笠神 3-2-XX	(022)362-30
15 016	富野株式会社	ミヤノカシキガイシャ	清岡 裕美子	9830006	宮城県仙台市宮城野区古巻 4-XX	(022)38-50
16 017	月野株式会社	ツキノカシキガイシャ	武島 友子	9820222	宮城県仙台市太白区入来田 3-16-XX	(022)243-27
17 018	業塚さん	ハウスフォン	大田 高江	5850868	大阪府吹田市竹尾台 2-X	(06)672-40
18 019	屋台すまいる	ヤケイスマイル	島中 和明	5630017	大阪府吹田市伏魔台 2-9-X	(072)751-94
19 021	名園おかたっこ	メイデンノカクコ	玉塚 義弘	8380215	福岡県朝倉郡津町津隈 225-XX	(094)632-30
20 022	食前あんどう	ショウゴコリアンドウ	木原 晃一	8112206	福岡県糟屋郡志免町御手洗 51-X	(092)621-16
21 023	自然食なちりら	シゼンショクナチュラ	神野 礼子	8160055	福岡県福岡市博多区東千尾 2-10-XX	(092)611-36
22 024	惣菜のみ	ソウサイのみ	村中 真人	4800202	愛知県香川県高松市山崎通南田 17-X	(056)208-22

◆ 注意：キー削除モードでの削除キーの指定について

選択したレコードのみを削除したい場合には、値が重複していない項目を削除キーに指定してください。なぜなら、キー削除モードでは、削除キーの値によってレコードを削除するからです。例えばこの例で、[得意先コード] が「010」と「020」のレコードが他にもあれば、(検索されていなくとも) それらのレコードも削除されてしまいます。1つの削除キーではレコードが一意にならない場合には、複数の削除キーを指定して、レコードを一意にすることもできます。

☺ ヒント：間違いを少なくするには

この例では、全レコードを検索してから削除指定を行いましたが、レコード数が多いときには検索条件を指定して、検索レコードを絞り込んでから、削除指定した方が間違いが少なくなります。ただし、検索されていなくても、削除キーの値が一致したレコードは削除されます。

6.3 条件を満たすレコードを削除する

一括削除を使うと、1度に条件を満たすレコードを削除することができます。

削除例 2

表 [商品] から [区分コード] が「00003」のレコードを削除する

[区分コード] が「00003」のレコードを検索し、それらを一括削除します。

1. 削除モードにする

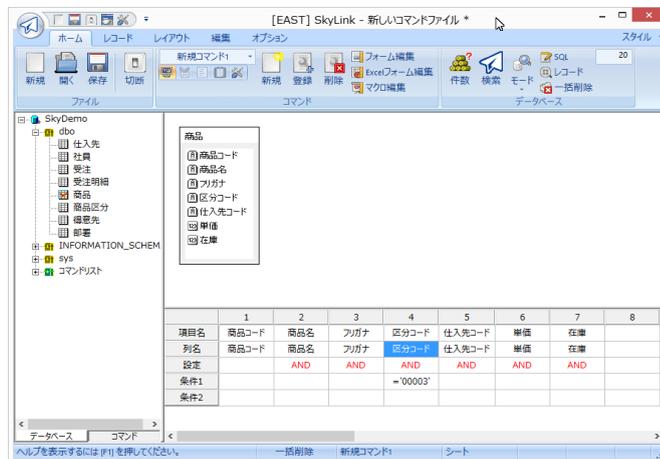


[モード] - [削除 (D)] - [一括 (L)] を選択する

2. 削除するレコードの条件を設定する

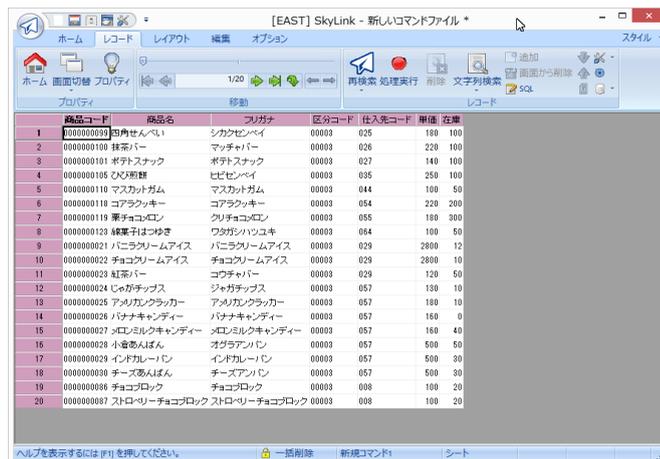
設定ウィンドウで、[区分コード] が「00003」のレコードを検索するように設定します。

6.3 条件を満たすレコードを削除する



3. 検索を実行する

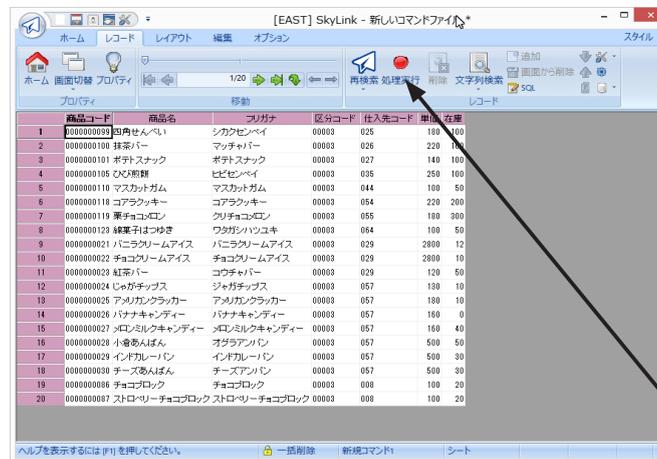
[検索] ボタン  をクリックすると、2 で設定した条件を満たすレコードの一覧が検索表示されます。



4. 削除の実行

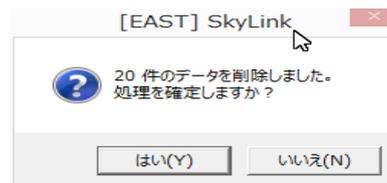
[処理実行] ボタン  をクリックして、検索されているレコードすべての削除を行います。

6 データベースからレコードを削除する



[処理実行]
ボタンをク
リックする

以下の確認メッセージが表示されます。



ここで [はい (Y)] を選択すると、削除処理が確定されます。

5. 削除されたことを確認する

削除が終了すると、メイン画面に戻り検索モードとなりますので、[検索] ボタン  をクリックして、条件で指定したレコードが削除されたことを確認します。

◎ ヒント：削除モード

Oracle 環境では、レコード単位（行レベル）のロック（排他制御）を保証するために削除モードを設定してから削除したいレコードの検索を実行します。検索したすべてのレコードにロックが掛かり、削除

処理を終了するまで他から更新・削除ができなくなります。Oracle 環境以外では、検索モードで削除したいレコードを検索してから、[モード] - [削除 (D)] を選択して、削除モードに移行することもできます。

◎ ヒント：削除をキャンセルする

[処理実行] ボタンをクリックする代わりに、[ホーム] ボタンをクリックすると、削除をキャンセルできます。

また、[処理実行] ボタンをクリックした後も、その後表示される 2 回の確認メッセージで [いいえ (N)] ボタンをクリックすれば、一括削除をキャンセルできます。

7. データベースの レコードを更新する

レコード更新の方法を説明します。

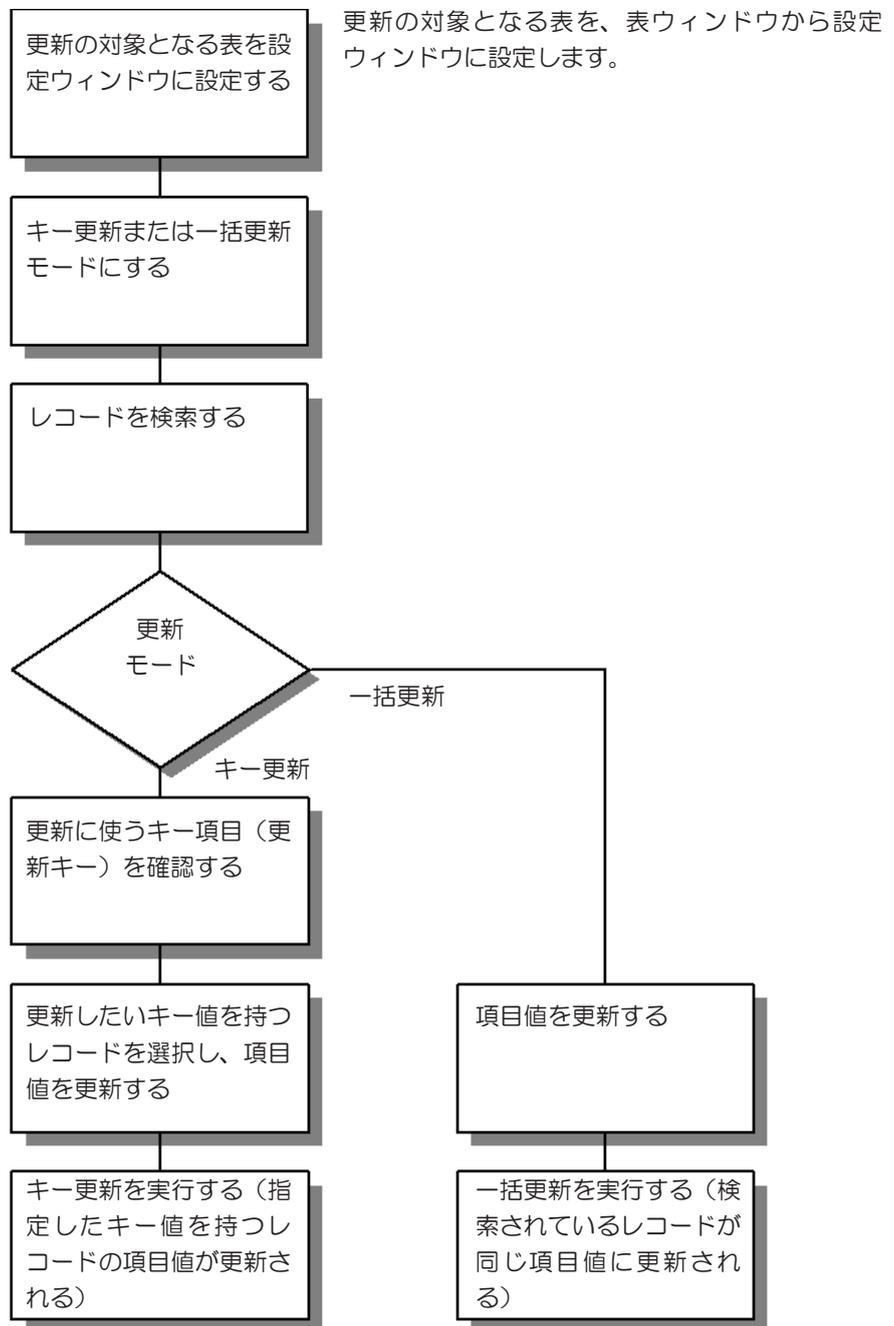
7.1

更新の手順

検索／更新用の SkyLink をお使いの場合には、更新モードで、データベースのレコードを更新することができます。

更新方法には、検索したレコードを一括して更新する方法（一括更新）と、更新キーが指定した値であるレコードを個別に更新する方法（キー更新）があります。

レコードの更新の手順は次のようになります。



7.2

検索したレコードを一括更新する

最初に、検索したレコードの特定の項目の値を一括更新する例を挙げましょう。一括更新モードのときには、更新値はすべての検索レコードに対して反映されます。

更新例 1

〔仕入先コード〕が「043」の商品の単価を「100円」上げる

表〔商品〕において、〔仕入先コード〕が「043」のレコードの〔単価〕を100円アップします。

1. 表〔商品〕を設定ウィンドウに設定する

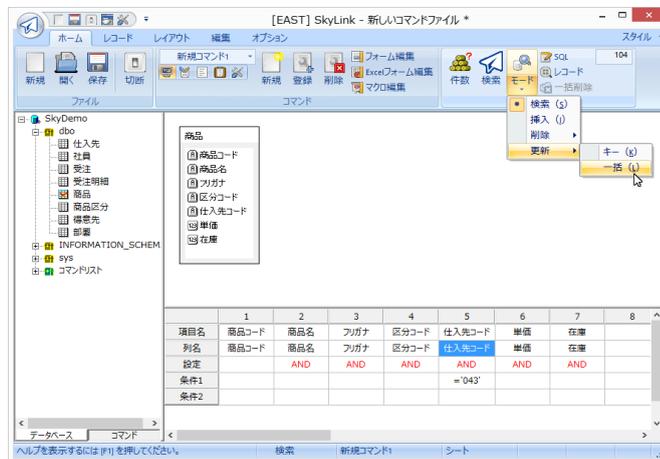
表〔商品〕のすべての列を設定ウィンドウに追加して、列〔仕入先コード〕に「=043」の条件を指定します。



2. 一括更新モードにする

初期値は検索モードになっていますので、一括更新モードに変えます。

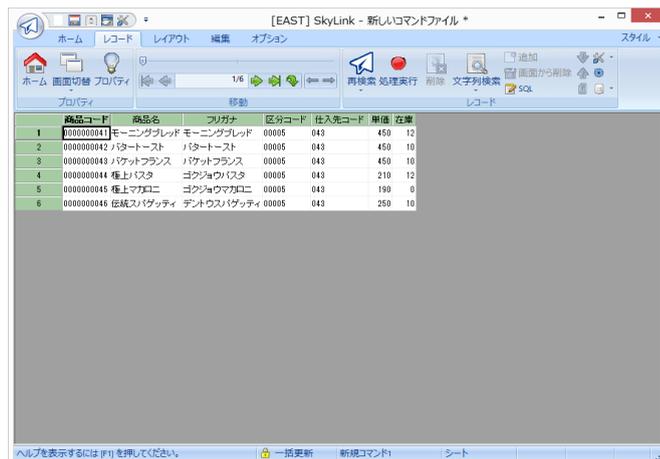
7.2 検索したレコードを一括更新する



[ホーム]タブ[データベース]グループの[モード]ボタン→[更新]→[一括(L)]を選択する

3. 検索する

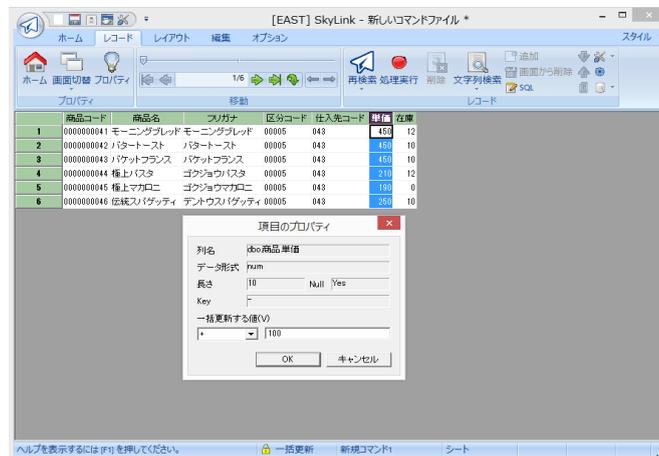
[検索]ボタンをクリックすると、次のように一括更新の対象となるレコードが画面に表示されます。



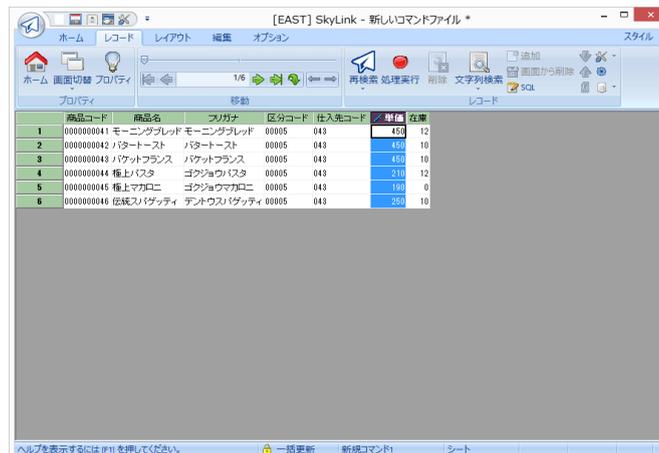
4. 一括更新する項目と値を指定する

[単価]項目のタイトルをマウスで右クリックして表示されるメニューで[プロパティ(I)]を選択して、[項目のプロパティ]ダイアログを表示します。

7 データベースのレコードを更新する

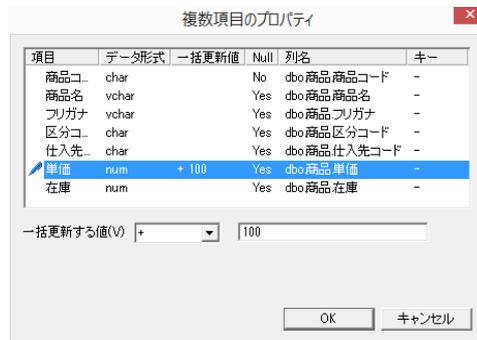


[演算子]に「+」、値に「100」を設定して[OK]ボタンを押します。



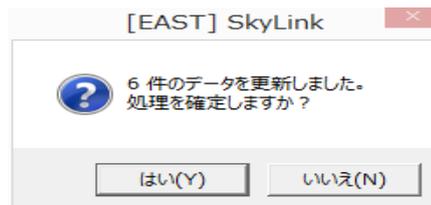
[単価]のタイトルにペンのマークが表示され、更新データが設定されているのが分かります。

上記以外にも、メニューから[レコード]タブ[プロパティ]グループの[プロパティ]ボタンを選択することによって表示される、[複数項目のプロパティ]ダイアログでも変更する値を指定することができます。



5. 一括更新の実行

[処理実行] ボタン  を押して、一括更新処理を行います。



[はい (Y)] ボタンを押すことで更新処理が確定されます。

◎ ヒント：更新モード

Oracle 環境では、レコード単位（行レベル）のロック（排他制御）を保証するために更新モードから更新したいレコードの検索を実行します。検索したすべてのレコードにロックが掛かり、更新処理を終了するまで他から更新・削除ができなくなります。Oracle 環境以外では、検索モードで更新したいレコードを検索してから、[モード (M)] - [更新 (U)] を選択して、更新モードに移行することもできます。

◎ ヒント：一括更新の種類

一括更新時には、次のような演算を指定することが可能です。例えば、[単価] に「1.08」を掛けて税込金額を出すときには、演算子メニューから「*」を選択してからボックスに「1.08」を入力して [OK] ボタ

7 データベースのレコードを更新する

ンをクリックします。

=	右の値に等しくする
*	現在の値を n 倍する
/	現在の値を n で割る
+	現在の値に n を足す
-	現在の値から n を引く
空白値	空白値にする

なお、文字項目に対しては「=」と「空白値」のみ選択可能です。

◎ ヒント：複数の項目を一括更新する

ここでは、1つの項目に対して一括更新値を設定して[処理実行]ボタンをクリックして一括更新をしましたが、複数の項目に対して更新値を設定してから[処理実行]ボタンをクリックしてまとめて一括更新をすることもできます。

7.3

キー項目を指定してレコードを更新する

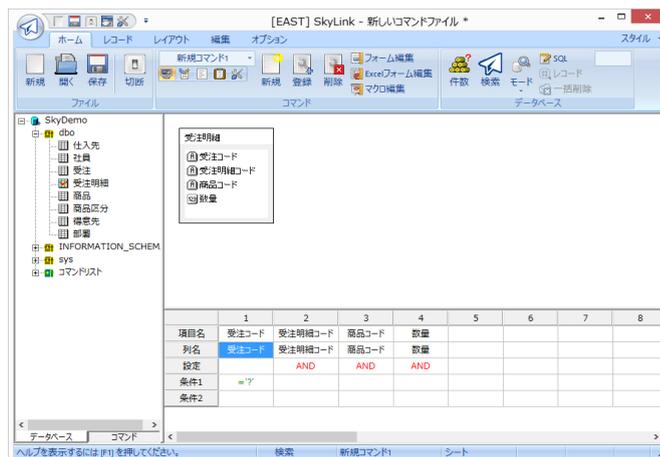
更新例 1 は、検索したレコードのすべてを更新の対象範囲としましたが、キー項目の値によって更新レコードを選択するキー更新の例を挙げます。

更新例 2

[受注コード] が「0000001003」、[受注明細コード] が「03」と「04」の数量を変更する

表 [受注明細] において、[受注コード] が「0000001003」、[受注明細コード] が「03」の数量を「5」から「20」に、「04」の数量を「10」から「50」へ変更します。

1. [受注明細] 表のすべてを設定ウィンドウに追加し、[受注コード] の条件を「可変」と設定する

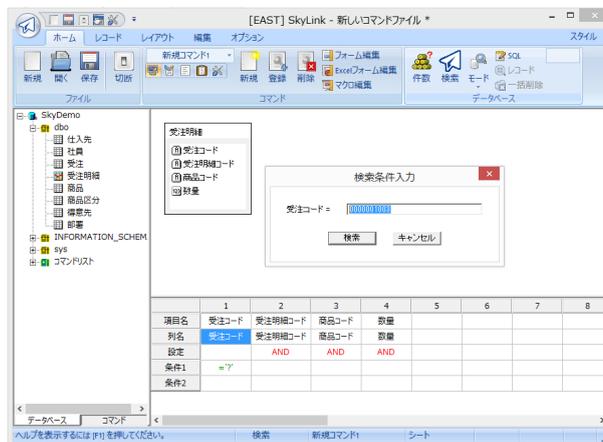


2. [キー更新] モードにして検索する

[ホーム] タブ [データベース] グループの [モード] ボタンー [更新]

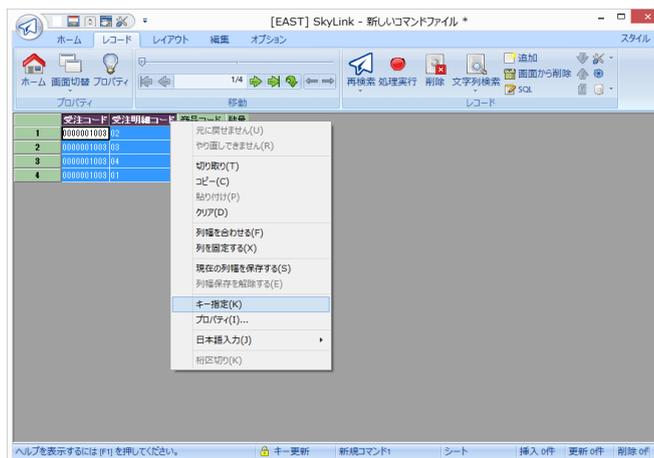
ー [キー (K)] を選択し、[検索] ボタン  をクリックします。

7 データベースのレコードを更新する



検索条件に「可変値」を指定したので、条件フォームが表示されます。
ここで条件を「0000001003」にして検索を行います。

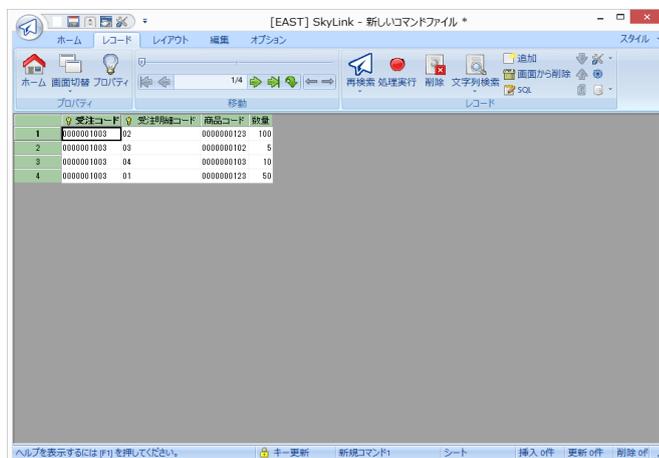
3. 更新キー項目を指定する



[受注コード] と [受注明細コード] のタイトルを選択し、マウスの右ボタンをクリックして表示されるメニューで [キー指定 (K)] を選びます。

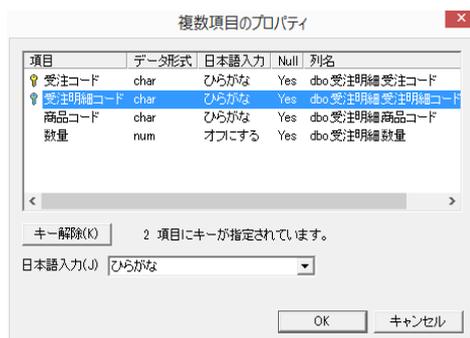


7.3 キー項目を指定してレコードを更新する



更新キー項目にはカギのマークが表示されます。

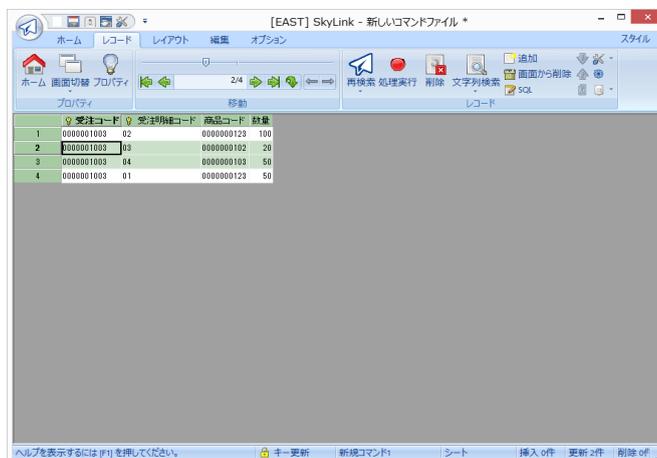
このほかにも、メニューから [レコード (R)] - [プロパティ (I)] を選択すると、[複数項目のプロパティ] ダイアログが表示されますので、そこでもキー指定を行うことができます。



4. データを変更する

[受注明細コード] が「03」の数量を「5」から「20」へ、「04」の数量を「10」から「20」へ変更します。

7 データベースのレコードを更新する



データを変更すると、変更したレコードの背景色が変わります。
また、ステータスバーに更新レコード数が表示されます。



5. 更新の実行

[処理実行] ボタン  を押して、キー更新を実行します。



- 注意：キー更新モードでの更新キーの指定について
更新値を設定したレコードのみを更新したい場合には、一意な項目（値の重複していない項目）を更新キーに指定してください。キー更新モー

ドでは、更新されるのは、直接更新したレコードだけではなく、更新したレコードと同じキーの値を持つレコードがあれば、それらが検索表示されていなくても更新されてしまうからです。1つの更新キーではレコードが一意にならない場合には、複数の更新キーを指定してレコードを一意にすることもできます。

◎ ヒント：フォーム画面で更新キーを指定する

フォーム画面でも更新キーを指定することができます。そのためには、項目名を右クリックしてポップアップメニューから [キー指定 (K)] を選択します。キーのマークが付きます。

◎ ヒント：シート画面でのデータ文字列の部分的な修正

シート画面でセルをクリックした状態でキー入力するとデータ全体が上書きされますが、データ文字列を部分的に修正したいときは、セルをダブルクリックして文字カーソル（キャレット）を表示させてから修正できます。

更新用のフォームを作成する

ではここで、更新用のフォームを作成してみましょう。フォームを作成しておけば、「キー項目」指定や、変更されたくないデータにガードをかけることができます。

1. 新しいコマンドを作成し、[商品]表の[商品名]と[商品コード]を出力するコマンドを作成する

現在のコマンドを「受注明細更新」として登録し、新しいコマンドを作成します。設定する列は[商品]表の[商品名]と[商品コード]の2つです。

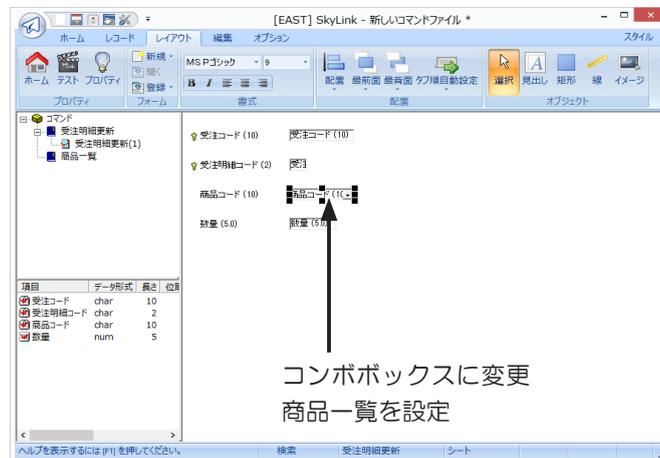
	1	2
項目名	商品名	商品コード
列名	商品名	商品コード
設定		AND
条件1		

コマンド名を「商品一覧」として登録し、「受注明細更新」コマンドに戻ります。

2. フォーム編集画面に遷移して、フォームを作成する

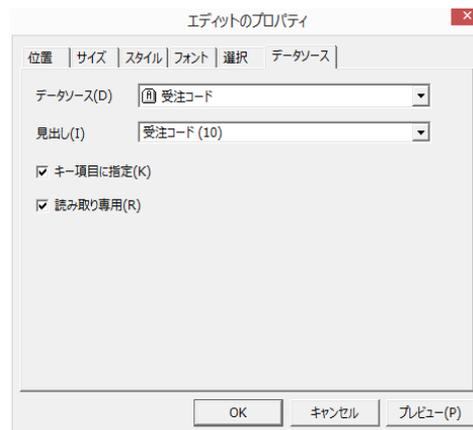
先程キー指定をしてあるので、すでにキーの指定がされたフォームが作成されます。変更する場合には、変更したい入力オブジェクトをマウスで右クリックし、「キー指定」または「キー解除」を選択します。また、項目の配置も変更してみます。

7 データベースのレコードを更新する



コンボボックスに商品一覧を設定します。コンボボックスをマウスで右クリックして [プロパティ (I)] を選択し、[コンボボックスのプロパティ] ダイアログを表示します。[選択] タブで [インポート (I)] - [コマンド (M)] を選択し、「商品一覧」コマンドをインポートします。

次に [受注コード] のエディットをマウスで右クリックして [プロパティ (I)] を選択し、[エディットのプロパティ] ダイアログを開いて [データソース] タブに移動し、[読み取り専用 (R)] チェックボックスにチェックを付けます。[受注明細コード] も同様に読み取り専用にします。

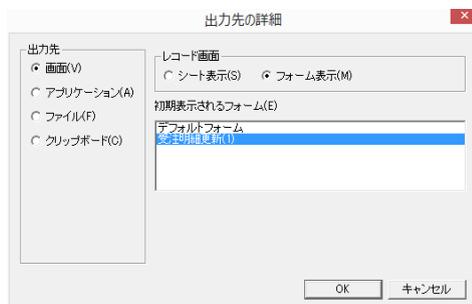


読み取り専用にすることで、不注意なコードの変更をできないようにします。

3. 出力先を作成したフォームにする

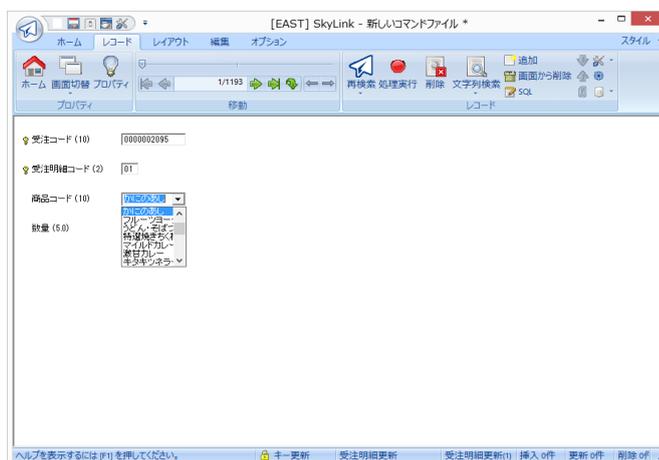
フォームを登録してメイン画面に戻り、[出力切替] ボタンで上で作成したフォームを指定します。

7.3 キー項目を指定してレコードを更新する



4. キー更新モードにして検索を実行する

検索条件フォームに「30001」と入力して検索を行います。



フォームが表示され、商品名（商品コード）、数量が入力可能となります。商品を変更する場合も、コンボボックスから該当の商品を選択するだけです。とても簡単になりました。また、[受注コード]、[受注明細コード]は編集が出来なくなったため、ケアレスミスによる更新も防ぐことができます。

このフォームの読み取り専用部分を変更して、挿入用のフォームを作成することも簡単に行えるでしょう。

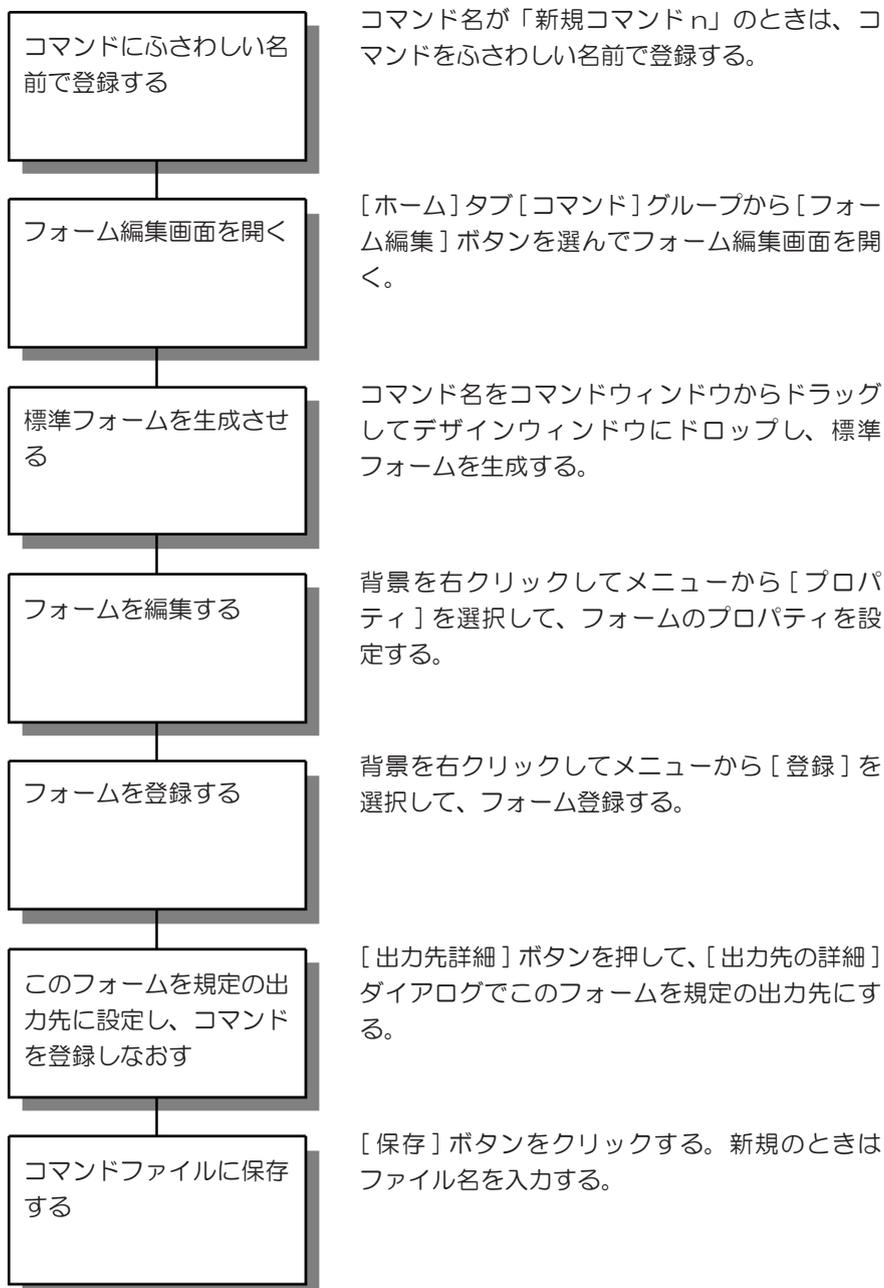


8. フォームを編集する

フォーム編集の方法を説明します。

8.1 編集の手順

フォームとは、各項目が配置された用紙や画面のことをいいます。SkyLink でのフォームは検索レコードを出力したり、挿入するレコードや更新するレコードを編集するために、項目と見出しなどが配置された画面のことをいいます。SkyLink はデフォルトフォームと呼ばれるフォームを持ち、レコード画面のフォーム表示で普段から使用されます。デフォルトフォームとは別に SkyLink のユーザーが新たにデザインしたフォームを使用することができます。フォームをデザインする手順は次のようになります。



8.2

標準フォームを利用する

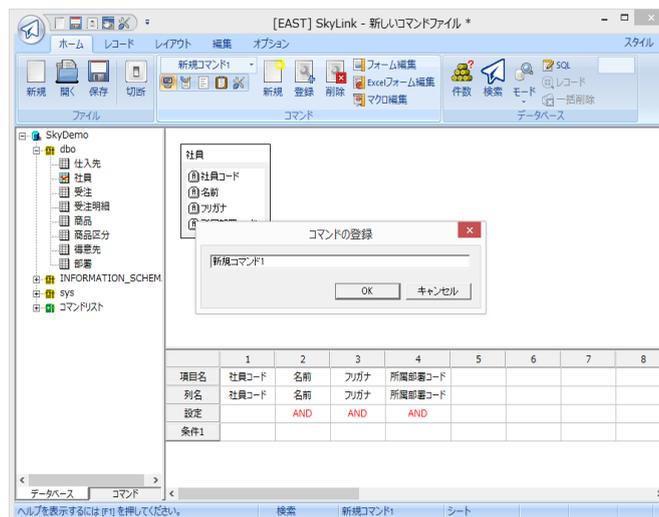
最初に、デフォルトフォームとレイアウトが同じフォームを利用して、最低限必要な一連の操作をしてみます。

編集例 1

フォームの背景色を目にやさしい色にする

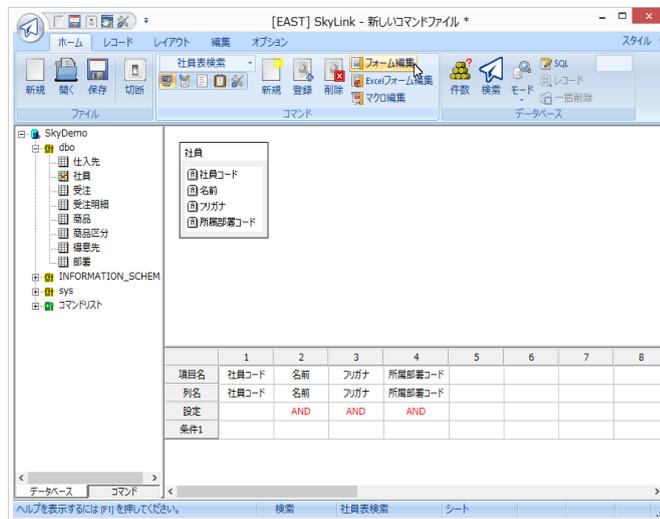
1. コマンドを登録する

コマンドをもとに生成されるフォームはコマンドと同じ名前になりますので、デフォルトのコマンド名（「新規コマンド 1」など）のままのときは、ふさわしい名前でもコマンドを登録しておきます。



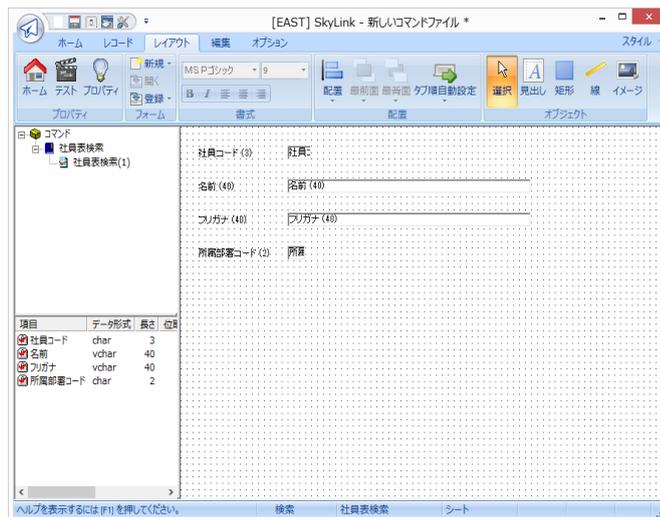
2. フォーム編集画面を開く

[ホーム]タブ[コマンド]グループの[フォーム編集]ボタンを押下します。



3. 標準フォームを作成する

フォーム編集画面でコマンド名をドラッグしてデザインウィンドウにドロップします。

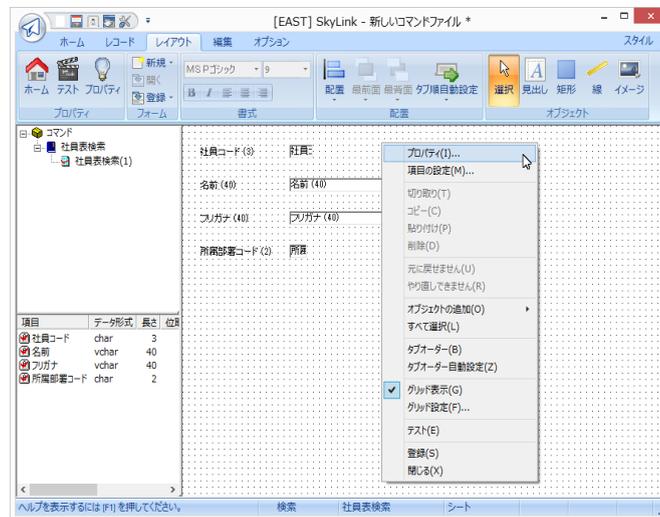


デフォルトフォームと同じレイアウトのフォームが作成されます。

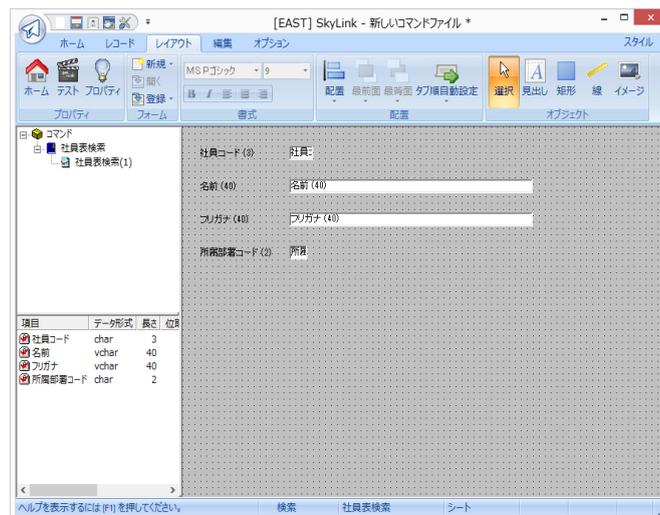
4. フォームの背景色を変更する

フォームの背景色は [フォームのプロパティ] ダイアログで設定します。

8 フォームを編集する



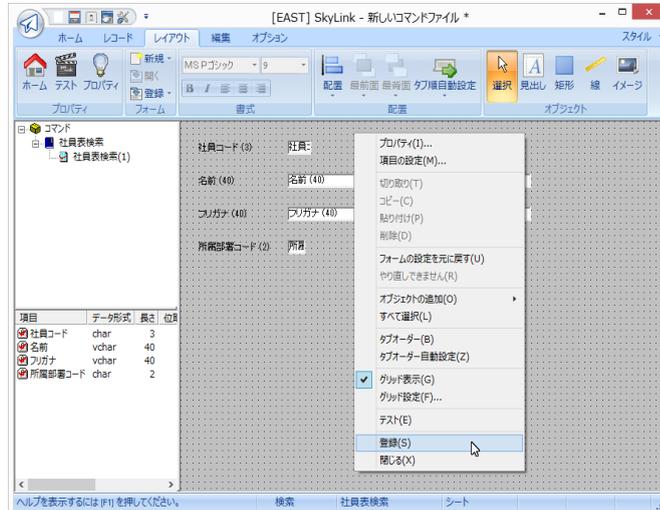
背景で右クリックしてメニューから [プロパティ (I)] を選択する



フォームの背景色が変更される

5. フォームを登録する

コマンドツリーに表示されているフォーム名で登録します。



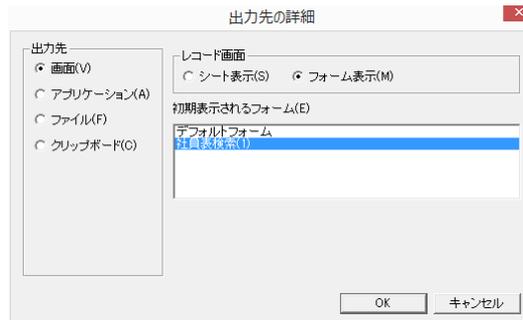
背景で右クリックしてメニューから [登録 (S)] を選択する

6. メイン画面に戻る

レコード画面からメイン画面に戻るときと同じように [ホーム] ボタンをクリックします。

7. フォームを出力先の規定値にする

今作成したフォームに検索結果が出力されるように設定します。



8. コマンドを登録し直す

コマンドとして出力先の規定値を有効にするために、コマンドを登録し直します。

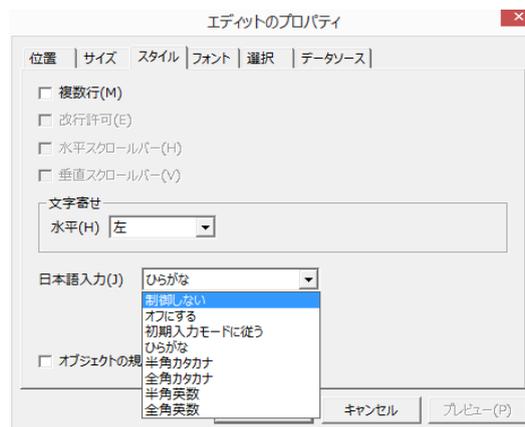
◎ ヒント : 「新規コマンド n」 でフォームを作ってしまったとき

8 フォームを編集する

コマンドツリーの「新規コマンド n」という名前をドラッグしてデザインウィンドウにドロップすると、「新規コマンド n」という名前のフォームができてしまいます。フォームの名前を変更するときは、以下のことをします。[レイアウト]タブ[フォーム]グループから[登録]ボタンを押下して[名前を付けて登録(A)]を選択します。[名前を付けて登録]ダイアログでふさわしい名前を入力します。不要になった「新規コマンド n」というフォームは、フォーム名を右クリックして[削除]を選択して削除できます。

◎ ヒント：日本語項目の日本語入力を制御する

[社員]表の[名前]や[フリガナ]は日本語の項目です。挿入モードや更新モードのレコード画面でこれらの項目にフォーカスが移動したときに、日本語入力を自動で制御できると便利です。これは項目のプロパティを設定することでできます。項目を右クリックしてメニューから[プロパティ(I)]を選択して[項目のプロパティ]ダイアログの[スタイル]タブ、[日本語入力(J)]コンボボックスより指定します。



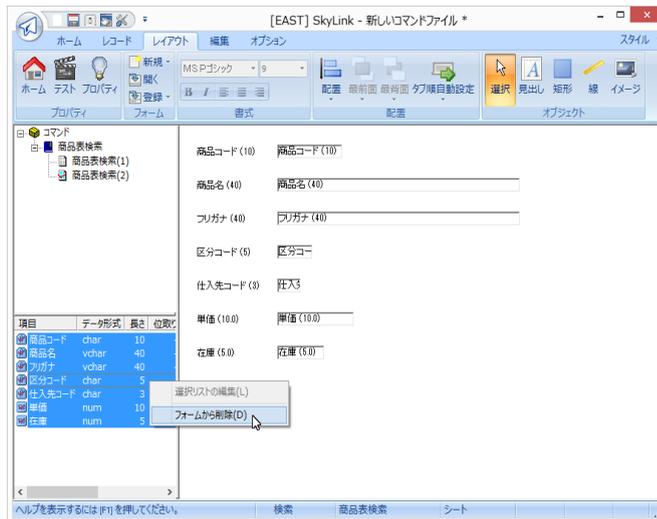
8.3

基本的なレイアウト操作

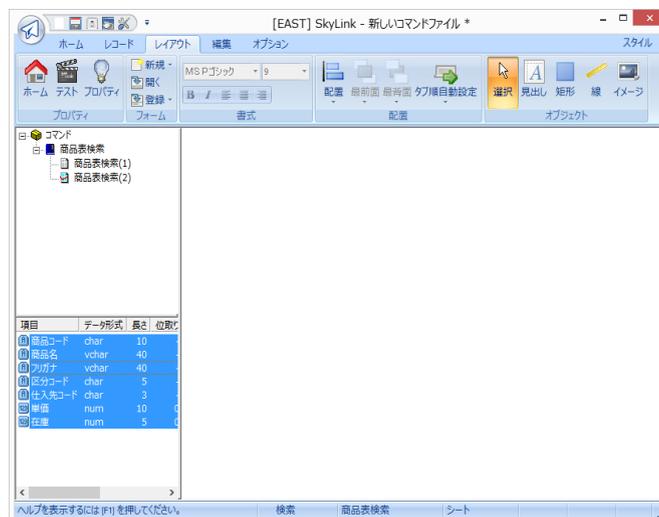
ここでは、何も無いフォームを作成して、そこに SkyLink のフォームオブジェクトを追加して、基本的なレイアウト操作をしてみます。

「8.2 標準フォームを利用する」で作成した手順で、デフォルトと同じフォームを作成します。

列選択リストから列をすべて選択後、右クリックで表示される [フォームから削除 (D)] メニューを選択します。



8 フォームを編集する



オブジェクトの無いフォームが表示される

オブジェクトの種類

SkyLink のフォームには以下のようなオブジェクトを配置することができます。特に、見出しと項目オブジェクトは、メイン画面の設定ウィンドウに設定した項目から作られるオブジェクトです。検索結果を表示したり、挿入、更新データを入力するためのテキストボックスとして使われます。

- ・見出しと項目オブジェクト（データソースリストから）
- ・見出しオブジェクト（ ボタン）
- ・矩形オブジェクト（ ボタン）
- ・線オブジェクト（ ボタン）
- ・イメージオブジェクト（ ボタン）

オブジェクトを追加（配置）する

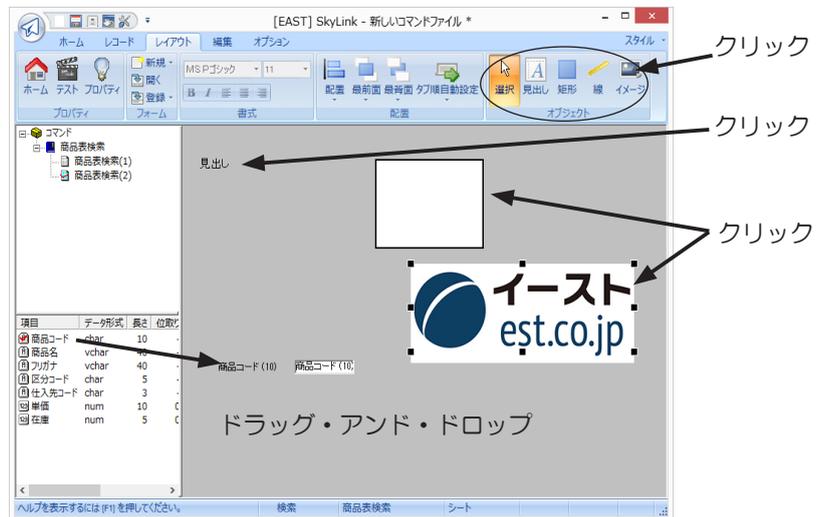
[見出し],[矩形],[線],[イメージ]のいずれかのオブジェクトはオブジェクトバー  のそれぞれのボタンをクリックしてから配置します。

カーソルをデザインウィンドウに移動すると十字カーソルに変わります。配置したい位置でクリックすると、左上から右下方向に適当な大きさのオブジェクトが配置されます。また、クリックする代わりに、オブジェクトの大きさを考慮に入れてドラッグしても配置できます。この場合、ドラッグする方向は自由ですので、すでに配置されているオブジェクトに接するような配

置の仕方でもできます。

見出しと項目オブジェクトはデータソースリストから項目の名称をドラッグして配置します。

項目の名称をドラッグ（マウス左ボタンを押したままでカーソルを移動すること）し始めるとカーソルがテキストボックスの形をしたカーソルに変わります。デザインウィンドウに移動すると見出しの矩形と項目の矩形が現れます。配置したい位置でドロップ（マウス左ボタンを押していたのを止めること）すると、見出しと項目オブジェクトが配置されます。複数の見出しと項目オブジェクトを一度に連続して配置するときは、まず [Shift] キーや [Ctrl] キーを押しながら項目を選択してからドラッグしてから配置します。



オブジェクトボタンをクリックしてから、配置したい位置でクリック、またはドラッグしてオブジェクトを配置します。データソースリストから配置する場合は、該当の列をウィンドウにドラッグ・アンド・ドロップします。

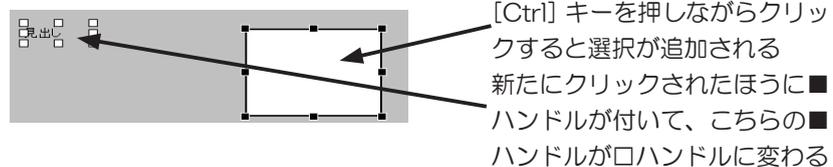
オブジェクトを選択する／選択を解除する

オブジェクトをクリックして選択します。■（黒）ハンドルが表示されます。カーソルはオブジェクトの上に来ると上下左右方向矢印に変わりますので、線オブジェクトのような細いオブジェクトをクリックする前に確認できます。

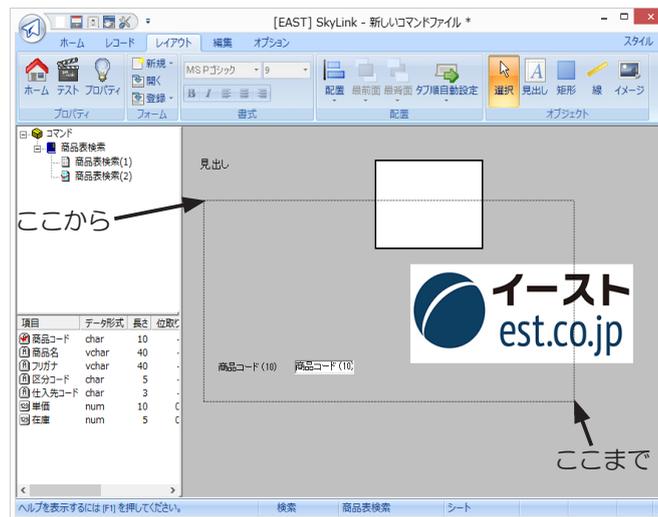
選択されているオブジェクト以外の位置をクリックすると、新たにクリックした位置にあるオブジェクトが選択され、選択されていたオブジェクトの選択が解除されます。そのクリックした位置がオブジェクトでないところ（背景）の場合は何も選択されていない状態になります。また、[Shift] キーを押しながらクリックすると、そのオブジェクトだけの選択が解除されます。

8 フォームを編集する

複数選択方法 1 : [Ctrl] キーを押しながらクリックすると複数のオブジェクトを選択できます。新たに選択されたオブジェクトには■ (黒) ハンドルが表示され、すでに選択されていたオブジェクトは□ (白) ハンドルに変わります。□ハンドルも選択されていることを表します。



複数選択方法 2 : ドラッグして複数のオブジェクトを範囲選択できます。選択したいオブジェクトの近くの背景からドラッグを始めると点線の矩形が現れます。この矩形が選択したいオブジェクトと重なるように広げてドロップしますと、オブジェクトが選択されます。背景の狭い位置からドラッグを始める前に通常のウィンドウカーソルであることを確認します。



複数選択方法 3 : 編集メニューまたは背景を右クリックしてポップアップメニューの [すべて選択 (L)] を選択して、すべてのオブジェクトを選択できます。

オブジェクトを移動する

オブジェクトをドラッグして移動します。細い線を移動するときにはカーソルが上下左右矢印に変わったらドラッグして移動できます。複数のオブジェクトをいっしょに移動したいときは、複数のオブジェクトを選択してからその中の任意のオブジェクトをドラッグします。

ドラッグを始めると選択されているオブジェクトと同じ大きさの点線の矩形が現れます。この矩形を目的の位置まで移動してドロップしますと、オブジェ

クトが移動します。

選択されていなかった 1 個のオブジェクトをドラッグすることは、そのオブジェクトを選択することにもなります。これは、マウスボタンを押したときにオブジェクトが選択されようになっているためです。

オブジェクトのサイズを変更する

オブジェクトを選択してハンドル (■または□) をドラッグします。

左右のハンドルで横方向に、上下のハンドルで縦方向に、四隅のハンドルで斜め方向に伸縮できます。線オブジェクトのハンドルでは全方向に伸縮できます。ドラッグを始めると点線の矩形または線が現れます。この矩形または線を目的のサイズにしてドロップしますと、オブジェクトのサイズが変わります。

オブジェクトをコピーして貼り付ける

オブジェクトを選択して[編集]タブ[クリップボード]グループから[コピー]を選択してコピーして、次に[編集]タブから[貼り付け]を選択すると、少しずれた位置に追加されます。[Ctrl] キー + [C] キー、次に [Ctrl] キー + [V] キーというキー操作でも手早くできます。

オブジェクトを削除する

オブジェクトを選択して[編集]タブまたは右クリックしてポップアップメニューから[削除(D)]を選択して削除できます。[Delete] キーでも削除できます。

操作を元に戻す、やり直す

直前に行った操作をキャンセルして操作を行う前の状態に戻すときは、[編集]タブ[クリップボード]グループの[アンドゥ]を選択します。

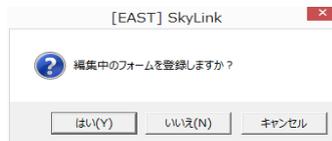
直前の[アンドゥ]でキャンセルした操作をやり直すときは、[編集]タブ[クリップボード]グループの[リドゥ]を選択します。

フォーム編集ではフォームを開いてからのすべての操作が記録されますので、フォームを開いた直後の状態にまでさかのぼって元に戻すことができます。逆に最後に行った操作までやり直すことができます。

8 フォームを編集する

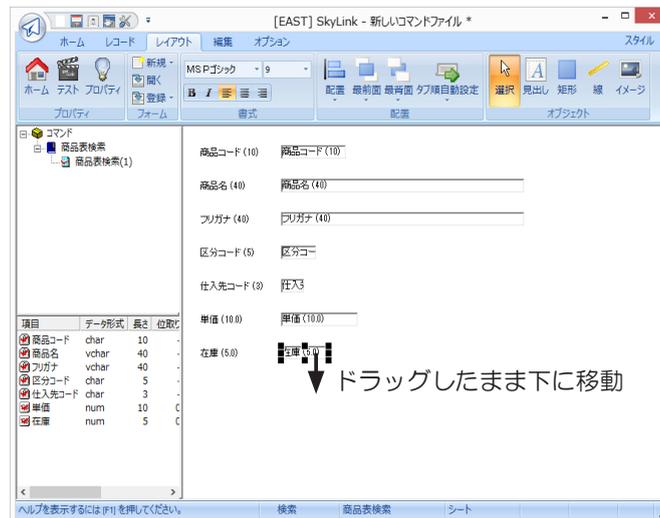
参考

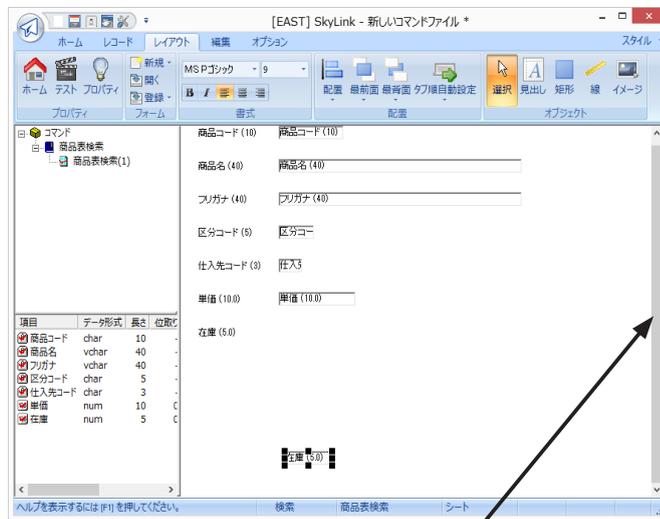
フォームに対するすべての変更を無効にする場合は、背景を右クリックしてポップアップメニューから [閉じる (X)] を選択して、「編集中のフォームを登録しますか？」で [いいえ (N)] ボタンを選択します。



フォームを広げる

SkyLink のウィンドウを広げると、フォームも広がります。また、フォームにオブジェクトを追加配置するとき、(オブジェクトの部分+フォームの余白部分)を配置するのに不足している分だけ広がります。移動やサイズの変更でも同様です。





フォームが広がり、スクロールバーが出現

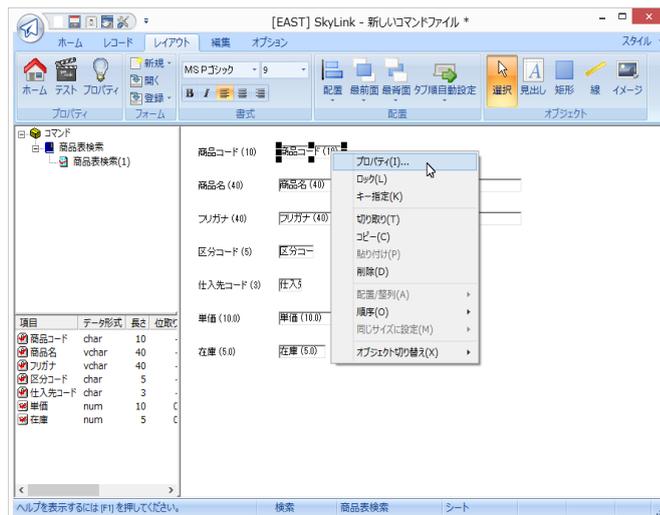
逆にオブジェクトを削除したり移動したりしてスペースが不要になると、フォームは自動的に狭まります。

オブジェクトのプロパティを設定する

オブジェクトの色や文字のサイズや線の太さなどは[プロパティ]ダイアログで設定します。

オブジェクトを右クリックしてメニューから[プロパティ (I)]を選択します。このオブジェクトの[プロパティ]ダイアログが表示され、多くのプロパティを設定できます。

複数のオブジェクトを選択しておくとも、同時に設定されます。



見出しのプロパティを設定する

[見出しのプロパティ]ダイアログには、[位置] タブと [サイズ]、[色と線] タブ、[書式] タブ、[フォント] タブがあります。

[位置] 及び [サイズ] タブでは、見出しの位置 (左上) とサイズが指定できますが、通常はマウスのドラッグ操作でグラフィカルに指定します。

[色と線] タブの [塗りつぶし] では、文字列の台紙を指定します。[パターン (P)] を「透過」にすると、透明な台紙、つまり台紙がないことになります。「塗りつぶし」などのパターンにすると、いろいろなパターンの台紙ができます。

[色と線] タブの [線] では、見出しの囲み線を指定します。[線種 (L)] を「線なし」にすると、囲み線は表示されません。「実線」などの線種にすると、いろいろな種類の線で囲めます。また、[線種 (L)] を「線なし」して、[効果] から「プレス」を選んでへこんだ台紙、「プレート」を選んで浮き出た台紙、「3D 縁取り」を選んで台紙の周りに浮き出た縁取りを作ることができます。[書式] タブでは、見出しの文字列である [テキスト (T)] などが設定できます。見出しオブジェクトをフォームに追加しただけでは「見出し」という仮の文字列が表示されますので必ず [書式] タブの [テキスト (T)] に入力します。

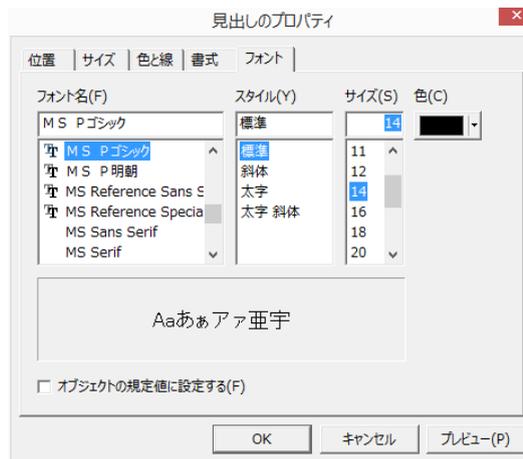
[フォント] タブでは、[フォント名 (F)]、[スタイル (Y)]、[サイズ (S)] などを指定します。



[色と線] タブで [塗りつぶし] の [色 (R)] を水色に、[パターン (P)] を「塗りつぶし」に変えてみる



[書式] タブで [テキスト (T)] を「商品表」に、[文字寄せ] の [水平 (H)] [垂直 (V)] コンボボックスで「中央」に指定する



[フォント] タブで [サイズ (S)] を「14」にする

最後に [OK] ボタンをクリックすると、指定したプロパティの見出しを確認できます。



さらに、右端中央のハンドルを右にドラックして広げてみると、見出しの文字列が水平方向中央に文字寄せされていることが確認できます。



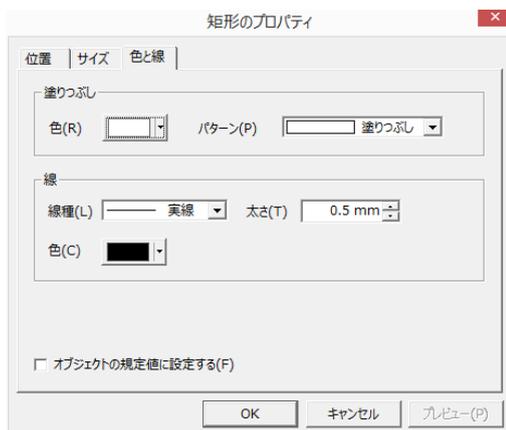
矩形のプロパティを設定する

[矩形のプロパティ]ダイアログには、[位置]タブと[サイズ]、[色と線]タブがあります。

[位置]及び[サイズ]タブでは、矩形の位置(左上)とサイズが指定できますが、通常はマウスのドラッグ操作でグラフィカルに指定します。

[色と線]タブでは、矩形の内側のパターンを指定します。[パターン(P)]を「透過」にすると、透明になります。「塗りつぶし」などのパターンにすると、いろいろなパターンで表示できます。

また、矩形の境界線の太さや線種を指定します。[線種(L)]を「線なし」にすると、境界線は表示されません。「実線」などの線種にすると、いろいろな種類の境界線で表示できます。また、[線種(L)]に「プレス」を選んでへこんだ矩形、「プレート」を選んで浮き出た矩形、「3D 縁取り」を選んで浮き出た縁取りのある矩形を作ることができます。



[線]の[線種(L)]を「破線」、[色(C)]を背景色(薄いグレイ)と同じにする。[塗りつぶし]の[色(R)]を背景色と違う色(白のまま)にして、[パターン(P)]を「塗りつぶし」にする。次のようなやわらかい境界線ができます。

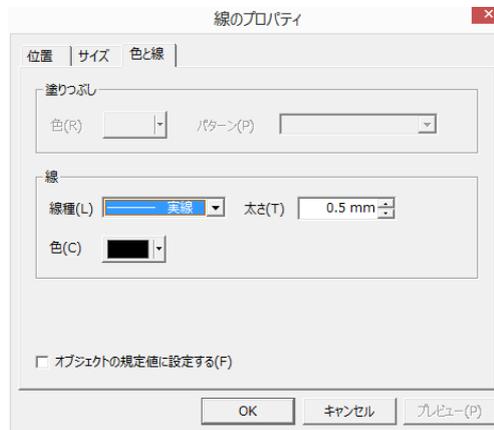


線のプロパティを設定する

[線のプロパティ]ダイアログには、[位置]タブと[サイズ]、[色と線]タブがあります。

[位置]及び[サイズ]タブでは、線の開始点と終了点が指定できますが、通常はマウスのドラッグ操作でグラフィカルに指定します。

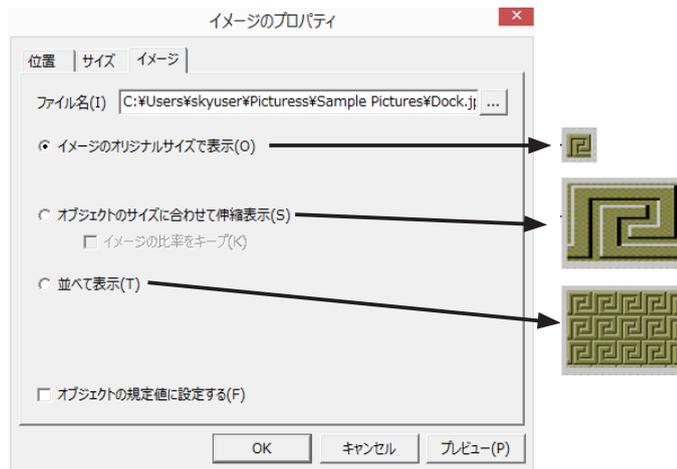
[色と線]タブでは、線の太さや線種などの指定ができます。



イメージのプロパティを設定する

[イメージのプロパティ] ダイアログには、[位置] タブと [サイズ]、[イメージ] タブがあります。

[イメージ] タブでは、[ファイル名 (I)] にイメージファイル名を指定します。[...] ボタンをクリックしてファイルブラウザでファイルを参照できます。また、イメージを配置する矩形の位置とサイズが指定できます。



イメージの表示の仕方を指定する

項目のプロパティを設定する

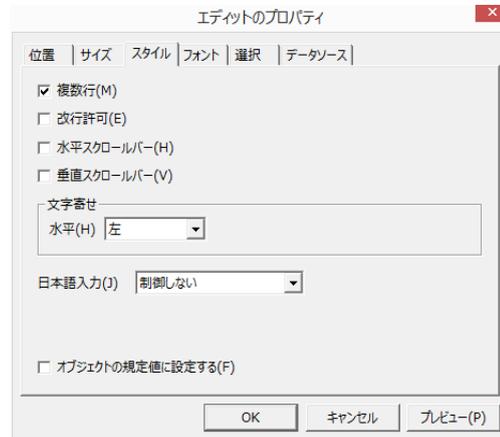
[エディットのプロパティ] ダイアログには、[位置]、[サイズ]、[スタイル]、[フォント]、[選択]、[データソース] タブがあります。

[スタイル] タブでは、文字数の多い項目データの表示の仕方やかな漢オンオフの制御などの日本語入力の仕方を指定します。

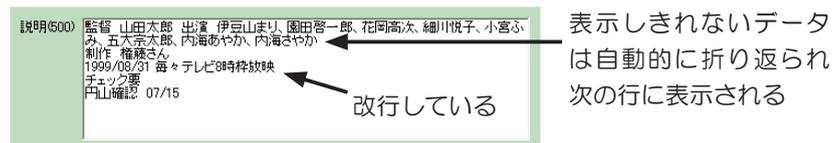
[複数行 (M)] チェックボックスにチェックが付いていると、データを一行に表示しきれないときは残りデータが次の行に表示されます。一行で表示し

8 フォームを編集する

きれいなデータ長の項目オブジェクトを配置するときに自動的に [高さ] が大きくなり複数行表示になりますのでチェックの付いたままにしてください。



[複数行 (M)] チェックボックスと [改行許可 (E)] チェックボックスにチェックを付けると、[Ctrl] キー + [Enter] キーでデータに改行を含めることができます。段落に分けて表示されるので見やすくなりますが、アプリケーションやファイルにエクスポートするときにデータの中の改行がレコードの改行として処理されたりしますので注意してください。

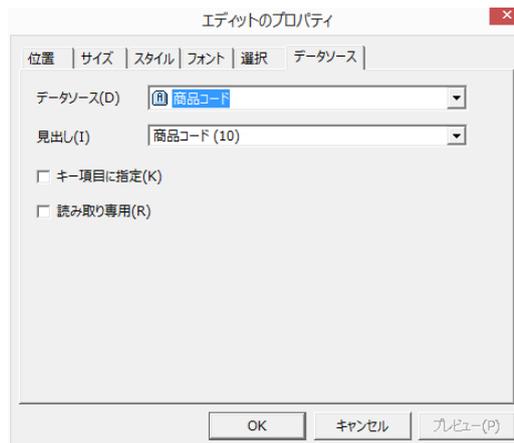


[日本語入力 (J)] コンボボックスで個々の項目にふさわしいキー入力方法を選択します。

[フォント] タブでは、[フォント名 (F)]、[スタイル (Y)]、[サイズ (S)]、[色 (C)] を指定します。通常、[フォント]、[スタイル]、[サイズ] は、コマンドからフォームを新規作成するときに指定して統一させます。



[データソース]タブでは、キー更新やキー削除用のフォームを作成するときに、[キー項目に指定(K)] チェックボックスをチェックしてキー項目を指定します。また、編集させたくない項目の場合は、[読み取り専用(R)] チェックボックスにチェックを付けて編集できないようにします。



複数選択のプロパティを設定する

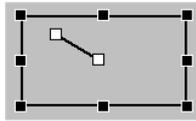
複数のオブジェクトを選択してからその中のひとつのオブジェクトを右クリックしてメニューから[プロパティ(I)]を選択すると、「複数オブジェクトのプロパティ」ダイアログが表示されます。選択されているオブジェクトすべてのプロパティの値が同じ場合はその値が表示されますが、一致しないときは空白が表示されます。一致しなくても一度に設定しなおすことができます。

配置を揃える

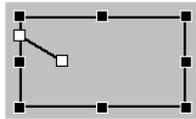
少しずれた位置に配置したときでも簡単に配置を揃えることができます。

えをすることと同じ結果になります。

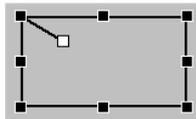
ここでは、矩形に対角線を配置してみましょう。



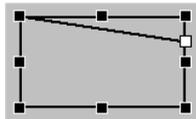
線を矩形の中に配置してから、基準の矩形を選択する。



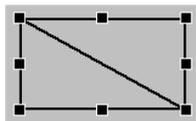
 左揃え 左で揃える。



 上揃え 上で揃える。



 幅揃え 幅を揃える。



 高さ揃え 高さを揃える。

順序を入れ替える

新たにオブジェクトを前からあるオブジェクトの上に覆いかぶせるように配置したとき、前からあるオブジェクトはクリックしても選択できません。これは新しいオブジェクトを配置するとき前からあるオブジェクトが背面に移動されるためです。このようなときは[レイアウト]タブ[配置]グループの[最背面]ボタンをクリックします。前からあったオブジェクトが選択できるようになります。

ここでは順序入れ替えの例として、見出し項目オブジェクトの下に台紙(背景塗りつぶしの矩形)を配置してみましょう。



背景の透過な矩形を「商品コード」の見出し項目の上に配置する。



矩形の背景を塗りつぶす。背面にある見出し項目は見えなくなる。

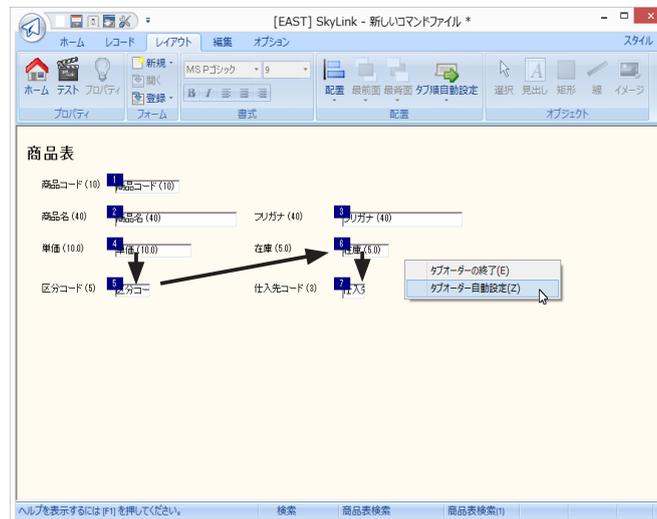
8 フォームを編集する



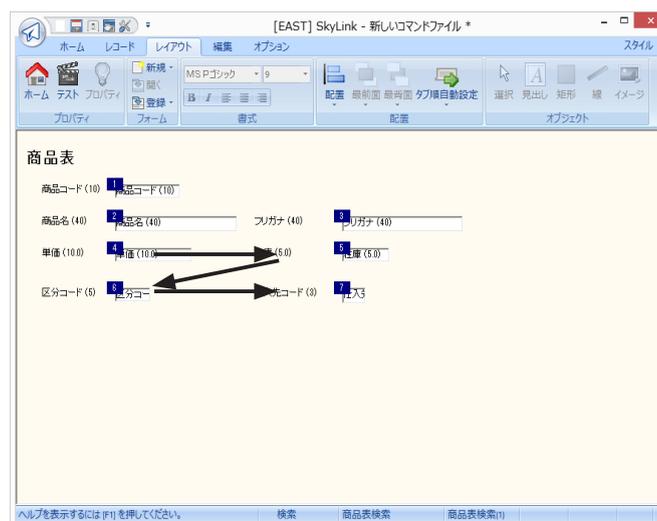
矩形の [順序] を [最背面] にすると、見出し項目が前面になり見えるようになる。

タブオーダーの設定

項目へのデータの入力順序(タブオーダー)は「上から下へ、同じ行に複数項目があるときは左から右へ」が自然です。一方実際にデータソースリストから自動レイアウトで配置してみると、データソースリストの順序で決まってしまうので、下図のように配置しなっていると不自然です。このようなときには [レイアウト] タブ [配置] グループの [タブ順自動設定] で自然な順序にできます。



タブオーダーが不自然なので [タブオーダーの自動設定] をする



タブオーダーが自然になった

8.4

挿入、更新用のフォームを作成する

挿入、更新用にデータを選択リストから入力できるようなフォームを作成してみます。

[受注]表のフォームを作成する

1. コマンドを作成する

[受注]表を設定ウィンドウに追加して、「受注登録」というコマンド名で登録します。次に、得意先を入力するために新しいコマンドを作成して、[得意先]表の[得意先名]と[得意先コード]を設定ウィンドウに追加し、「得意先一覧」というコマンド名で登録します。さらに、新しいコマンドを作成し、[社員]表の[名前]と[社員コード]列を設定ウィンドウに追加して、「社員一覧」という名前でコマンドを登録します。それぞれフリガナでソート指定をしておきます。これで、フォームを作成する準備が整いました。

「受注登録」

	1	2	3	4	5	6
項目名	受注コード	得意先コード	担当者コード	受注日	納品日	請求日
列名	受注コード	得意先コード	担当者コード	受注日	納品日	請求日
設定		AND	AND	AND	AND	AND
条件1						

「得意先一覧」

	1	2	3
項目名	得意先名	得意先コード	フリガナ
列名	得意先名	得意先コード	フリガナ
設定		AND	昇
条件1			

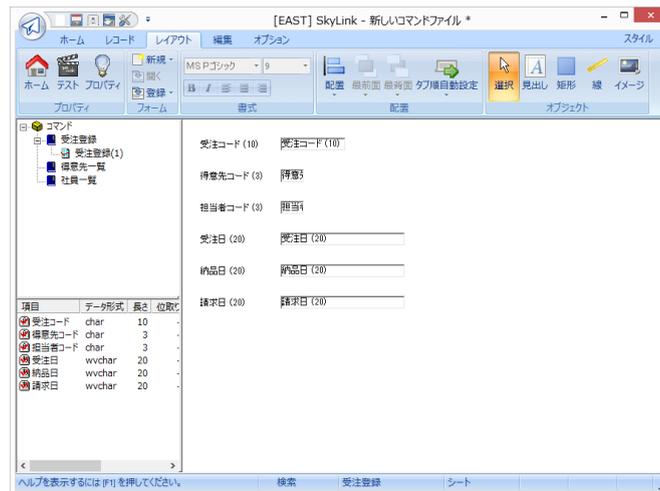
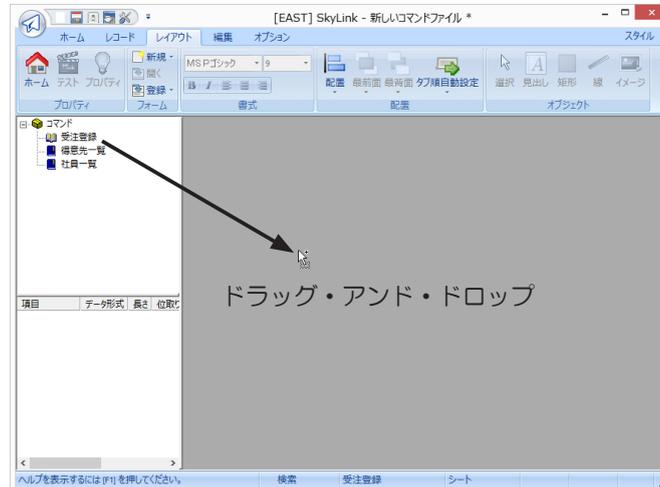
「社員一覧」

	1	2	3
項目名	名前	社員コード	フリガナ
列名	名前	社員コード	フリガナ
設定		AND	昇
条件1			

8 フォームを編集する

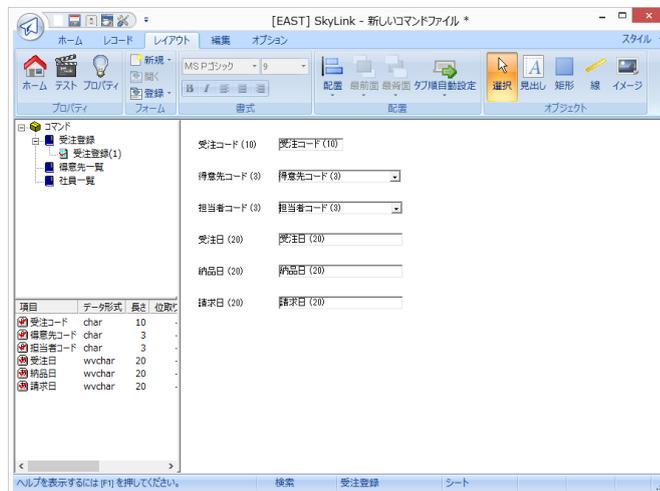
2. フォーム編集でフォームを新規に作成する

「受注登録」コマンドに戻り、[コマンド]グループの[フォーム編集]ボタンを選択し、コマンド「受注登録」を右のウィンドウにドラッグ・アンド・ドロップします。



3. [得意先コード]と[担当者コード]のオブジェクトを[コンボボックス]に変更する

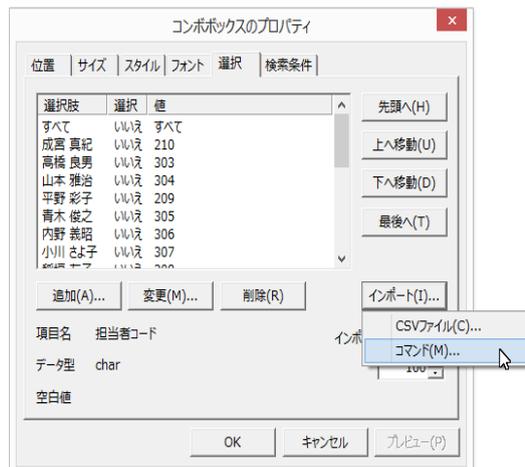
[得意先コード]をマウスで右クリックして、メニュー[オブジェクト切り替え(X)] - [コンボボックスへ(C)]を選択し、コンボボックスに変更します。[担当者コード]も同様にコンボボックスに変更します。また、双方のオブジェクトの幅を広げておきましょう。



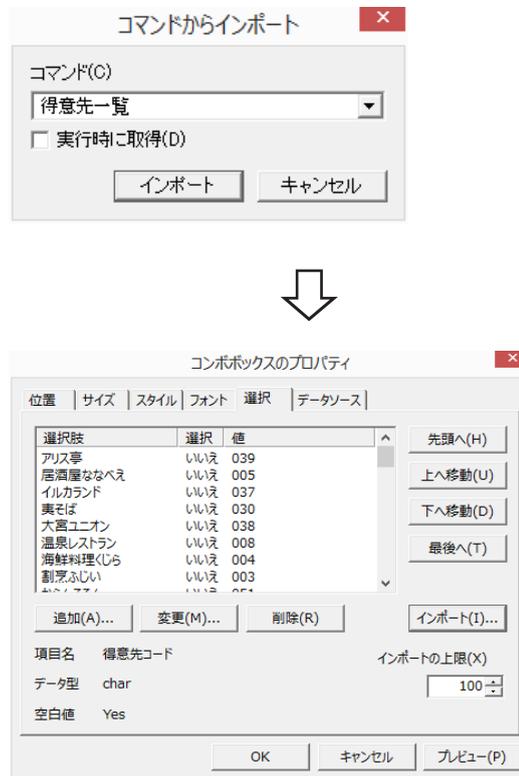
4. [得意先コード] に選択リストを設定する

[得意先コード] コンボボックスを選択し、マウスの右クリックで [プロパティ (I)] を選択して、[コンボボックスのプロパティ] ダイアログを表示します。[選択] タブに移動し、[インポート (I)] ボタン、[コマンド (M)] を選んで、「得意先一覧」コマンドをインポートします。

[インポート (I)] – [コマンド (M)]



8 フォームを編集する

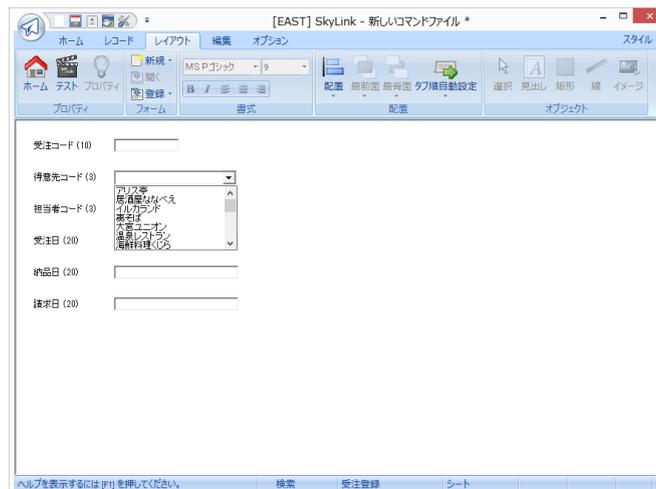


5. [担当者コード] に選択リストを設定する

[担当者コード] についても4と同様の処理を行います。インポートするコマンドは「社員一覧」になります。

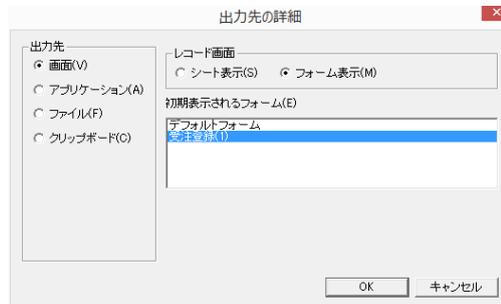
6. テストを行う

[テスト] ボタンを押してテストをします。



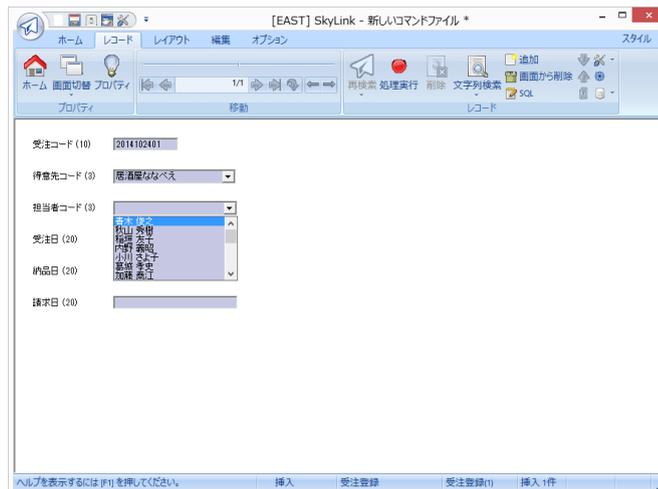
7. フォームを登録する

問題が無いようでしたら、もう一度[テスト]ボタンを押して編集画面に戻り、「登録」してから[ホーム]ボタンでメイン画面に戻ります。それから[出力切替]ボタンで規定の出力先を、作成したフォームに設定します。



8. 挿入モードにしてフォームを確認する

[ホーム]タブ[データベース]グループの[モード]ボタン—[挿入(I)]メニューを選択して、挿入モードにしてみます。

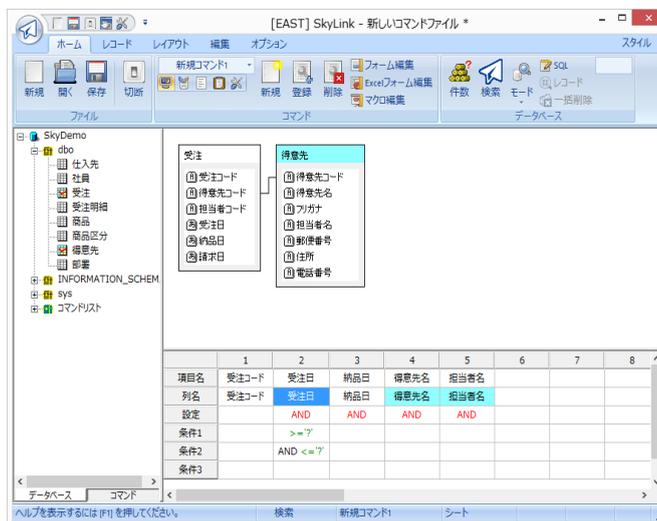


このように選択リストを使用することで、簡単にデータを入力でき、また入力ミスを減らせるフォームを作成することができます。

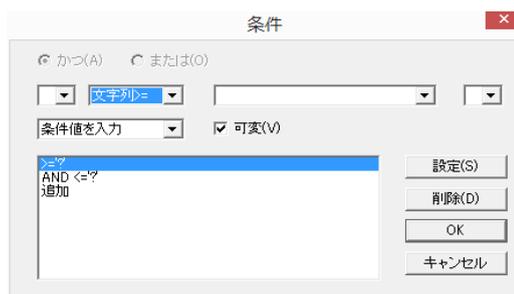
8.5 検索条件フォームを利用する

検索条件に「可変」を指定した際の、検索条件フォームの作成をしてみます。

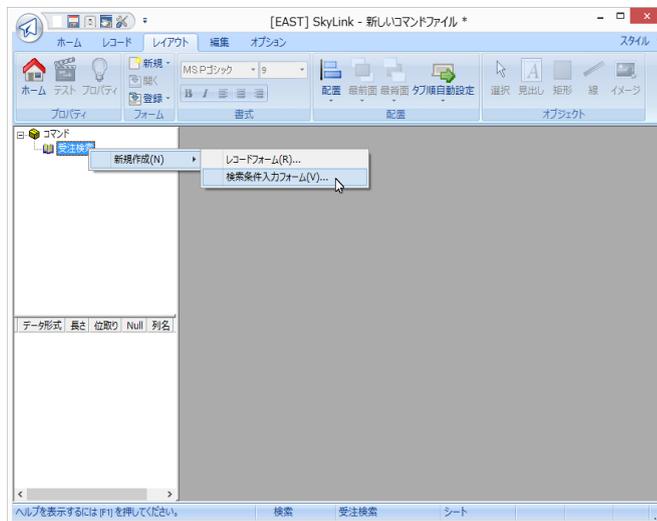
1. コマンドを作成する



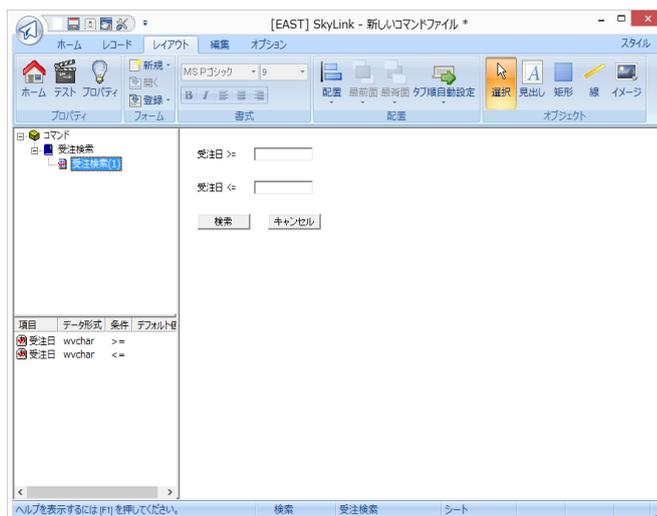
受注テーブルの受注日に、「～以上 ～以下」という検索条件を設定します。その際に、「可変(V)」チェックボックスをクリックしてチェックを付けます。



2. フォーム編集画面を表示する



該当のコマンドを選択してから、マウスの右ボタンを押します。メニューが表示されますので、[新規作成(N)] - [検索条件入力フォーム(V)] を選びます（可変条件が無い場合は選べません）。

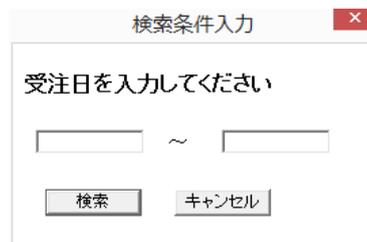
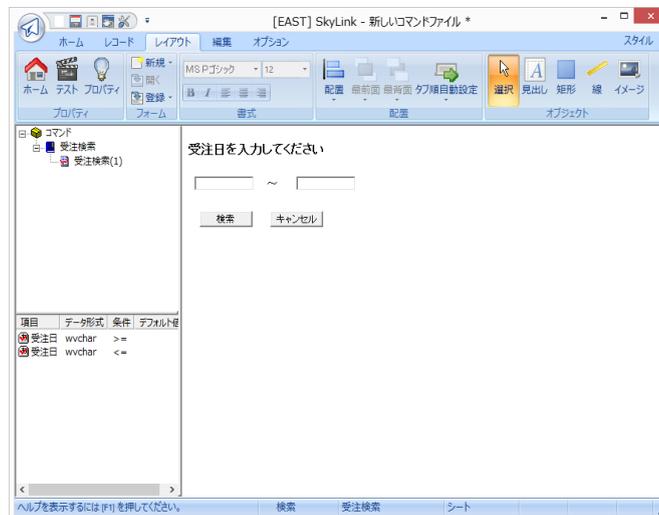


デフォルトの検索条件フォームが作成される

3. 項目のレイアウトを変更する

「8.3 基本的なレイアウト操作」をヒントにレイアウトを変更します。ここでは、日付を横に並べて、タイトルを付けてみます。編集後、[テスト] ボタンをクリックすると実際の動作と同じようにテストを行うことができます。

8 フォームを編集する



4. フォームを登録する

フォームを登録後、コマンド及びコマンドファイルを保存します。
次回から、該当のコマンドを検索実行すると上記のフォームが表示され、
入力された条件で検索を行うことができます。

5. 選択リストを使用する

条件を設定する際に、選択リストから選んで入力できるフォームを作成します。

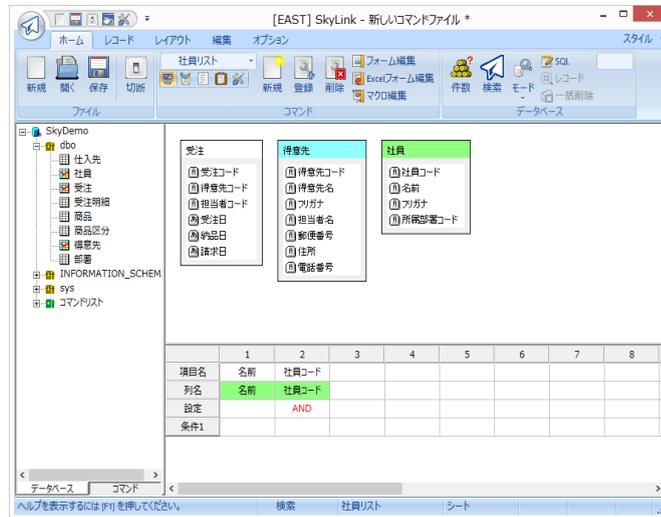
先のコマンドに条件として[担当者コード]を追加します。

ここでも担当者コードの条件の[可変(V)]チェックボックスにチェックを付けておきます。

項目名	1	2	3	4	5	6
項目名	受注コード	受注日	納品日	得意先名	担当者名	担当者コード
列名	受注コード	受注日	納品日	得意先名	担当者名	担当者コード
設定		AND	AND	AND	AND	AND
条件1		>=?'				=?'
条件2		AND <=?'				

6. 選択リストのコマンドを作成する

社員の一覧を出力するためのコマンドを作成します。



1番の項目に設定されているものが、選択リストに表示される名前になります。2番目の項目に設定されているものは、実際にデータベースを検索する際のデータとなります。

ここでは[名前]を選択リストとして表示し、[社員コード]でデータベースを検索します。

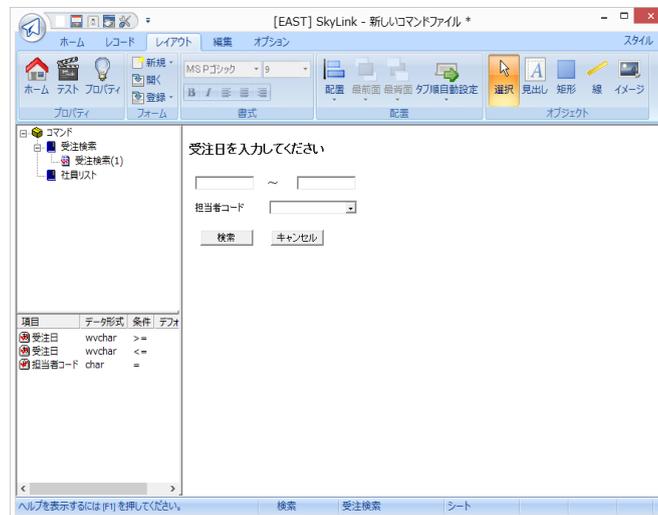
コマンド作成後、登録を行います。

7. 追加した項目をフォームに配置する

[ホーム]タブ[コマンド]グループの[フォーム編集]ボタンを選択して、フォーム編集画面に遷移し、先のフォームを開きます。

データソースリストから[担当者コード]をドラッグ後、右ボタンクリックで[オブジェクト切り替え(X)] - [コンボボックスへ(C)]を選択して、コンボボックスに変更します。

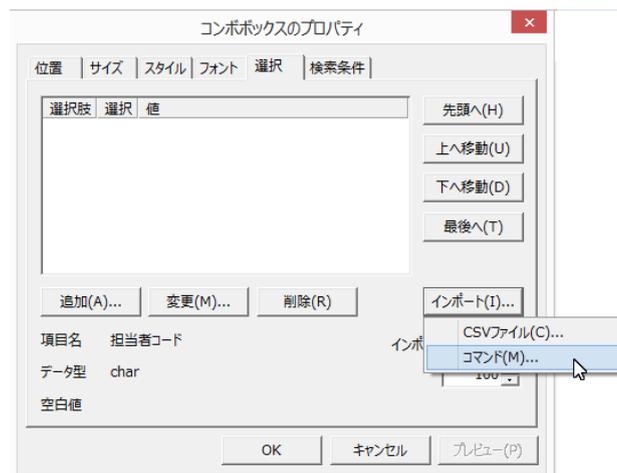
8 フォームを編集する



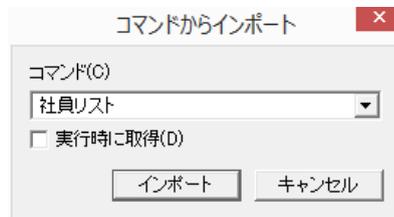
8. 選択リストを登録する

[担当者コード] コンボボックスを右クリックして [プロパティ (I)] を選択して [コンボボックスのプロパティ] ダイアログを表示します。
[選択] タブに切り替えます。

[インポート (I)] ボタン [コマンド (M)] メニューを選択してコマンドから選択リストをインポートします。コマンドのほかに「CSV ファイル」からのインポートも可能です。



先ほど作成したコマンドを選んで [インポート] ボタンを押します。

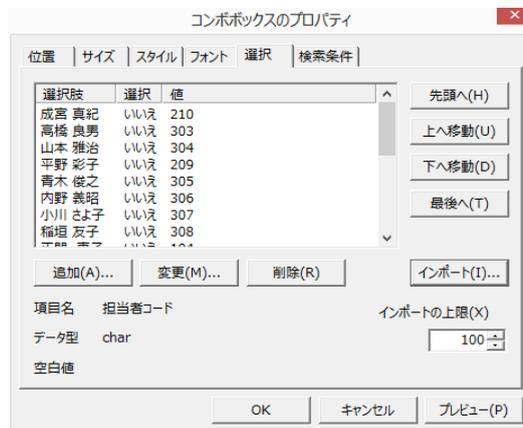


コマンドからインポート

コマンド(C)
社員リスト

実行時に取得(D)

インポート キャンセル

コンボボックスのプロパティ

位置 | サイズ | スタイル | フォント | 選択 | 検索条件

選択肢	選択	値
成宮 真紀	いいえ	210
高橋 良男	いいえ	303
山本 雅治	いいえ	304
平野 彩子	いいえ	209
青木 俊之	いいえ	305
内野 義昭	いいえ	306
小川 さよ子	いいえ	307
稲垣 友子	いいえ	308

追加(A)... 変更(M)... 削除(R) インポート(I)...

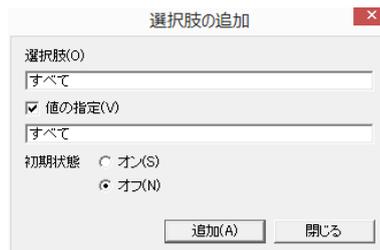
先頭へ(H) 上へ移動(U) 下へ移動(D) 最後へ(T)

項目名 担当者コード インポートの上限(X)
データ型 char 100

空白値

OK キャンセル プレビュー(P)

すべての社員が対象となるように [追加 (A)] ボタンをクリックして、「すべて」を追加します。



選択肢の追加

選択肢(O)
すべて

値の指定(V)
すべて

初期状態 オン(S) オフ(N)

追加(A) 閉じる

[テスト] ボタンをクリックして動作を確認します。

8 フォームを編集する

検索条件入力

受注日を入力してください

担当者コード

検索

すべて
成高真紀
高橋良男
山本雅治
平野彩子
青木俊之
内野義昭

9. コマンドファイルを保存する

[検索] ボタン  を押すことにより、毎回以下のような画面が表示され、キーボードで社員コードを入力しなくても検索を行うことができるようになりました。

[EAST] SkyLink - 新しいコマンドファイル *

ホーム レコード レイアウト 編集 オプション スタイル

新規検索 フォーム編集 SQL 件数 検索 モード 一括削除 データベース

新規 登録 削除 Excelフォーム編集 マクロ編集

SkyDemo

- dbo
 - 仕入先
 - 社員
 - 受注
 - 受注明細
 - 商品
 - 商品区分
 - 納品先
 - 郵便
- INFORMATION_SCHEMA
- sys
- コマンドスト

受注 得意先

受注コード 得意先コード

担当者コード

受注日

検索条件入力

受注日を入力してください

担当者コード

検索

項目名	受注コード	受注日	納品日	得意先名	担当者名	担当者コード	5	6	7	8
列名	受注コード	受注日	納品日	得意先名	担当者名	担当者コード				
設定		AND	AND	AND	AND	AND				
条件1		>=?				=?				
条件2		AND <=?								
条件3										

ヘルプを表示するには [F1] を押してください。

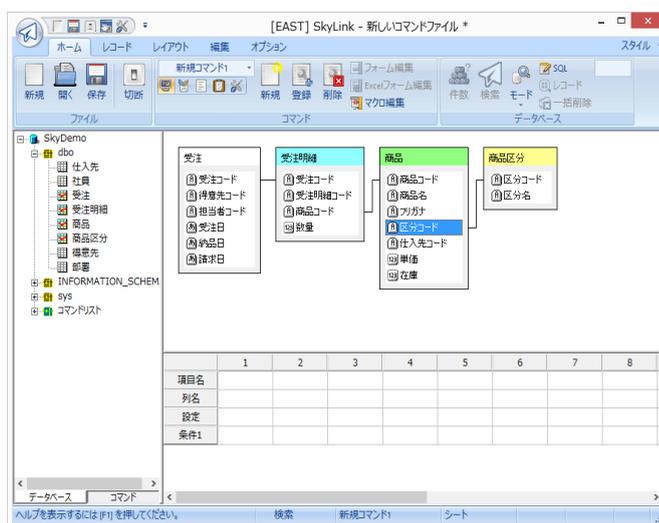
検索 受注検索 シート

8.6 検索条件フォーム（チェックボックス）

1つの項目に複数の OR 条件を付けたい場合にはチェックボックスを使用します。ここでは、[受注日]と[商品区分]によって検索を行うフォームを作成してみましょう。

1. コマンドを作成する

[受注]、[受注明細]、[商品]、[商品区分]を、それぞれ[受注コード]、[商品コード]、[区分コード]で結合します。



[受注コード]、[区分名]、[商品名]、[受注日]、[区分コード]を設定ウィンドウに追加して、[区分コード]を抽出対照から外します。

次に、[受注日]に以上、以下の可変条件を付け、[区分コード]に5個の OR を指定した可変条件を付けます。5個というのは、区分が5個あるためです。



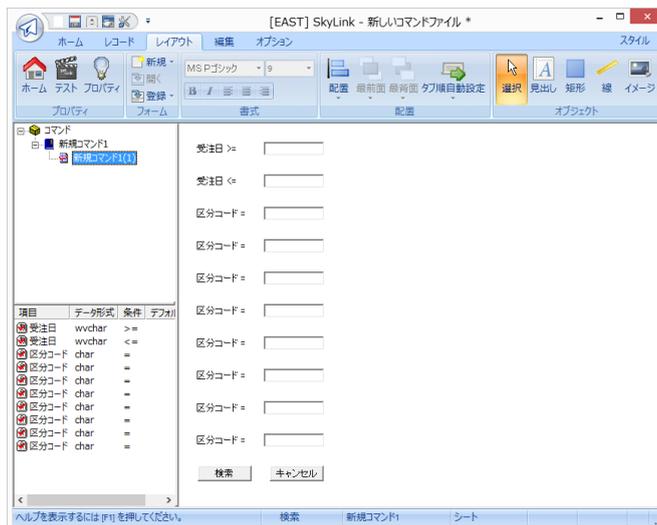
8 フォームを編集する

	1	2	3	4	5
項目名	受注コード	区分名	商品名	受注日	区分コード
列名	受注コード	区分名	商品名	受注日	区分コード
設定		AND	AND	AND	AND
条件1				>='?'	='?'
条件2				AND <='?'	OR='?'
条件3					OR='?'
条件4					OR='?'
条件5					OR='?'
条件6					OR='?'
条件7					OR='?'
条件8					OR='?'

このようになります。

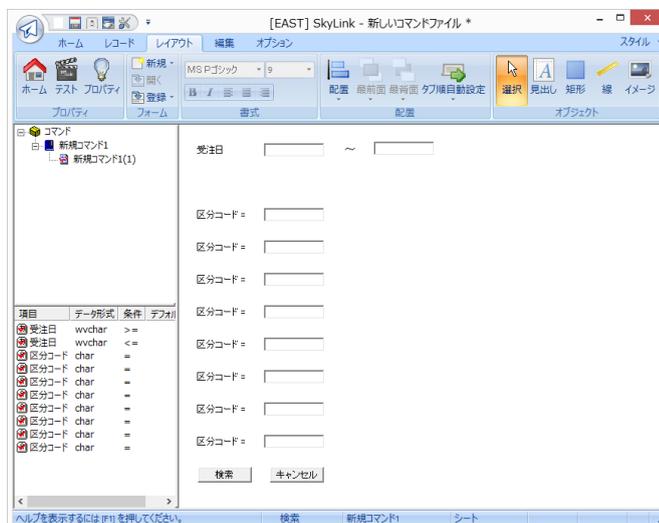
2. フォームを作成する

[ホーム]タブ[コマンド]グループの[フォーム編集]ボタンを選択して、フォーム編集画面に遷移します。左側のツリーでコマンドを右クリックして表示されるメニューで、[新規作成(N)]-[検索条件入力フォーム(V)]を選んで、フォームを作成します。



3. 受注日のレイアウトを変更する

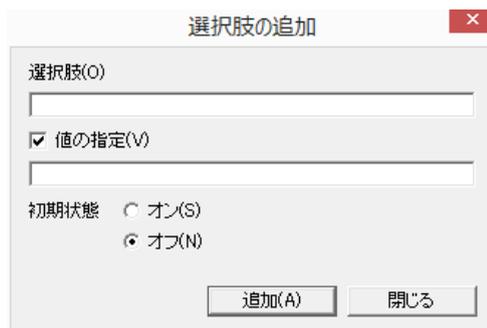
受注日が縦に並んでいるので、横にしてみましょう。「受注日 <=」を右クリックして、メニューの「プロパティ(I)」を選択します。[書式]タブを選択して、[テキスト(T)]を「~」に変更します。[受注日 >=]は同様に「受注日」に変更し、レイアウトを整えます。



4. [区分コード] のレイアウトを変更する

[区分コード] のエディットコントロールをすべてチェックボックスに変更します。また、「区分コード=」の文字も変更します。

まず、先頭の「区分コード=」を「飲料」に変更し、先頭のチェックボックスを右クリックして[プロパティ(I)]を選択します。[選択]タブに移って、[追加(A)]ボタンを押して、以下の2つを追加します。



ここで、値の欄を空白にした場合、すべての条件がチェックなしの場合、検索条件なしと同様の結果となりますので、ご注意ください。

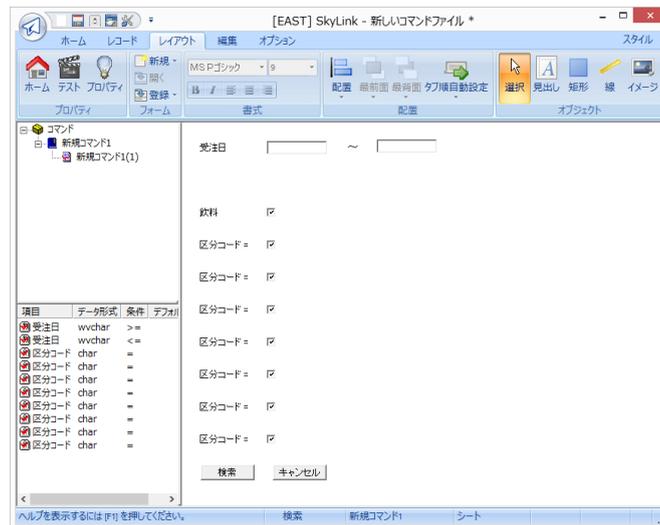
8 フォームを編集する

この後、[追加 (A)] ボタンを押してから、次の値を追加します。



初期時にチェックありの状態にする場合は、[オン (S)] ラジオボタンを選択します。

以下のようになります。



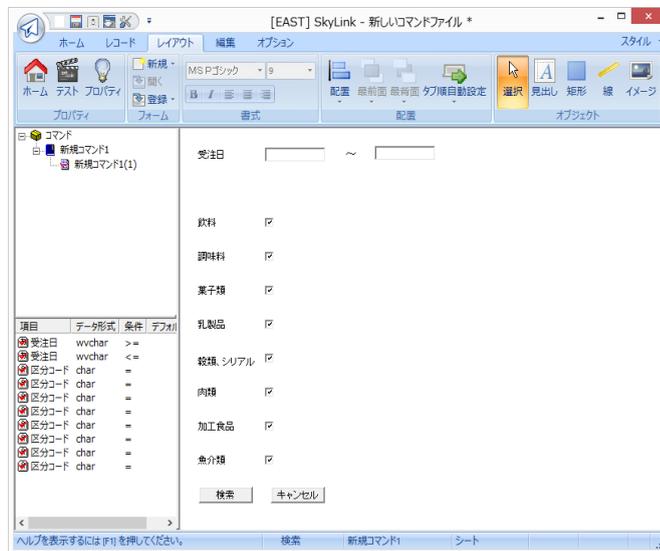
同様にすべてのチェックボックスに設定を行います。

「調味料」	00002
「菓子類」	00003
「乳製品」	00004
「穀類、シリアル」	00005
「肉類」	00006
「加工食品」	00007
「魚介類」	00008

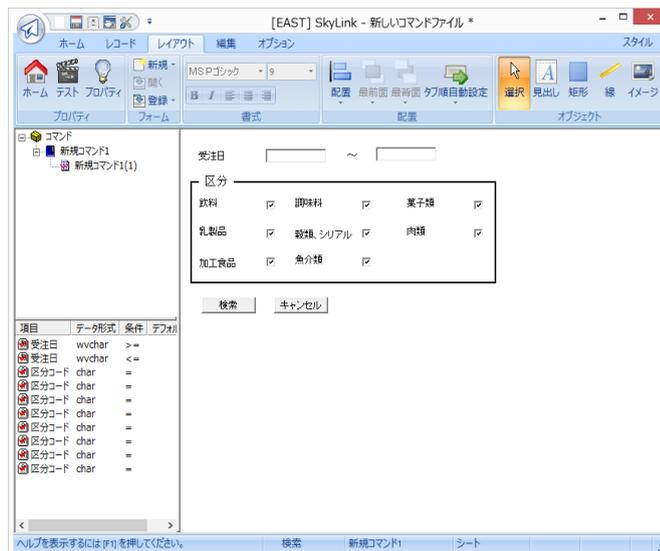
と、先の飲料の場合と同様に設定を行います。

以下のようになります。

8.6 検索条件フォーム (チェックボックス)

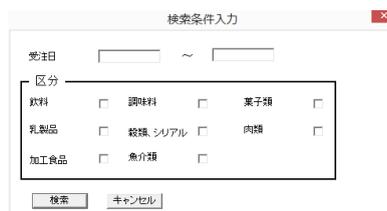


この後、レイアウトを調整します。



5. 検索を実行する

フォームを登録して、メイン画面に戻り、検索を実行してみましょう。



8 フォームを編集する

[検索] ボタン  をクリックすると上記のようなフォームが表示され、検索したい区分にチェックを付けて検索を行います。

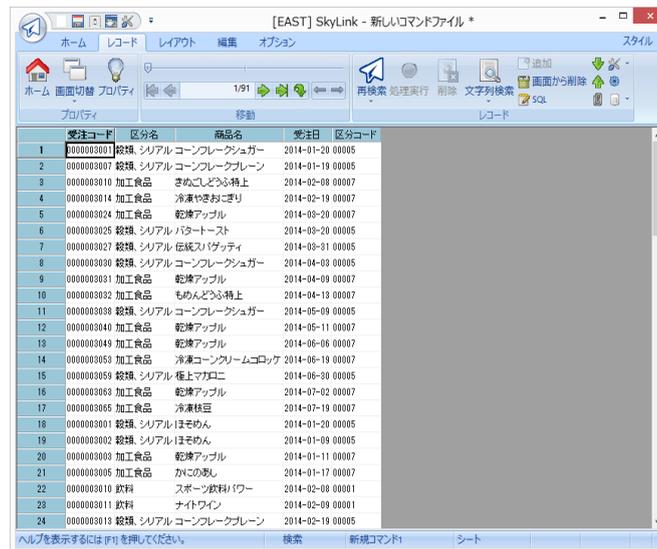


検索条件入力

受注日 [2014/01/01] ~ [2014/12/31]

区分

飲料	<input checked="" type="checkbox"/>	調味料	<input type="checkbox"/>	菓子類	<input type="checkbox"/>
乳製品	<input type="checkbox"/>	穀類、シリアル	<input checked="" type="checkbox"/>	肉類	<input type="checkbox"/>
加工食品	<input checked="" type="checkbox"/>	魚介類	<input type="checkbox"/>		



[EAST] SkyLink - 新しいコマンドファイル *

受注コード	区分名	商品名	受注日	区分コード
1	000003001	穀類 シリアル コーンフレークシュガー	2014-01-20	00005
2	000003007	穀類 シリアル コーンフレークプレーン	2014-01-19	00005
3	000003010	加工食品 きぬごじどふ精上	2014-02-08	00007
4	000003014	加工食品 冷凍やきおこまり	2014-02-19	00007
5	000003024	加工食品 乾燥アップル	2014-03-20	00007
6	000003025	穀類 シリアル パターースト	2014-03-20	00005
7	000003027	穀類 シリアル 伝統スリゲッティ	2014-03-31	00005
8	000003030	穀類 シリアル コーンフレークシュガー	2014-04-03	00005
9	000003031	加工食品 乾燥アップル	2014-04-09	00007
10	000003032	加工食品 ものんどふ精上	2014-04-19	00007
11	000003038	穀類 シリアル コーンフレークシュガー	2014-05-09	00005
12	000003040	加工食品 乾燥アップル	2014-05-11	00007
13	000003049	加工食品 乾燥アップル	2014-06-06	00007
14	000003053	加工食品 冷凍コンクリームココック	2014-06-19	00007
15	000003059	穀類 シリアル 極上マカロニ	2014-06-30	00005
16	000003063	加工食品 乾燥アップル	2014-07-02	00007
17	000003065	加工食品 冷凍枝豆	2014-07-19	00007
18	000003001	穀類 シリアル ほそめん	2014-01-20	00005
19	000003002	穀類 シリアル ほそめん	2014-01-09	00005
20	000003008	加工食品 乾燥アップル	2014-01-11	00007
21	000003005	加工食品 かこの煎し	2014-01-17	00007
22	000003010	飲料 スポーツ飲料Iパワー	2014-02-08	00001
23	000003011	飲料 ナイトワイン	2014-02-09	00001
24	000003019	穀類 シリアル コーンフレークプレーン	2014-02-19	00005

このように、複数の条件を OR で結びたい場合は、チェックボックスを利用すると大変便利に検索を行うことが可能です。

8.7 検索条件フォーム（SQL 編集）

SkyLink でサポートされていない SQL 文を記述したい場合に SQL 編集を利用して直接 SQL 文を書くことができます。その際に、検索時に条件をその都度変更したい場合に可変値条件指定を行うことができます。それでは、SQL 編集で指定した SQL 文の中の可変条件を入力する検索条件フォームを作成してみましょう。

1. コマンドを作成する

直接 SQL ウィンドウを表示して SQL 文を記述することもできますが、SkyLink のインタフェースで、あらかじめ抽出したい列やその他の条件を指定しておく、入力する手間が減りますので便利です。

例えば、以下のような SQL 文を実行したいとします。

これは「4.16 集計結果に条件を付ける」で作成した SQL を流用しています。

```
SELECT WOW01."商品名", SUM(WOW02."数量"*WOW01."単価") AS "売上"
FROM "dbo"."商品" WOW01, "dbo"."受注明細" WOW02
WHERE WOW01."商品コード" = WOW02."商品コード"
GROUP BY WOW01."商品名"
HAVING SUM(WOW02."数量"*WOW01."単価")>=100000
ORDER BY SUM(WOW02."数量"*WOW01."単価") DESC
```

SkyLink では、集計条件の式を可変条件にすることができないため、ここを手動で可変条件とします。

```
SELECT WOW01."商品名", SUM(WOW02."数量"*WOW01."単価") AS "売上"
FROM "dbo"."商品" WOW01, "dbo"."受注明細" WOW02
WHERE WOW01."商品コード" = WOW02."商品コード"
GROUP BY WOW01."商品名"
HAVING SUM(WOW02."数量"*WOW01."単価")>[#売上の最低金額]
ORDER BY SUM(WOW02."数量"*WOW01."単価") DESC
```

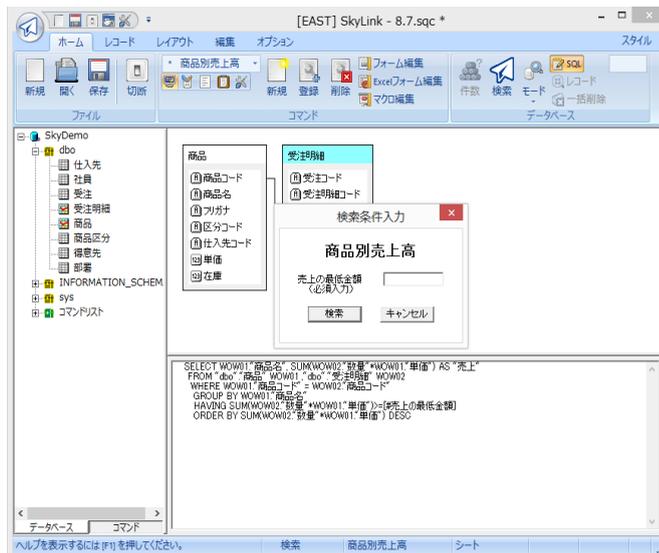
100000 を [# 売上の最低額] に変更

2. コマンドを登録してフォーム編集を行う

現在の編集したコマンドを登録して、フォーム編集を行います。SkyLinkでは1つ以上のSQL編集を行っていないコマンドがない場合、フォーム編集を選ぶことができません。その場合は、新規にコマンドを作成してから、設定ウィンドウに列を追加後、フォーム編集が選択できるようになります。実際の編集方法は、「8.5 検索条件フォームを利用する」と同様です。

3. 検索を実行する

作成したフォームを登録後、メイン画面に戻り検索を実行します。先程ダミーで作成したコマンドは、フォーム編集後削除してもかまいません。



このように、SQL編集したコマンドでも可変条件を利用することができるため、使い方によって可能性はさらに広がります。

9. Excel フォームを編集 する

Excel フォーム編集の方法を説明します。

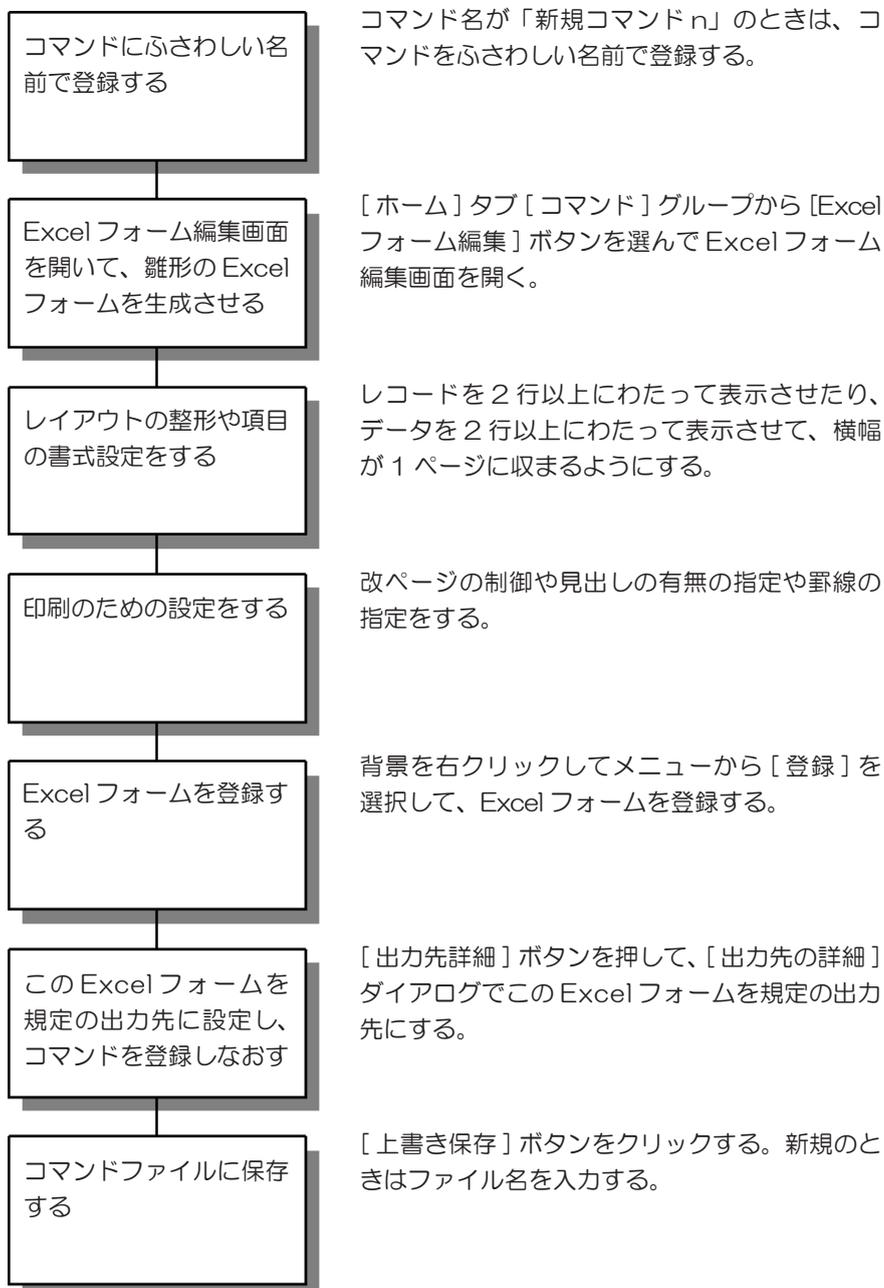
9.1

編集の手順

Ver.6.0 以前の SkyLink では、検索結果を Excel に出力した後で、Excel 上で項目の書式設定や集計などの作業を行い、印刷等を実行していました。

SkyLink の「Excel フォーム」を使用すると、出力のたびにユーザーに代わってレイアウト、書式設定、集計などの作業を行ったり、ファイル保存や印刷、さらにユーザーが作成した Excel のマクロを実行することができますので、大変便利です。

手順は次のようになります。



9.2 Excel フォームを編集する (レイアウト)

Excel フォームを使うと検索結果の各レコードを 2 行以上にわたって表示させることができます。このために Excel フォーム編集では項目を 2 行以上に分けて配置することができます。表示したい項目が多い場合に効果的です。また、配置した項目を 2 行以上にサイズを広げて、検索結果の長いデータを 2 行以上に折り返して表示させることができます。

また、Excel フォームを使うと検索結果を Excel のシートに出力しますが、指定によって印刷プレビューまたは印刷まで行うことができます。

編集例 1

[得意先] 表を効果的なレイアウトで印刷する Excel フォームを作成する

1. コマンドの名前を変更する

コマンドをもとに生成される Excel フォームはコマンドと同じ名前になりますので、デフォルトのコマンド名（「新規コマンド 1」など）のままのときは、ふさわしい名前に変更しておきます。

メイン画面のメニューから [コマンド (C)] - [カスタマイズ (C)] を選択して、[カスタマイズ] ダイアログでコマンドの名前を変更します。



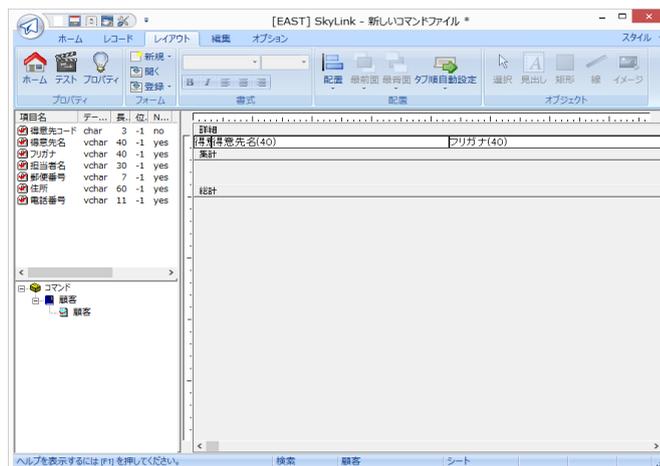
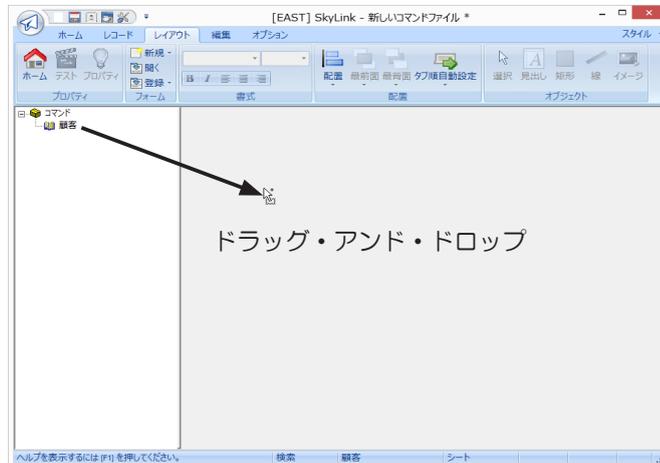
[コマンド一覧 (C)] のコマンドをクリックして [コマンド名 (N)] ボックスに表示させます。ここでコマンド名を「顧客」にして [名前の変更 (M)] ボタンをクリックして [コマンド一覧 (C)] のコマンド名が変わったことを確認します。最後に [OK] ボタンをクリックします。

2. 雛型の Excel フォームを利用する

[ホーム] タブ [コマンド] グループの [Excel フォーム編集] を選択して Excel フォーム編集画面を開きます。左側のコマンドツリーにあるコマンド

9.2 Excel フォームを編集する (レイアウト)

名をドラッグして右側のデザインウィンドウにドロップします。



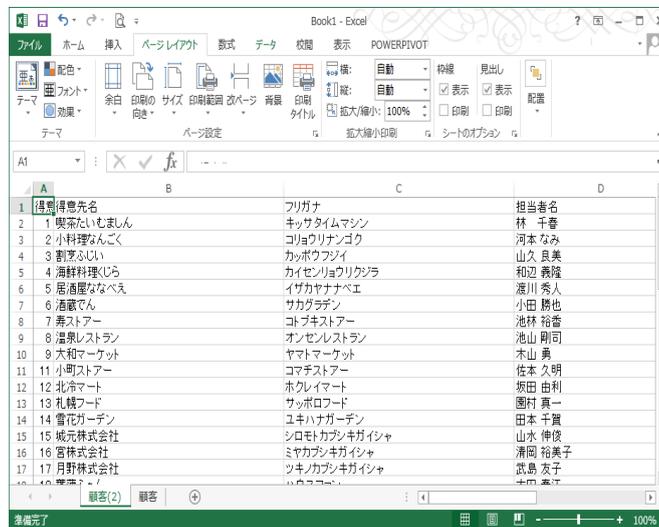
詳細フィールドに横一列に項目オブジェクトが並んでいる雛型の Excel フォームが作成されます。項目オブジェクトが詳細フィールドに配置されたときの幅は項目の列長と同じですが、この幅は自由に変更できます。この幅は Excel に出力したときにセル幅になります。

コマンドツリーウィンドウは下に移り、コマンド名の下に作成された Excel フォーム名が表示されます。

このままの雛型のレイアウトで Excel のシートへの出力を確認してみましょ

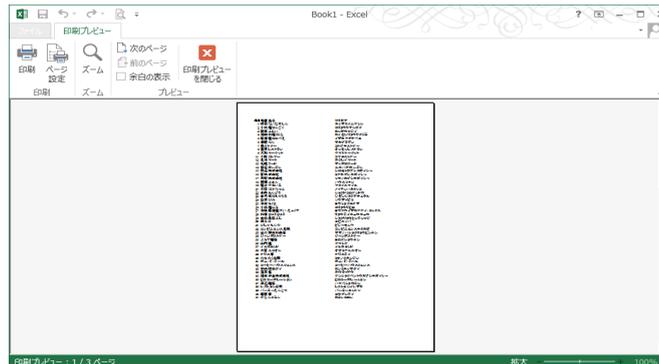
う。[テスト] ボタン  をクリックします。

9 Excel フォームを編集する



項目数が少し多いためとセル幅が広いためにスクロールしないと全体を見られません。

また、印刷した場合のレイアウトを見るために、メニューから [ファイル (F)] - [印刷プレビュー (V)] を選択します。



このままでは 1 レコードが複数ページに分割されて印刷されます。

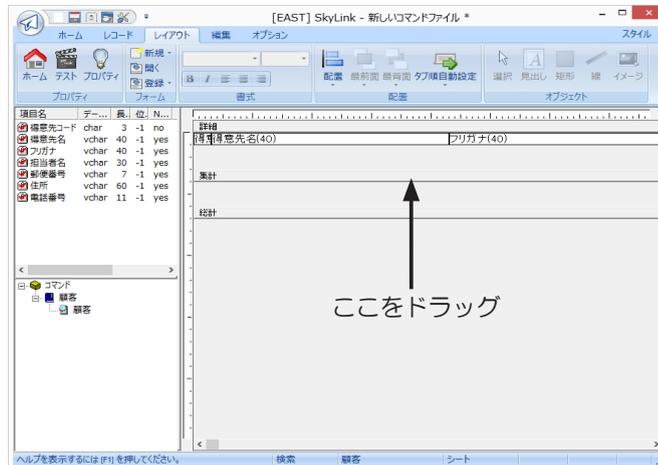
そこで、レイアウトを修正するために、印刷プレビュー画面を閉じて Excel シート画面に戻ってから SkyLink のウィンドウに切り替えます。

3. レイアウトを整形する

Excel フォームを使用するとレコードを 2 行以上にわたって表示させたり、データを 2 行以上にわたって表示することができます。これは Excel フォーム編集では、項目オブジェクトを 2 行目以降に配置したり、項目オブジェクトの高さを 2 行以上にすることです。このために、最初、詳細フィールドにスペースを確保します。

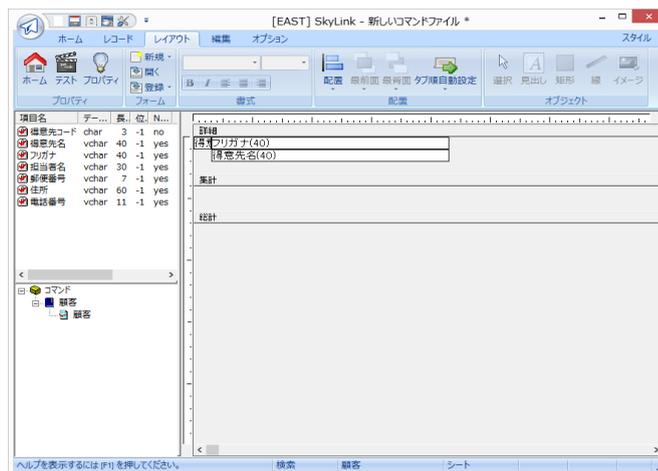
9.2 Excel フォームを編集する (レイアウト)

集計フィールドのバーを下にドラッグして 3 行に広げてみます。



詳細フィールドが 3 行に広がったことが左の行目盛り (行ルーラ) を基準にして確認できます。

[フリガナ] と [得意先名] をドラッグして 2 段にし、幅を調整します。

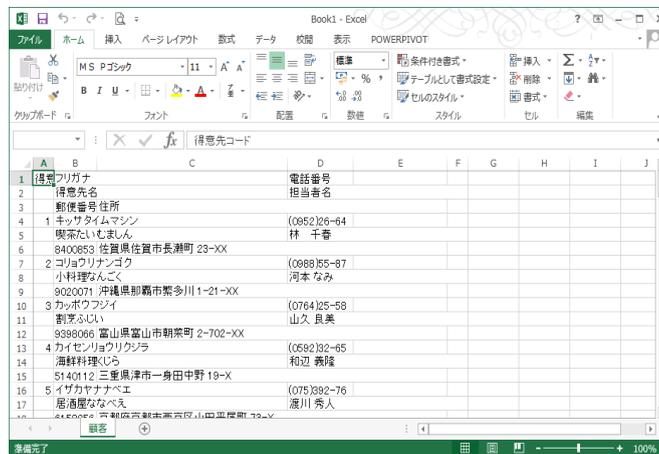


その他の項目を調整して以下のように設定します。各項目の右端の黒ハンドル■をドラッグし始めるとその都度の (桁数, 行数) が表示されますので参考にしてください。

この例では、項目はすべて 1 行ですが、高さを変更して 2 行分の高さにすることもできます。

レイアウトを整形できたところで Excel のシートへの出力を確認してみましょう。そのために、[テスト] ボタン  をクリックします。

9 Excel フォームを編集する



また、印刷した場合のレイアウトを見るために、メニューから [ファイル (F)] – [印刷プレビュー (V)] を選択します。



これでレコードが 1 ページに収まって印刷されます。

レイアウトはうまく整形できましたが、セルの書式を変更する必要があります。印刷プレビュー画面を閉じて Excel シート画面に戻ってから SkyLink のウィンドウに切り替え、セルの書式設定をしてみましょう。

4. 項目の書式設定をする

書式を設定したい項目を右クリックしてメニューから [フォント (F)]、[配置 (J)]、[表示形式 (N)]、[罫線 (B)]、[パターン (P)] のいずれかを選択します。ここではセルの幅を縮めた [得意先名]、[住所] を、[配置 (J)] で、[縮小して全体を表示する (K)] チェックボックスにチェックしておきます。そうすることによって、収まりきらない長さの文字を出力する場合でも、全体を見ることができるようになります。

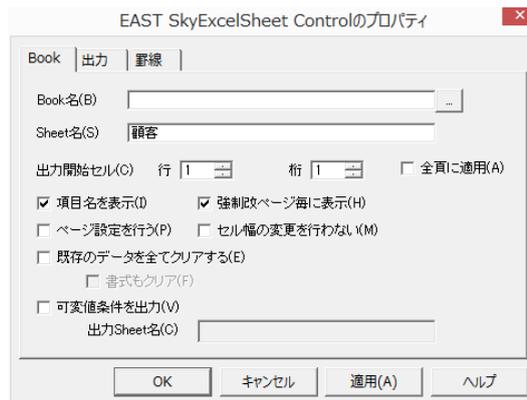


5. 印刷のための設定をする

Excel へエクスポートしてから印刷できますが、Excel フォームを使用すると、各ページの先頭に項目名を印刷したり、罫線を印刷させることができます。

項目でない部分 (背景) を右クリックしてメニューから [プロパティ (I)] を選択します。

[Book] タブで、印刷したときに各ページのデータの先頭に項目名が印刷されるように、設定します。

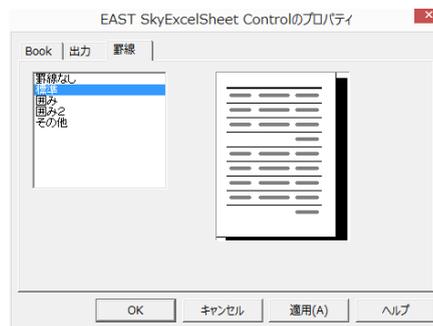


[出力] タブで、改ページの単位件数を入力します。これは各ページのデータの先頭に項目名が印刷されるようにするための設定です。

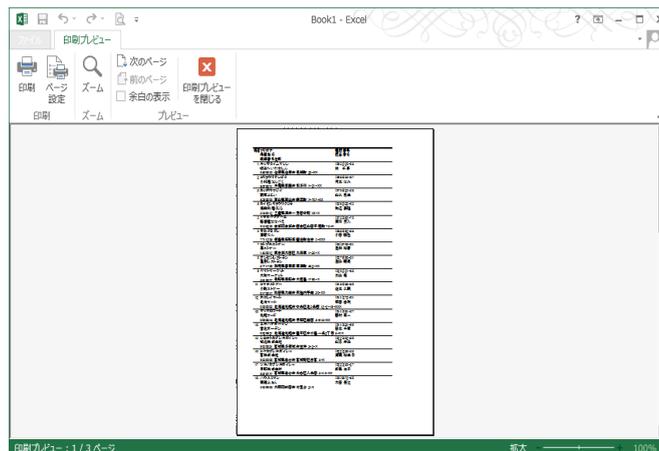
9 Excel フォームを編集する



[罫線] タブで、「罫線なし」以外を選択すると、罫線を付けて印刷することができます。



ここでも Excel のシートへの出力を確認してみましょう。そのために、[テスト] ボタン  をクリックします。また、罫線をもっとはっきりと見るために、メニューから [ファイル (F)] - [印刷プレビュー (V)] を選択します。



これで目的の Excel フォームができましたので印刷プレビュー画面を閉じてから SkyLink に切り替え、最後の設定をします。

項目でない部分 (背景) を右クリックしてメニューから [プロパティ (I)] を選択します。[出力] タブで、[出力後の処理] の [印刷を行う (O)] ラジオボタンを選択します。

6. Excel フォームを登録する

項目でない部分 (背景) を右クリックしてメニューから [登録 (S)] を選択します。

[ホーム] ボタン  をクリックしてメイン画面に戻ります。

7. 規定の出力先を Excel フォームにする

[出力先詳細] ボタン  をクリックします。[出力先の詳細] ダイアログで、出力先を作成した Excel フォームに変更してから規定値として設定します。

8. コマンドを登録し直す

コマンドとして出力先の規定値を有効にするために、コマンドを登録し直します。

このようにしておきますと、「顧客」コマンドを選択して [検索実行] ボタンを押すだけで、[得意先] 表が検索され、結果が Excel のシートに「顧客」Excel フォームで出力され、さらに同じフォームで印刷されます。

9. コマンドをファイルに保存する

[保存] ボタン  をクリックします。一度もファイルに保存していないときは [名前を付けて保存] ダイアログが表示されます。

◎ ヒント：データが変わったら改ページ

[得意先] 表のレコードを「担当者」毎に別のページに印刷することができます。そのためには前もってメイン画面で [担当者番号] にソート指定をしておきます。そして [担当者番号] 項目に [データが変わったら改ページ (P)] チェックボックスにチェックをします。ソート指定のされている [担当者番号] が同じ間、レコードは連続して印刷されます。そして [担当者番号] が変わったとき、新たなページに次のレコードが続けて印刷されます。

9.3 Excel フォームを編集する (集計)

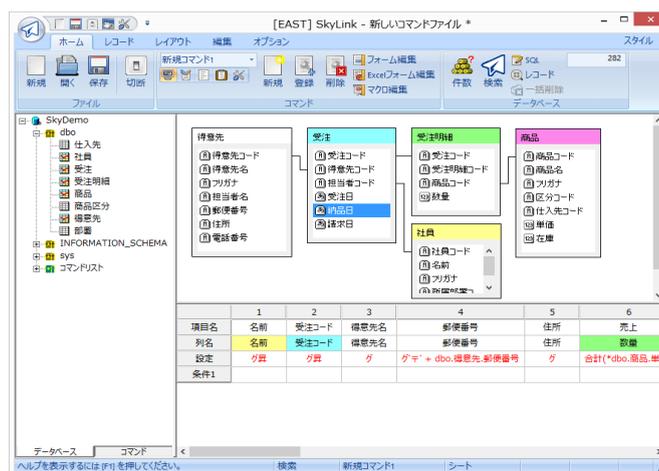
Excel フォームを使うと検索結果とその集計値をいっしょに表示・印刷させることができます。ある項目のデータが変わるときに集計したり、ページ毎に集計することができます。それに加えて全体を集計することもできます。集計には合計値、最大値、最小値、件数、平均があります。

編集例 2

〔受注コード〕毎に売上を集計し、担当者毎の合計と全体の合計を表示するフォームを作成する

1. 設定ウィンドウに項目を設定する

〔受注〕、〔受注明細〕、〔商品〕、〔社員〕、〔得意先〕の各表を結合し、〔名前〕、〔受注コード〕、〔得意先名〕、〔郵便番号〕、〔住所〕、〔数量〕、〔受注日〕、〔納品日〕を設定ウィンドウに追加します。〔郵便番号〕は「〒」と文字連結、〔数量〕は〔商品〕表の〔単価〕と掛け算をし集計を合計にし、項目名は〔売上〕に変更します。グループ化を行い、〔名前〕、〔受注コード〕の順で昇順にソート指定を行います。



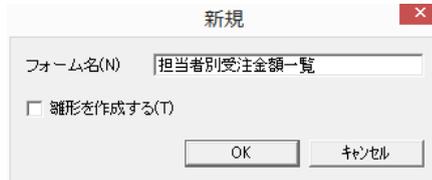
このコマンドを「担当者別受注金額一覧」として登録します。

2. データソースリストから項目を配置する

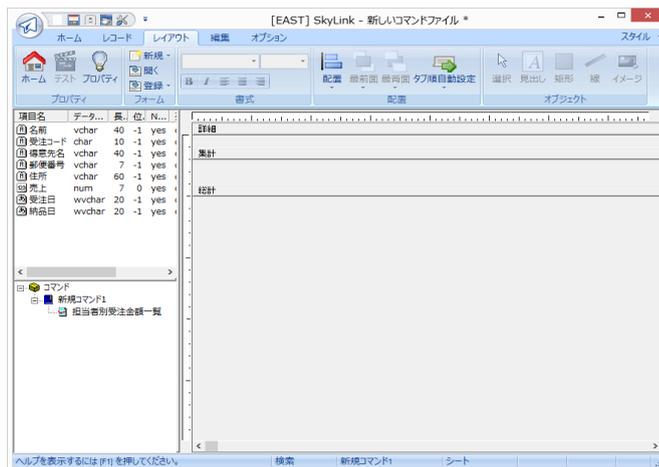
〔ホーム〕タブ〔コマンド〕グループの〔Excel フォーム編集〕を選択して Excel フォーム編集画面を開きます。今回はコマンド名をドラッグして全

項目をデザインウィンドウにデフォルトの Excel フォームで配置しましたが、今回はデータソースリストから項目単位でドラッグして配置します。そのため、まず左側のコマンドツリーにあるコマンド名を右クリックしてメニューから [新規作成 (N)] を選択します。

そしてデフォルトの Excel フォームが作成されるのを抑制するために、[新規] ダイアログで [雛型を作成する (T)] チェックボックスのチェックを外して [OK] ボタンを押します。

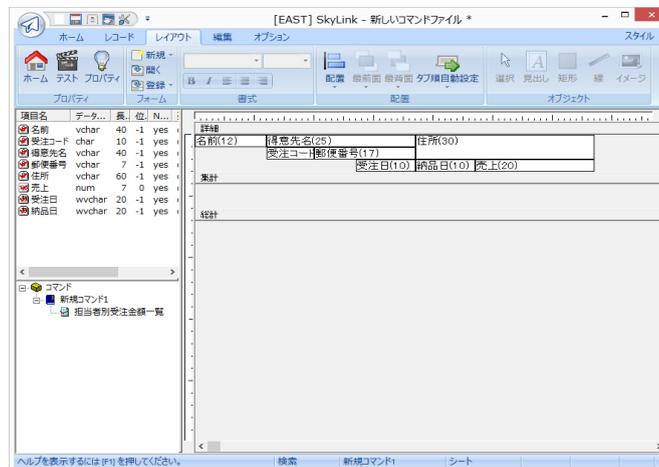


[出力] タブに集計の出力に関係ある小計のタイトルと総合計のタイトルがありますが、デフォルトのプロパティのまま [OK] ボタンを押します。



コマンドのデータソースリストが表示され項目単位でドラッグできるようになります。項目をドラッグしてデザインウィンドウの詳細フィールドで目的の位置でドロップして配置します。[Shift] キーを押しながら項目をクリックして連続して項目を選択したり、[Ctrl] キーを押しながら項目をクリックして飛び飛びに選択してから、複数項目をドラッグして一度に配置することもできます。

9 Excel フォームを編集する

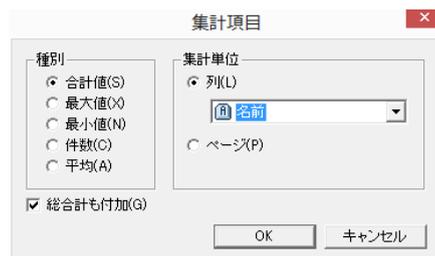


このように配置します。

3. 集計項目を追加する

[売上] の集計をするために、[売上] を右クリックしてポップアップメニューから [集計項目を追加(T)] を選択します。ここがグレイ表示されているときは複数項目が選択されている状態ですから、[売上] をクリックして単独の選択状態にしてから、右クリックし直してください。

[売上] の [集計項目] ダイアログで、[名前] の値が変わるときに [売上] の [合計値] を計算させ、さらに、全社員の合計も計算させ表示させるように設定します。

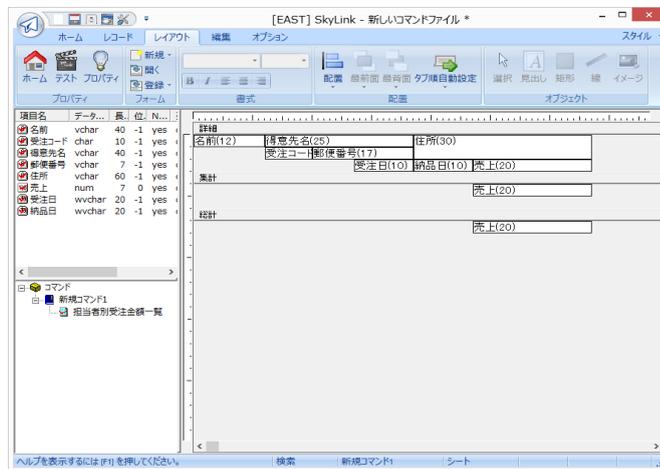


集計フィールドと総計フィールドに集計項目が追加されます。

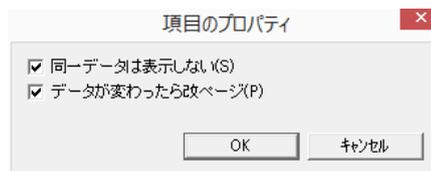
☺ ヒント：集計項目ダイアログの表示

[集計項目] ダイアログは集計項目を右クリックしてメニューから [項目のプロパティ (I)] を選択して表示できます。

9.3 Excel フォームを編集する (集計)



また、[名前]のプロパティを表示し、以下のように設定します。



ここで Excel のシートへの出力を確認してみましょう。そのために、[テスト] ボタン  をクリックします。

	A	B	C	D	E	F	M	N	O	P
19	英そば	2051	〒8900073	鹿児島県鹿児島市宇宿 2-14-X						
20				2013/5/31	2013/7/31	30000				
21	小料理なんごく	2075	〒9020071	沖縄県那覇市繁多川 1-21-XX						
22				2013/8/16	2013/10/16	1200				
23	小料理なんごく	3041	〒9020071	沖縄県那覇市繁多川 1-21-XX						
24				2014/5/22	2014/7/22	10200				
25	英そば	3047	〒8900073	鹿児島県鹿児島市宇宿 2-14-X						
26				2014/6/2	2014/6/2	64400				
27	小料理なんごく	3057	〒9020071	沖縄県那覇市繁多川 1-21-XX						
28				2014/6/30	2014/8/31	38000				
29	小計					322900				
30	加藤 泰江	割烹ふじい	1014	〒9398066	富山県富山市朝霧町 2-702-XX					
31				2015/2/15	2015/4/14	21000				
32	城元株式会社									
33										

検索結果に、「小計」という見出しの行に担当社員毎の受注額の合計が表示されます。

9 Excel フォームを編集する

さらに、全社員の [売上] の合計 (総合計) も追加されました。
見やすくするために、プロパティの [罫線] タブで罫線を指定します。

項目	年度	金額	単位
売上	2019	4,300	円
売上	2018	4,800	円
売上	2017	5,800	円
売上	2016	3,000	円
売上	2015	1,200	円
売上	2014	1,000	円
売上	2013	6,400	円
売上	2012	2,000	円
合計		25,500	円

4. Excel フォームを登録する

項目でない部分 (背景) を右クリックしてメニューから [登録 (S)] を選択します。

[ホーム] ボタン  をクリックしてシートを登録してメイン画面に戻ります。

5. 規定の出力先を Excel フォームにする

[出力切替] ボタン  をクリックします。[出力先の詳細] ダイアログで、出力先を作成した Excel フォームに変更してから規定値として設定します。

6. コマンドを登録し直す

コマンドとして出力先の規定値を有効にするために、コマンドを登録し直します。

7. コマンドをファイルに保存する

[保存] ボタン  をクリックします。

9.4

Excel マクロを呼び出す

編集例 3

社員別の売上を検索し、Excel 上でグラフに表示する

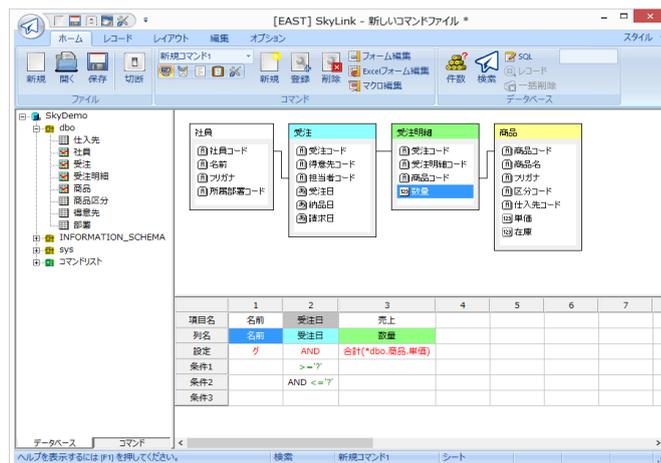
1. 社員毎の売上を集計するコマンドを作成する

[社員]、[受注]、[受注明細]、[商品]表を表ウインドウに追加し、[名前]、[受注日]、[数量]を設定ウインドウに追加します。

[数量]の項目名を[売上]に変更し、[設定]ダイアログで[商品]表の[単価]と掛け算を行い、[集計]として「合計」を指定します。

[受注日]は非表示項目とし、条件に「>=」「<=」をそれぞれ[可変値]として設定します。

[名前]列は[グループにする(G)]を指定し、「その他の項目にもグループ化の指定を行いますか?」には「いいえ(N)」を選択します。



このコマンドを「社員別売上」という名前で登録します。

2. Excel でマクロを作成する

Excel を起動して新規 Book を作成し、[開発]タブの [Visual Basic] ボタンを選択し、編集画面を表示します。

[開発]タブは通常は表示されていません。[Excel のオプション]ダイアログを表示して [基本設定] カテゴリ内の「[開発]タブをリボンに表示す

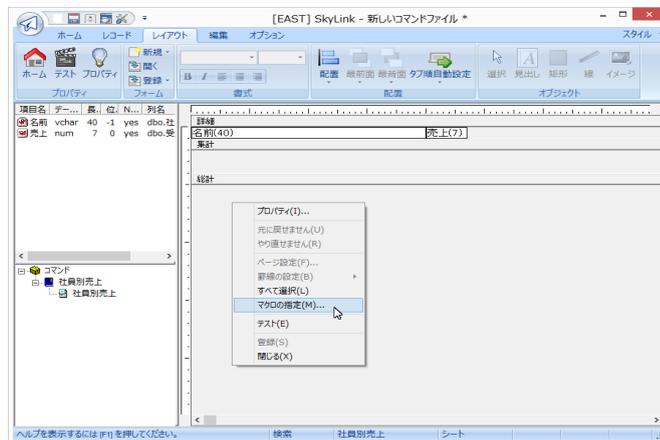
る (D)」のチェックボックスをチェックすることで表示されます。
[挿入 (I)]メニュー [標準モジュール (M)]を選択すると開かれる画面に、
以下のコードを入力します。

```
-----  
Sub ChartAdd()  
    strCurSheet = ActiveSheet.Name  
    '検索結果が出力されている範囲  
    strRange = Application.ActiveCell.CurrentRegion.Address  
    Charts.Add  
    ActiveChart.ChartType = xlBarClustered  
    ActiveChart.SetSourceData Source:=Sheets(strCurSheet).Range(strRange), PlotBy _  
        :=xlColumns  
    ActiveChart.Location Where:=xlLocationAsObject, Name:=strCurSheet  
    With ActiveChart  
        .HasTitle = True  
        .ChartTitle.Characters.Text = "売上グラフ"  
        .Axes(xlCategory, xlPrimary).HasTitle = False  
        .Axes(xlValue, xlPrimary).HasTitle = False  
    End With  
    ActiveChart.HasLegend = False  
End Sub  
-----
```

[ファイル (F)]メニュー [終了して Microsoft Excel へ戻る (C)]を選択し、
Excelに戻ったら、現在の Book に「Macro.xlsm」という名前を付けて保
存します。

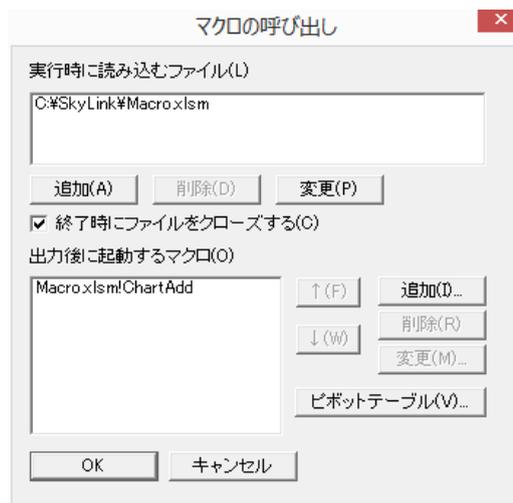
3. Excel フォーム編集を行う

SkyLinkに戻り、[ホーム]タブ [コマンド]グループの [Excel フォーム編
集]ボタンで Excel フォーム画面に遷移し、コマンド「社員別売上」をデ
ザインウィンドウにドラッグ・アンド・ドロップします。その後、項目幅を適
宜調整し、デザインウィンドウの背景部分を右クリックしてメニューを表示し
ます。



[マクロの指定 (M)] を選択します。

[マクロの呼び出し] ダイアログが表示されますので、[実行時に読み込むファイル (L)] に2で作成した Macro.xlsm を指定し、[Book 名!マクロ名 (B)] に「Macro.xlsm!ChartAdd」と入力して [追加 (I)] ボタンを押します。



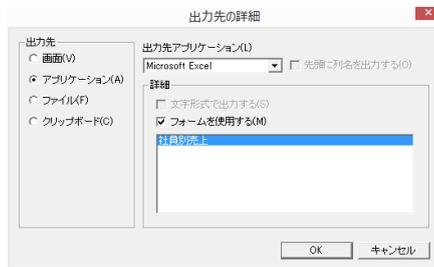
[OK] ボタンで編集画面に戻ります。

4. メイン画面に戻り、出力先の指定を行う

[ホーム] ボタンを押してメイン画面に戻ります。その際に、「変更を登録しますか？」のメッセージが表示されますので、「はい (Y)」を選択してください。

[出力先詳細] ボタンをクリックして、出力先を先程作成した Excel フォームにします。

9 Excel フォームを編集する



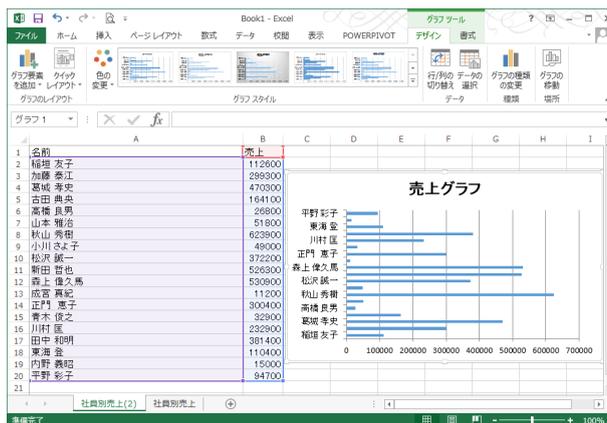
5. 検索を実行する

[検索] ボタン  をクリックして、実際に検索してみましょう。

条件に [可変値] の指定がしてあるため、[検索条件入力] フォームが表示されます。



2 月中の売上を検索します。



このように、社員別の売上がグラフ表示されました。

参考

ここで示した手順は Excel 2013 を使用した場合です。その他のバージョンの Excel を使用する場合、手順が異なる可能性があります。お

使いの Excel のマニュアルを参照してください。

編集例 4

商品別、社員別、受注日別、得意先別の受注金額を、Excel のピボットテーブルを使用して表示する

1. コマンドを作成する

[商品]、[受注]、[受注明細]、[得意先]、[社員]表を表ウインドウに追加し、[商品名]、[名前]、[得意先名]、[受注日]を2つ、[数量]を設定ウインドウに追加します。

[数量]の項目名を[売上額]に変更し、[設定]ダイアログで[商品]表の[単価]と掛け算を行います。

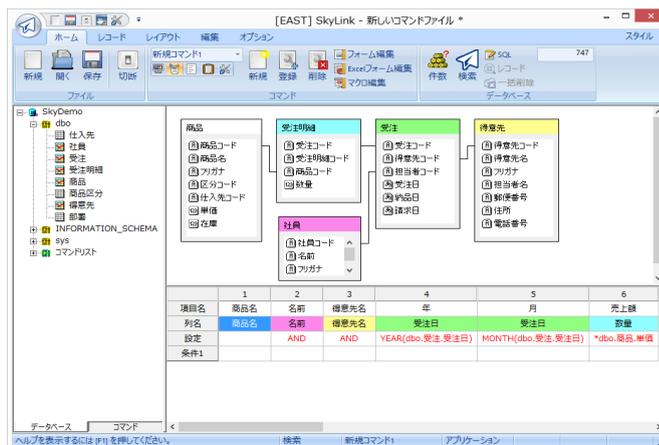
1つ目の[受注日]の項目名を[年]に変え[設定]ダイアログを開き、[演算(P)]に「=」を、値に「YEAR(dbo.受注.受注日)」と入力し、年のみの表示とします。

その際に、[列参照として扱う(E)]チェックボックスにチェックが付いているのを確認します。

もう1つの[受注日]の項目を[月]とし、[設定]ダイアログを開く、[月]と同様に[演算(P)]に「=」を、値に「MONTH(dbo.受注.受注日)」と入力し月のみの表示とします。

[列参照として扱う(E)]チェックボックスにチェックも確認します。

以下のように表示されます。

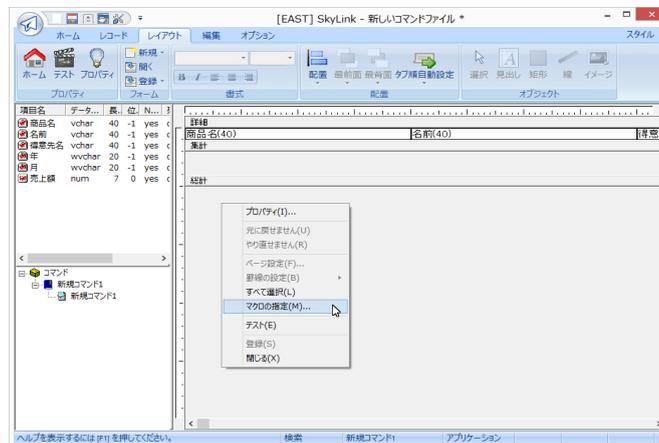


2. Excel フォーム編集を行う

[ホーム]タブ[コマンド]グループの[Excel フォーム編集]ボタンで Excel フォーム編集を起動し、新規に Excel フォームを作成します。

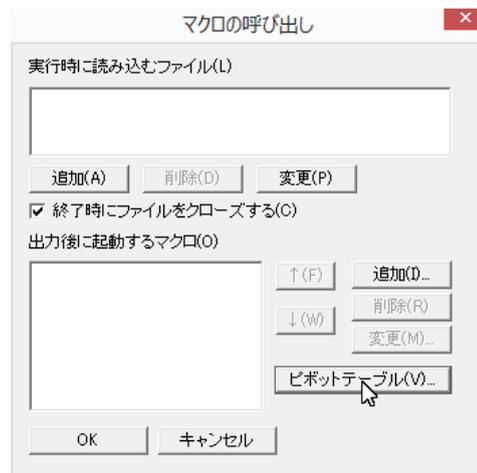
9 Excel フォームを編集する

デザインウィンドウの背景部分を右クリックしてメニューを表示します。



[マクロの指定 (M)] を選択します。

[マクロの呼び出し] ダイアログが表示されますので、[ピボットテーブル (V)] を選択します。



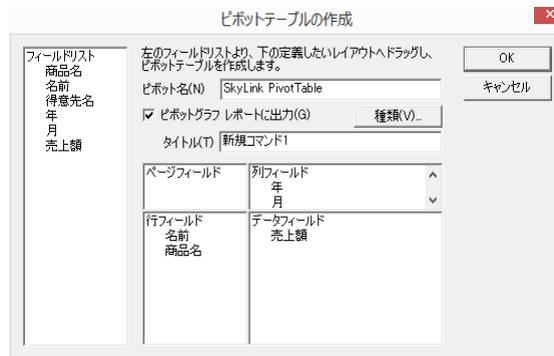
[ピボットテーブルの作成] ダイアログにピボットとして設定したい項目を配置します。

[行フィールド] に [名前] [商品名] の順にドラッグします。

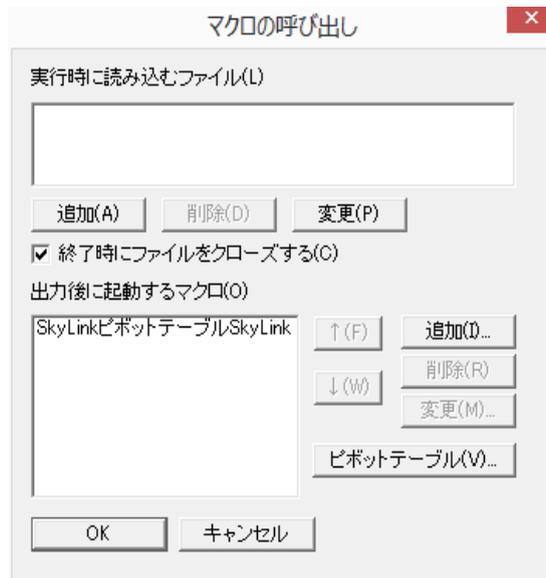
[列フィールド] に [年] [月] の順にドラッグします。

[データフィールド] に [売上額] をドラッグします。

ピボットグラフのチェックボックスにもチェックを付けておきます。



以下のようにマクロが自動設定されます。



フォーム登録後メイン画面に戻り、[出力先詳細]ダイアログを表示し、出力先を Excel、フォームを先程作成したフォームを指定します。

3. 検索を実行する

[検索] ボタン  をクリックして、実際に検索してみましょう。

表示された Excel ピボットテーブルの値の表示を [合計] に変更します。

9 Excel フォームを編集する

値フィールドの設定 ? [X]

ソース名: 売上額

名前の指定(C): 合計 / 売上額

集計方法 計算の種類

値フィールドの集計(S)

集計に使用する計算の種類を選択してください
選択したフィールドのデータ

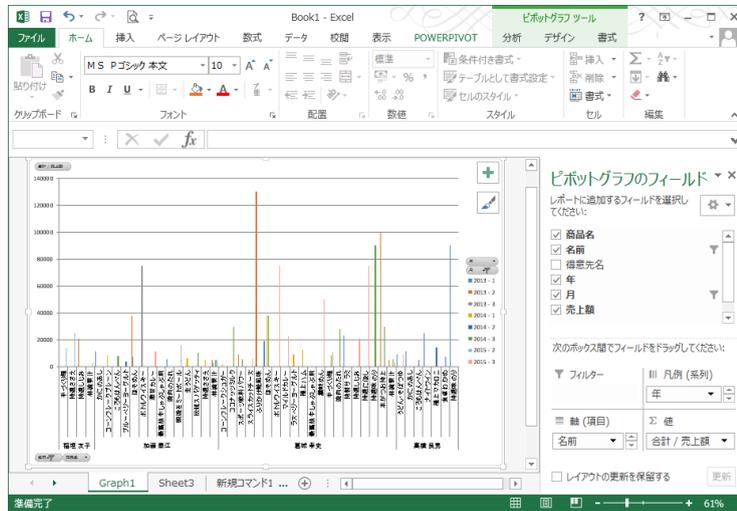
- 合計
- データの個数
- 平均
- 最大値
- 最小値
- 積

表示形式(N) OK キャンセル

The screenshot shows the Excel interface with a PivotTable and its field list. The PivotTable is set to 'Sales' as the source and 'Total Sales' as the value field. The field list on the right shows 'Sales' selected for the Values area.

名前	商品名	年	月	2013 集計	2014
稲垣 友	手づくり麺	1	2	3	1
	特選さえ			21000	21000
	特選ししみ			21000	
稲垣 友子	林種果汁			21000	
加藤 泰	かこのあし	11500	21000	21000	11500
	コンフレックプレーン				8800
	ころもはんぺん				
	ブルーベリーヨーグルト				360
	ほそのん		38000	7600	45600
	ポトルウイスキー			75000	75000
	激甘カレー				
	糖高級中しゃぶしゃぶ用		5600		5600
	焼肉のたれ				
	照焼きマートボール				
	生うどん				8000

Excel の結果 [Graph1] シートを選択すると、グラフ表示が確認できます。



このように、検索を実行するとすぐに業務分析が行えるようになります。マクロは Excel 上で手順を記録することにより、いろいろな事ができますので、お客様の用途にあったものを作成してご利用ください。



10. マクロ機能を使用する

SkyLink のマクロ機能の使用方法を説明します。

10.1 マクロを作成する

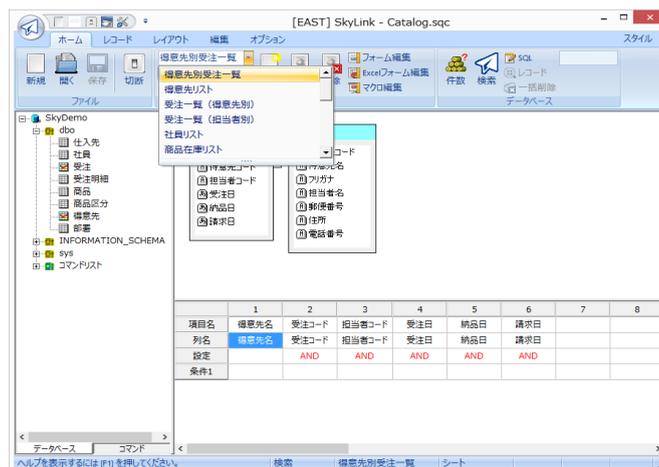
日々行われる定型業務をよりいっそう簡単にするために、マクロ機能がお手伝いいたします。

マクロ機能を使用すれば、データベースに自動接続することはもちろん、処理を選択するだけで簡単に該当の検索処理を行うことができます。またユーザーに見られたくない表情情報などを表示しませんので、データベースの管理者の方にとっても運用が容易になります。

もうひとつの利用方法として、バッチジョブとしての運用があります。例えば、1日の受注データを担当部署毎にHTMLファイルに出力するコマンドを登録して、マクロファイルを作成します。それを夜間のバッチジョブとして実行させれば、翌朝誰もがそのHTMLファイルを開くことにより検索結果を取得できます。データベースの負荷も減り、その他の業務の運用効率もアップします。

1. コマンドファイルを作成する

マクロとして処理したい数だけコマンドを作成します。その際に、「可変」条件を設定しておき「検索条件フォーム」を作成しておけば、更に運用効果がアップします。



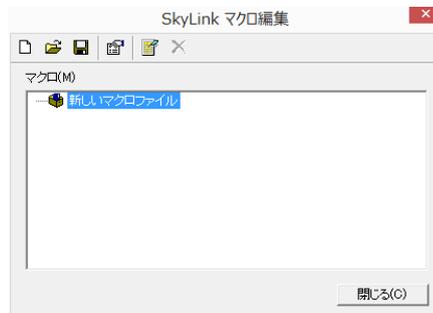
コマンドファイルを保存します。

参考

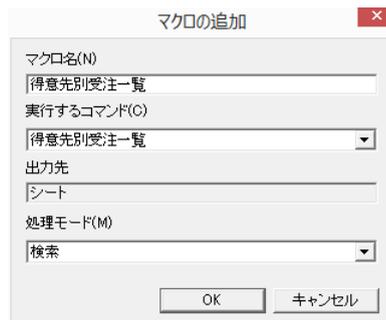
検索条件フォームについては、「8.4 検索条件フォーム」をご参照ください。

2. マクロファイルの作成

[ホーム]タブ[コマンド]グループの[マクロ編集]を選択して、[マクロ編集]ダイアログを表示します。

**3. コマンドを登録する**

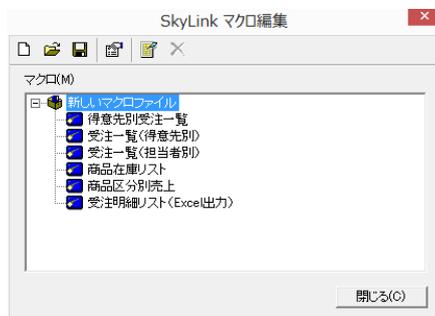
「新しいマクロファイル」を右クリックして表示される[マクロの追加(C)]メニューを選択するか、 ボタンを押して[マクロの追加]ダイアログを表示します。



[マクロ名(N)]に名称を入力し、[実行するコマンド(C)]コンボボックスから実行したいコマンドを選択します。出力先を変更する場合は、マクロ編集を終了して設定を変更し、ファイルを保存してから再度マクロ編集を実行してください。

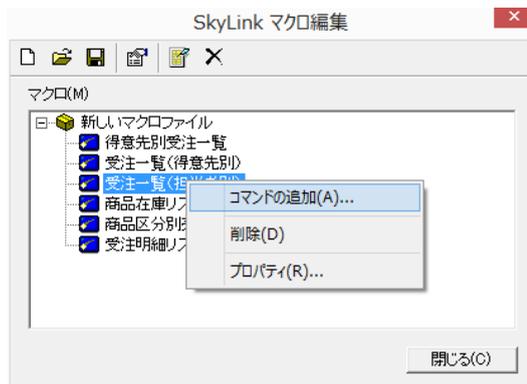
マクロとして登録したい処理数分繰り返します。

10 マクロ機能を使用する

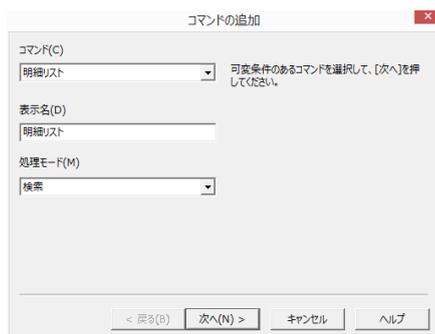


4. 絞り込み検索を指定する

受注テーブルを検索後、指定された受注コードの受注明細テーブルを検索する場合は、「受注一覧(担当者別)」マクロを選択して、右ボタンクリックで表示される [コマンドの追加 (A)] メニューか  ボタンを選択します。



[コマンドの追加] ダイアログが表示されます。

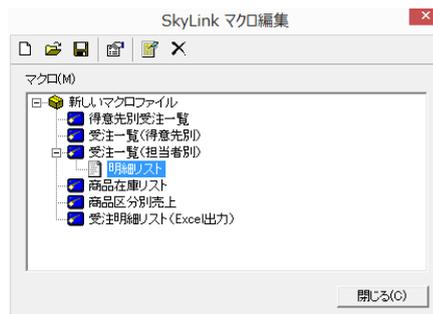


ここで、「受注明細リスト」コマンドを指定します。「受注明細リスト」コマンドを作成する際に、受注コード項目に「可変」の条件を設定しておきます。「可変」が1つも指定されていないコマンドの場合は、「このコマンドには可変条件が設定されていません。」というメッセージボックスが表示され、次の画面に遷移できません。



[条件の設定]ダイアログが表示されます。

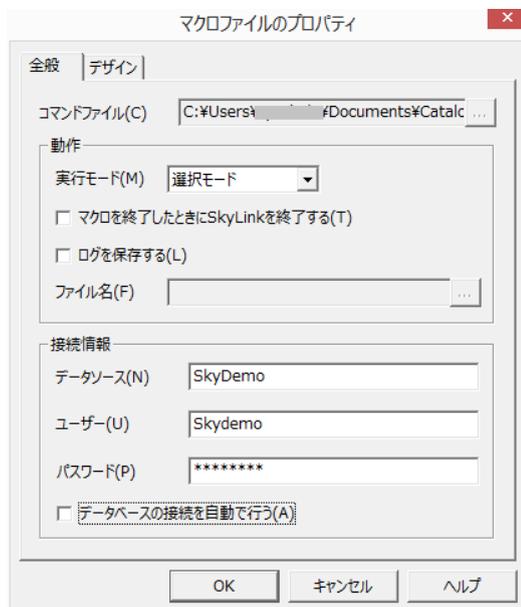
ここでは、「受注一覧(担当者別)」コマンドの[受注コード]と「受注明細リスト」コマンドの[受注コード]を選択して[設定]ボタンを押下後、[完了]ボタンを押します。



5. 動作形態、デザイン、自動接続の設定を行う

「新しいマクロファイル」のツリーを選択後、右クリックで表示される[プロパティ(R)]メニュー、または  ボタンを押して[マクロファイルのプロパティ]ダイアログを表示します。

10 マクロ機能を使用する



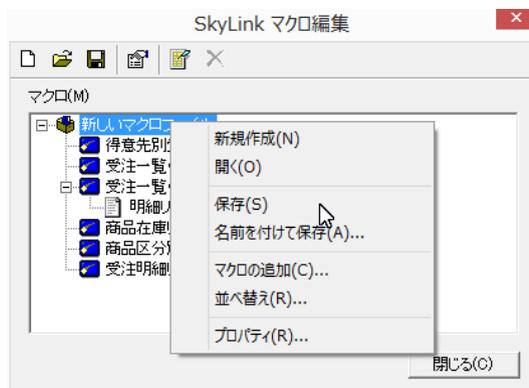
実行モード、接続情報の設定を行う（[全般]タブ）



デザインの設定を行う（[デザイン]タブ）

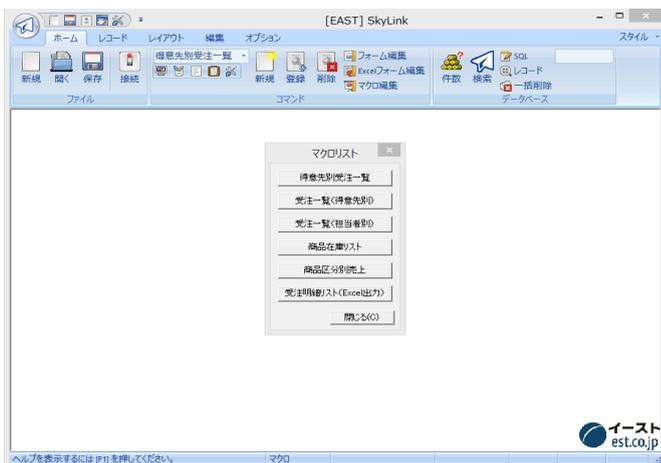
6. マクロファイルの保存を行う

「新しいマクロファイル」のツリーを選択後、右クリックで表示される[保存(S)]／[名前を付けて保存(A)]メニュー、または  ボタンを押して、マクロファイルの保存を行います。



7. マクロを実行する

[ホーム]タブ [ファイル]グループの [開く] ボタンからマクロファイルを選択するだけで実行することが可能です。



10.2

更新用のマクロを作成する

受注表を検索し、その中から一つの受注の受注明細表を更新するマクロを作成してみましょう。

1. コマンドを作成する

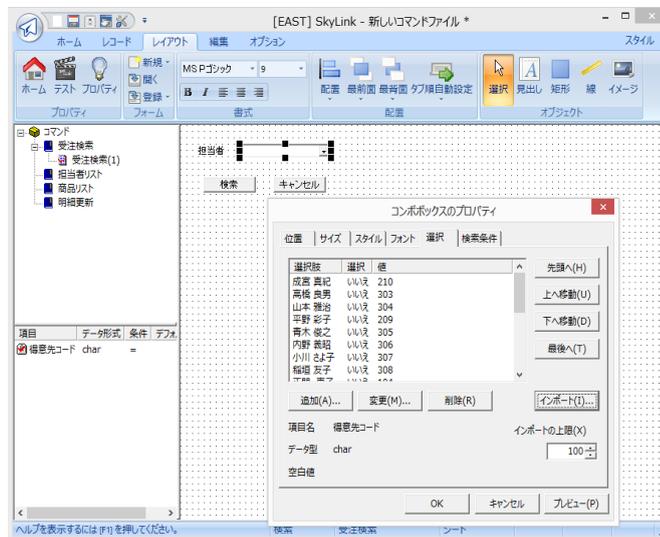
受注一覧を検索する[受注検索]コマンドを作成します。

項目名	1	2	3	4	5	6	7	8
受注コード								
得意先名								
受注日								
納品日								
担当者名								
担当者コード								
設定		AND	AND	AND	AND	AND		
条件1								
条件2								

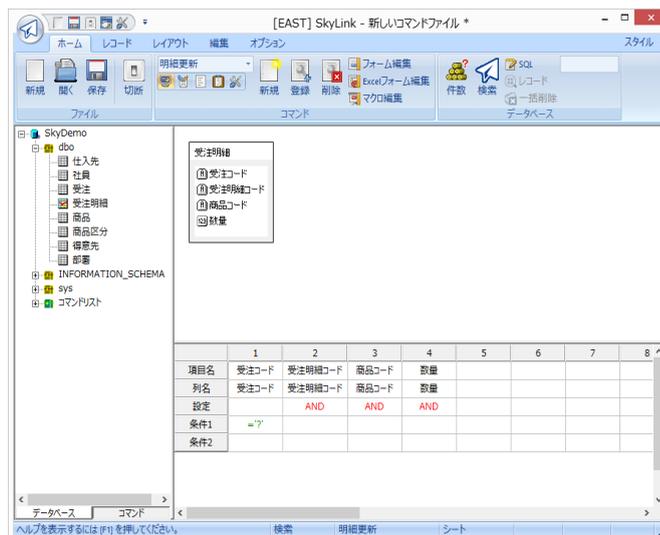
その際、[担当者コード]を条件とするように設定します。また[担当者リスト]コマンドを作成し、検索時に担当者一覧をコンボボックスで選択できるようにします。

[受注検索]コマンドには[検索条件フォーム]を作成します。

10.2 更新用のマクロを作成する

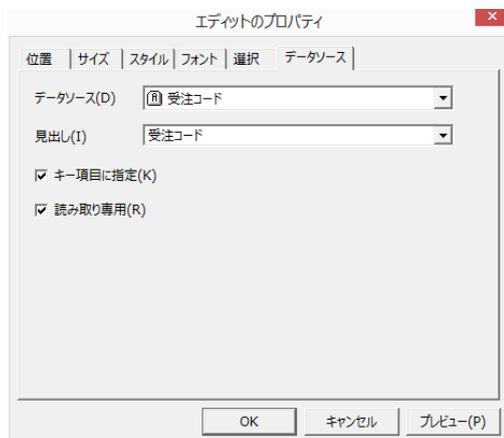


[受注明細] のコマンドを作成します。[受注コード] を可変条件として設定します。

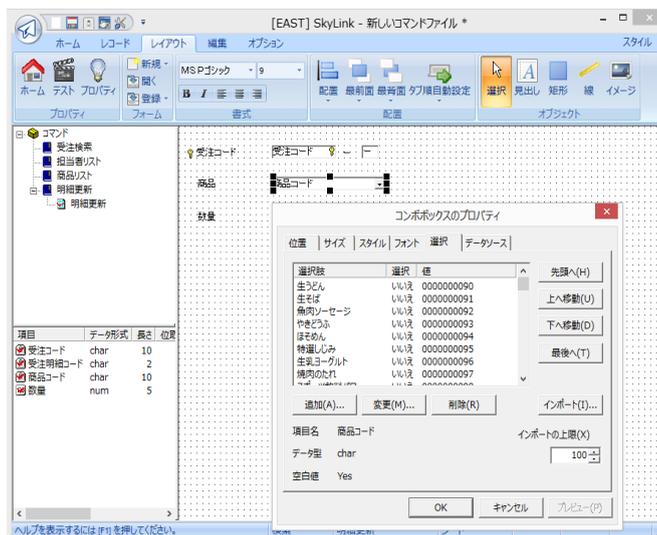


受注明細編集用のフォームを作成します。その際に、[受注コード] と [受注明細コード] は [キー項目に指定 (K)] チェックボックスと [読み取り専用 (R)] チェックボックスにチェックをしておきます。

10 マクロ機能を使用する

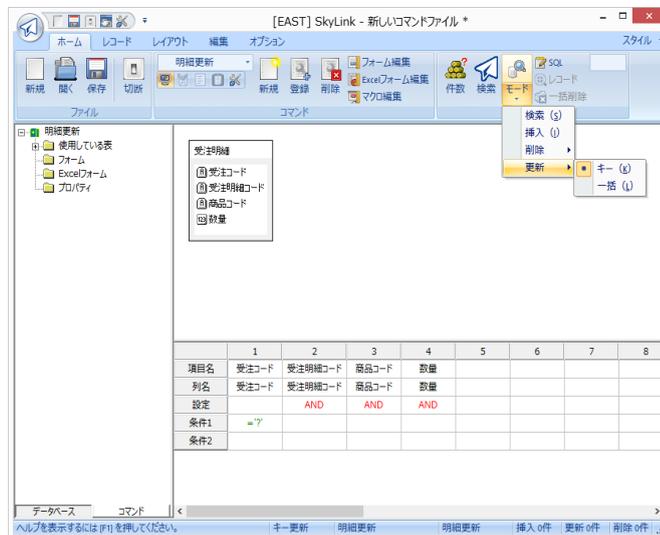


商品名を選択できるように [商品リスト] コマンドを作成し、[商品コード] をコンボボックスに変更して設定します。

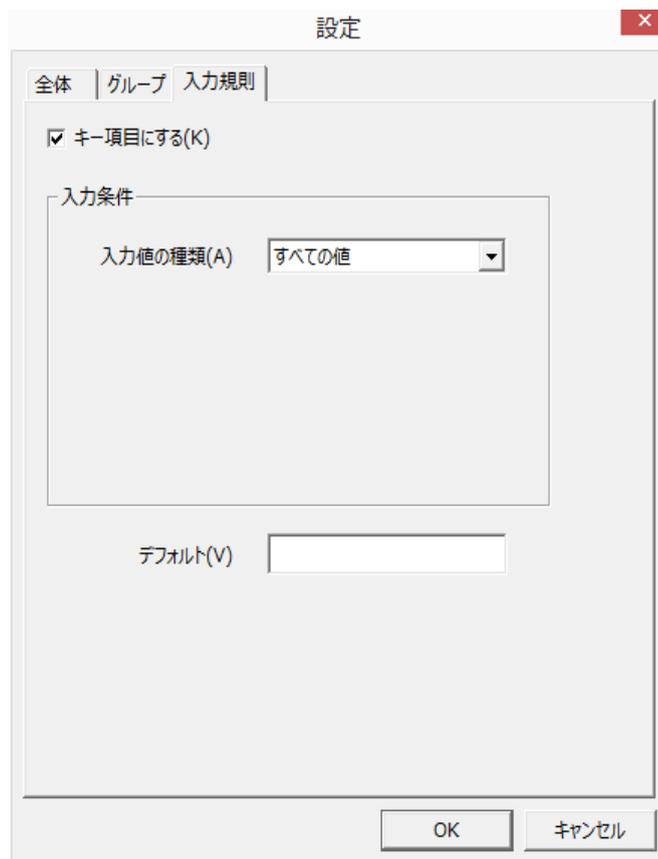


編集用フォームを登録して [ホーム] に戻ります。

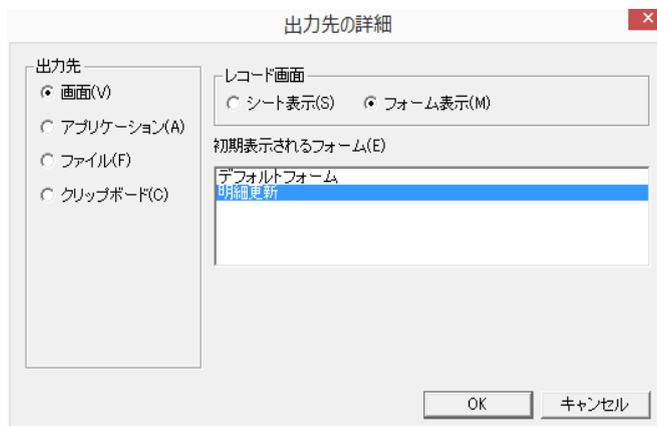
モードを [キー更新] モードに切り替えます。



[受注コード]と[受注明細コード]の設定ダイアログを表示して、[入力規則]タブの[キー項目にする(K)]のチェックボックスにチェックを付けます。



コマンドの[出力先]を切り替えておきます。

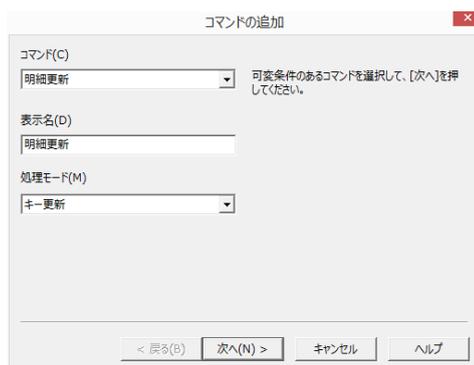
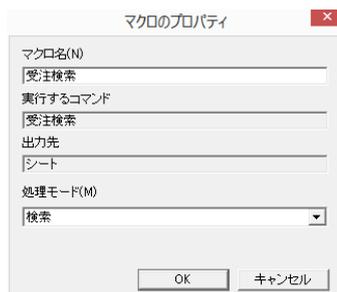


コマンドファイルを保存します。

2. マクロファイルの作成

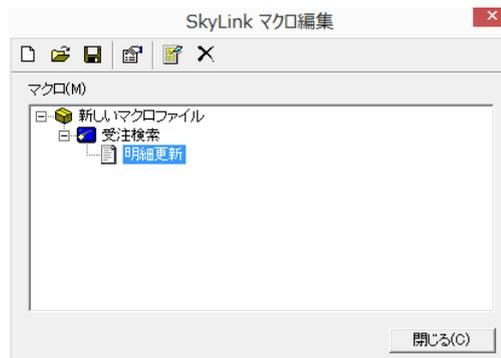
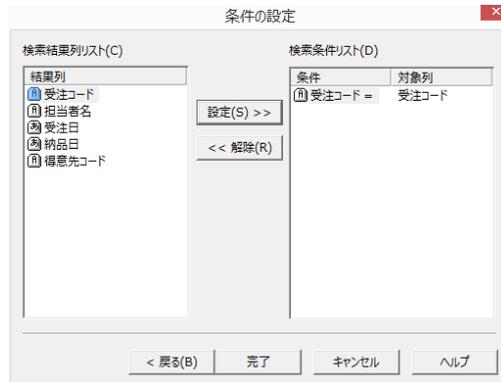
[コマンド]グループの[マクロ編集]でマクロファイルを作成します。

まず、[受注検索]コマンドを新規でマクロ追加登録し、続いてコマンドの追加で[明細更新]を指定します。その際に、[処理モード(M)]を[キー更新]にします。





[受注コード]を紐づけます。



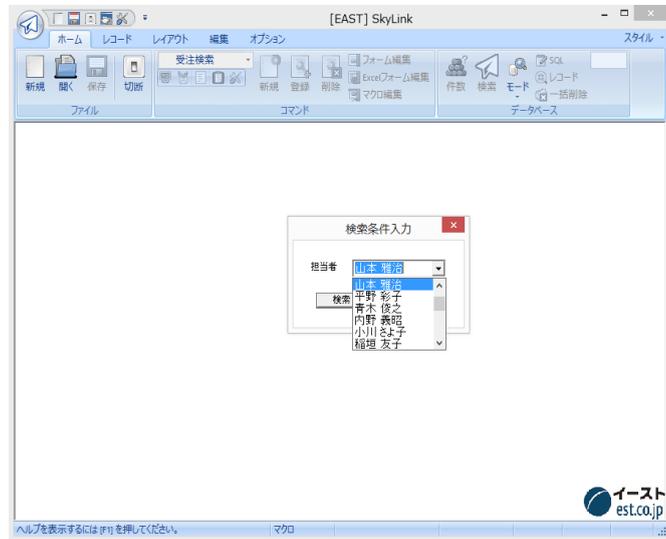
マクロをファイルとして保存します。

3. マクロの実行

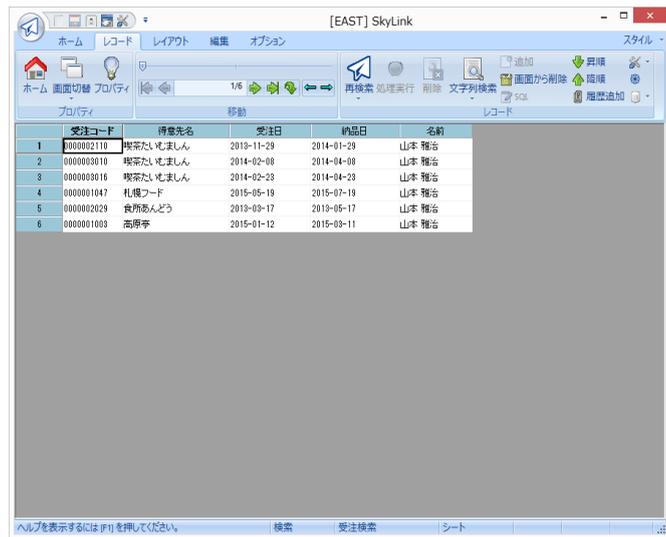
マクロの実行を行います。

実行するとまず検索条件フォームが開き、社員を指定します。

10 マクロ機能を使用する

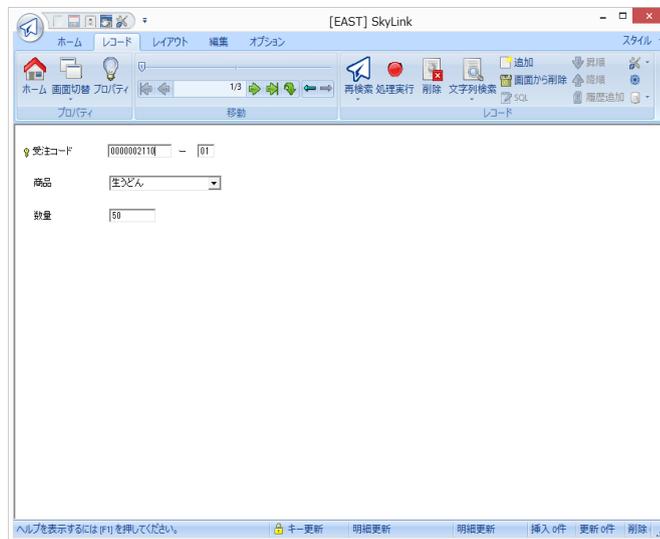


[受注]表の検索結果が表示されるので、編集したい[受注コード]のレコードを選択して[次に進む]ボタンをクリック。

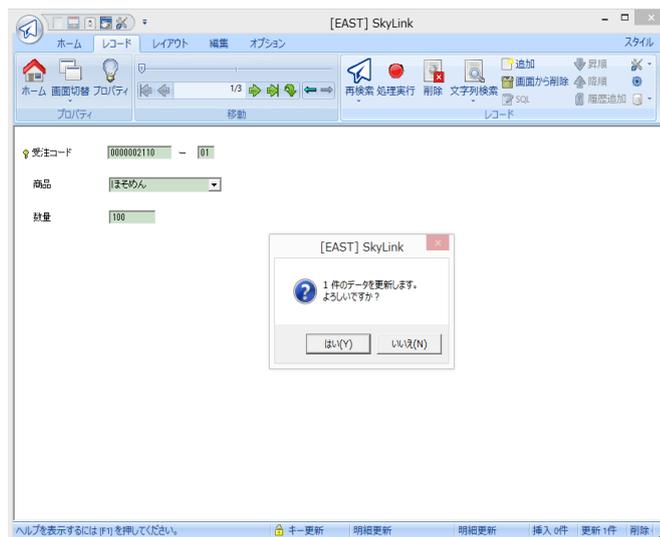


作成したフォームが表示されるので、データの編集を行います。

10.2 更新用のマクロを作成する



[処理実行] ボタン  を押すと、更新処理が行われます。

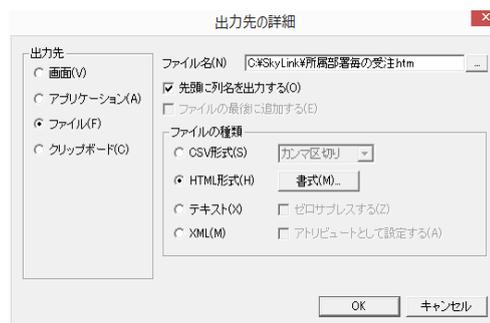
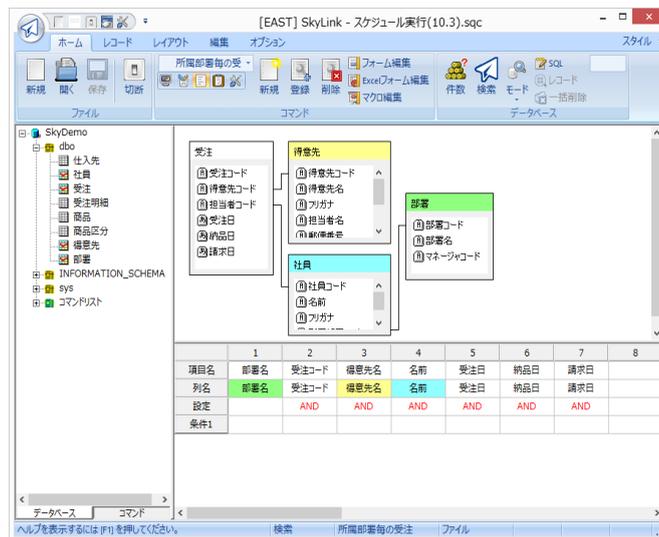


10.3 スケジューラにマクロを登録する

SkyLink のコマンドを作成する際に、出力先を「ファイル」に指定しておく、「サilentモード」のマクロを作成することができます。そのマクロをスケジューラに登録することによって、夜間などに自動実行し、データベースから検索結果をファイルに出力することができます。

1. コマンドファイルを作成する

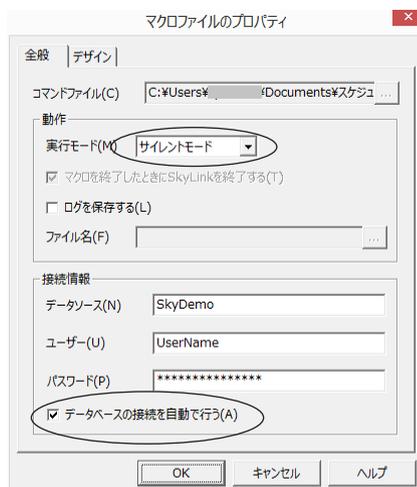
ここではコマンドの出力先をHTMLファイルとして、所属部署毎の受注テーブルを検索します。



コマンドファイルを保存します。

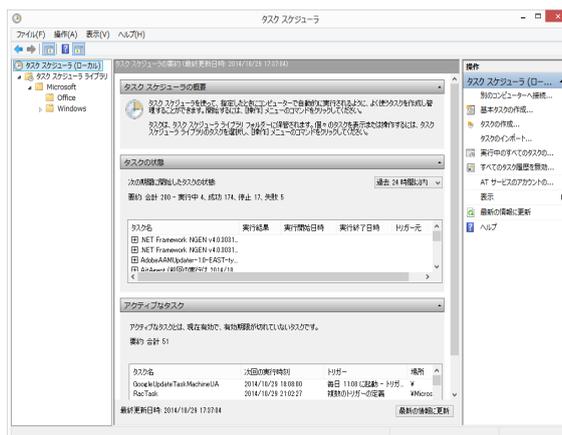
2. マクロファイルの作成

「10.1 マクロを作成する」を参考に、マクロファイルを作成します。その際に、[マクロファイルのプロパティ]ダイアログの[全般]タブで[サイレントモード]及び、[データベースの接続を自動で行う(A)]を指定します。



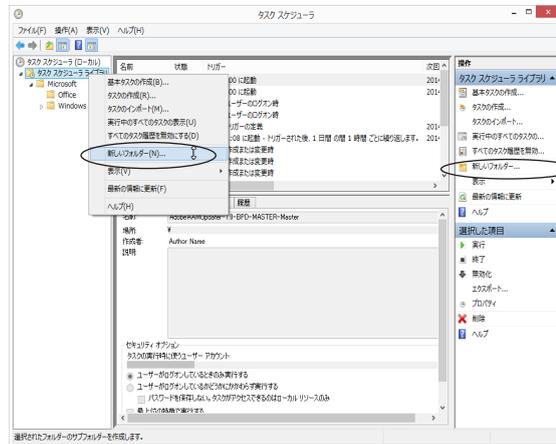
3. タスクウィザードを起動する

Windows の「コントロールパネル」から「システムとセキュリティ」を選び「管理ツール」の「タスク スケジューラ」を選択して「タスク スケジューラ」を起動します。

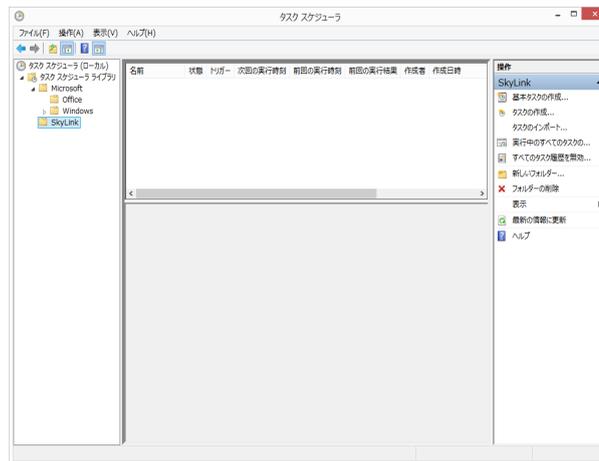


起動されたら、[コンソール ツリー]の[タスク スケジューラ ライブラリ]を選択して右クリックで表示されるメニューまたは、[操作ウィンドウ]の[新しいフォルダ...]を選択して[SkyLink]フォルダを作成します。

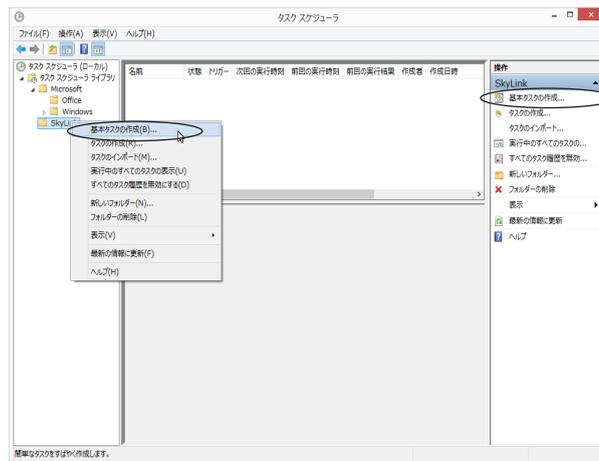
10 マクロ機能を使用する



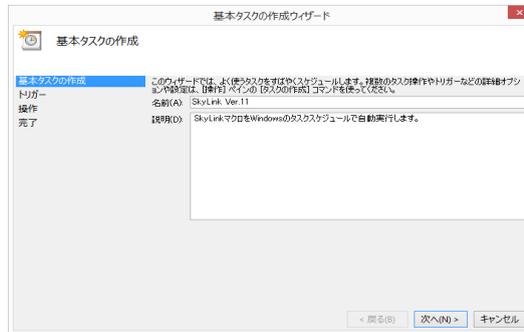
SkyLink のモジュールを設定します。



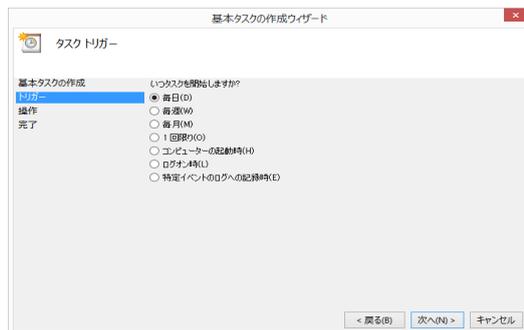
作成された [SkyLink] フォルダを選択して [基本タスクの作成] を選択して新しいタスクの登録を行います。



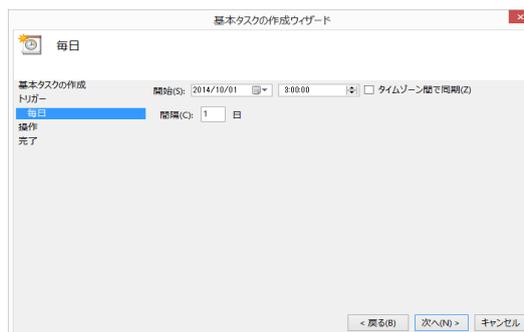
タスクの「名前」と「説明」を入力して [次へ (N)] ボタンを押して次のページに遷移します。



タスクを開始する時期を指定します。ここでは毎日実行するものとします。[次へ (N)] ボタンを押して次のページに遷移します。

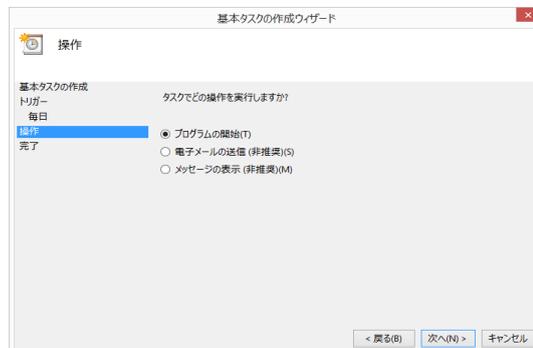


タスクの開始するタイミングを指定します。ここでは午前3時に実行するものとします。[次へ (N)] ボタンを押して次のページに遷移します。

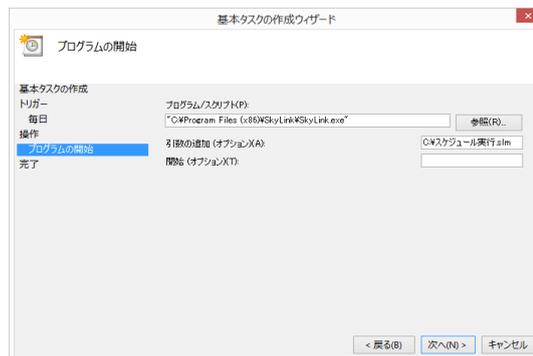


実行する操作方法を選択します。ここでは [プログラムの開始 (T)] を選択します。[次へ (N)] ボタンを押して次のページに遷移します。

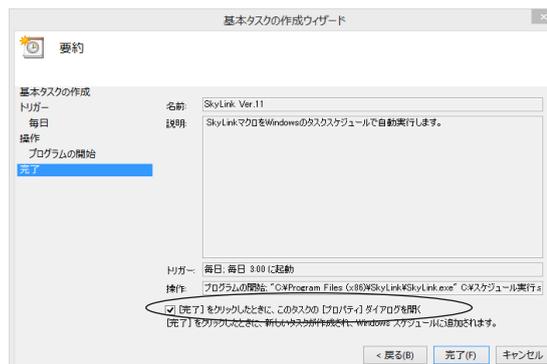
10 マクロ機能を使用する



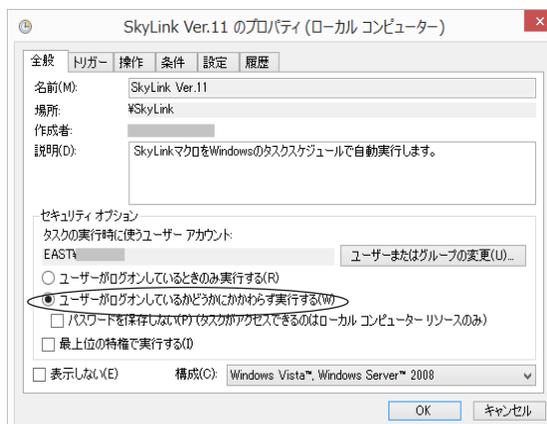
[プログラム / スクリプト (P)] の入力欄に SkyLink モジュールをフルパスで指定します。または、[参照 (R)] ボタンを押して表示されるダイアログから SkyLink モジュールを選択します。続いて [引数の追加 (オプション)(A)] に実行する SkyLink マクロファイル名をフルパスで指定します。[次へ (N)] ボタンを押して次のページに遷移します。



[完了] をクリックしたときに、このタスクの [プロパティ] ダイアログを開く] のチェックボックスにチェックをつけて [完了 (F)] ボタンを押します。



追加したタスクが登録されプロパティが表示されます。[セキュリティ オプション] カテゴリの [ユーザーがログインしているかどうかにかかわらず実行する (W)] のラジオボタンを選択して、適切な実行ユーザーアカウントを選択して [OK] ボタンを押します。必要に応じてパスワード等を入力します。



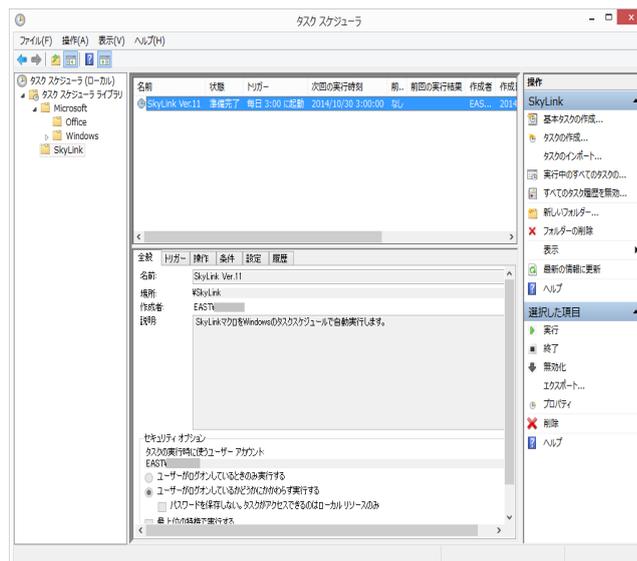
◎ ヒント：スケジュールのアカウント

ここで指定されたアカウントの権限で処理を行いますので、SkyLink のコマンドファイルを作成した際のアカウントを指定してください。ODBC の場合は、データソースをシステムデータソースとして作成しておいてください。

📖 参考

テキストで示した設定方法は Windows 8.1 での設定方法です。他の OS で設定する場合には OS 毎のマニュアル等を参照してください。

追加したタスクが登録されます。



パソコンが動作中の場合、指定した時間にタスクが起動され SkyLink が実行されます。

10 マクロ機能を使用する

部署名	発注コード	得意先名	名前	受注日	納品日	請求日
総務部	000001065	大宮ユニオン	村上 偉久典	2015-07-15	2015-08-15	2015-07-20
総務部	000001066	シヤボスター	市井 泰江	2015-07-16	2015-08-16	2015-07-23
企画部	000001067	滋料株式会社	松沢 新一	2015-07-18	2015-08-18	2015-07-24
システム部	000001068	川町スター	櫻城 孝史	2015-07-20	2015-08-20	2015-08-02
システム部	000001069	南スター	秋山 秀樹	2015-07-27	2015-08-27	2015-08-02
総務部	000001070	大和マーケット	田中 和朗	2015-07-28	2015-08-28	2015-08-06
管理部	000001071	奥澤ふあん	川村 匡	2015-07-31	2015-08-30	2015-08-04
総務部	000001072	エコーホレーション	村上 偉久典	2015-08-02	2015-10-03	2015-08-09
総務部	000001073	浜辺商店	田中 和朗	2015-08-06	2015-10-08	2015-08-16
システム部	000001074	月野株式会社	秋山 秀樹	2015-08-15	2015-10-15	2015-08-21
人事部	000001076	長所あんど	内野 泰昭	2015-08-25	2015-10-25	2015-08-29
総務部	000001077	宝珠株式会社	市井 泰江	2015-08-26	2015-10-26	2015-09-04
企画部	000001078	宇倉ささ	松沢 新一	2015-08-26	2015-10-26	2015-09-02
総務部	000001079	アリス	村上 偉久典	2015-08-28	2015-10-28	2015-09-04
総務部	000001080	信厚心い	市井 泰江	2015-08-28	2015-10-28	2015-08-05
管理部	000001081	富花ガーデン	市井 恵子	2015-08-31	2015-10-31	2015-09-07
総務部	000001082	城元株式会社	市井 泰江	2015-09-02	2015-11-02	2015-09-09
総務部	000001083	みちのく本舗	村上 偉久典	2015-09-04	2015-11-04	2015-09-10
人事部	000001084	望風醸造 丸いえつす	市川 さよ子	2015-09-14	2015-11-14	2015-09-19
管理部	000001085	バルカランド	正門 恵子	2015-09-19	2015-11-19	2015-09-24
営業部	000001086	屋台すまいる	新田 哲也	2015-09-20	2015-11-20	2015-09-27
システム部	000001087	川町スター	櫻城 孝史	2015-09-14	2015-11-14	2015-09-21
総務部	000001088	森村品店ふじ	田中 和朗	2015-09-25	2015-11-25	2015-09-29
総務部	000001089	よろず商店	田中 和朗	2015-09-27	2015-11-27	2015-10-03
システム部	000001090	北常マート	櫻城 孝史	2015-09-28	2015-11-28	2015-10-05
システム部	000001091	コンビニエンス北風	櫻城 孝史	2015-09-30	2015-11-30	2015-10-06
総務部	000001092	株式会社	島田 芽子	2015-10-07	2015-12-07	2015-10-09



11. SkyLink Player

SkyLink Player の使用方法を説明します。

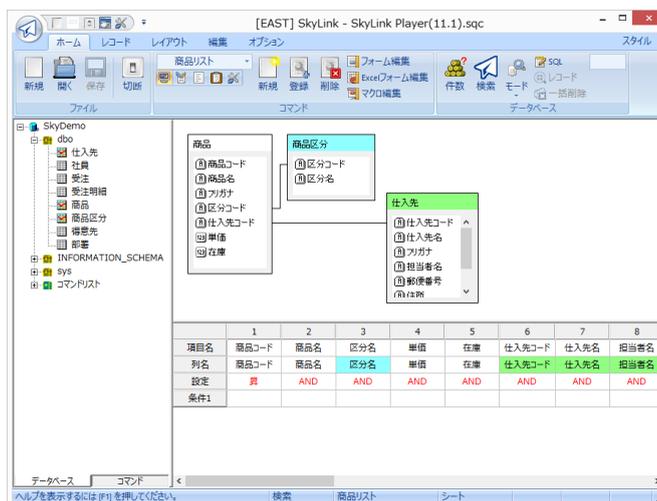
11.1

検索を行う

SkyLink で作成したマクロ/コマンドファイルの実行結果を表示するツール SkyLink Player のご利用方法を説明いたします。

1. マクロ/コマンドファイルを作成する

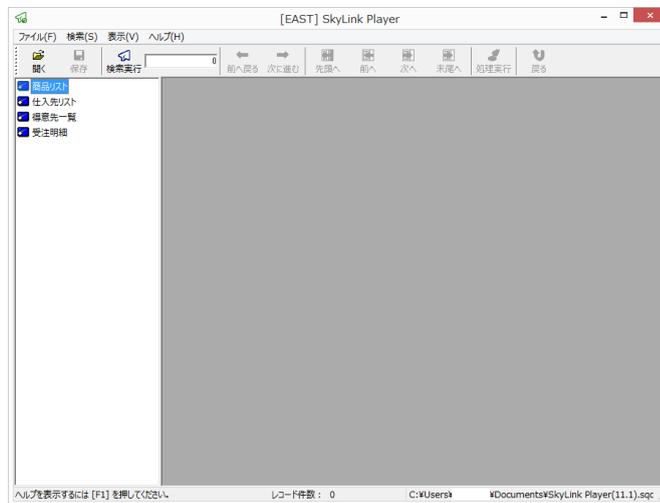
SkyLink Player を利用される場合は、SkyLink でマクロ/コマンドファイルを作成します。



2. SkyLink Player を起動する

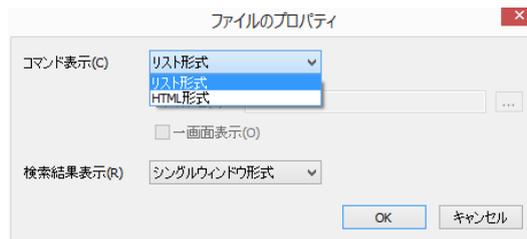
メニューから [ファイル (F)] - [開く (O)] を選択し、[ファイルを開く] ダイアログで 1 で作成したマクロ/コマンドファイルを選択します。

接続後、マクロ/コマンドファイルに保存されたコマンドがコマンドウィンドウに表示されます。



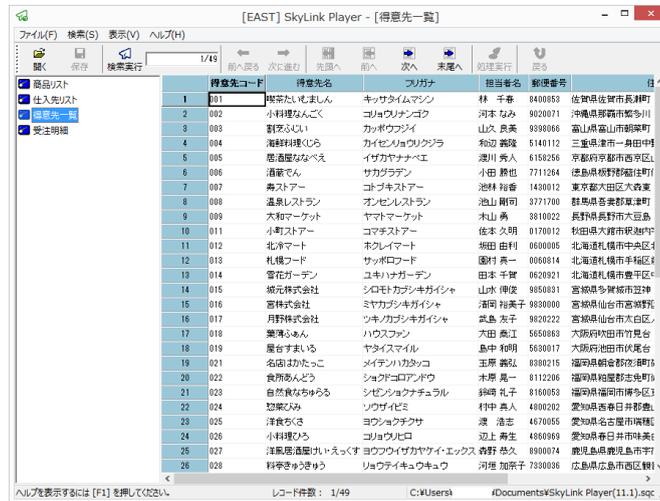
3. 表示形式を変更

メニューから [ファイル (F)] - [ファイルのプロパティ (R)] を選択し、[ファイルのプロパティ] ダイアログでコマンド表示と検索結果表示の形式の設定をします。



4. コマンドの実行を行う

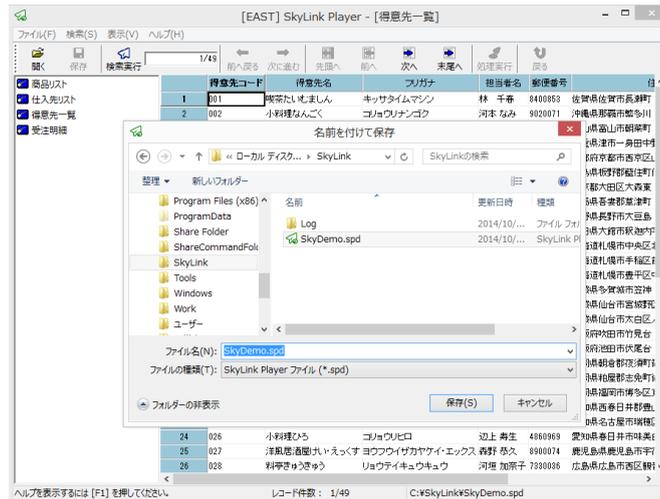
コマンドウィンドウに表示されたコマンドを1つ選択し、[検索実行] ボタンをクリックするか、メニューから [検索 (S)] - [検索実行 (S)] を選択します。



検索結果が表示されます。

5. ファイルに保存する

現在の作業状態を次回も利用する場合は、ファイルに保存しておきます。



6. 保存した SkyLink Player ファイルを開く

5で保存したファイルメニューから [ファイル (F)] - [開く (O)] を選択して開きます。ファイルのショートカットから開くこともできます。

SkyLink Player ファイルのショートカット



5 の作業状態を保持したままファイルが開かれます。保持される作業状態は以下のとおりです。

ファイルのプロパティ	コマンド表示形式
	HTML パス名
	一画面表示状態
	検索結果表示形式
ツールバーの有無	

11.2

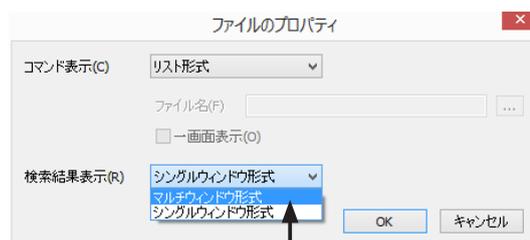
表示方法を変更する

コマンド表示と検索結果表示の形式を変更することができます。

メニューから [ファイル (F)] - [ファイルのプロパティ (R)] を選択し、[ファイルのプロパティ] ダイアログでコマンド表示と検索結果表示の形式の設定をします。

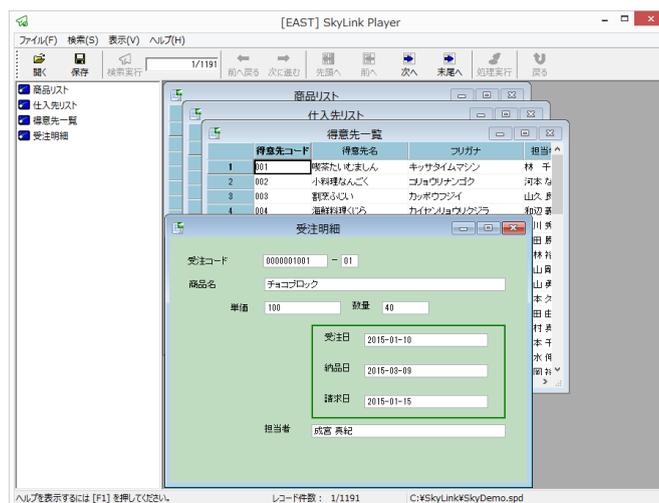
1. マルチウィンドウ形式

[検索結果表示 (R)] コンボボックスから「マルチウィンドウ形式」を選択します。結果表示ウィンドウが複数表示されます。



マルチウィンドウ形式を選択する

複数のコマンド（マクロ）の検索結果を同時に表示することができるので、複数の検索結果を見比べる業務や一度に複数の情報を確認しなければいけない業務などに活用できます。

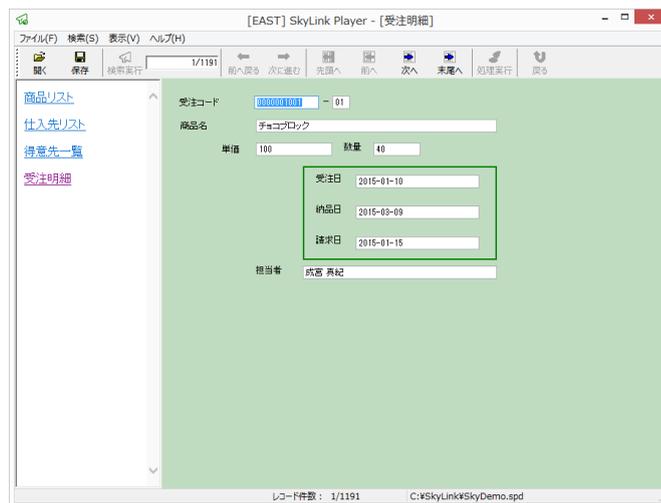
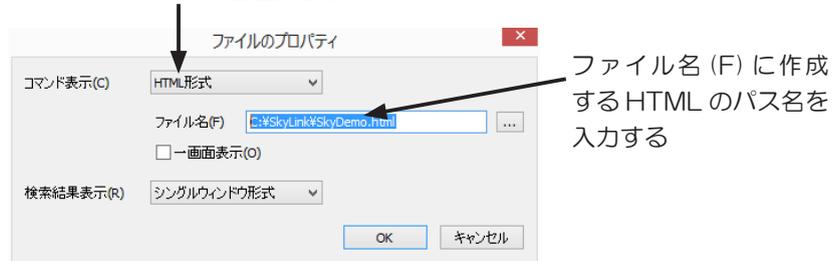


2. HTML 形式

[コマンド表示 (C)] コンボボックスから「HTML 形式」を選択します。コマンドウィンドウのコマンドが HTML のリンクで表示されます。

[ファイル名 (F)] に作成する HTML のパス名を指定すると、デフォルトの HTML ファイルが作成されます。パス名を指定しなくても表示はされますが、HTML ファイルは作成されません。

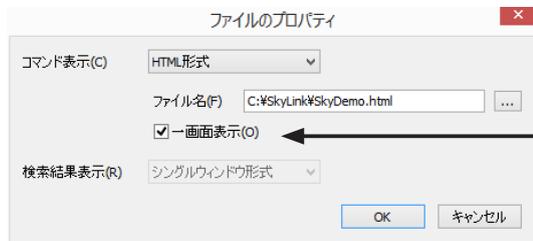
HTML 形式を選択する



3. 一画面表示

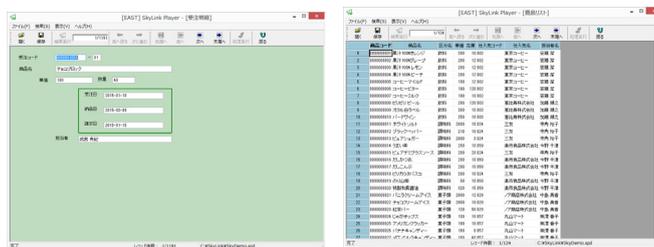
[コマンド表示 (C)] コンボボックスから「HTML 形式」を選択し、[一画面表示 (O)] チェックボックスにチェックを付けると、コマンドウィンドウと結果表示ウィンドウを独立したウィンドウにせず、表示画面が一画面に表示されます。

コマンド表示を HTML 形式にすることで作成される HTML ファイルを編集して、独自の専用アプリケーションも作成することが可能です。凝った画面で業務を行いたい場合などに活用できます。



[一画面表示(O)]
チェックボックスに
チェックを付ける

結果表示が一画面表示になります。



独自の専用アプリケーションを作成することができます。

11.3 独自アプリケーションの作成方法

独自アプリケーションを作成するHTMLファイルの編集方法を説明いたします。

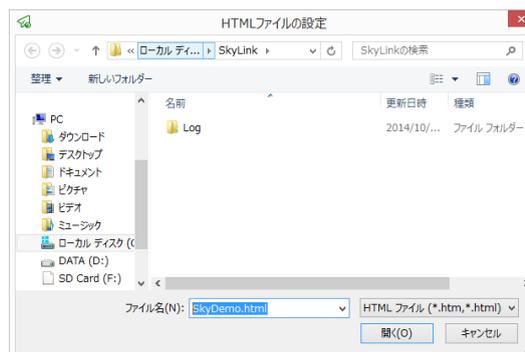
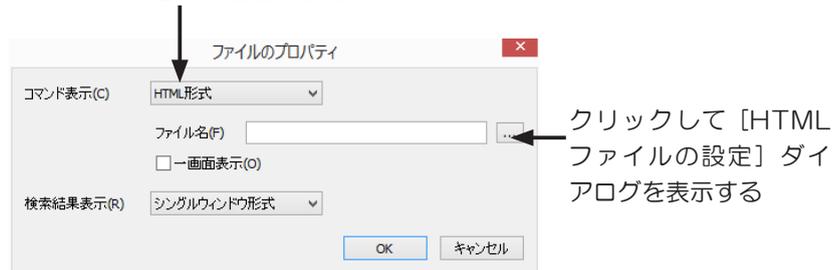
1. マクロ/コマンドファイルを開く

SkyLink で作成したマクロ/コマンドファイルを開きます。

2. コマンド表示をHTML形式にする

メニューから [ファイル (F)] - [ファイルのプロパティ (R)] を選択し、[ファイルのプロパティ] ダイアログを表示します。[コマンド表示 (C)] コンボボックスから「HTML形式」を選択します。[ファイル名 (F)] には作成するHTML のパス名を指定します。

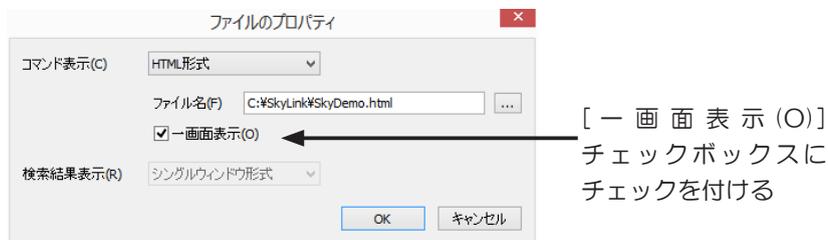
HTML形式を選択する



[HTMLファイルの設定] ダイアログで作成するHTMLファイルの保存先フォルダを選択し、ファイル名を指定する

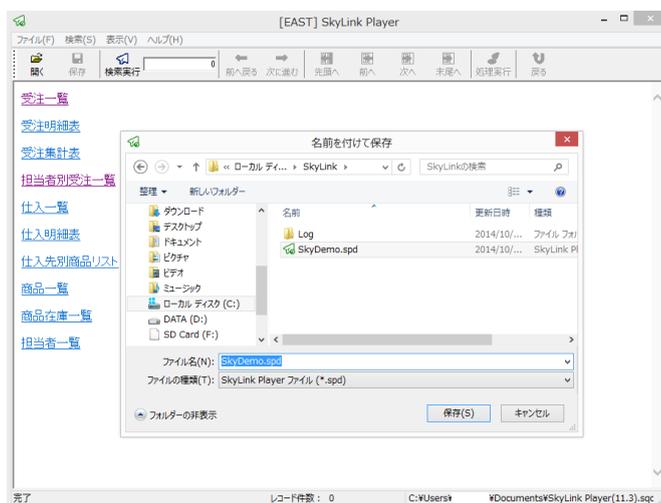
3. 一画面表示にする

[一画面表示 (O)] チェックボックスにチェックを付けます。



4. ファイルに保存する

メニューから [ファイル (F)] - [名前を付けて保存 (A)] を選択し、ファイルに保存します。



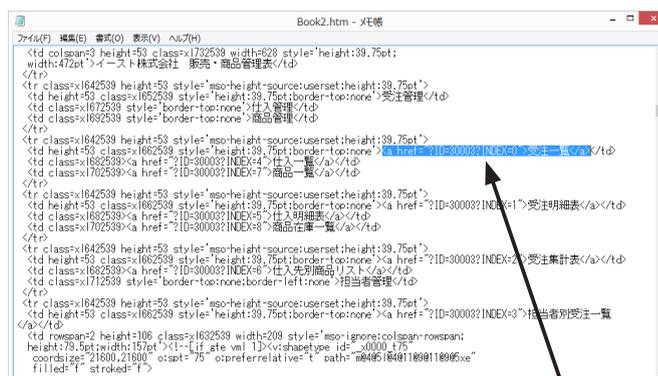
5. HTML ファイルを編集する

メモ帳などで 2 で作成されたデフォルトの HTML ファイルを開きます。



HTML ファイルのリンクの <A> 部分がマクロ/コマンドファイルのコマンドを指定している箇所ですので、属性「href」の値は変更しないで編集します。

 コマンド名



(この例は Excel で作成した HTML ファイルを修正したものです)

6. HTML ファイルを保存し、SPD ファイルを開く

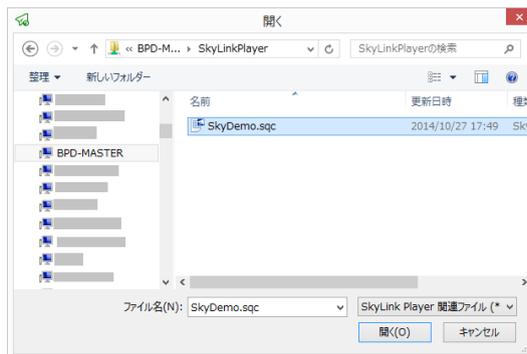
5 で編集した HTML ファイルを保存し、4 で保存した SkyLink Player ファイルを開きます。



編集した HTML ファイルが一画面で表示されます。

- ◎ ヒント：コマンド表示のリンクをボタンに変更する
 ボタンにする場合の形式は以下のようにしてください。
`<input type="button" value=" コマンド名 " onCrick="location.href='?ID=3003?INDEX=0'">`

- ◎ ヒント：SPD ファイルを共有する
 SPD ファイルをサーバーに置き、複数のクライアント・コンピュータから共有して使用する場合、クライアント・コンピュータから参照できるところに SPD ファイルとマクロ/コマンドファイルを保存しなければいけません。また、SPD ファイルを作成するときに関くマクロ/コマンドファイルは、ローカルではなくネットワークを通して開かないとクライアント・コンピュータからコマンドファイルを参照できません。



「¥¥BPD-MASTER¥¥SkyLinkPlayer¥¥SkyDemo.sqc」 から開く

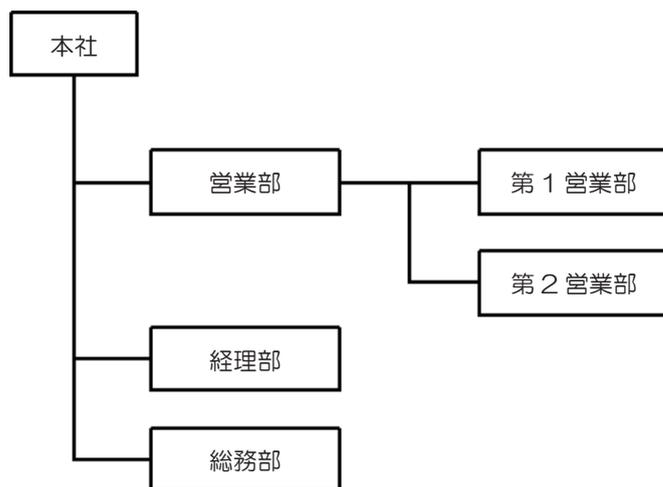
12. SkyLink ユーザー マネージャ

SkyLink ユーザーマネージャの利用方法を説明します。

12.1 データソースの作成

データベースに接続するユーザー毎に、データベース側でユーザーを作成するのはかなり大変なことです。ユーザーの異動や新規採用などその都度データベースの設定を変更しなければなりません。そんな管理の負荷を減らすためのお手伝い役として登場したのが、SkyLink ユーザーマネージャです。SkyLink ユーザーマネージャでは、登録されたデータソース毎に接続の一元化を行い、かつユーザーが使用できる表を管理することができます。また必要であれば、ユーザー毎にも使用できる表を設定することも可能です。

それではここで、ある企業の組織を例に設定してみましょう。



このような組織の中で、以下の表が使用されています。

受注表	在庫表
入金表	出金表
顧客マスタ表	社員マスタ表
第1営業表	第2営業表

社員は以下のとおりです。

第1 太郎	第1 次郎
第2 一朗	第2 二郎
経理太郎	経理花子
経理太郎	総務花子

経理太郎さんは、経理と総務を兼務しています。

各組織毎に使用する表は、以下のものとします。

- ・ 第1 営業部 受注表、在庫表、顧客マスタ表、社員マスタ表
第1 営業表
- ・ 第2 営業部 受注表、在庫表、顧客マスタ表、社員マスタ表
第2 営業表
- ・ 経理部 入金票、出金表、顧客マスタ表、社員マスタ表
- ・ 総務部 在庫表、出金表、顧客マスタ表、社員マスタ表

では、SkyLink ユーザーマネージャを起動してみましょう。

設定を反映させる為に、「管理者として実行」選択して起動する必要があります。

1. SkyLink ユーザーマネージャの起動

起動すると新規の場合、以下の画面が表示されます。

ユーザー情報の新規作成

管理者のユーザーIDとパスワードを指定してください。
以降のユーザー情報の設定・編集は、このユーザーでログインした
場合のみ可能となります。

ユーザーID(U)

パスワード(P)

パスワード確認(C)

OK キャンセル

ここで入力するユーザー ID、パスワードは、管理者となるユーザー ID、パスワードですので、類推されにくいものを使用してください。なお管理者は、この中のすべてのデータソースに対して接続可能となります。

2. ユーザーの作成

それでは、ユーザーを作成します。

[編集 (E)] - [ユーザーの作成 (C)] をメニューから選びます。

ユーザーの新規作成

ユーザー(L)
追加したいユーザーIDとパスワードを指定してください。
(ユーザーIDは大文字と小文字は区別されません)

ユーザーID(U)

パスワード(P)

パスワード確認(C)

ドメイン(D)
ドメイン/サーバ名(N)

追加 閉じる

ここで、ユーザーを作成します。SkyLink ユーザーマネージャでユーザーを作成する場合、すべてのユーザーを作成する方法と、組織単位で作成する方法の2種類が考えられます。すべてのユーザーを作成した場合は、細かいユーザー毎の設定が可能となり、組織単位で作成した場合は、管理が簡単になりユーザー単位の管理が不要な場合に適しています。

☺ ヒント：ユーザーにドメインを指定する

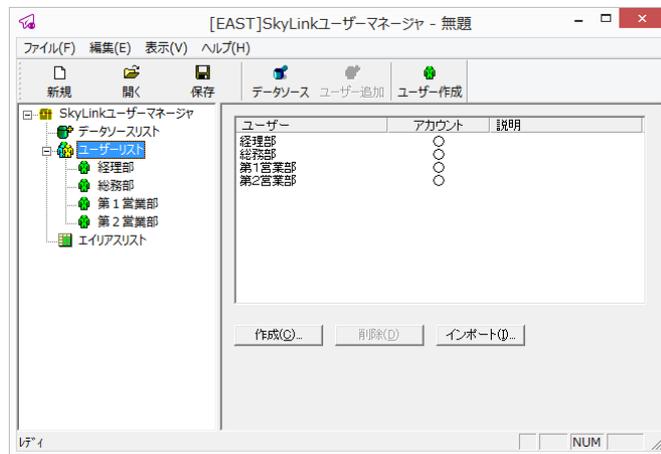
ここでドメインを指定すると、そのドメインのユーザーすべてが対象となります。

12.1.1 組織単位で作成

それでは、組織単位で作成してみましょう。

1. 組織名でユーザーを作成

まず、先のユーザー作成画面で、ユーザーとして、「第1営業部」「第2営業部」「経理部」「総務部」と組織名をユーザー名として登録します。



このように、登録されました。
便宜的にユーザー名は日本語で登録しています。

2. データソースの作成

次に [編集 (E)] - [データソースの作成 (D)] を選んで [データソースの作成] ダイアログを表示します。



ここでは、サンプルという名前をつけます。
[接続データベース] は、ここでは例として [SQL Server(ADO.NET 接続) (A)] を選択します。

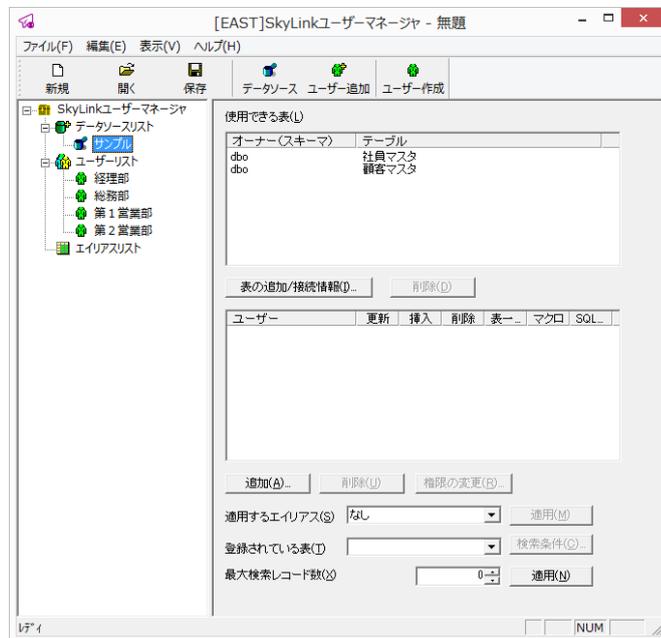
[次へ(N)] ボタンを押して、[接続情報] ダイアログへ移動します。



SkyLink で接続する際に、このデータソースを使用した場合、ここで入力されたユーザー名、パスワードで実際にデータベースに接続されます。
[次へ(N)] ボタンを押します。

入力されたユーザー名、パスワードで参照できる表の一覧が表示されますので、ここではすべてのユーザーに共通の「顧客マスタ」と「社員マスタ」のチェックを付けます。

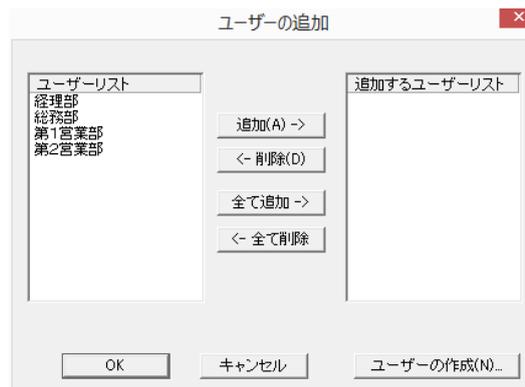




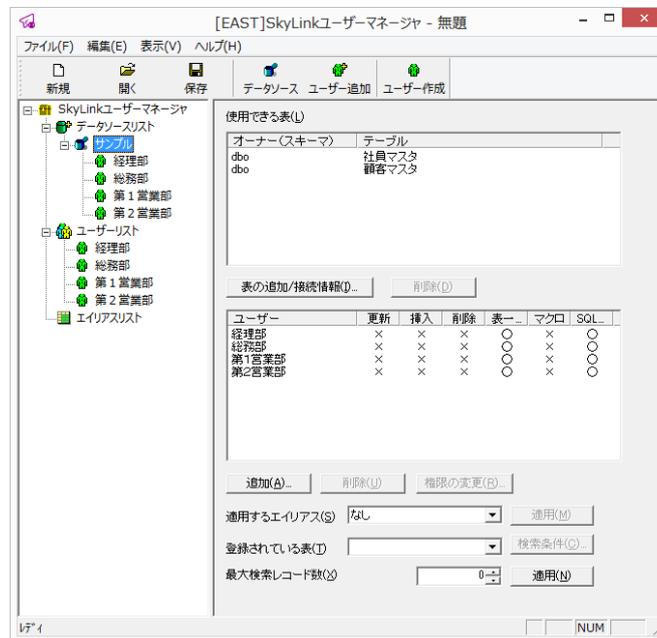
ここでは、「サンプル」データソースに接続すると、[社員マスタ]と[顧客マスタ]を参照できることが分かります。

3. ユーザーの追加を行う

「サンプル」データソースをマウスで右クリックして表示される[ユーザーの追加(U)]メニューを選択します。



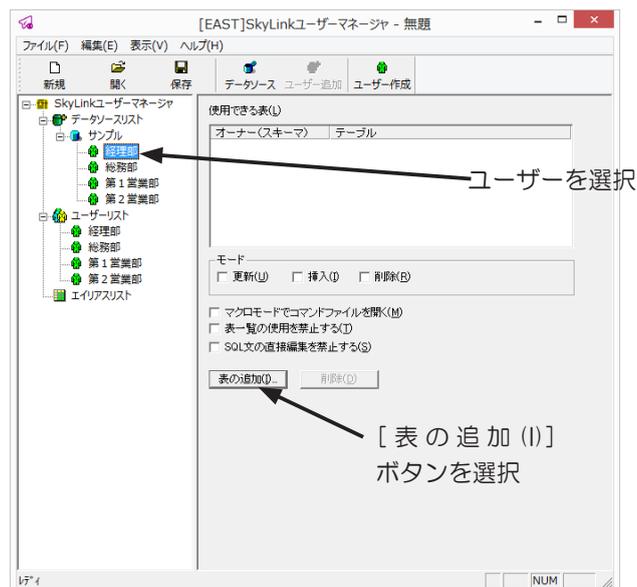
[全て追加]ボタンを押して、[OK]ボタンを押します。

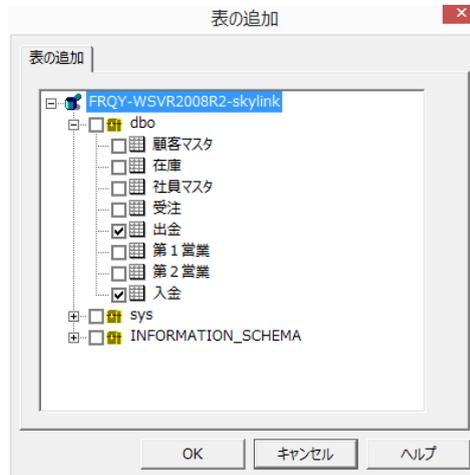


すべてのユーザーが追加されました。

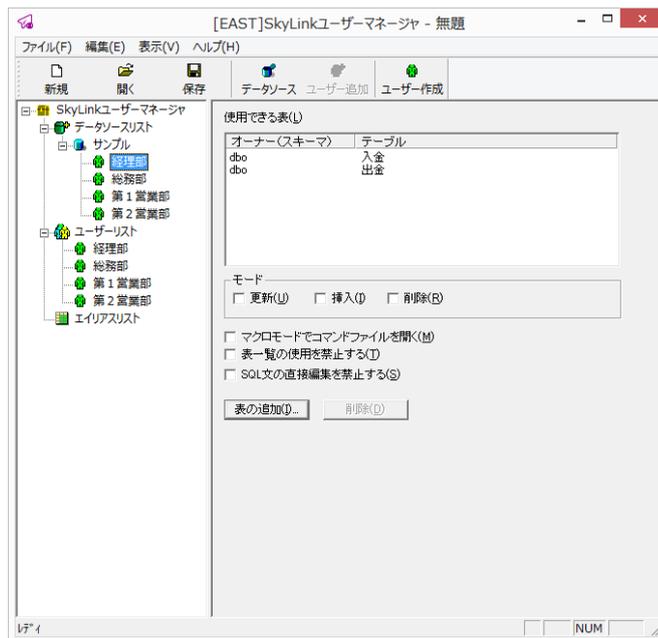
4. ユーザー毎の設定を行う

このままでは、すべてのユーザーが [社員マスタ] と [顧客マスタ] にしかアクセスできませんので、ユーザー毎にアクセスできる表を設定します。設定の方法は、左側のツリーで設定したいユーザーを選択しますと、右側のフォームにそのユーザーのプロパティが表示されますので、[表の追加 (I)] ボタンを押して、表の追加を行います。





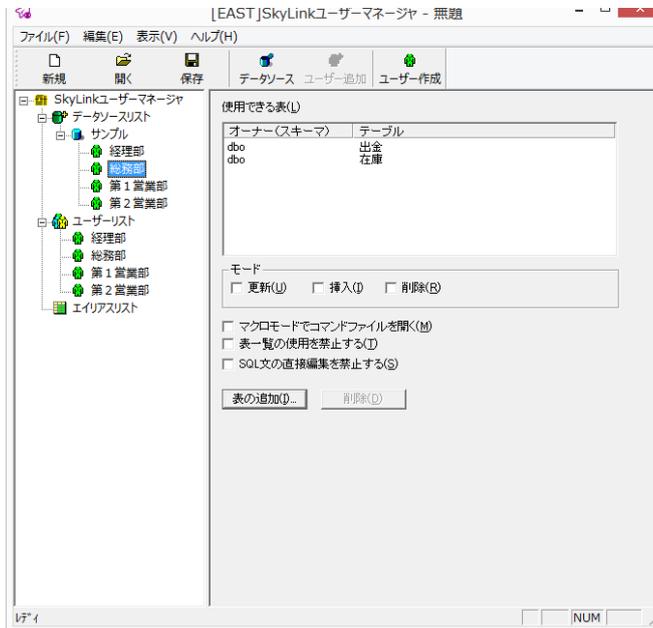
経理用に、[入金] 表と [出金] 表を選択します。



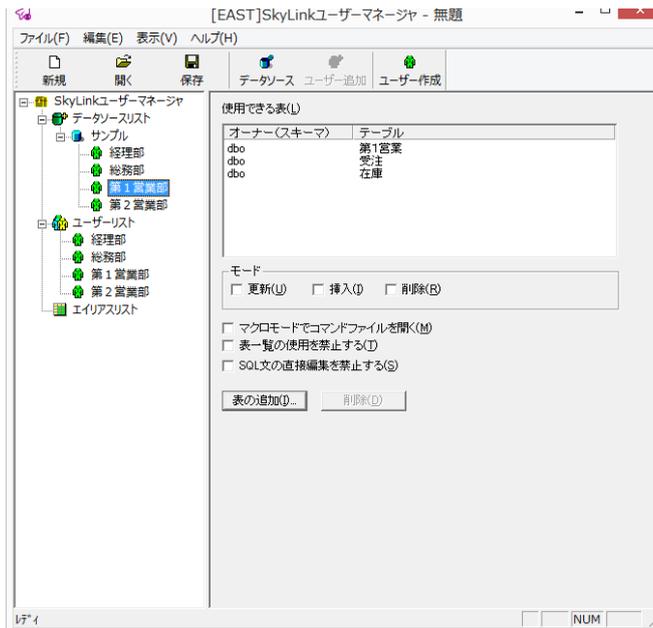
経理ユーザーに、[入金] 表と [出金] 表のアクセス権が追加されました。同じように他のユーザーに対しても処理を行います。

12 SkyLink ユーザーマネージャ

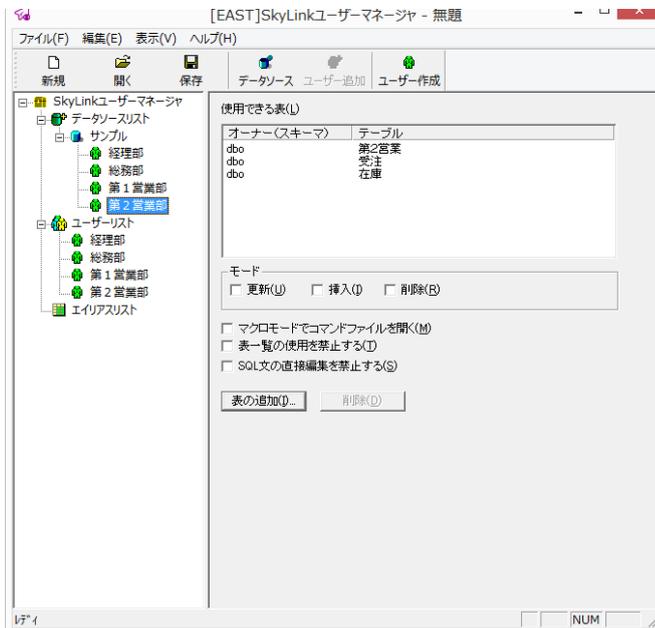
総務部



第1営業部



第2 営業部



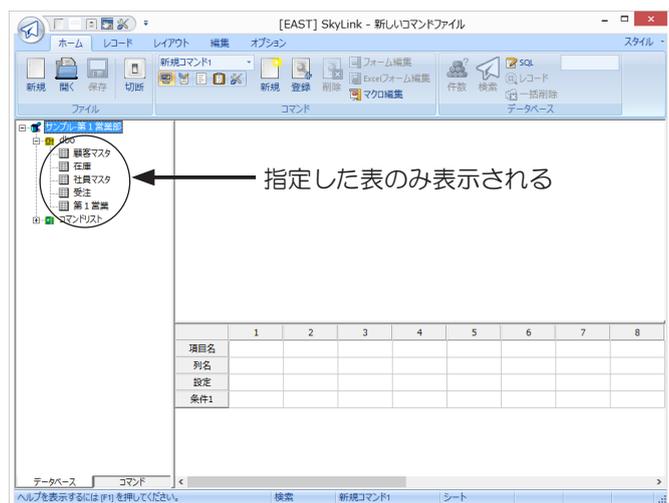
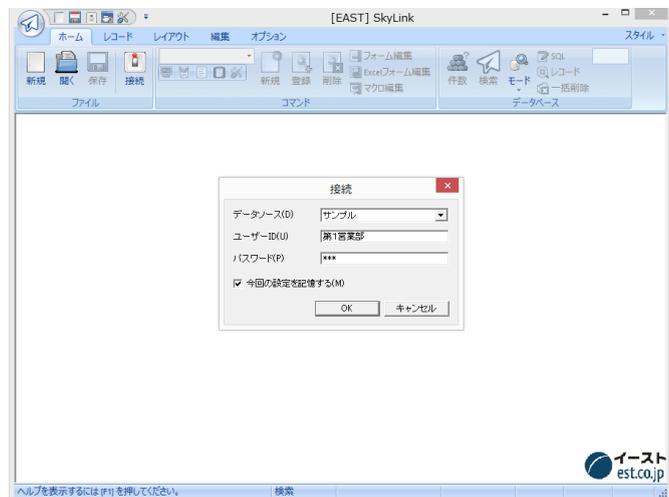
以上のように設定を行います。

必要であれば、モード遷移の可否やマクロモードでコマンドファイルを開くといった設定をこの画面でユーザー単位に行います。

5. SkyLink で有効にする

まず、現在の設定をファイルに保存します。その後、userman.ini ファイルを作成し、クライアントインストール用セットアップから各クライアントに SkyLink をインストールします。サービス定義プログラムまたは各クライアントから SkyLink ユーザーマネージャでユーザー定義ファイルを適用します。なお、詳しい適用方法は「12.3 SkyLink に適用する」を参照してください。

SkyLink で接続（第 1 営業部で接続）

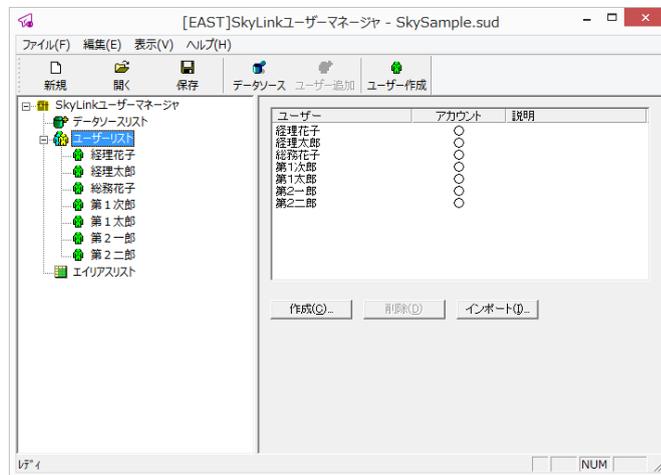


12.1.2 ユーザー単位で作成

先の例では組織単位にユーザーを作成しましたが、同じ組織でもユーザー単位に管理を行いたい場合は、各ユーザー毎にユーザーを作成します。それでは実際に操作してみましょう。

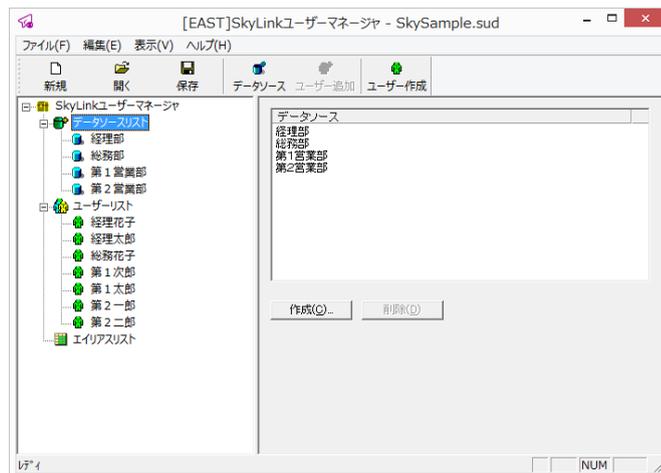
1. ユーザーを作成する

まず、すべてのユーザーを作成します。作成手順は前回と同様です。



2. データソースを作成する

組織毎にデータソースを作成します。

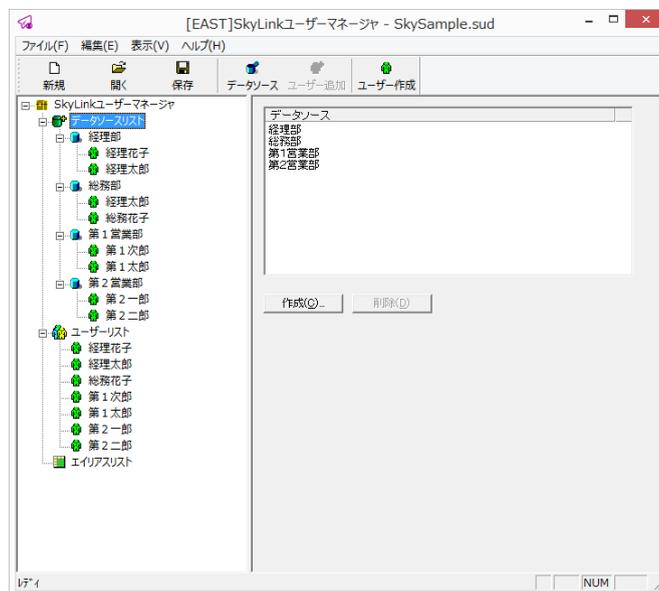


組織毎に使用する表もすべて設定しておきます。

3. ユーザーを登録する

各組織毎にユーザーを登録します。

12 SkyLink ユーザーマネージャ



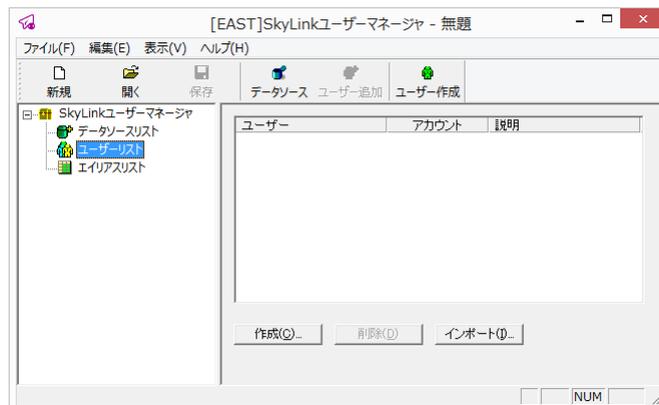
ここで注意するのは、「経理太郎」さんが「総務部」と「経理部」双方に在籍していますので、両方に追加しなければいけません。

この後は、管理したいユーザー毎に設定を行います。設定後 SkyLink で適用されるようにするには、前回と同様です。

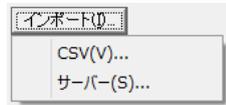
12.1.3 ユーザーのインポート

ユーザーのインポートについて説明します。

画面左側のツリーで「ユーザーリスト」を選択すると、右側にユーザーリスト情報が表示されます。



この画面で [インポート (I)] ボタンを押すと、以下のメニューが表示されます。



[CSV (V)]

[CSV (V)] を選択すると、ファイルを指定するダイアログが表示され、CSV ファイルを指定するとファイル内のユーザーがインポートされます。CSV ファイルは、ユーザー名、パスワードの順で記述されていなくてはなりません。また、既に登録されているユーザー名と同じ場合は、登録されません。

[サーバー (S)]

[サーバー (S)] を選択すると、[ユーザーのインポート] ダイアログが表示され、[サーバー名]、[グループ名] で検索してインポートすることができます。



[サーバー名 (S)]

検索したいサーバー名を入力します。サーバー名は、必ず「¥¥」を頭に付けて指定します (¥¥est.co.jp)。未入力の場合は、カレント・コンピュータが対象となります。グループ名を入力しないで [検索 (R)] ボタンを押した場合、該当サーバーの全ユーザーがリストに表示されます。

[グループ名 (G)]

サーバー名で指定されたサーバーのグループ名を入力します。

[検索 (R)]

サーバー名、グループ名で指定されたユーザーを検索します。検

索結果は下のリストに一覧表示されます。

[追加 (A)] ボタン

リストで選択されているユーザーを、SkyLink ユーザーマネージャのユーザーにインポートします。

◎ ヒント：サーバーからインポートされたユーザー管理

ここでインポートされたユーザーの認証管理は、SkyLink を起動する PC で行われます。事前に PC のアカウントとして「ドメイン名 / Domain Users」を登録しておいてください。SkyLink ユーザーマネージャでは、パスワードの管理は行われません。

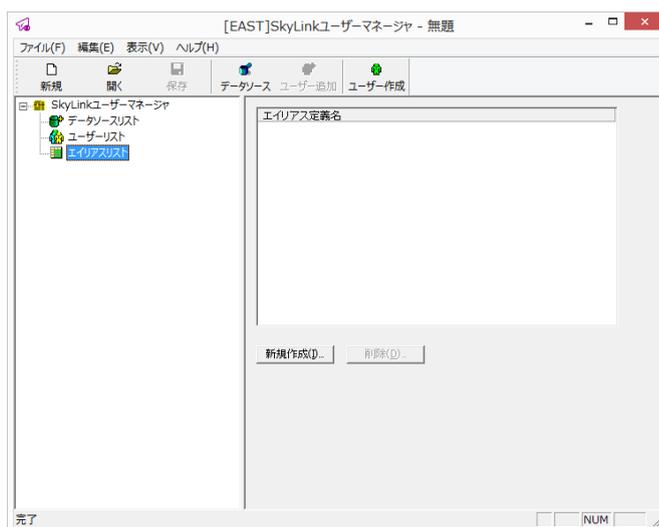
12.2 エイリアスの作成

データベースで定義されている表名、列名を、SkyLink で別の名前を使用して扱えるように、エイリアス作成機能があります。通常、業務で使用しているデータベースの表名や列名は、アルファベット表記の意味のわかりづらいものになっていると思われます。それを、データベースの定義は一切変えずに、SkyLink の中で日本語のわかりやすい名前を使用することができます。また、列に固定の条件を付加することによって、見られてはいけないデータをガードしたり、ミスによる検索を減らすことができます。

12.2.1 エイリアスを作成する

それでは、エイリアスを作成してみましょう。

まず、画面左側の [エイリアスリスト] をクリックして、画面右側にエイリアス定義の一覧フォームを表示します。



ここで [新規作成 (D)] ボタンを押すと、[エイリアスの作成] ウィザードが開始され、データソースの作成と同じように各画面を入力します。1つのエイリアス登録名に、複数の表のエイリアスを登録することができますので、用途に合わせてご利用ください。

1. 登録名の指定

登録名とデータベース種別を指定します。

エイリアスの作成

追加するエイリアス登録名(A)
Sample

接続データベース

- Oracle(O)
- NEC RDBサーバ対応DB(R)
- 富士通 Symfoware(F)
- IBM DB2(D)
- ODBC対応DB(C)
- SQL Server(ADO.NET接続)(A)

Webサービスを使用する(W)

URI(U)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

次に接続情報を指定します。

接続情報

サーバー名(S) FRQY-WSVR2008R2

データベース名(D) SampleDB

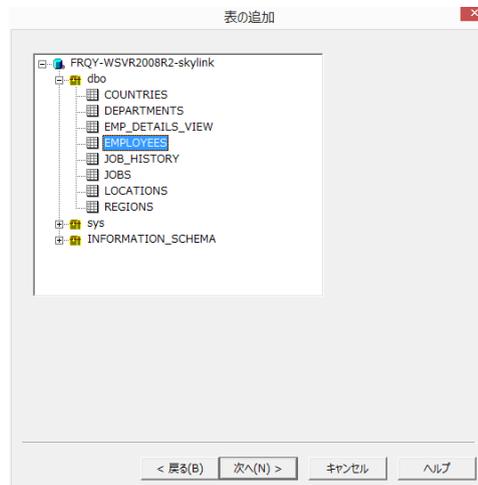
利用者ID(I) skylink

パスワード(P) *****

セキュリティ接続を使用する(T)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

エイリアスを指定する表を選択します。



最後にエイリアスを設定します。



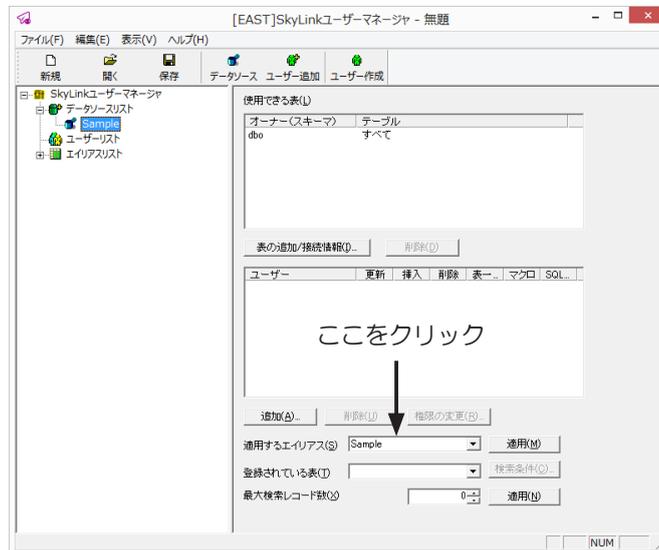
ここでは、SALARYとCOMMISSION_PCTを非表示にして、ユーザーから見えないようにしました。また、ここで列に条件をつけると、このエイリアス定義を使用するすべてのデータソースに対して有効となります。データソース単位に条件を変更したい場合は、データソース画面で条件を付与してください。

12.2.2 データソースに適用する

それでは上で作成したエイリアスを、データソースに適用してみましょう。

1. データソース情報を表示する

画面左側の [データソースリスト] から、[Sample] データソースを選択します。

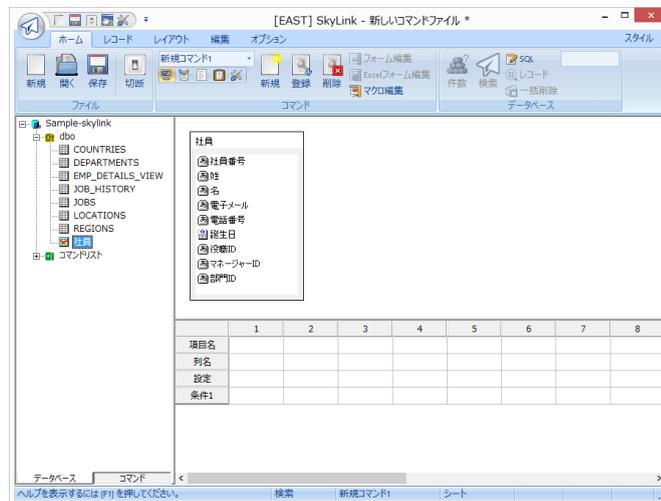


[適用するエイリアス(S)] コンボボックスをクリックして [Sample] を指定してから [適用(M)] ボタンを押します。このデータソース内で、このエイリアスの表に対して条件を付けたい場合は、[登録されている表(T)] コンボボックスから該当の表を選択して、[検索条件(C)] ボタンを押します。[条件の変更] ダイアログが表示されますので、条件を付与したい列を選択して、[検索条件(C)] ボタンを押すと、以下の [条件] ダイアログが表示されます。



ここでは、[役職 ID] を「AD_PRE\$」以外にしました。

では、SkyLink でこのデータソースを使用して接続してみましょう。



このように、「社員」表として表示され、列名も指定したエイリアス名で表示されました。[SALARY]列も表示されていません。また、検索を行うと指定した条件が自動的に付加されます。

```
SELECT WOW01."FIRST_NAME", WOW01."LAST_NAME"
FROM "dbo"."EMPLOYEES" WOW01
WHERE WOW01."JOB_ID" <>'AD_PRES'
```

説明のためにSQLを表示しましたが、ユーザーマネージャで該当ユーザーに[SQL文の直接編集を禁止する]を指定しておけば、上記のSQLは見る事ができないようになります。

12.3

SkyLink に適用する

SkyLink ユーザーマネージャで定義した情報を SkyLink に適用するには、以下の2つの方法があります。ご利用の環境に合わせてお使いください。

その際には、SkyLink ユーザーマネージャで作成した定義ファイルを、各クライアントから参照できるところにコピーしておいてください。

ここでは便宜的に、「¥¥SkyLinkServer¥UserMgr¥SkyUser.sud」にコピーされているものとします。

また、「サービス定義プログラム(適用ツール)」は「管理者として実行」で起動する必要があります。

12.3.1 サーバーからの適用

ユーザー定義ファイルを1つしか使用せず、サーバーで管理する場合は「サービス定義プログラム」を使用します。

ユーザー定義ファイルを移動した場合など、クライアントからの適用だとすべてのクライアント・コンピュータを変更しなくてはいけません。サーバーからの適用だとサーバー側で変更するだけで済むので効率的です。

1. userman.ini ファイルを作成し、クライアントインストール用セットアップから各クライアントに SkyLink をインストールする
userman.ini という名称の ini ファイルを作成し、「ManagingServer」の値に「SkyLinkServer」を指定します。また、サーバーにフォルダ「SkyLink」を作成し、そこに検索/更新用 SkyLink の CD-ROM にあるファイルと userman.ini ファイルをコピーします。
各クライアント・コンピュータからサーバーに作成した「SkyLink」フォルダにアクセスして、Setup.exe を実行し、インストールを行います。
なお、詳しいインストール方法は「SkyLink ユーザーズマニュアル 2.2.5」を参照してください。
2. サービス定義プログラムのインストール
ユーザー定義ファイルの適用を一元管理するサーバーに、「サービス定義プログラム」をインストールします。
3. サービス定義プログラムを起動
2でインストールした「サービス定義プログラム」を「管理者として実行」

を選択して起動し、ユーザーマネージャ管理の [使用する (M)] ラジオボタンを選択し、[公開ファイル名 (P)] に共有フォルダ内のファイルのような、他のクライアント・コンピュータから参照できるユーザー定義ファイルを指定します。



クライアント・コンピュータから SkyLink を起動すれば、SkyLink ユーザーマネージャで定義した環境ですぐにご利用になれます。

12.3.2 複数のユーザー定義ファイルの適用

複数のユーザー定義ファイルを1つのサーバーでご使用になりたい場合は次のように行います。

1. userman.ini ファイルを作成し、クライアントインストール用セットアップから各クライアントに SkyLink をインストールする
userman.ini という名称の ini ファイルを作成し、「UserManFile」の値にユーザー定義ファイルを指定します。また、サーバーにフォルダ「SkyLink」を作成し、そこに検索／更新用 SkyLink の CD-ROM にあるファイルと userman.ini ファイルをコピーします。1つの ini ファイルにユーザー定義ファイルは1つしか指定できませんので、複数のユーザー定義ファイルを使用する場合は、複数の userman.ini ファイルが必要になります。
各クライアント・コンピュータからサーバーに作成した「SkyLink」フォルダにアクセスして、Setup.exe を実行し、インストールを行います。
なお、詳しいインストール方法は「SkyLink ユーザーズマニュアル 2.2.5」を参照してください。

クライアント・コンピュータから SkyLink を起動すれば、SkyLink ユーザーマネージャで定義した環境ですぐにご利用になれます。

12.3.3 Web サービスでの適用

Web サービスを利用してのユーザー定義ファイル適用方法は次のように行います。

1. Web サービス対応モジュールをインストールする

「.NET Framework」がインストールされていて、IIS が稼動している PC にインストールを行います。

なお、詳しいインストール方法は「SkyLink ユーザーズマニュアル 2.2.9」を参照してください。

2. SkyUser.ini ファイルを作成する

SkyUser.ini ファイルは以下のように記述します。

```
[SkyUserMgr]
TargetFile=XXXXXX
```

TargetFile の値にはユーザー定義ファイルを指定します。

SkyUser.ini ファイルは、1 でインストールされた skywebsvc.dll ファイルがあるフォルダにコピーします。

12.3.4 接続先固定を有効にする

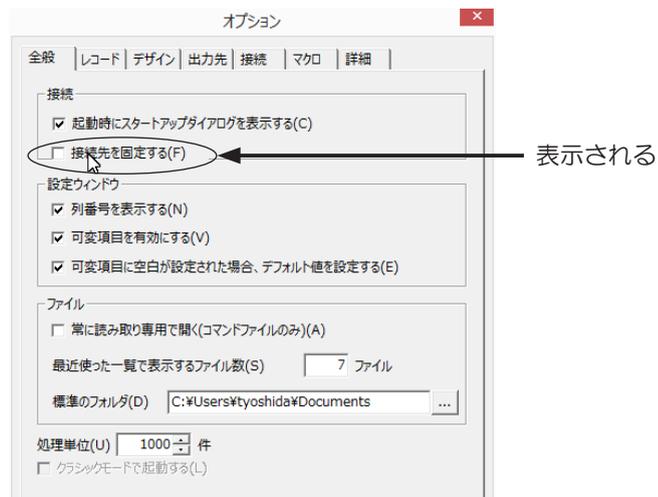
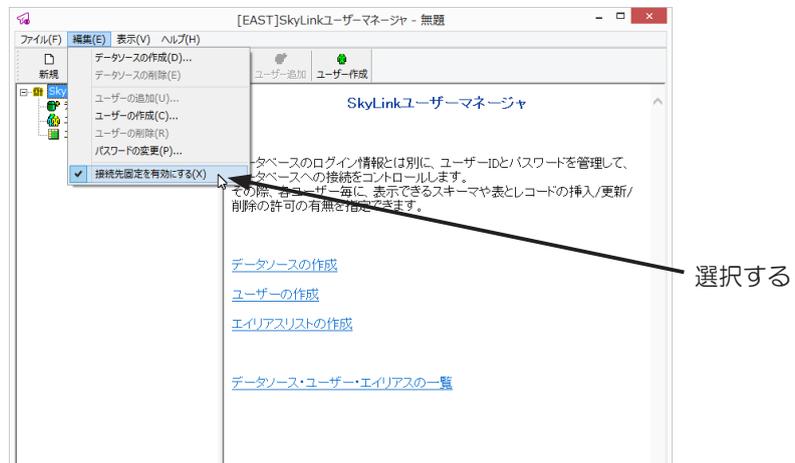
データベース接続時にユーザー名、パスワードを入力することなく接続できるようにするオプションですが、セキュリティの問題上、デフォルトでは表示されません。有効にしたい場合は、SkyLink ユーザーマネージャより以下の処理を行ってください。

1. SkyLink ユーザーマネージャを起動

設定したい端末から、SkyLink ユーザーマネージャを起動します。最初に [ユーザー情報の新規作成] ダイアログ、または [管理者のログイン] ダイアログが表示されますが、無視して [キャンセル] ボタンを押します。

2. 接続先固定を有効にするを選択

[編集 (E)] - [接続先固定を有効にする (X)] を選んでメニューにチェックを付けます。



SkyLink の [オプション] ダイアログで、[接続先を固定する (F)] チェックボックスが表示されます。

12.4 ログの出力

サーバーで「サービス定義プログラム」を使用すると、ユーザー定義ファイルの適用にかかわらず、ログの出力の設定を行うことができます。その際、そのサーバーでクライアントインストール用セットアップを作成し、そこから各クライアントに SkyLink のインストールを行ってください。

SkyLink ユーザーマネージャで一元管理する場合は、以下の3以降を実行してください。

1. userman.ini ファイルを作成し、クライアントインストール用セットアップから各クライアントに SkyLink をインストールする
userman.ini という名称の ini ファイルを作成し、「LogServer」の値にログを管理するサーバー「SkyLinkServer」を指定します。また、サーバーにフォルダ「SkyLink」を作成し、そこに検索／更新用 SkyLink の CD-ROM にあるファイルと userman.ini ファイルをコピーします。
各クライアント・コンピュータからサーバーに作成した「SkyLink」フォルダにアクセスして、Setup.exe を実行し、インストールを行います。
なお、詳しいインストール方法は「SkyLink ユーザーズマニュアル 2.2.5」を参照してください。
2. サービス定義プログラムのインストール
ログ出力を管理するサーバーに、「サービス定義プログラム」をインストールします。
3. サービス定義プログラムを起動
2でインストールしたサービス定義プログラムを起動し、ログの [ログを管理する(L)] チェックボックスにチェックを付け、[出力フォルダ(F)] にログを出力するフォルダを指定します。



4. ログ出力のタイミングを設定

[出力フォルダ (F)] の下にあるチェックボックスの中からログを出力したいタイミングにチェックを付けます。

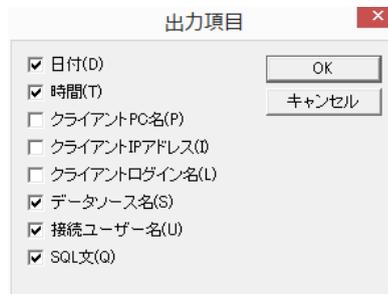
例えば、更新系処理を行わない業務なので「接続情報 (C)」、「エラー情報 (E)」、「SELECT 文発行時 (S)」にチェックを付けます。



5. ログ出力の項目を設定

[出力項目 (O)] ボタンをクリックして表示される [出力項目] ダイアログにあるチェックボックスの中から出力したい項目にチェックを付けます。

例えば、「日付 (D)」、「時間 (T)」、「データソース名 (S)」、「接続ユーザー名 (U)」、「SQL 文 (Q)」にチェックを付けます。



6. ログ情報を確認する

クライアント・コンピュータから SkyLink を使用すれば、4 で設定したタイミングで 5 で設定した項目がログに出力されます。3 で指定したフォルダに出力されたログファイルを確認します。

	A	B	C	D	E
	Date	Time	DataSource	DBUser	SQL
1					
2	2014/10/30	19:33:00	FRQY-WSVR2008R2	skylink	Connecting
3	2014/10/30	19:33:06	FRQY-WSVR2008R2	skylink	SELECT WOW01."ID" FROM "dbo"."顧客マスタ" WOW01
4	2014/10/30	19:33:12	FRQY-WSVR2008R2	skylink	SELECT WOW01."ID" FROM "dbo"."社員マスタ" WOW01
5	2014/10/30	19:33:16	FRQY-WSVR2008R2	skylink	Disconnect
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					



13. SkyWeb を使用する

SkyWeb の使用方法を説明します。

13.1 検索を行う

SkyLink で作成したコマンドファイルを利用して、Web ブラウザから簡単にデータベースを検索できるようにする SkyWeb のご利用方法を説明いたします。

1. コマンドファイルを作成する

SkyWeb を利用する場合は、まず先に SkyLink でコマンドを作成します。その際に、「可変」条件を設定しておくことによって実行時に条件を変更できる為、複数ユーザーが利用できる Web 検索ページを作成することも可能となります。

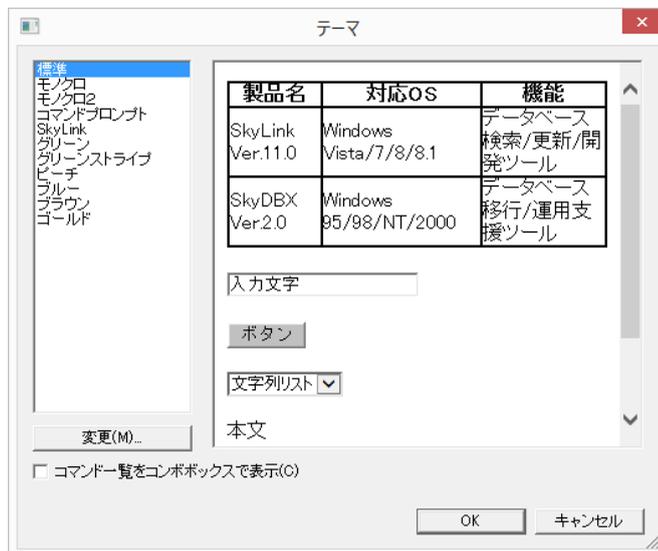
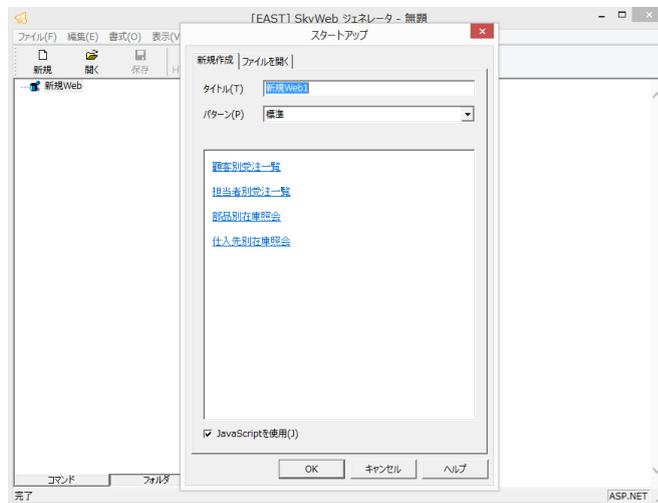
ここでは、[受注一覧]から受注データを選択して、紐づく[受注明細一覧]を表示しデータを表示するコマンドを作成します。[受注一覧]を検索する際には [社員コード] を検索条件として検索するコマンドを作成します。その為に、検索条件フォーム使用する社員コードリストと社員名の選択リストコマンドを作成しておきます。

📖 参考

このコマンドについては、「8.5 検索条件フォームを利用する」をご参照ください。

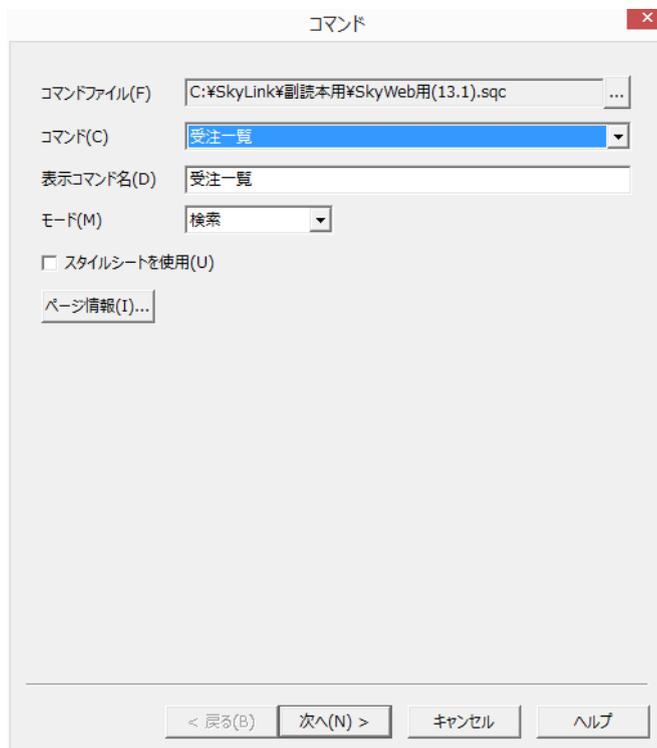
2. SkyWeb ジェネレータを起動する

今回、「パターン」と「テーマ」はそれぞれ「標準」とし、「コマンド選択」ダイアログで一旦 [キャンセル] ボタンを押して先に進めます。



3. コマンドの追加を行う

コマンドダイアログの [コマンドファイル (F)] 横の [...] ボタンを押して、あらかじめ作成しておいたコマンドファイルを選択します。[コマンド (C)] コンボボックスから追加するコマンドを選択します。ここでは「受注一覧」コマンドを選択します。[次へ] を押します。



4. ログイン情報の設定

データベースへ接続する為の [ユーザー名 (S)][パスワード (P)] を入力しておきます。コマンド実行前にログインを必要とする設定とする為には「接続情報」ダイアログで [ログインページの作成 (L)] のチェックボックスにチェックを付けログインページの [タイトル (T)][ファイル名 (F)] を指定して、[ユーザー名を入力する (2)]、[パスワードを入力する (3)] のチェックボックスのチェックも付けておきます。「次へ」を押します。

接続情報

データベース名(B) SkyDemo

ユーザー名(S) skylink

パスワード(P) *****

ログインページの作成(L)

タイトル(T) 受注一覧Login

ファイル名(F) 受注一覧Login

データベース名を入力する(1)

ユーザー名を入力する(2)

パスワードを入力する(3)

スタイルシートを使用(4)

SQL Server データベース名を入力する(5)

ページ情報(1)...

検索条件ページを作成する(C)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

5. [検索ページ]と[結果ページ]を作成する

「社員リスト」を検索条件とするする為に[フォーム(O)]には作成した「検索条件フォーム」を選択します。「次へ」を押します。

条件入力ページ

タイトル(T) 受注一覧Cond

ファイル名(F) 受注一覧Cond

フォーム(O) 受注一覧(1)

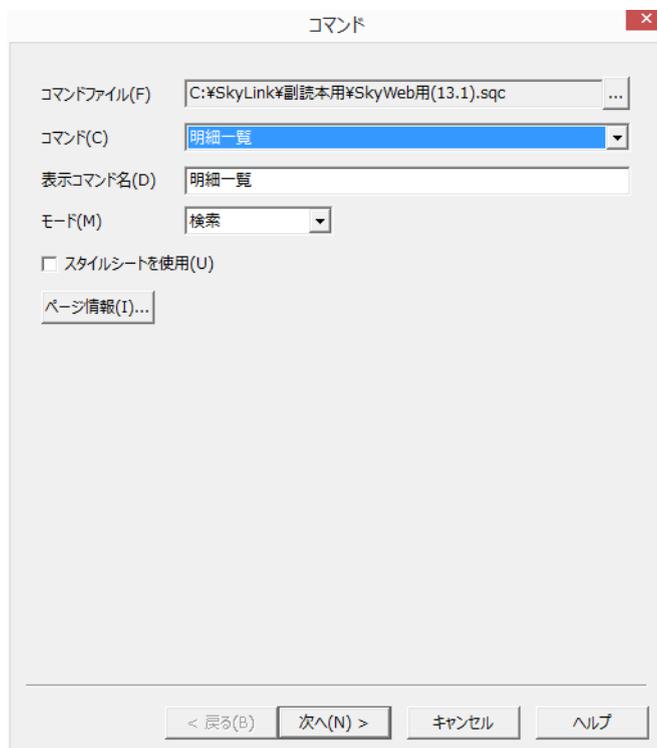
スタイルシートを使用(U)

ページ情報(I)...

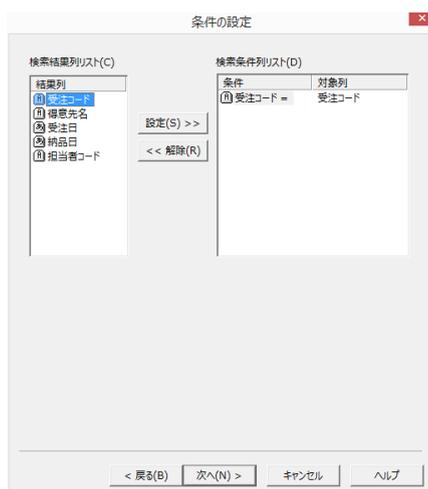
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

「検索ページ」ダイアログで[完了]を押します。

13 SkyWeb を使用する



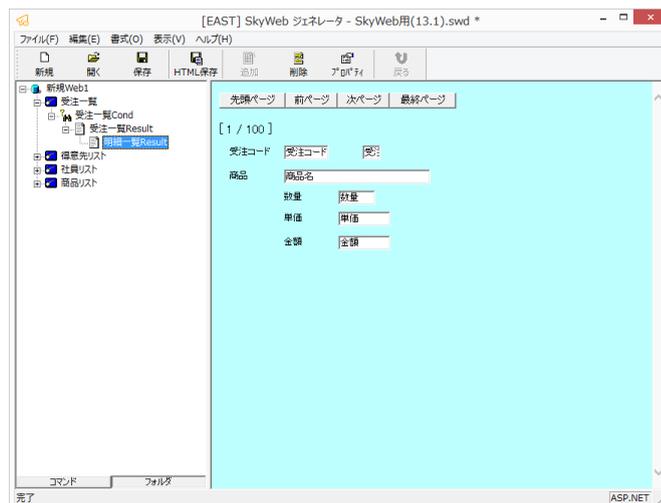
[次へ (N)] ボタンを押して [条件の設定] ダイアログを表示します。



この画面で、[検索結果リスト (C)] の [受注コード] と [検索条件リスト (D)] の [受注コード] を関連付けます。



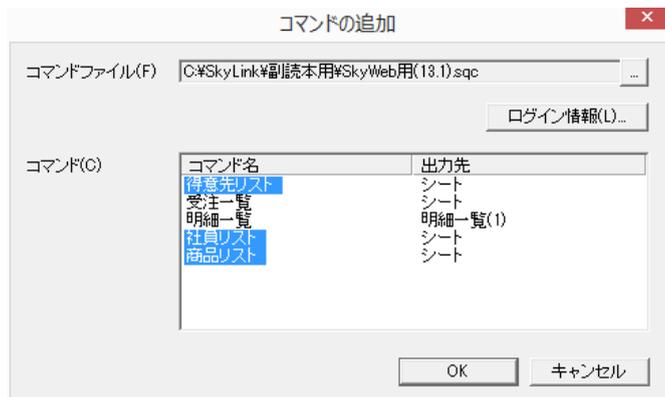
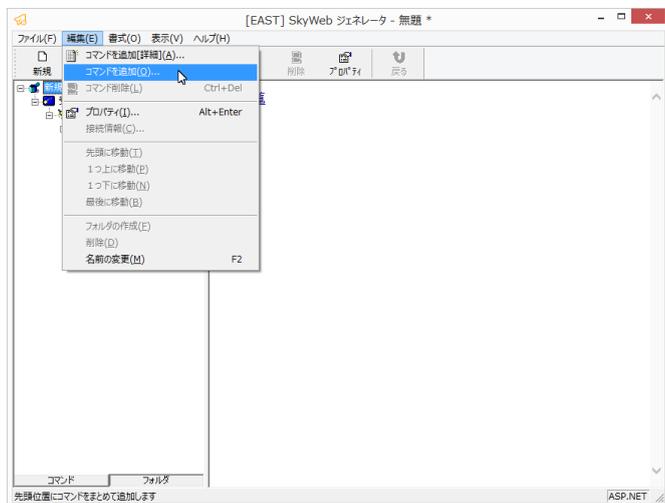
結果ページの設定を行って[完了]ボタンを押します。



7. その他のコマンドを追加する

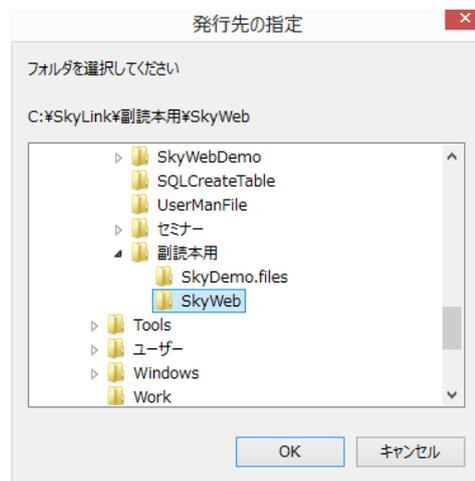
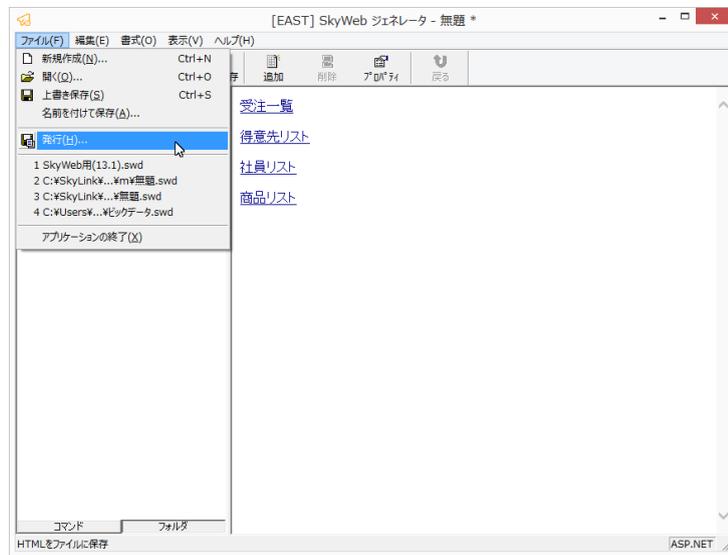
左側のツリーの先頭項目を選択して、メニューの[編集(E)] - [コマンドを追加(O)]メニューを選択すると[コマンドの追加]ダイアログが表示されます。[...]ボタンを押して、その他の追加するコマンドを選択します。

13 SkyWeb を使用する



8. Web サーバーに発行する

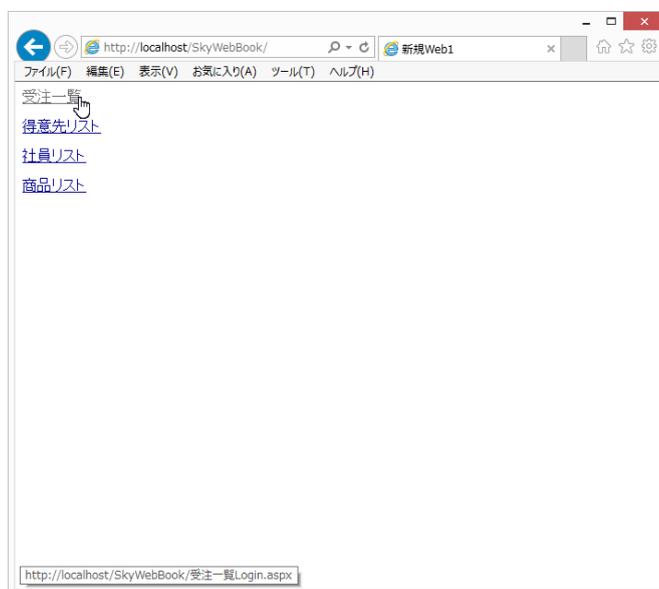
メニューから [ファイル (F)] - [発行 (H)] を選択して、Web サーバーのフォルダを指定して、定義した Web ページを発行します。



8. ブラウザで確認

発行した URL を入力してブラウザで処理を確認します。

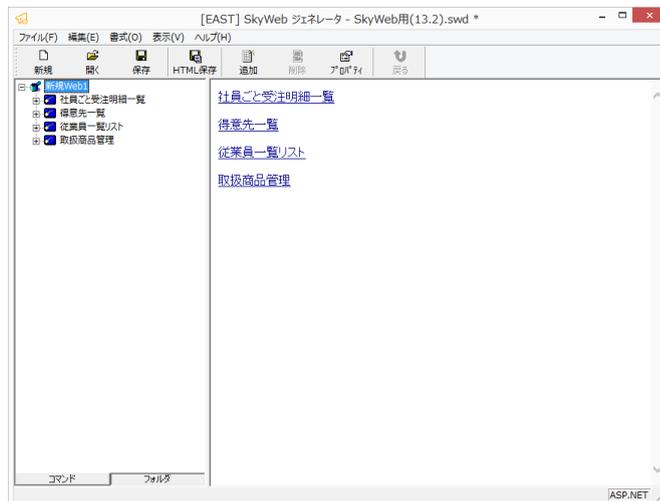
13 SkyWeb を使用する



13.2 テーマ・書式の設定を行う

「13.1 検索を行う」で作成した SkyWeb のファイルを使用して、テーマ・書式の設定方法を説明いたします。

1. SkyWeb のファイルを開く



2. パターンの設定を行う

左側のツリーの先頭項目を選択して、[編集(E)] - [プロパティ(P)]メニューを選択すると[タイプの変更]ダイアログが表示されます。

[コンテンツ]



[ヘッダー]



[ネスト]

タイノの変更

タイプ |

タイトル(T) 新規Web1

パターン(P) **ネスト**

顧客別受注一覧	
担当者別受注一覧	
部品別在庫照会	
仕入先別在庫照会	

JavaScriptを使用(1)

OK キャンセル ヘルプ

[バナーとコンテンツ]

タイノの変更

タイプ |

タイトル(T) 新規Web1

パターン(P) **バナーとコンテンツ**

顧客別受注一覧	担当者別受注一覧	部品別在庫照会
	仕入先別在庫照会	

JavaScriptを使用(1)

OK キャンセル ヘルプ

[スマートフォン]



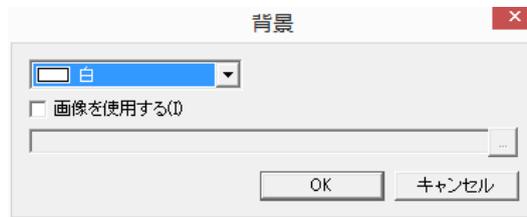
3. テーマの変更を行う

左側のツリーの先頭項目を選択し、右クリックして[テーマの変更(T)]メニューを選択すると[テーマ]ダイアログが表示されます。

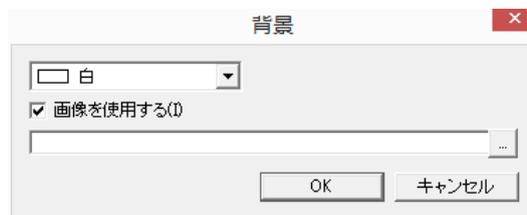


背景を変更します。

[変更(M)] ボタンを押して表示される[背景(B)]メニューを選択します。



[画像を使用する (I)] チェックボックスにチェックを付けて、[...] ボタンで画像ファイルを選択します。

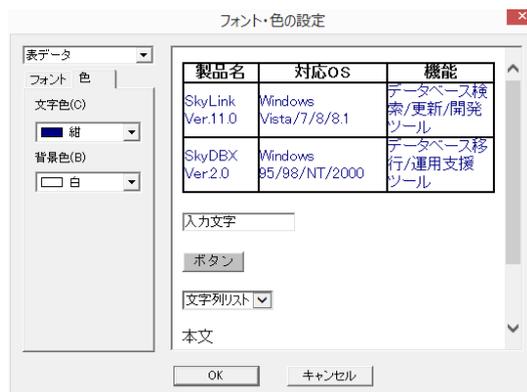


フォント・色を変更します。

[変更 (M)] ボタンを押して表示される [フォント (F)] メニューを選択します。

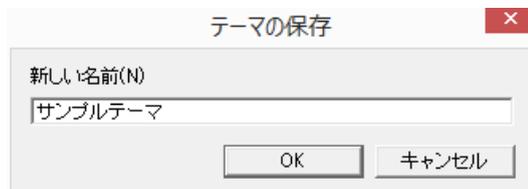


[色] タブを選択して、本文の文字色を変更して [OK] ボタンを押します。



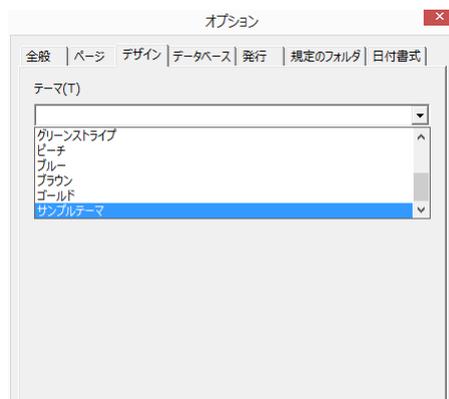
定義したテーマを保存します。

[変更 (M)] ボタンを押して表示される [テーマの保存 (S)] メニューを選択します。



◎ ヒント：テーマのデフォルトを変更する

[表示 (V)] – [オプション (O)] メニューを選択して表示される [オプション] ダイアログの [デザイン] タブで、テーマをここで作成したものにしておくと、新規作成時のデフォルトのテーマとなります。



13.3

レコードの挿入を行う

SkyWeb でコマンドを追加する際に、[モード (M)] コンボボックスで「挿入」を選択することによってレコード挿入画面を作成することができます。ここではアンケートを入力するページを作成する例を説明します。

1. SkyLink のコマンドを作成する

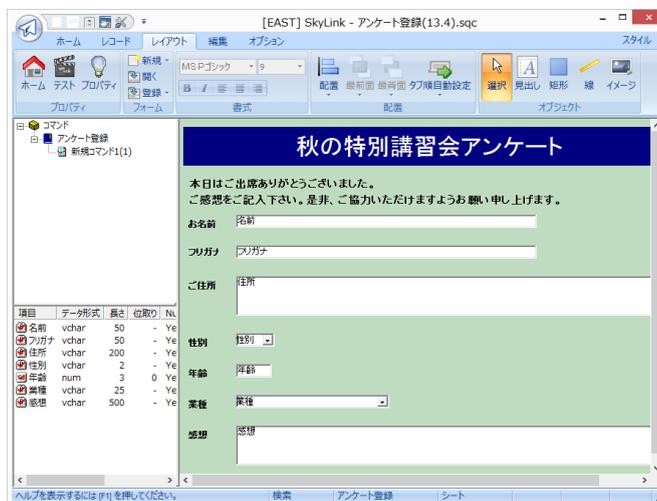
アンケート表を入力するための表を使用したコマンドを作成します。

	1	2	3	4	5	6	7	8
項目名	名前	フリガナ	住所	性別	年齢	業種	感想	
列名	名前	フリガナ	住所	性別	年齢	業種	感想	
設定		AND	AND	AND	AND	AND	AND	
条件1								

2. 入力用フォームを作成する

[コマンド (C)] - [フォーム編集 (F)] メニューを選択して、アンケート入力用のフォームを作成します。

13 SkyWeb を使用する

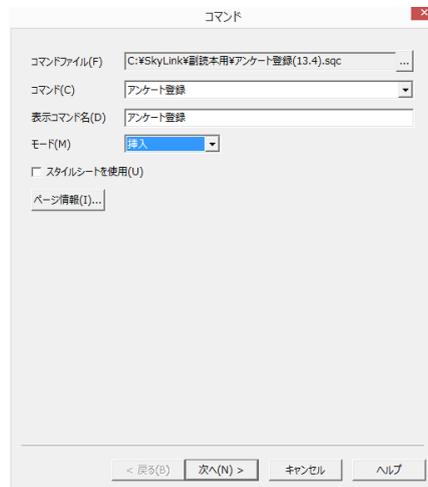


選択リストに規定値を設定しておくこと、入力の手間が減りアンケート入力の確率が高まると思われれます。

ここでは、以下の選択リストを使用します。



3. SkyWeb を起動して [コマンドを追加] を行う
[モード (M)] コンボボックスで [挿入] を選択します。

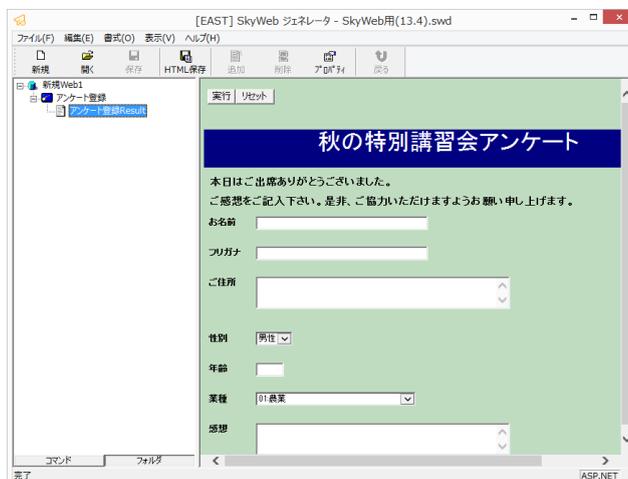


4. [結果ページ] ダイアログで出力先の指定を行う
先ほど作成したフォームを指定します。

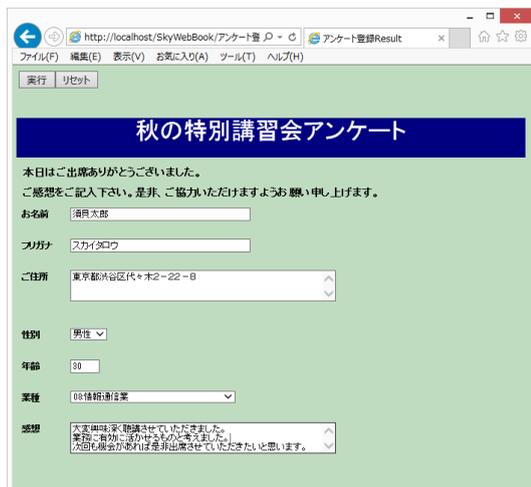


SkyWeb で画面を確認します。

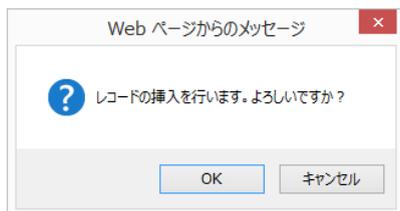
13 SkyWeb を使用する



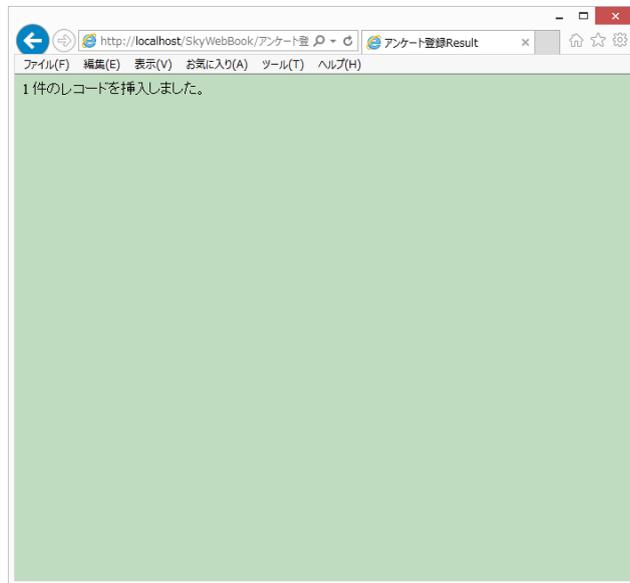
5. Web サーバーに発行する



[実行] ボタンを押すと、挿入の確認画面が表示され、[OK] ボタンを押すことにより、レコードの挿入が実行されます。



データの入力チェックなどは行われませんので、必要な場合出力された ASPX ファイルを編集してください。



13.4 レコードの更新を行う

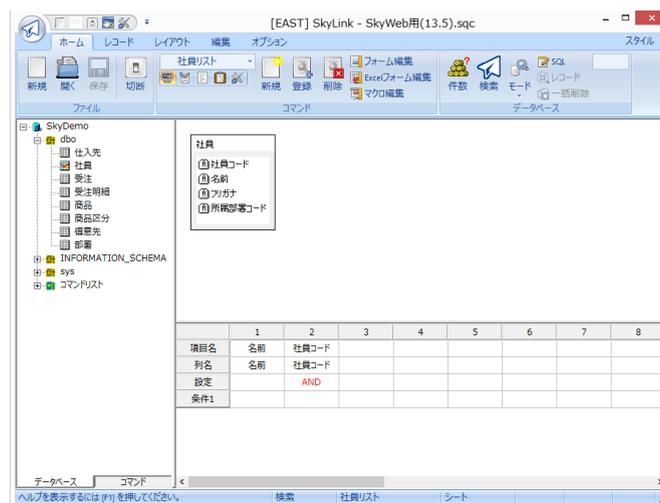
SkyWeb でコマンドを追加する際に、[モード (M)] コンボボックスを「更新」にすることによってレコード更新画面を作成することができます。ただし、検索レコード数が1件の場合のみで、対象テーブルは接続されていないテーブルの場合にのみ更新を行うことができます。ここでは受注明細を検索して、データを変更後更新する例を説明します。

1. SkyLink のコマンドを作成する

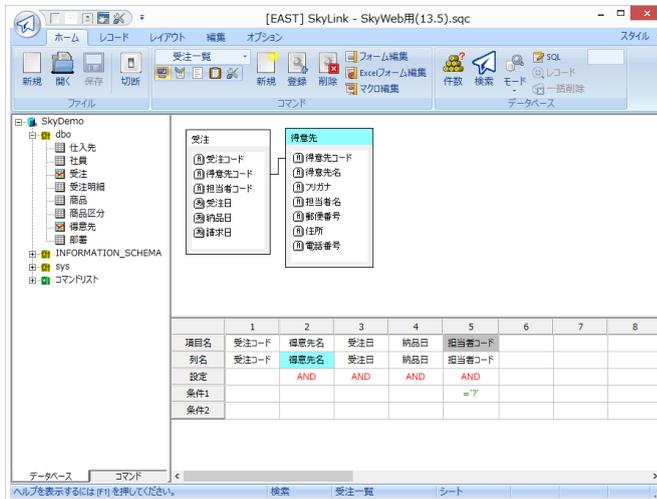
受注明細を検索するためのコマンドを作成します。まず、[担当者コード] で受注明細一覧を検索し、そこから更新したい明細を選択するコマンドと明細を更新するコマンドを作成します。

受注の検索には[社員リスト]から選択します。

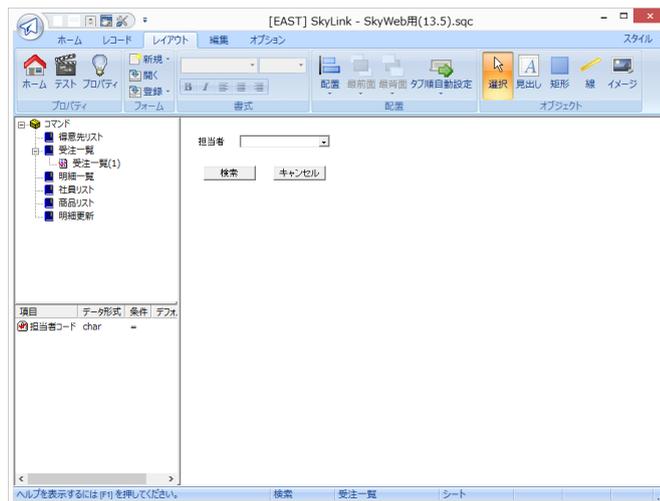
[社員リスト]コマンド



[受注一覧]コマンド



[受注一覧] 検索フォーム



13 SkyWeb を使用する

[明細一覧] コマンド

The screenshot shows the '明細一覧' (Details List) command in the SkyLink - SkyWeb application. The interface includes a menu bar, a toolbar, a left-hand tree view, a central panel with filters, and a data table.

受注明細

- 受注コード
- 受注明細コード
- 商品コード
- 数量

商品

- 商品コード
- 商品名
- カット
- 区分コード
- 仕入先コード
- 単価
- 在庫

	1	2	3	4	5	6	7	8
項目名	受注コード	受注明細コード	商品名	数量	商品コード			
列名	受注コード	受注明細コード	商品名	数量	商品コード			
設定		AND	AND	AND	AND			
条件1	=?							
条件2								

[明細更新] コマンド

The screenshot shows the '明細更新' (Details Update) command in the SkyLink - SkyWeb application. The interface includes a menu bar, a toolbar, a left-hand tree view, a central panel with filters, and a data table.

受注明細

- 受注コード
- 受注明細コード
- 商品コード
- 数量

	1	2	3	4	5	6	7	8
項目名	受注コード	受注明細コード	商品コード	数量				
列名	受注コード	受注明細コード	商品コード	数量				
設定		AND	AND	AND				
条件1	=?	=?						
条件2								

キー更新するためのキーを設定しておきます。また、検索条件として、[受注コード]、[受注明細コード] を可変検索条件とします。

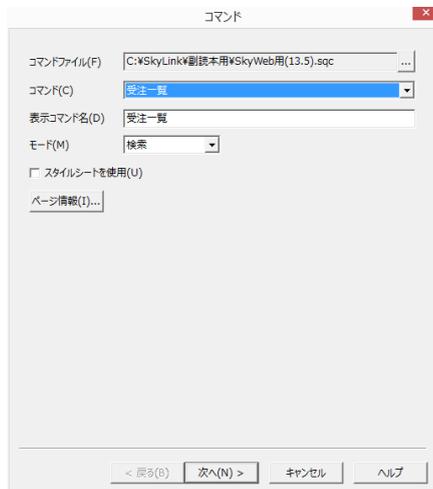
2. 更新用フォームを作成する

[コマンド (C)] – [フォーム編集 (F)] メニューを選択して、明細更新用のフォームを作成します。

項目	データ形式	長さ	位置
受注コード	char	10	
受注明細コード	char	2	
商品コード	char	10	
数量	num	5	

入力の手間を減らすために、[商品コード] に選択リストを設定しておきます。また、[受注コード]と[受注明細コード]は読み取り専用を設定します。

3. SkyWeb を起動して [コマンドを追加] を行う
[受注一覧] コマンドを追加します。



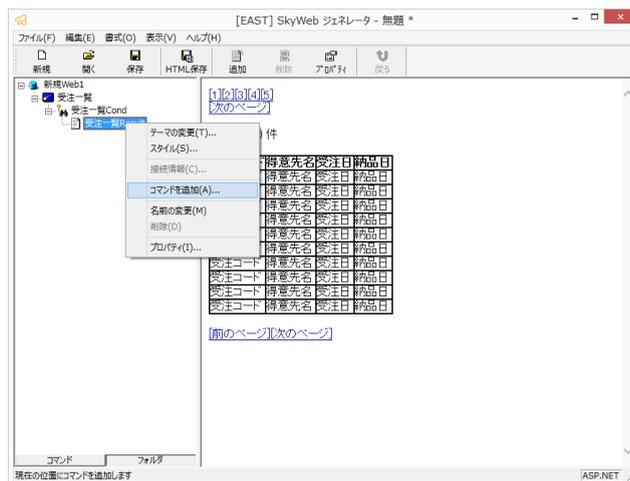
[条件入力ページ] のフォームには、作成したフォームを指定します。



[結果ページ]で[完了]します。



4. [結果ページ]に新たにコマンドを追加する



13 SkyWeb を使用する

[明細一覧] コマンドを指定します。



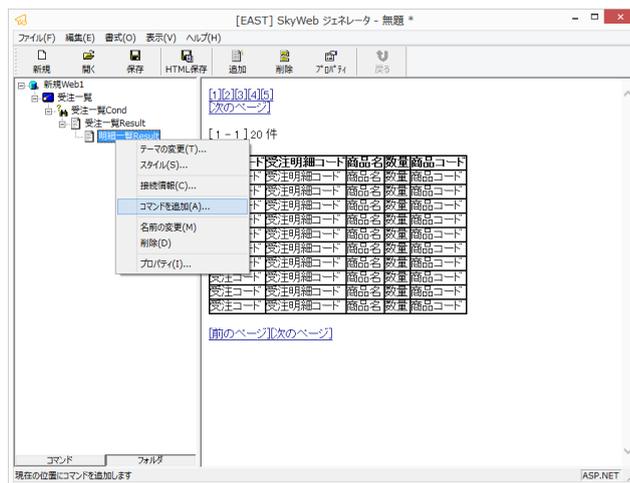
条件の設定を行います。



[結果ページ]で[完了]します。



5. 明細 [結果ページ]に新たに[明細更新]コマンドを追加する

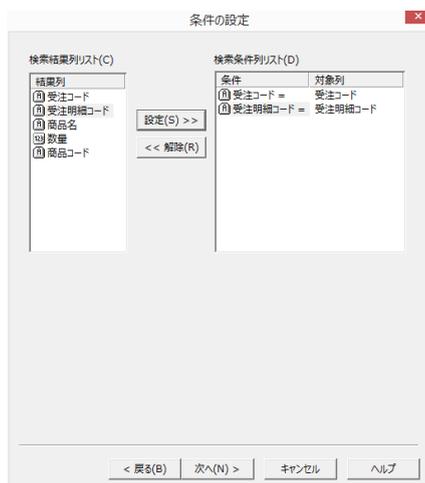


13 SkyWeb を使用する

[明細更新] コマンドを指定します。モードを更新にします。



条件の設定を行います。



更新フォームを指定します。

結果ページ

タイトル(T) 明細更新Result

ファイル名(F) 明細更新Result

出力先(O) フォーム

形式(Y) 明細一覧(L)

新規ページ(N)

検索ページへのリンク(I)

スタイルシートを使用(U)

設定(S)...

< 戻る(B) 完了 キャンセル ヘルプ

明細更新フォーム

[EAST] SkyWeb ジェネレータ - 無題 *

実行 | リセット

受注明細更新

受注コード 受注コード [受注コード]

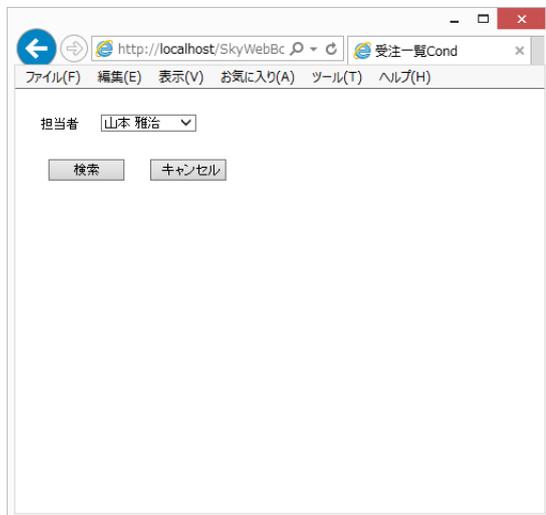
商品コード 注文 [注文]

数量 数量

完了 ASP.NET

5. Web サーバーに発行する

検索する担当者を指定して検索を行います。



受注一覧を選択します。



指定した担当者の受注明細一覧が検索されます。ここで、編集したい明細レコードを選択します。受注一覧から対象の明細を選択します。



[1 - 6] 6件

受注コード	受注明細コード	商品名	数量	商品コード
0000003010	03	生乳ヨーグルト	50	0000000096
0000003010	02	スポーツ飲料パウ	30	0000000098
0000003010	06	スポーツ飲料パウ	100	0000000098
0000003010	04	綿菓子(はつゆき)	30	0000000123
0000003010	05	綿菓子(はつゆき)	50	0000000123
0000003010	01	きぬこしどうふ(特上)	20	0000000062

更新したい [商品] と [数量] を変更して [実行] ボタンを押します。



[1 / 1]

実行 リセット

受注明細更新

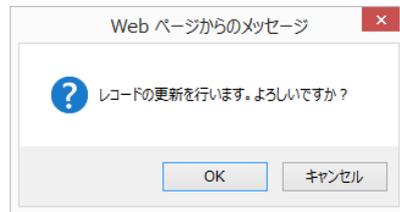
受注コード

商品コード

数量

13 SkyWeb を使用する

更新の確認画面が表示され、[OK]を押すことにより、レコードの更新が実行されます。



SkyWeb ジェネレータでは、データの入力チェックなどを行う機能は追加しませんので、必要な場合は ASPX ファイルを編集してください。





14. SkyLink Online

SkyLink Online の使用方法を説明します。

14.1

ファイルの配置

SkyLink Online は、SkyLink の操作方法そのままに Internet Explorer 上で使用できる新しいプログラムです。ActiveX コントロールとして構成されておりますので、各クライアント・コンピュータに SkyLink のインストールをしなくても、自動的にクライアントにダウンロードされ（管理者権限が必要）、使用することが可能です。

14.1.1 ファイルサーバーに配置

SkyLink Online をファイルサーバーに配置する例を説明します。なお、各コンピュータの構成は、ファイルサーバー名が「SkyServer」、このサーバー上に公開されている共有フォルダ名を「Online」と仮定します。

1. SkyLink Online をインストールする

SkyLink 検索・更新用の CD から SkyLink Online のインストールを行います。インストールしたフォルダ内にある inc フォルダ内に skylinkonline.js ファイルが作成されますので、メモ帳等でダウンロード場所の変更を行います。

2. ダウンロード場所の変更

「検索」メニューで「CODEBASE」を検索します。

```
CODEBASE="file://サーバー名 / 共有フォルダ名 /  
SkyOnline.cab#Version=11,0,0,1"
```

という様に、上記のコンピュータ構成に変更します。

```
CODEBASE="file://SkyServer/Online/SkyOnline.cab#Version=11,0,0,1"
```

とします（11,0,0,1 はリリースによって変更されます）。

14.1.2 Web サーバーに配置

SkyLink Online を Web サーバーに配置する例を説明します。なお、各コンピュータの構成は、Web サーバーの URL が「SkyServer.co.jp」、このサーバー上に公開されている仮想フォルダ名を「Online」と仮定します。

1. SkyLink Online をインストールする

SkyLink 検索・更新用の CD から SkyLink Online のインストールを行います。インストールしたフォルダ内にある inc フォルダ内に skylinkonline.js ファイルが作成されますので、メモ帳等でダウンロード場所の変更を行います。

2. ダウンロード場所の変更

「検索」メニューで「CODEBASE」を検索します。

```
CODEBASE="http:// サーバー名 / 共有フォルダ名 /  
SkyOnline.cab#Version=11,0,0,1"
```

という様に、上記のコンピュータ構成に変更します。

```
CODEBASE="http://SkyServer.co.jp/Online/  
SkyOnline.cab#Version=11,0,0,1"
```

とします。

14.2 カスタマイズ

SkyLink Online を、ご利用条件にマッチするようにカスタマイズする方法を説明いたします。

14.2.1 デフォルトの出力先の指定

SkyLink Online は、規定ではデフォルトの出力先が画面（シート画面）になっています。これを変更する例を説明します。

1. 出力先を Excel に変更する

メモ帳等でインストールしたフォルダ内にある inc フォルダ内にある skylinkonline.js ファイルを開いて「検索」メニューで「OutputKind」を検索します。

```
<param name="OutputKind" value="0">  
<param name="OutputDetail" value="0">
```

となっていますので、Excel にする場合は、

```
<param name="OutputKind" value="1">  
<param name="OutputDetail" value="0">
```

にします。

文字列形式で出力する場合は、

```
<param name="OutputExcelStringData" value="1">
```

にします。また、先頭に列名を出力する場合には、

```
<param name="OutputFileColumnName" value="1">
```

にします。

2. 出力先を CSV ファイルに変更する

```
<param name="OutputKind" value="2">  
<param name="OutputDetail" value="0">
```

にし、

```
<param name="OutputFileName" value>
```

に、出力するファイル名を指定します。

例

```
<param name="OutputFileName" value="C:¥SkyLink.csv">
```

14.2.2 SkyLink ユーザーマネージャで定義した接続 ID を使用する

SkyLink ユーザーマネージャで作成した、ユーザー名でデータベースにログインできるように、SkyLink Online を設定します。

ここで、SkyLink ユーザーマネージャで作成したファイルを、
「¥¥SkyLinkServer¥UserMgr¥skyuser.sud」
とします。

1. sky_param.vbs ファイルをメモ帳で開く

メモ帳で Online フォルダ以下にある inc フォルダ内の該当のファイルを開いたら、「検索」メニューで「strManagingServer = ""」を検索します。

2. サーバー名を設定する

上記で検索された箇所に、適用したいユーザー定義ファイルがあるサーバーを指定します。

```
strManagingServer = "SkyLinkServer"
```

とします。

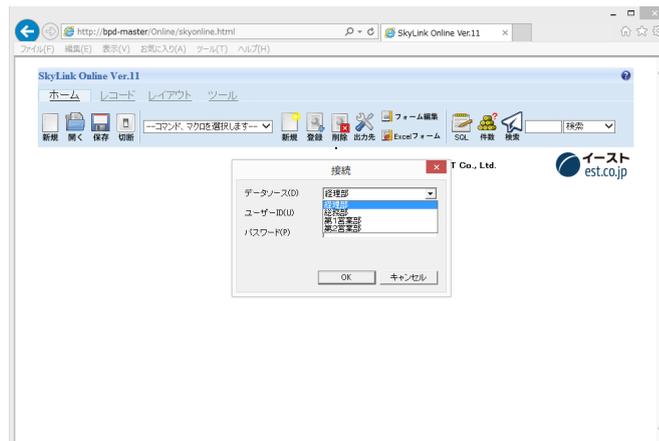
SkyLink ユーザーマネージャ Ver.1.0 で作成したユーザー定義ファイルを指定する場合は、「strUserMgrFile = ""」にユーザー定義ファイル名をパスで指定します。

```
strUserMgrFile = "¥¥SkyLinkServer¥UserMgr¥skyuser.sud"
```

とします。

3. 接続を確認する

SkyLink Online をブラウザより起動して、接続を行います。接続ボタンを押すと、ユーザーマネージャで定義したデータソースの一覧が表示され、作成したユーザー ID で接続を行うことができます。



14.2.3 その他の設定

Online フォルダ以下にある inc フォルダ内の sky_param.vbs ファイルをメモ帳等で開き、変更したい項目を「検索」メニューで検索して編集することで、SkyLink Online の設定を変更することができます。

使用するデータベースを指定する

使用するデータベースを Oracle に指定する場合は、
DB_KIND = DB_ORACLE
とします。

SkyLink のコマンドファイルを編集モードに変更する

編集モードで開く場合は、
fSkyLinkEditMode = true
とします。
編集モードで開きたくない場合は、
fSkyLinkEditMode = false
とします。

モードメニュー（検索・挿入・更新・削除）を有効にする

モードメニューを有効にする場合は、
fEnableActionMode = true
とします。
モードメニューを有効にしたいくない場合は、
fEnableActionMode = false
とします。

クラシックモードで使用する

クラシックモードで使用する場合は、
skyViewStyle = 1
とします。



15. すぐ使える SkyLink を使用する

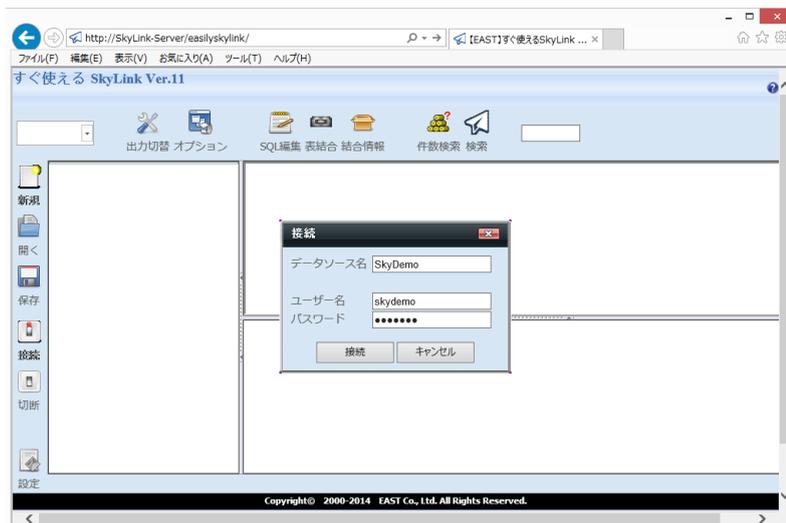
すぐ使える SkyLink の使用方法を説明します。

15.1 検索を行う

Web サーバーに「すぐ使える SkyLink」をインストールすると、SkyLink と同様の操作性で、ブラウザを使ってデータベースの検索を行うことができます。

1. データベースに接続する

すぐ使える SkyLink を利用する場合は、すぐ使える SkyLink がインストールされた Web サーバーにブラウザからアクセスします。ここでは ODBC 接続を例にとります。



データソース名

ODBC データソースとして作成されているデータソース名を指定します。

ユーザー名

あらかじめ登録されているユーザー名を入力します。

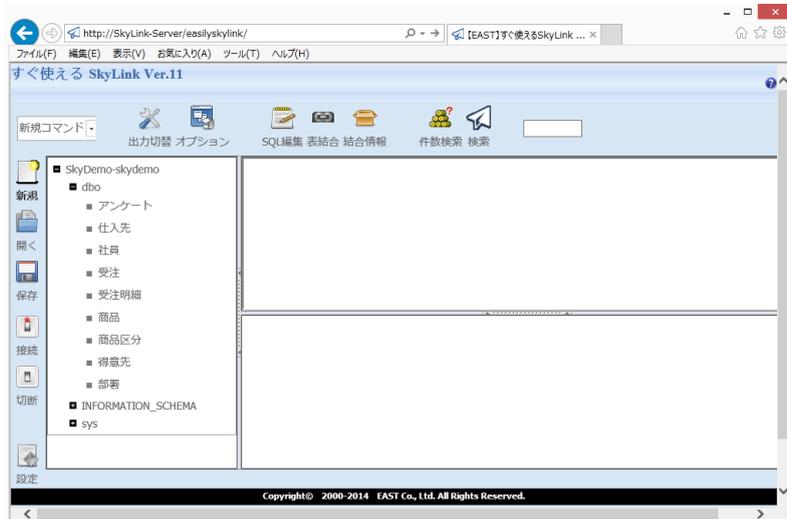
パスワード

あらかじめ登録されているパスワードを入力します。パスワード欄には入力した文字の代わりにアスタリスク (*) が表示されます。

[接続] ボタンをクリックするとデータベースに接続して初期画面が表示されます。

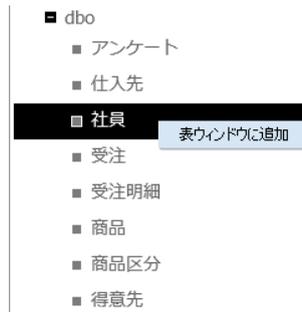
2. オーナー（スキーマ）の選択

データベースに接続するとツリー表示ウィンドウにオーナー（スキーマ）のリストが表示されますので目的のオーナー（スキーマ）の[+]をクリックして展開し表の一覧を表示します。



3. 表の選択

検索したい表をダブルクリック、または右クリックすると表示される[表ウィンドウに追加]を選択します。

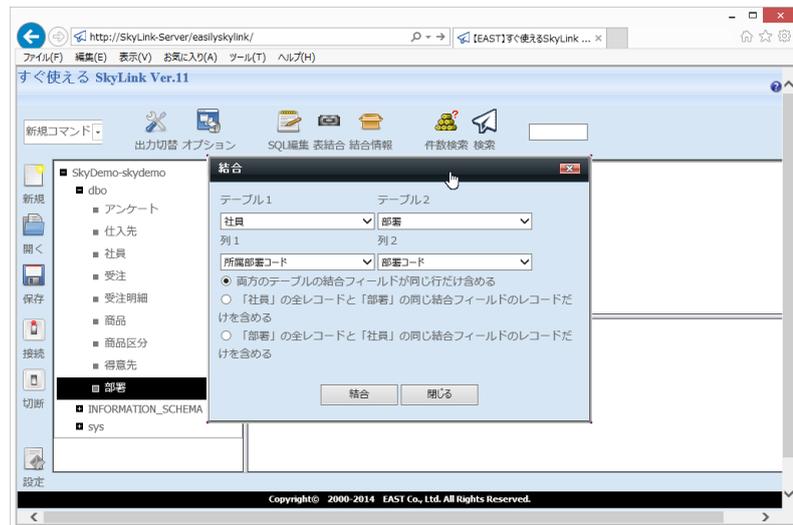
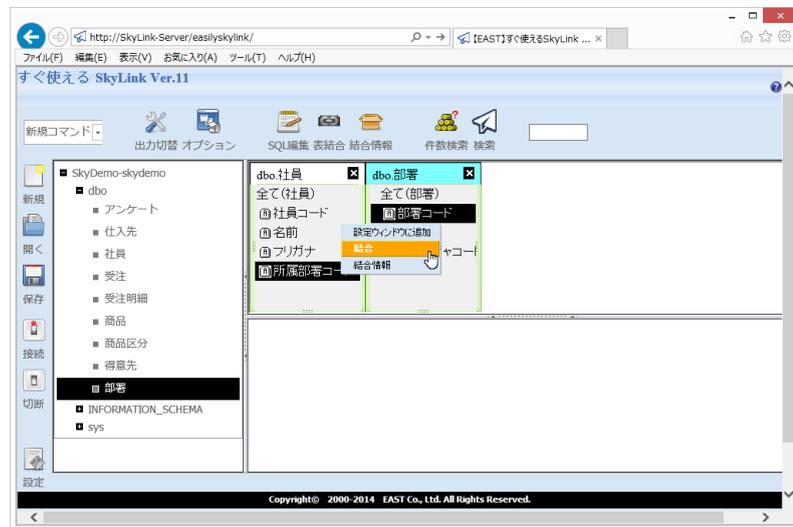


4. 表の結合

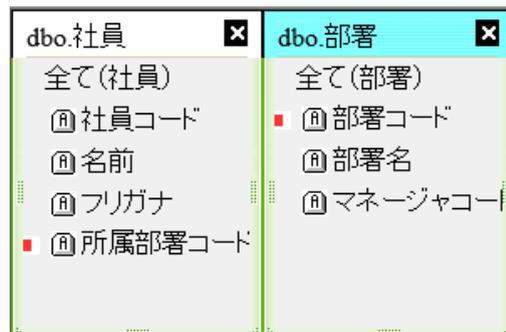
表どうしを結合する場合は、結合したい列をクリックし、もう一方の表の列までドラッグして離します。または結合したい列をクリックして選択し右クリックして表示されるメニューから[結合]を選択します。

結合ダイアログが表示されますので、結合したいそれぞれの列と結合方法を選択して[結合]ボタンで終了します。

15 すぐ使える SkyLink を使用する



結合された列には同じ色の四角いマークが表示されます。

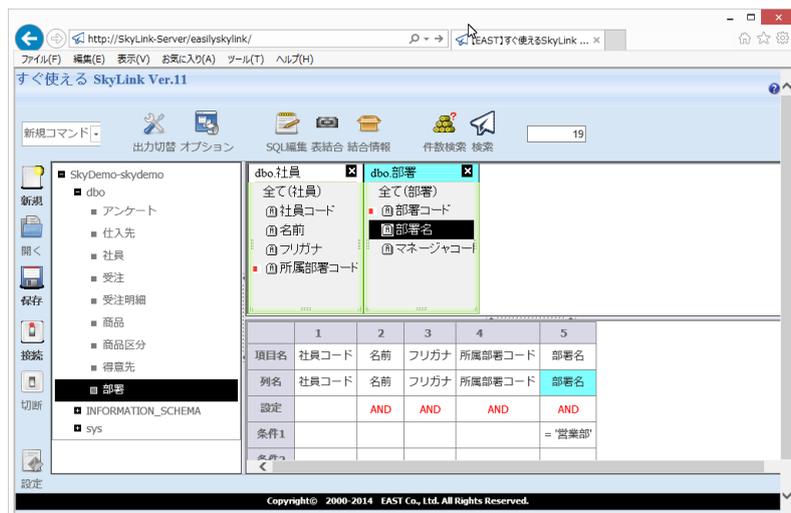


5. 検索する列を指定する

表ウィンドウに設定した表の中から検索したい列を指定してダブルクリックをするか、右クリックで表示されるメニューから [設定ウィンドウに追加] を選択します。[全て (表名)] をダブルクリックすることで、その表の列を全て検索対象にすることができます。

6. 検索条件の設定

検索する条件を設定するには、条件を設定したい列の [条件n] の欄をクリックします。条件ダイアログが表示されますので、条件の種類、条件値を入力して [設定] を押します。



7. 設定を指定する

列の設定を行うには、設定したい列の [設定] 欄をクリックします。

15 すぐ使える SkyLink を使用する

設定

他の項目に対して AND OR

条件式全体の括弧 左 右

項目に式を追加 (演算子) (項目と演算する場合)

列参照として扱う

集計 (集計関数)

ソート 昇順

重複なし (1列目のみ設定可能)

データの抽出は行わない

グループにする

グループの条件 の (集計関数) が (比較演算子)

設定 キャンセル

http://SkyLink-Server/easilylink/

すぐ使える SkyLink Ver.11

新規コマンド: 出力切替 オプション SQL編集 表結合 結合情報 件数検索 検索

SkyDemo-skydemo

- dbo
 - アンケート
 - 仕入先
 - 社員
 - 受注
 - 受注明細
 - 商品
 - 商品区分
 - 得意先
 - 部署**
 - INFORMATION_SCHEMA
 - sys

dbo.社員

全て(社員)

- 社員コード
- 名前
- フリガナ
- 所属部署コード

dbo.部署

全て(部署)

- 部署コード
- 部署名
- マネージャコード

	1	2	3	4	5
項目名	社員コード	名前	フリガナ	所属部署コード	部署名
列名	社員コード	名前	フリガナ	所属部署コード	部署名
設定		AND	昇	AND	AND
条件1					= '営業部'

Copyright © 2000-2014 EAST Co., Ltd. All Rights Reserved.

8. 検索を実行する

ツールバーの [検索] ボタンを押して検索を実行します。



参考

[条件]の設定方法や、列の[設定]方法の詳細については「すぐ使えるSkyLink」のマニュアルをこのコマンドについては、「8.5 検索条件フォームを利用する」をご参照ください。

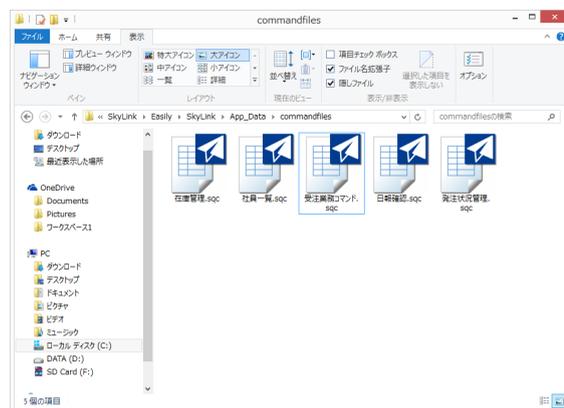
15.2

コマンドを使用した検索

あらかじめ作成しておいた SkyLink のコマンドファイルをサーバーに登録しておくことで、すぐに検索結果を表示することも可能です。

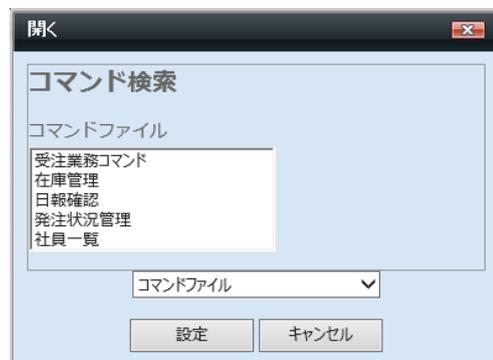
1. コマンドファイルの保存

SkyLink で作成したコマンドファイルを「すぐ使える SkyLink」をインストールしたフォルダ下の「App_Data¥commandfiles」に保存しておきます。



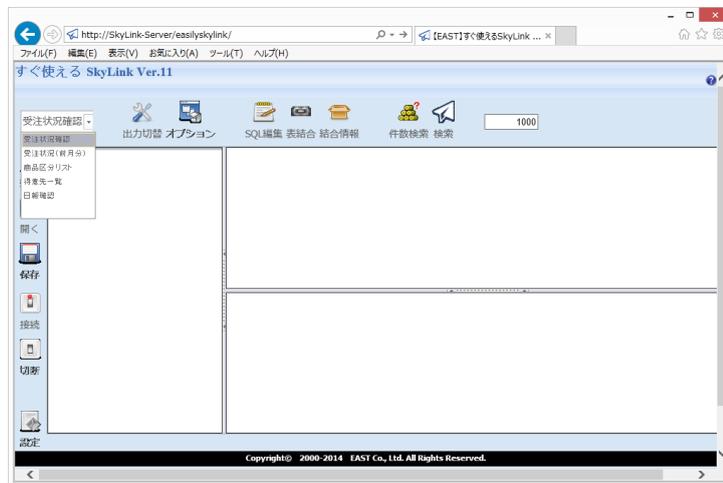
2. コマンドファイルを選択します

データベースに接続をして、[開く] ボタンを押して保存されているコマンドファイルを選択します。



3. コマンドを選択します

コマンド選択のコンボボックスから使用したいコマンドを選択します。



4. 検索を実行する

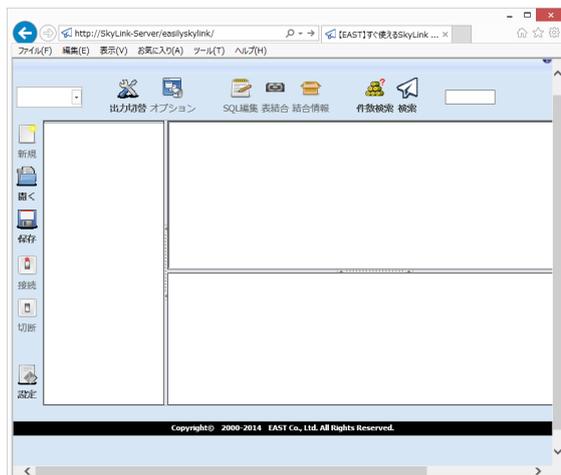
受注コード	受注明細コード	営業担当者	得意先名	区分名	商品名	単価	数量	金額	受注
0000002095	01	田中 和明	よろず商店	加工食品	かこのあし	230	30	6900	2015
0000002096	01	加藤 泰江	高原亭	菓子類	綿菓子(はつゆき)	100	50	5000	2015
0000002097	01	秋山 秀樹	寿ストアー	菓子類	ポテトスナック	140	40	5600	2015
0000002098	01	森上 俊久馬	アリス亭	菓子類	綿菓子(はつゆき)	100	50	5000	2015
0000002099	01	森上 俊久馬	大宮ユニオン	飲料	ナイトワイン	500	100	50000	2015
0000002100	01	正門 恵子	イルカランド	肉類	煙上ハム	250	50	12500	2015
0000002101	01	平野 彩子	酒蔵でん	菓子類	ひび煎餅	250	10	2500	2015
0000002102	01	内野 義昭	食所あんどう	飲料	ポトルウイスキー	1500	20	30000	2015
0000002103	01	正門 恵子	東海通スーパー	飲料	ポトルウイスキー	1500	40	60000	2015
0000002104	01	田中 和明	大和マーケット	魚介類	特選さざえ	500	70	35000	2015
0000002105	01	正門 恵子	蓬莱堂	肉類	魚肉ソーセージ	350	30	10500	2015
0000002106	01	小川 さよ子	洋風居酒屋けい・えつくす	菓子類	綿菓子(はつゆき)	100	50	5000	2015
0000002107	01	加藤 泰江	パーラーえんとつ	菓子類	綿菓子(はつゆき)	100	50	5000	2015
0000002108	01	葛城 孝史	小町ストアー	飲料	ポトルウイスキー	1500	30	45000	2015
0000002109	01	田中 和明	食料品店ふじ	加工食品	かこのあし	230	30	6900	2015

15.3 カタログを使用

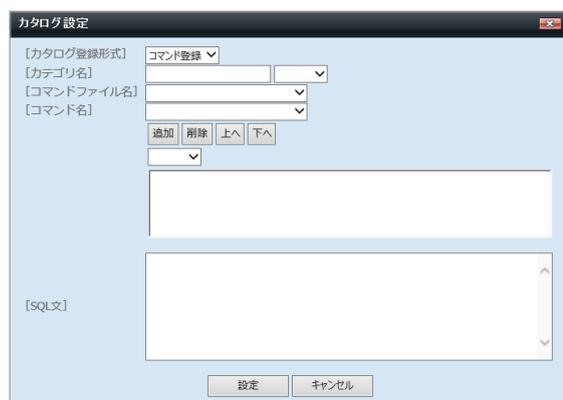
あらかじめ作成しておいた SkyLink のコマンドを纏めてカタログとして管理して使用することも可能です。

1. カタログの設定

SkyLink で作成したコマンドファイルをカタログとして登録し使用できます。登録には「すぐ使える SkyLink」をインストールしたフォルダ下の「CONFIG」フォルダへの書き込み権限を設定しておく必要があります。データベースに接続していない状態で [設定] ボタンを押します。



[カタログ設定] ダイアログが表示されます。

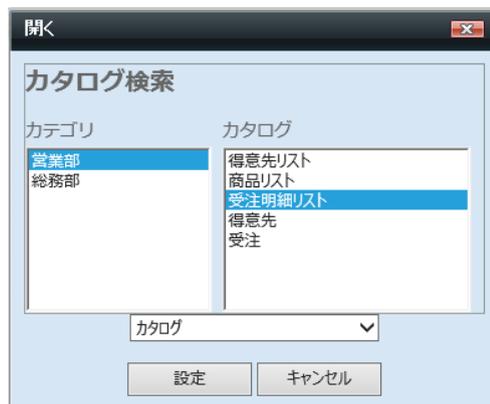


[カタログ名] にカタログの名前を入力します。
 [コマンドファイル名] から事前に登録してある SkyLink コマンドファイルを選択し [コマンド名] でコマンドを指定します。
 カタログ名を登録していない状態の場合には、一旦 [追加] ボタンを押して登録をします。登録されたカタログ名を選択し直すとコマンドが追加されていることが確認できます。
 必要分のコマンドを追加登録します。



2. カタログを選択します

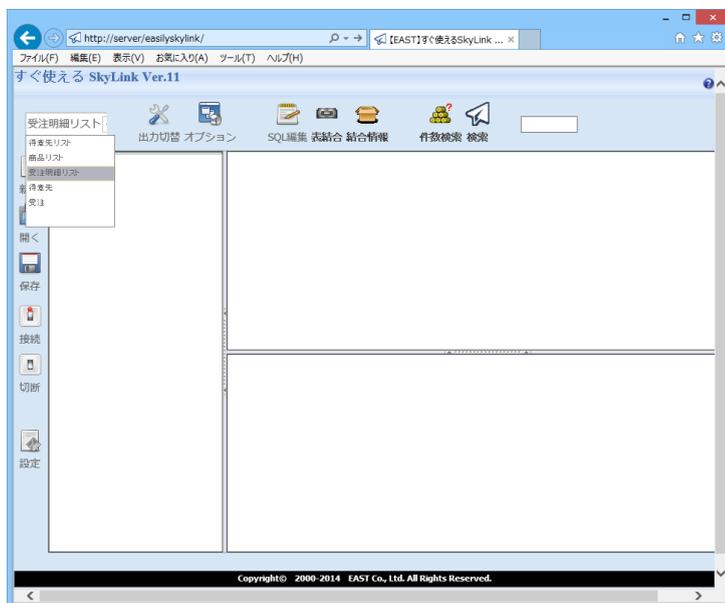
データベースに接続をして、[開く] ボタンを押して表示されるダイアログのコンボボックスで、[カタログ] を選択してカタログ検索へ切り替えます。
 [カテゴリ] リストボックスにカテゴリー一覧が表示されます。
 カテゴリーを選択すると登録されたカタログが一覧に表示されます。
 検索したいカタログを選択して [設定] ボタンを押します。



3. コマンドを選択します

すぐ使える SkyLink のメイン画面に戻り、検索したいコマンドをコンボボックスから選択して検索を行います。

15 すぐ使える SkyLink を使用する





16. Excel アドイン を使用する

Excel アドインの使用方法を説明します。

16.1

Excel アドインを使用する

Excel アドインをインストールすると、お使いの Excel のリボンメニューに [SkyLink] タブが追加されます。このメニューに表示されたコマンド / マクロのボタンを押すことで Excel から SkyLink コマンド / マクロの実行を呼び出すことができます。

1. インストールをする

SkyLink をインストールしたフォルダ内に Excel アドインのインストール用の [ExcelAddin] フォルダが作成されていますので、その中の [setup.exe] を実行します。

Excel を起動するとリボンに新しいタブとして [SkyLink] タブが追加されています。



2. 共有コマンド使用のインストール

社内で共有したいコマンド / マクロがある場合、SkyLink のインストール前にあらかじめ [command.ini] ファイルを作成しておきます。作成した [command.ini] ファイルを SkyLink のインストール setup.exe のあるフォルダに保存しておきます。その後、SkyLink のインストールを行うことで共有フォルダ内のコマンドファイルを使用することが可能となります。

[command.ini] ファイルは以下のように記述します。

[Command]

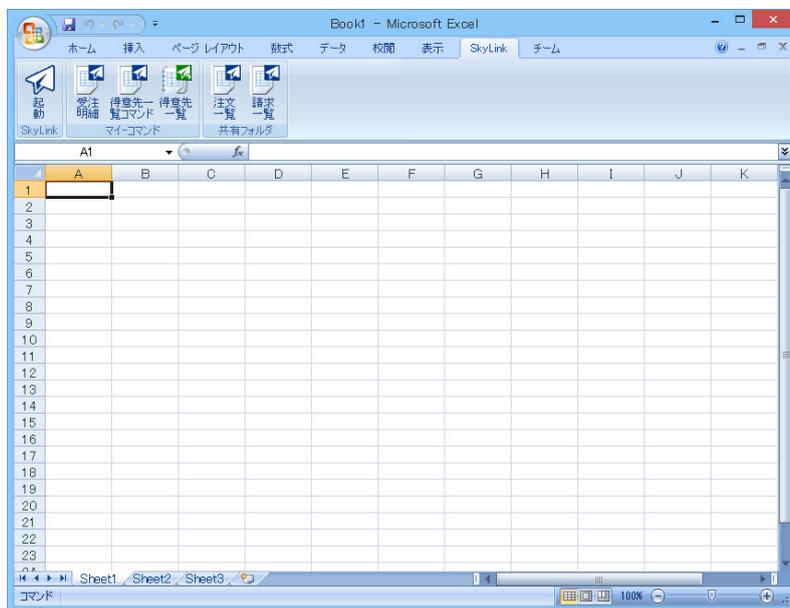
CommandFiles= コマンド / マクロファイルのある共有フォルダ名

GroupLabel= リボンに表示する名前

3. コマンドファイルの保存

ユーザーの [ドキュメントフォルダ] に表示したい SkyLink コマンドファイルを保存しておきます。共有コマンドとして使用する場合には [共有フォルダ] 内に保存しておきます。

Excel を起動して表示されたリボンの [SkyLink] タブに SkyLink コマンドがボタンとして表示されます。実行したいコマンド / マクロボタンをクリックして SkyLink 検索機能呼び出し実行します



検索結果を Excel 出力するようなサイレント実行形式の SkyLink マクロを保存した場合、結果は Excel の別ウィンドウとして出力されますので Excel 操作を離れることなく操作を継続できます。
